obligation, c'est-à-dire sous condition de réciprocité, la juridiction de la Cour, purement et simplement.

B. FERNANDEZ Y MEDINA.

事項六　旧独逸海底電線処分問題一件

二七八　一月三十日　内田逓信次官ヨリ幣原外務次官宛

ヤップ及メナド間海底電線等開放ニ関スル件

外第一九〇号　（一月三十一日接受）

大正九年一月三十日

逓信次官（印）

外務次官殿

「ヤップ」「メナド」間海底線等開放ニ関スル件

本件ニ関シテハ大正七年八月二十日外第四九一三号(註)ヲ以テ申進置候処近来我南洋貿易ノ発展ト共ニ電報ノ利用益々盛ントナリ大正七年中ニ於テ本邦ト蘭領東印度トノ間ニ発着セル電報ノ通数ハ六年ニ比シ実ニ九割八分ノ増加ヲ示シ居リ尚引続キ益々増加ノ趨勢ニ有之候ノミナラス海軍省ヨリ別紙写ノ通リ申越ノ次第モ有之候ニ付テハ本件進捗方可然御取計ノ上何分ノ義御回報ヲ得度此段及照会候也

六　旧独逸海底電線処分問題一件　二七八　二七九

追テ「ヤップ」「グアム」間ノ連絡ニ付テハ米国側トノ交渉困難ナル事情有之候ハバ先以テ「ヤップ」「メナド」間ノ連絡ニ関シテノミ交渉ノ歩ヲ進メラルル様致度右申添候

註　大正七年八月二十日内田逓信次官ヨリ幣原外務次官宛外第四九一三号ニ付テハ日本外交文書大正八年第三冊上巻四二九文書附記二参看

二七九　三月六日　内田外務大臣ヨリ在仏国松井大使宛（電報）

陸上、海底及無線電信ニ関スル国際会議参加ニ付仏国ノ意向質シ方指令ノ件

第一九五号

客年五月貴地ニ於ケル首相及外相会議ノ決議（貴電講第八六一号(註)プロトコール案第二項）ヲ引用シテ今回在本邦米国大使ヨリ本国政府ノ訓令ニ依リ陸上、海底及無線電信ノ通信ニ関スル国際会議ヲ本年五月華盛頓ニ開催シ度旨ヲ以テ

本邦委員ノ参加方勧誘シ来レル処貴任国政府ニ於テモ同様ノ勧誘ニ接シタル筈ナルニ付テハ本件ニ対スル貴任国政府ノ意向ヲ質シ至急電報アリ度シ尚対独平和条約ニ依リ独逸ヲシテ五大国ノ為ニ抛棄セシメタル海底電線ノ処分ニ関シテハ在米大使発本大臣宛電報第九十一号及第九十二号ノ次第モ有之処貴任国政府ニ於テハ本件会議ノ機会ニ於テ右処分ヲ決定セムトスル意向アリヤ否ヤヲモ併セテ承知致度シ右本大臣訓令トシテ英伊ヘ転電アリ度シ

註　日本外交文書大正八年第三冊上巻四二八文書別電二

二八〇　三月十三日　在伊国堀田臨時代理大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

陸上、海底及無線電信ノ国際会議参加問題ニ関スル伊国政府ノ意向ニ付報告及請訓ノ件

第二六号　（三月十五日接受）

在仏大使宛貴電第一九五号ニ関シ三月十二日外務省書記官長ニ面会シ御訓令ノ趣尋ネタル処伊国政府モ本件会議参加方米国政府ヨリ勧誘ヲ受ケタルガ未ダ回答ヲスル運ニ至リ居ラズ然ドモ本件ハ巴里ニ於ケル決定ニ基ケルコトニテモアリ他ノ聯合国ニ於テ参加ノ場合ニハ伊国モ亦参加ス可キコト勿論ナリ主要聯合国間ニテ開カル可キ予備会議ニ於テ独逸海底電線処分ヲ議ス可キヤノ問題ニ至リテハ伊国政府ノ確定議トシテハ何等茲ニ明答スルコト能ハズト答ヘ尚極内密ノ話トシテ当国一部ニハ米国主催ノ会議ニ於テ本件処分問題ヲ決定スルヲ喜バザル議論アリ従テ伊国ハ他ノ主要聯合国ノ意嚮ヲ知リタル上ニテ之ニ対シ態度ヲ決定セント欲スル次第ナリ就テハ果シテ日本政府ニ於テハ本件処分問題ヲ右予備会ニテ討議スルコトヲ希望セラルルモノナリヤ或ハ寧ロ希望セラレザルモノナリヤ其辺ノ意嚮ヲ極秘トシテ内告セラルルコトヲ得バ幸甚ナリト希望セリ書記官長ノ語気ヨリ察スルニ伊国政府ハ独逸海底電線処分ヲ本件予備会議ノ議題トスルヲ好マズ若シ他ノ聯合国中同意見ノ政府アルニ於テハ予メ其間ニ協議ヲ遂ゲ置キ之ガ議ニ上ルヲ妨害セントスル底意ナリト考ヘラル右ニ関スル帝国政府ノ意嚮御差支ヘ無キニ於テハ御回示アリ度シ

二八一　三月十九日　在英国珍田大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

陸上、海底及無線電信ニ関スル国際会議参加ニ付英国政府ノ意向報告ノ件

第二〇八号　（三月二十日接受）

貴電第一九五号ニ関シ英国政府ニ於テモ本件会議参加方勧誘ヲ受ケタル処右通告簡単ニシテ会議ノ目的判明セズ且斯ル範囲広キ会議ニ対スル準備ヲ短期間ニ完成スルコト不可能ナルニ付如何ナル問題ヲ議事ニ附スルカニ関シ正確ナル説明ヲ求ムルト共ニ会議ヲ成ルベク後日ニ延期シタキ希望ナル旨米国政府ニ回答ノコトニ略ボ内定シ居ルモ本件ハ目下関係各省専門家ニ諮問中ニテ米国政府ニ対シテハ未ダ回答ヲ発シ居ラザル趣

二八二　三月二十九日　在仏国松井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

陸上、海底及無線電信ニ関スル国際会議参加ニ付仏国政府ノ意向報告ノ件

第五五五号　（三月三十一日接受）

貴電第一九五号ニ関シ仏国外務当局ノ当館員ニ語ル所ニ拠レバ同国政府モ米国政府ヨリ通信ニ関スル国際会議参加ノ勧誘ヲ受ケタルモ米国政府ハ右会議ニ於テ郵便海底電信等ニ関スル既存ノ国際協定ヲ全部改訂セントスル意嚮ヲ有シ居ルヤニテ仏国政府ハ之ニハ不賛成ナルニ付右会議ニ対スル英伊両国政府ノ意嚮ヲ問合セタル処英国政府モ同会議ノ開催ニ反対ナルモ表面上ハ米国ヨリ未ダ会議ノ討議事項ノ通知ニ接セザルニ付五月迄ニハ準備モ整ヒ兼ヌ可シトノ口実ノ下ニ参加ヲ拒絶セントスル由ナルニ付仏国政府モ右ト同様ノ趣旨ニテ回答スル筈ナルガ伊国政府モ同一態度ニ出ヅル由ナルヲ以テ多分同会議ハ流会トナル可シト

英米伊ヘ転電セリ

二八三　四月二十四日　内田外務大臣ヨリ　在英国珍田大使宛（電報）

国際通信会議予備会議参加ニ関スル英国政府其後ノ意向探索方指令ノ件

第一七七号

在米大使宛往電第一四二号ニ関シ今般在本邦米国大使ハ同国政府ノ訓令ニ依リ予備会議ハ本年八月一日ニ又本会議ハ

十一月十五日華盛頓ニ開催セラルヘク右何レヘモ帝国政府代表者派遣方ヲ提議シ来レルニ付テハ帝国政府ニ於テ目下折角詮議中ナル処貴任国政府ニ於テモ同様ノ提議ニ接シ居レルコトト思考セラルルニ付本件ニ関スル貴任国政府其後ノ意向引続キ御探索ノ上電報アリタシ

右本大臣ノ訓令トシテ在仏在伊各大使ヘ転電シ参考トシテ在米大使ヘ転電アリタシ

二八四　四月二十七日　在仏国松井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島海底電線ニ対スル和蘭ノ特殊利益ニ関シ同国政府ノ覚書要領報告ノ件

第七三七号（賠償第三十一）　（四月二十九日接受）

賠償第三〇号所報和蘭政府覚書ノ要領左ノ通リ

（二月十七日附和蘭公使館ヨリ賠償委員会議長宛）

「ヤップ」島ト上海「グアム」島及「メナド」ヲ連絡スル電線ノ敷設及運用ニ関スル和蘭政府ノ利益ハ特殊ノモノナリ和蘭政府ハ賠償委員会カ本覚書ヲ考量シタル後当該三電線ニ付和蘭ノ有スル権利ヲ承認スヘキコトヲ疑ハス「ヤップ」上海「ヤップ」「グアム」及「ヤップ」「メナド」ノ電線ハ一九〇一年七月十四日和蘭ト独逸トノ間ニ締結セラレタル条約ノ結果トシテ敷設セラレ右条約ハ一九〇二年七月七日和蘭ノ法律ニ依リ確認セラレタリ（官報第一二二号）右条約ノ条件ニ依レハ此等ノ電線ハ独逸和蘭会社ニ依リ両政府ノ監督ノ下ニ敷設運用セラレタリ

会社ハ二十年以上ノ期間ニ亘リ両政府ヨリ補助金ヲ受クヘシ和蘭政府ノ支払フヘキ補助金ノ割リ当ハ一ケ年三七五、〇〇〇麻克ニ上ル右ノ割リ当テハ一九一六年四月二十六日以後(脱)払ヒタリ「メナド」ト連絡スル電線ヲ設置スル為和蘭領土ニ上陸スル権利ハ半額独逸資本ニテ会社ヲ組織スル義務ヲ特許権者ニ負担セシムル特許ニヨリテ許容シ居リ此ノ会社ハ一九〇四年ニ設立セラレ Deutsche-Niederländische Telegraphengesellschaft ト称セラレ本店ヲ「コロン」ニ有シタリ会社ノ定款ハ和蘭政府ノ承認ヲ要シ其ノ同意ナケレハ変更スルコトヲ得ス会社ハ二人ノ専務取締役及取締役会ニ支配セラレ専務取締役ノ一人ハ和蘭人ナリ取締役会ノ少クトモ四分ノ一ハ独逸人ナリ和蘭専務取締役ノ任命ハ和蘭政府ノ承認ヲ要シ和蘭政府其ノ代表者ヲ会社ニ

出シ監督権ヲ行使ス

特許ノ条件ニ依リ会社カ若干ノ法律行為ヲナスニハ両政府ノ協同ヲ必要トシ其中ニハ一切ノ他国政府トノ契約ノ締結ヲ包含ス加之和蘭政府ノ同意ナケレハ会社ハ其ノ財産ノ移転ニ付何レノ他ノ政府トノ契約ニモ署名スルヲ得ス

以上ノ理由ニヨリ前記独逸和蘭電信会社ハ附属書第七ニ掲クル他ノ電線ヲ所有スル他ノ会社ト同様ニ取扱フコトヲ得会社ハ独逸政府ノ外和蘭政府ノ同意ナケレハ平和条約ニ規定スル如ク其ノ財産ヲ処分スル権限ヲ有セサルヲ以テ独逸政府モ亦自己ノ発意ニテ之ヲ処分スルコト能ハス

之ヲ以テ三電線ノ処分ハ特別指定ノ目的物ト為シ右ノ協定ニ和蘭政府ヲモ当事者トシ和蘭政府ノ利益ヲ保護セサルヘカラス（附属書類郵送ス）

二八五　五月二日　在仏国松井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

海底電線問題ニ関シ主要聯合国間ニ話纏マル前ニ賠償委員会ガ之ニ干与スルノ不当ナルヲ英国側ニ指摘シ其善処ヲ求メタル件

第七七二号　（五月四日接受）

賠実第三〇号ニ関シ英国政府モ海底電線問題ニハ至大ノ利害関係ヲ有スルニ付英国側ト歩調ヲ一ニスルコト必要ト認メタルニ付本使ハ四月二十六日「サン、レモ」出発前日不取敢本件ニ関シ「カーゾン」卿ニ話シタル処同卿ハ海底電線問題ヲ承知シ居ラザル模様ナリシヲ以テ「サン、レモ」出張中ノ海軍大佐「フラー」（在巴里英国講和事務所海軍首席委員）ニ対シ賠償委員会ガ「ヤップ」上海間等ヲ聯絡スル海底電線ニ関スル和蘭政府ノ覚書ヲ受領シ法律部ヲシテ審議セシムル旨ノ決議ヲナシタル由ナルガ対独条約所定ノ海底電線処分ニ付主ナル同盟及聯合国ノ間ニ何等交渉モナキ今日賠償委員会ガ本問題ニ関与スルハ面白カラズト存ゼラルル処本件ハ単ニ日本ノ利害ニ関係アルノミナラズ対独条約所定ノ電線全部ノ処分ニモ影響ヲ及ボスベク即チ英国政府モ多大ノ利害関係ヲ有スルモノナル旨ヲ語リタルニ同大佐モ全然本使ノ意見ニ同意ナリシヲ以テ本使ハ同大佐ヨリ右ノ次第ヲ右委員長竝「カーゾン」卿ニ説得セシメ出来得ベクンバ主要聯合国政府間ノ話合ノ着カザル前ニ賠償委員会ニ於テ何等ノ決定ヲナサザル様英国政府ヨリ各国委

員ニ訓令アル様致シ度キ旨ヲ語リ尚本問題ニ就テハ帰国後モ常ニ大角海軍大佐ト接触ヲ保タシムルコトニ取計ヒ置キタリ右不取敢今日迄ノ成行電報ス
在英大使へ転電セリ

二八六　五月四日　在英国珍田大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議ニ付英国政府ノ意向報告ノ件

第四〇一号　（五月六日接受）
往電第三八六号ニ関シ
外務省ヨリ英国政府ニ於テハ八月一日華府ニ開会セラルル本会議ノ「アゼンダ」ヲ考量ス可キ主タル同盟国及聯合国ノ予備会議ノ招請ニ応ズルモ本会議開催ノ期日ニ関シテハ予備会議ニ於テ本会議議事事項決定セラルル迄ハ幾何ノ準備期間ヲ要ス可キヤ予知シ難キニ付開会ノ場所ト共ニ予備会議ニ於テ協議スルコトニシタキ旨並米国政府ガ予備会議ニテ付議セントスル事項及右事項ニ関スル米国政府ノ意見ニ付予メ回示アリタキ旨米国政府ニ回答シタル趣通報アリタリ
在欧米各公使へ転電セリ

二八七　五月四日　在英国珍田大使ヨリ内田外務大臣宛

国際通信会議ニ関スル英国外務省来翰写差進ノ件

附属書　四月三十日附英国外務大臣代理ヨリ在英国珍田大使宛来翰写

機密公第九号　（六月十四日接受）
大正九年五月四日
在英
特命全権大使子爵　珍田捨己（印）
外務大臣子爵　内田　康哉殿
国際通信会議英国回答ニ関スル件
本件往電第四〇一号ヲ以テ要領報告ニ及ヒタルトコロ玆ニ外務省来翰写差進候御査閲相成度候

（附属書）
四月三十日附英国外務大臣代理ヨリ在英国珍田大使宛来翰写

No. A2157/661/45　FOREIGN OFFICE, S.W. 1.
30th April, 1920.

Your Excellency,

With reference to the enquiry made by Mr. Matsuzo Nagai on the 28th instant, I have the honour to inform Your Excellency that His Majesty's Government have received from the United States Ambassador invitation to attend a World Conference to consider all international aspects of telegraphic communication, etc., and also a preliminary conference of the principal allied and associated Powers. It is proposed that the Preliminary Conference should meet at Washington on August lst, 1920, and that it should consider the Agenda for the general conference, the latter conference meeting at Washington on November 15th, 1920.

In reply to these communications, His Majesty's Government have informed the United States Government of their acceptance of the invitation to the Preliminary Conference to be held on August lst, but have suggested that the date and place of meeting of the second Conference should be left undecided until the Preliminary Conference has met, as, until the subjects for discussion at the general conference have been decided upon, it is difficult to judge what period of preparation for the general conference will be required. As regards the place of meeting of the general conference, His Majesty's Government have suggested that this point should also be left open for discussion at the Preliminary Conference.

His Majesty's Government have also requested the United States Government to give some previous indication of the points which the United States Government desire to raise at the Preliminary Conference, and of their views thereon.

I have the honour to be with the highest consideration.

Sir,

Your Excellency's most obedient,

humble Servant,

(For the Secretary of State)

R. SPERLING.

His Excellency

Viscount Sutemi Chinda,

etc., etc., etc.

二八八　五月九日　在仏国松井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

海底電線問題ニ関シ英国賠償委員ノ談話及仏国側外務省係員ノ内話報告ノ件

第八〇八号　（五月十一日接受）

暗実第三〇号及往電第七七二号ニ関シ五月五日関場ガ英国賠償委員ヨリ聴キ取リタル所左ノ通リ

賠償委員会ニ表ハレタル海底電線ノ問題ハ和蘭ノ提出シタル覚書ノ範囲ニ止マル又賠償委員会法律部ハ華盛頓ニ開カル可キ会議ノ任務如何ヲ正確ニ知ル迄ハ確定的意見ヲ作成スベカラザルコトトナリ居ルヲ以テ目下別段ノ審議ヲ為シ居ラザルモノト信ズ素ヨリ海底電線ノ処分ト謂フ一般的問題ニ関シテハ何等賠償委員会ノ問題トナリ居ラズ附属書第七ノ解釈トシテハ私見トシテハ海底電線ノ処分ハ各国政府間ニ於テ協定スト謂フ危険ニ際ス然シ賠償委員会ハ各国政府ノ委任ヲ受ケテ此ノ事ニ与リ得ルモノト信ズルガ恐ラク各国政府ハ之ヲ敢テセザル可シ自分ノ承知シ居ル範囲内ニ於テハ賠償委員会ニ於テ海底電線ノ問題ハ未ダ別ニ日本ノ心配セラルル程度ノモノニ非ズト信ズ

尚華盛頓会議ハ此ノ秋迄ニ開催セラルトノ説ナレドモ確カニ開カルルヤ否ヤハ疑フ旨ヲ語レリ

尚仏国外務省海底電線問題係員ノ当館員ニ内話スル所ニ拠レバ仏国側賠償委員ヨリ和蘭政府覚書ニ付外務省ノ意見ヲ求メ来リタルニ付海底電線ノ問題ハ主タル同盟及聯合国間ニ其ノ帰属ニ付交渉モ始マリ居ラザル今日同問題ヲ審議スルハ穏カナラザル旨ヲ回答シタル由

在英大使へ転電セリ

二八九　五月九日　在仏国松井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

海底電線問題ニ関スル仏国政府ノ態度ニ付同国外務当局ノ内話報告ノ件

第八一二号　（五月十二日接受）

往電第七六三号ニ関シ仏国外務当局ノ当館員ニ内話スル所ニ依レバ其後米国政府ヨリ会議事項ノ「プログラム」ハ別ニ決定シ居ラザル旨仏国政府ニ回答アリタルガ本件会議ハ対独条約所定ノ海底電線問題ニモ関係スル事トテ容易ニ米国ノ招請ニ応ジ兼ヌル次第ナルガ何レ諾否決定ノ上ハ追報スベク尚私見トシテ仏国政府ガ米国ノ招請ニ応ズル場合ニ於テモ米国政府ガ対独条約ニ批准シ居ラサル事情ニ鑑ミ海底電線ノ規則ヲ華盛頓ニテ討議スルニハ賛成セザルベク同問題ハ寧ロ最高会議ニテ決定スルヲ適当トスベシト附言シタル由ナリ

在欧米各大使へ転電セリ

二九〇　五月十四日　埴原外務次官ヨリ　秦通信、山梨陸軍、栃内海軍各次官宛

国際通信会議開催ニ関スル米国政府提議ニ対スル回答振ニ付意見回示方依頼ノ件

附属書　国際通信会議開催問題ニ関スル請議案

通二機密合送第二四〇号

本件ニ関シ別紙ノ通リ至急閣議決定ヲ請フコトト致度候処右ニ先チ予メ御意見承知致置度候間何分ノ義折返シ御回示相煩度此段申進候也

（附属書）

国際通信会議開催問題ニ関スル請議案

本年二月在本邦米国大使ハ本国政府ノ命ヲ奉シ客年五月巴里ニ於ケル最高会議決議事項ノ一タル「主タル同盟及聯合国ハ成ル可ク速カニ万国会議ヲ招集シ陸上、海底及無線電線等ノ通信ニ関シ公平ナル基礎ニ於テ適当ナル通信ノ方法ヲ攷究スルコト」ヲ引用シ当該会議ヲ本年五月華盛頓ニ開催シ度キ旨提議シ越シタル処各関係諸国ノ態度ヲ問合セタル結果英仏伊三国共会議ノ目的及範囲不明瞭ナル為多ク気乗リセズ寧ロ開催期ノ延期ヲ希望スルノ意嚮ヲ有スルヤニ

確メタルニ付在本邦米国大使ニ対シ帝国政府トシテハ各種準備ノ都合上会議開催日ヲ少クモ約二月延期セラレ度キ旨差当リ回答シ置キタリ然ルニ更ニ本年四月ニ至リ在本邦米国大使ヨリ本国政府ノ命ニ依リ本会議開催前先ツ本会議ノ議題ヲ考量スル為主タル同盟及聯合国ヲ以テ組織スル予備会議ヲ華盛頓ニ於テ開催スルコトトシ其ノ開催期日ヲ八月一日ト改メタルニ付右予備会議ヘ帝国政府代表者ノ参列ヲ希望スル旨竝本会議ハ本年十一月十五日華盛頓ニ於テ開催スルコトト致シタルニ付是亦帝国政府代表者ヲ派遣セラレ度ク米国政府ハ本件会議ノ成功ヲ最重要視シ居ル旨重ネテ提議シ来レリ仍テ更ニ各関係国政府其ノ後ノ態度意嚮ヲ探索シタル処仏国政府ハ尚会議事項ノ内容不明ナル限リ確答シカヌル旨米国政府ヘ回答シタル趣ナルモ英国政府ハ差当リ予備会議ヘノ招請ニ応スルコトトシ予備会議ニ附議スヘキ事項ニ関シ米国政府ヘ問合セ中ナル趣ニシテ伊国ニ於テモ同国海軍当局ハ既ニ本件会議ニ出席スヘキ委員ノ選任ヲ始メ居レリトノ報アリ思フニ本件会議ニ関スル米国政府提議ノ趣旨稍明瞭ヲ欠クモノアルト共ニ予備会議及本会議ニ附議セラルヘキ事項ノ範囲等ニ関シテモ尚問合ヲ要スルコトアルモ帝国政府トシテハ本件米国政府ノ提議ニ対シ強ヒテ反対スヘキ何等ノ事由モ無之且又他ノ主タル同盟及聯合国政府ニシテ本件会議参加ノ意嚮アルニ於テハ帝国政府ニ於テモ結局之ト協調ヲ保ツノ趣旨ニ於テ本件会議ニ賛同ノ意ヲ表スルノ外ナシト思考セラルルニ就テハ米国政府ニ対シテハ他ノ主タル同盟及聯合国政府ニ於テ概ネ参加スルニ於テハ八月一日ヨリ開催セラルヘキ予備会議ニ帝国政府代表者派遣ノ旨回答スルコトト致度シ

右閣議ヲ請フ

（欄外註記）

「本件ハ五月二十五日閣議ニテ決定済（武富印）」

二九一　五月十五日　在仏国松井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島関係海底電線ニ対スル和蘭国ノ要求等ニ関スル件

第八四七号　（五月十七日接受）

往電第三九六号ニ関シ

一、法律部ヨリ四月十七日附ヲ以テ賠償委員会ニ対シ提出シタル書面ノ内容左ノ通リ

千九百二十年四月十日法律部ハ「ヤップ」上海並「グァム」島及「メナド」ヲ聯絡スル電信線ニ対スル和蘭ノ要求ニ関スル和蘭政府起草覚書ヲ実物弁償部ヨリ受領シタリ法律部ハ其ノ材料ヲ完全ナラシメント欲シ和蘭公使館ノ法律顧問ヲ本件ニ関スル意見ヲ聴取スル為メ招致スル許可ヲ賠償委員会ニ求ム（事前ノ許可ヲ要スルコトヲ賠償委員会ハ四月十二日ノ会議ニ於テ定メタリ）本件ニ関スル委員会ノ決議ヲ法律部ニ通告セラルレバ幸ナリ

二、実物弁償部ニ於ケル討議ノ経過未ダ不明ナルモ法律部仏国評議員ノ五月八日語ル処ニ依レバ法律部ハ未ダ和蘭法律家ヲ招致セズ文書ヲ以テ質問ノ箇条ヲ送附シタルモ未ダ回電ニ接セズ尚法律部英国評議員ハ法律部実物弁償部共ニ和蘭政府ノ覚書以外何等対独条約賠償条項附属書七ノ問題ヲ議シタルコトナシ同附属書ニ掲グル電線ヲ聯合国間ニ分配スル問題ハ各国政府間ノ外交談判ニ委セラルル可キコト恰モ船舶ノ分配ト同一ナル可シト思考スト述ベ尚右ハ全ク自己ノ私見ナルコトヲ附言セリ

三、四月二十三日賠償委員会、本会議ニ於ケル討議ノ経過ヲ議事録ニ付テ見ルニ先ヅ書記長ハ曩ニ委員会ハ其ノ各部ガ中立国又ハ前敵国ノ代表者ノ意見ヲ聴取セント欲スルトキハ其ノ都度委員会ノ許可ヲ受ク可キ旨決定シタリト述ベ議長ハ前敵国ト中立国トノ間ニハ差別ヲ設ク可キモノト思考スルモ何レニモセヨ和蘭法律家ノ招致ニハ反対ナカル可シト述ベ英国委員ハ電信及無線電信等ノ各種交通機関ニ付協議スル為メ本年華盛頓ニ国際会議ヲ開催ス可キ取極アリトノ報道ヲ耳ニシタリ故ニ法律部ニ此ノ許可ヲ与フル前ニ右会議ノ正確ナル任務ヲ知ルコト有益ナル可シト述ベ米国委員ハ此ノ会議ニ関シ何等正確ナル報道ヲ有セザレ共本国政府ヨリ報道ヲ求ム可シト述ベ米国委員ノ提議ニ依リ委員会ハ法律部ニ許可ヲ与ヘ華盛頓ニ開ル可キ会議ノ正確ナル任務ヲ知ル迄ハ当該電線ニ関スル確定的意見ヲ作成ス可カラザル旨法律部ニ通告シタリ

在英大使ヘ転電セリ

二九二　五月十七日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

国際通信会議ノ予備会議ニ米国政府提出ノ意嚮アル事項探索方指令ノ件

第二一九号

在英大使宛往電第一七七号ニ関シ米国政府ノ提議ニ対シテハ尚回答ヲ発スルノ運ニ至ラザル処今般在本邦米国大使ヨリ米国政府トシテハ通信ニ関スル一切ノ事項ヲ討議スルヲ得ト云フノ外何等特定ノ「プログラム」ヲ有セザルニ付予備会議ノ附議事項ハ関係各国之ヲ決シ以テ本会議ノ「アゼンダ」ヲ用意スルコトト致シ度キ旨申越アリタルガ我方トシテハ準備ノ都合上米国政府ニ於テ予備会議ニ提出ノ意嚮アル事項予メ承知シ置キ度キニ付右可然御探索ノ上電報アリタシ

二九三　五月二十二日　在米国館原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

米国政府ニ於テハ国際通信会議ノ予備会議ニ関スル具体的提案未決定ノ旨報告ノ件

第二六二号　（五月二十三日接受）

貴電第二一九号ニ関シ直接国務省当局ニ聞合セタル処目下ノ処実際米国政府ニ於テハ全ク具体的提案ヲ決定シ居ラス各国政府ノ提案ヲ待ッテ附議スル考ニテ此後何等決定ノ上ハ通知スベシトノ事ナルニ付今後何等聞込ミノ節ハ更ニ電報スベシ

二九四　五月二十五日　在本邦国公使ヨリ内田外務大臣宛

国際通信会議及同予備会議ニ対スル日本政府ノ態度ニ関シ問合ノ件

No. 758.　　Tokio, le 25 Mai 1920.

Monsieur le Vicomte,

Votre Excellence n'ignorera pas qu'une conférence internationale devra se réunir à Washington vers le 15 Novembre prochain afin de traiter les diverses questions internationales concernant les communications téléphoniques, télégraphiques et radiographiques.

En outre une conférence préliminaire des Puissances Associées devra avoir lieu juste avant l'ouverture de la conférence principale dans le but de disposer des câbles allemands.

Le Gouvernement de la Reine, ayant reçu une invitation à participer à la conférence principale, m'a prié de le renseigner sur l'attitude du Gouvernement Japonais à l'égard de ces deux conférences, vu le fait que les Etats-Unis jusqu'à ce jour n'ont pas ratifié le Traité de paix.

J'ai l'honneur de recourir à l'obligeant intermédiaire de Votre Excellence en La priant de vouloir bien, si possible, me mettre à même de fournir les renseignements demandés par mon Gouvernement.

En La remerciant d'avance de la suite qu'Elle voudrait bien faire donner à cette demande, je saisis cette occasion d'offrir à Votre Excellence, Monsieur le Vicomte, les assurances de ma plus haute considération.

(Signé) A. de Graeff

Son Excellence

Monsieur le Vicomte Yasuya Uchida,

Ministre des Affaires Etrangères à TOKIO.

二九五　五月二十九日　在英国珍田大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

英国ハ国際通信会議ノ予備会議ニ代表者派遣方ニ関シ米国ニ諾意ヲ表明ノ件

第四七二号　（五月三十日接受）

往電第四〇一号ニ関シ

英国政府ハ海底電信無線電信及他ノ同種ノ事項ニ関スル国際会議ノ議題審議ヲ目的トシ開カルベキ「インター、アライド、プレリミナリー、コンフェレンス」ニ出席セシムル為メ来ル八月米国ニ代表者ヲ派遣スベキ合衆国政府ノ招請ニ諾意ヲ表セル旨十八日附ニテ重ネテ外務省ヨリ通知アリタリ右ニ付為念係官ニ聞合セタル処往電第二〇一号末段聞合ニ対シテハ未ダ回答ニ接セザルモ会議開会ノ目的ヲ上記ノ如ク特定シ承諾シタリ但シ華盛頓ハ暑気甚ダシキニ付何レカノ避暑地ニテ開会サルル様非公式ニ希望ヲ表示シアリト語レリ

在米大使ヘ転電セリ

三九六　六月四日　内田外務大臣ヨリ在本邦英国公使宛

国際通信会議予備会議ニ代表者派遣決定及本会議参加未決定ノ旨回答ノ件

通二送第二八号

以書翰致啓上候陳者本年十一月十五日華盛頓ニ開催セラルヘキ国際通信会議並ニ同予備会議ニ対スル帝国政府ノ態度ニ関シ客月二十五日附貴翰ヲ以テ御申越之趣致敬承候帝国政府ニ於テモ曩ニ米国政府ヨリ本件会議ニ代表者派遣方招請ニ接シタルニ依リ今般同政府ニ対シ主タル同盟及聯合国ニシテ概ネ予備会議ニ参加スルニ於テハ帝国政府モ亦該予備会議ニ代表者ヲ派遣スルコトニ決定シタル旨回答致置候モ本会議ニ参加スルヤ否ヤハ未ダ決定不致候条右様御承知相成度此段回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

（右仏訳文）

Tokio, le 4 Juin 1920.

Monsieur le Ministre,

Par une lettre en date du 25 Mai dernier Votre Excellence a bien voulu me demander l'attitude du Gouvernement Impérial à l'égard de la conférence pour les communications internationales qui devra se réunir à Washington vers le 15 Novembre prochain, ainsi qu'à celui d'une conférence préliminaire des Puissances associées qui aura lieu antérieurement à la première.

J'ai l'honneur d'informer Votre Excellence qu'invité dernièrement par le Gouvernement des Etats-Unis à envoyer des représentants à ces conférences, le Gouvernement Impérial vient de lui répondre qu'il a décidé d'envoyer ses représentants à ladite conférence préliminaire, si la plupart des Principales Puissances alliées et associées participent à cette conférence.

Quant à ce qui concerne la conférence principale, le Gouvernement Impérial n'en a pas encore pris sa décision s'il doit ou non y participer.

Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances réitérées de ma haute considération.

(Signature du Ministre)

三九七　六月七日　在本邦英国公使ヨリ内田外務大臣宛

国際通信予備会議ニ代表者派遣決定ノ旨通報ニ感謝ノ件

No. 846.　　Tokyo, le 7 Juin, 1920.

Monsieur le Vicomte,

Par Sa lettre en date du 4 de ce mois, Votre Excellence a bien voulu me faire savoir que le Gouvernement Impérial vient de décider d'envoyer des représentants à la conférence préliminaire des communications internationales à Washington si la plupart des Principales Puissances alliées et associées y participent.

En remerciant Votre Excellence de cette obligeante communication j'ai l'honneur de La prier de vouloir bien si possible, me renseigner dès que la décision sera prise si le Gouvernement Impérial doit participer ou non à la Conférence Principale.

En La remerciant d'avance de la suite qu'Elle voudrait bien faire donner à ma demande, je saisis cette occasion d'offrir à Votre Excellence, Monsieur le Vicomte, les assurances de ma plus haute considération.

(Signé) A. de Graeff

Son Excellence

Monsieur le Vicomte Yasuya Uchida,

Ministre des Affaires Etrangères,

à TOKYO.

三九八　六月八日　栃内海軍次官、安保軍事部次長ヨリ在日本大使館附武官宛（電報）

ヤップ島海底電線ノ処分ニ関シ英国代表ノ意見報告ノ件

第一一六番　（六月十日海軍省ヨリ外務省接受）

電報先東京、倫敦

一、Fuller 代表カ英国海軍省外務省当局者法律家ノ意見ヲモ聴取ノ上講究セル私見ナリトテ小官ニ語レル要旨左ノ如シ

二、目下賠償委員会ニ係属中ナル「ヤップ」線ニ就テハ独国ノ資本過半アルコト勿論ナルモ和蘭ノ所有ニ属スルハ亦事実ナリ独国ハ条約ニ依リ自己ノ権利ヲ聯合国ニ提供シタルニ依リ該線ノ幾分カ独国政府又ハ人民ノ所有ニ係ルヘキヤヲ賠償委員会ニ於テ調査スルコトハ不都合ナリト云ヒ難シ然レトモ該委員会ハ右ノ範囲ヲ越エ海底電線ノ最後配属ヲ議スヘキ権能無ク右ハ聯合国政府ノ責務ナリ茲ニ附言スヘキハ仮ニ「ヤップ」線カ日本ノ所有ニ決シタルモノトスルモ和蘭トノ関係ハ依然残存スルヲ以テ日蘭間直接友誼的ニ解決セラレンコトヲ勧告シ若談判不調或ハ遅滞ヲ来スカ如キコトアラハ和蘭ハ或ハ米国ト協定シ「グァム」「メナド」直通線ヲ敷設スルニ至ルヤモ計ラレス問題ハ益々紛糾スルコトナキヲ保セス老婆心ナカラ申添フ

三、米国ハ講和会議当時ヨリ独線国際化ヲ主張シタルカ英国ハ依然強硬ナル反対意見ヲ有ス要スルニ戦時捕獲物トシテ現ニ占有セル管理国ノ所有ニ帰スヘキモノナリ

四、米国ハ独線ノ最後処分ヲ国際会議ニ於テ決定セントスル底意ヲ有スルモ英国ハ之ニ同意スル能ハズ平和条約ノ規定通リ聯合国間ノミノ決定ヲ待ツヘキモノナリ云々

（六月八日）

二九九　六月二十八日　閣議決定

国際通信会議予備会談ニ参列ノ日本委員ニ対スル訓令ニ付請議ノ件

国際通信会議予備会議ニ参列スヘキ帝国委員ニ対シ関係各大臣連署ノ上左記ノ通リ訓令スルコトト致シ度シ

一、今回ノ会議ノ性質ニ重大ナル変化ヲ見ルカ如キ場合アルトキハ訓令ヲ俟テ態度ヲ決定セラルヘシ

二、他ノ参列国ノ提案ニ付テハ各委員協議ノ上其ノ賛否又ハ議題トスヘキヤ否ヲ決定セラルヘシ但シ事ノ重大ナリト認ムルモノニ対シテハ事情ノ許ス限リ電報ヲ以テ帝国政府ノ指揮ヲ請ハルヘシ

三、帝国通信業務ノ運行又ハ其ノ進歩発達ヲ阻害スヘキ提案ニハ不同意ヲ表サルヘシ

四、科学ノ進歩発達ヲ阻害スヘキ提案ニハ不同意ヲ表サルヘシ

五、地方的関係ニ基ク特殊ノ事項ハ地方的ニ解決スヘキモノニシテ今回ノ会議ノ議題ト為スヘカラサルコトヲ主張セラルヘシ依テ若シ支那国内設置ノ各国ノ有線又ハ無線電信施設撤廃問題等ノ提議アリタル場合ハ前記趣旨ニ依リ議題ト為スヘカラサルコトヲ主張セラルヘシ

六、世界ノ公道ト認メラルヘキ凡テノ通信線路ニ対スル国際管理（インターナショナリゼーション）ノ問題起リタル場合ハ主義トシテ之ニ賛成セラルヘシ但シ国際管理ノ問題ト対独平和条約ニ因ル海底線帰属ノ問題トハ別箇ノ問題ナルニ付右帰属問題ハ今回ノ会議ノ議題ト為スヘカラサルコトヲ主張セラルヘシ

七、決議事項ハ勿論議事経過中ニ起リタル議論又ハ宣言等ニシテ帝国政府ノ参考ニ資スヘキモノト認ムルモノハ機宜ヲ徴ラサル様報告セラルヘシ

八、別紙(註)事項ハ類似ノ提案アリタル場合ニ於ケル参考トセラルヘシ但シ会議ノ情勢ニ応シ提案スルヲ適当ト認ムルモノハ進テ提議セラルヘシ

右閣議決定ヲ請フ

（欄外註記）

「大正九年六月二十八日閣議決定（内田外相）」

註　別紙ハ左掲ノ「(ハ)ヤップ海底電線ニ関スル事項」ヲ除キ他ノ部分ヲ省略セリ

（別　紙）

ヤップ海底電線ニ関スル事項

(ハ)「ヤップ」海底電線ニ関スル事項

一、本件ハ今次ノ会議ニ於テ議題ト為ササルコトニ主張スルコトトナリ居ルカ其ノ理由ヲ説明スルノ要アルトキハ海底線帰属ノ問題ハ講和会議参加国間ニ於テノミ決セラルヘキモノニシテ一般中立国ヲモ招請スヘキ本会議ノ議題ト為スヘカラストナラスコト

一、然レトモ若シ大勢上本件ヲ議題トスルカ如キ場合トモナラハ

(1)帝国ノ「ヤップ」上海線ニ於ケル関係ハ英仏ノ独米線ニ於ケル関係ト略相似タリ故ニ大体ニ於テ英仏ト歩調ヲ一ニスルノ要アルヘシ但シ右海底線ノ処分ハ使用及管理ノ現状ヲ基礎トシテ決定スヘキコト即チ日本、「ヤッ

プ」間ハ其ノ所有権及運用権ヲ我国ノ手ニ収ムルコトヲ主張シ若シ之カ貫徹ヲ為スコトヲ得サル場合ハ南洋委任統治ノ関係上現ニ使用シツツアル「ヤップ」、日本間ノ接続ハ極メテ必要ナルニ付委任統治ヲ行フ必要上利害関係最密接ナリトノ理由ノ下ニ本線ハ途中日本ニ引揚ケ「ヤップ」、日本、上海線トシ「ヤップ」、日本間ハ其ノ所有権及運用権ヲ我国ノ手ニ収メ日本、上海間ハ日支両国ノ共有ニスルコトヲ主張スルコト

(2)「ヤップ」、「グァム」線及「ヤップ」、「メナド」線ハ対手国ト共有スルコト即チ前者ハ日米間、後者ハ日蘭間ニ共有スルコト

三〇〇　六月三十日　内田外務大臣ヨリ在米国幣原大使宛

国際通信会議予備会議ニ関スル訓令写送附ノ件

通二機密送第九号

国際通信会議予備会議ニ参列スヘキ貴官以下四名ノ帝国委員(註1)ニ対スル関係各大臣(註2)連署ノ訓令ハ往電第二七九号ノ通六月三十日出帆ノ春洋丸ニテ渡米ノ影山委員ヲシテ携帯セシメ候処右訓令(註3)写別紙ノ通リ為念爰ニ及御送附候也

註1　四名ノ帝国委員氏名左ノ通リ

特命全権大使　幣原喜重郎
逓信監察官　影山銑三郎
陸軍少将　井上　一次
海軍大佐　清河　純一

2　関係各大臣氏名左ノ通リ

外務大臣子爵　内田　康哉
逓信大臣　野田卯太郎
陸軍大臣　田中　義一
海軍大臣　加藤友三郎

3　訓令ハ六月二十九日附ヲ以テ発令セラレタリ其内容ハ前顕二九九文書ノ内容（一乃至八）ト同文ナルニ付別紙ヲ省略ス

三〇一　六月三十日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

旧独逸海底電線ノ帰属ニ付英仏両国政府ノ了解ヲ取付置クノ要アルベキ旨意見具申ノ件

第一〇七三号

在米大使宛貴電第二三六号ニ関シ

八月ノ予備会議ガ米国政府ノ提議通リ開催セラルル場合ニハ前独逸海底電線問題ガ其ノ議ニ上ルヤモ計リ難シト存ゼラルル処昨年巴里ノ首相外相両会議ニ於テ同問題討議ノ経緯ニ徴スルモ前独逸海底電線ノ処分ハ極メテ機微ナル問題ナルニ付テハ帝国ニ於テモ予メ右処分ニ関シ英国政府トノ間ニ相互ニ其ノ要求ヲ支持スル様了解ヲ遂ゲラレ英仏ノ利害ガ衝突セザル場合ニハ仏国政府トモ同様ノ協定ヲ遂ゲ置カルル方得策ナル可ク尚賠償委員会ニ於テハ対独条約第八編附属書第七末項海底電線ノ私有ニ属スルモノノ価格評定ヲ同委員会実物弁済ノ権限中ニ特記シ居ル次第モアリ他方往電第七三七号「ヤップ」線ニ関スル和蘭政府ノ要求ニ付テモ賠償委員会ガ審議スル場合ニハ之ヲ防止スルコトモ困難ナル可ク就テハ前記予備会議ガ開カルルト否トニ拘ラズ海底電線ノ帰属ヲシテ成ル可ク速ニ少クトモ英仏両政府ニ対シ了解ヲ取リ付ケ置カルル必要有之可キカト思考ス

尚過般在当地英国海軍代表者「フラー」氏ガ当館海軍武官ニ「ヤップ」線ニ関スル和蘭ノ要求ニ付テハ日蘭ノ直接談判ヲ慫慂シタル次第ハ同武官発海軍大臣宛電報ニテ御承知ノ通リ

本電案珍田大使ト協議済

英米へ転電セリ

三〇二　七月九日　在本邦米国臨時代理大使ヨリ内田外務大臣宛

国際通信会議予備会議開催延期ニ関スル件

No. 404　　Tokyo, July 9, 1920

Excellency:

With reference to my communication dated May 31, 1920 and previous correspondence regarding the preliminary conference on International Communications, I have the honor to inform Your Excellency that according to advices which I have received from my Government, it has been found necessary to postpone the preliminary conference in question until about September 15, 1920, and that the main conference, it is believed, will be convened as soon after that date as circumstances will permit.

I venture to add that I shall not fail to acquaint Your Excellency with the definite dates of

these conferences as soon as I have received the necessary notification from my Government, and that I hope to be able to submit in the near future for the consideration of the Imperial Japanese Government a tentative agenda for the preliminary conference which is now in process of preparation.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

(Sgd) Edward Bell

His Excellency
Viscount Uchida,
His Imperial Japanese Majesty's
Minister for Foreign Affairs,
etc., etc., etc.

三〇三　七月十四日　幣原外務次官ヨリ
在本邦米国大使館ヨリ
内海軍次官、山梨陸軍次官、秦通信次官ヘ回報
各宛

国際通信会議予備会議開催延期ニ関スル件

通二機密合送第三五二号

本件ニ関シ今般在本邦米国代理大使ヨリ米国政府ヨリノ報道ニ依レハ本件予備会議ノ開催ハ九月十五日頃迄延期ノコトトナリタル趣ヲ以テ別紙(註)写ノ通リ申越ノ次第有之候間右玆ニ及御送付候条委細ハ右ニテ御閲悉相成度尚右在本邦米国代理大使来翰ニ対シテハ本邦ニ於テハ已ニ詰般ノ準備ヲ了シ代表委員モ出発済ナル事実ヲ挙ケ此種延期ノ決定ハ今少シク早目ニ通告ニ接スルコトト致度旨並本邦委員ノ本会議ヘノ参否ハ追テ決定スヘキ旨回答スルコトト致度右ニ関シ何分ノ御意見至急御回示相成度此段申進候也

註　別紙前掲ニ付省略

三〇四　七月十九日　在本邦米国大使館ヨリ
日本外務省宛

旧独逸海底電線ニ関スル牧野男爵ノ陳述ニ付問合ノ件

AIDE-MEMOIRE

According to the minutes of a meeting of the Delegates of the Principal Allied and Associated Powers held in Paris on May 24, 1919, the question of the disposal of the German cables which had been taken over by the Allies came under discussion and a statement is credited to Baron Makino to the effect that two former German cables, namely, Chefoo-Tsingtau-Shanghai and Yap-Shanghai-Yap-Menado which had been seized by Japan had been taken up and diverted to war purposes.

A verification of this statement is desired as well as information as to the points to which the cables in question have been diverted and the dates when the diversions took place.

Tokyo, July 19, 1920.

(欄外註記)
「七月二十日ベル氏持参（幣原次官）」

三〇五　七月二十九日　在本邦米国臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛

国際通信予備会議ニ代表委員派遣方招請並同会議附議事項試案及本会議開催時期通報ノ件

No. 421　Tokyo, July 29, 1920.

Excellency:

With reference to my communication dated July 9, 1920, No. 404, and previous correspondence regarding the Conferences on International Communications which are to be held in Washington, I have the honor to inform Your Excellency that I have been instructed by my Government to renew the invitation to the Imperial Japanese Government to send delegates to attend the preliminary conference to be held in Washington on September 15, 1920, and to acquaint Your Excellency with the fact that the French, Italian and British Governments have been asked to send representatives but that the American Government does not contemplate extending invitations to any other nations to attend the preliminary conference in question.

My Government considers it desirable that at this preliminary conference, the status of the former German cables ceded by the peace Treaty to

the Five Principal Allied and Associated Powers be finally determined before the discussion of an agenda for the world-wide International Conference on Electrical Communications is undertaken. The United States will be represented at the preliminary conference by the Under Secretary of State, the Postmaster-General, Admiral Benson and Mr. Walter Rogers, who have been appointed as delegates of the United States to the world-wide International Conference on Electrical Communications.

I have the honor to add that according to advices from my Government, the following subjects are tentatively suggested for discussion at the preliminary conference:

One: The disposition of cables renounced by Germany and enumerated in Annex Seven Part Eight of the Treaty of peace between the Allied and Associated Powers and Germany signed at Versailles.

Two: Consideration of ways and means of furthering inter-communication between the countries associated during the war with a view to the maintenance of friendly relations.

Three: A general discussion of "All international aspects of communication by land telegraphs, cables or wireless telegraphy with a view to providing the entire world with adequate facilities of this nature on a fair and equitable basis".

Four: A consideration of the radio protocol of August 25, 1919, discussed by the military and naval representatives of France, Italy and Great Britain and the United States.

Five: Preparation of agenda and plan of organization for the International Communications Congress to be held in Washington November 15th, 1920.

Six: Discussion of question whether meetings should be called of the radio telegraph and the telegraph congresses or whether they shall be merged with the main conference.

It is proposed to open the world-wide International Conference on Electrical Communication in Washington on November 15, 1920, and it is desired that the delegates be fully empowered to deal with the questions which are enumerated above and to negotiate agreements in reference thereto.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

(Sgd) Edward Bell

His Excellency
Viscount Uchida,
His Imperial Japanese Majesty's
Minister for Foreign Affairs,
etc., etc., etc.

三〇六　七月三十一日　内田外務大臣ヨリ在米国松原大使宛（電報）

国際通信予備会議開催期日延期ノ米国通報ニ関スル件

第三二九号

往電第二三六号ニ関シ在本邦米国代理大使ハ本国政府ノ訓令ニ依リ国際通信予備会議開催期日ハ九月十五日頃迄延期セラルヘキ旨ヲ通報シ来リタルニ付今般右ニ対スル回答ニ於テ帝国政府ハ地理的其他ノ関係上会議開催期日等予定計画ノ変更ハ可成早目ニ承知シタキ旨並主タル会議ヘノ参加ニ付テハ暫ク意見ヲ留保シタキ旨ヲ附言シ置ケリ

右在英仏伊各大使ヘ転電アリタシ

三〇七　八月二日　在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島海底電線ノ処分ハ関係政府間ノ直接協商ニ依ルヘキ旨賠償委員会ニ於テ決議ノ件

第一二三九号

賠実第五五号

一、賠償委員会米国委員ハ五月四日附ヲ以テ賠償委員会ニ

書翰ヲ送リ「ヤップ」島ニ聯絡スル諸電信線ニ対スル和蘭ノ要求ヲ裁断スル権限ハ賠償委員会之ヲ有スヘキモ賠償委員会ハ其ノ考究ニ当リ特殊ナル問題ノ狭隘ナル範囲ニ限局セラルヘク是ニ反シ八月華府ニ招集セラルル主要同盟及聯合国ノ会議ハ事件ヲ広ク考究シ一層一般的ナル見地ヨリ関係政府ニ対シ建議ヲ為ス事ヲ得ルカ故ニ此ノ特殊ナル事件ハ右会議ノ考究ニ委ヌル事重要ナリト信ストノ米国国務省ノ意見ヲ伝ヘ併セテ米国国務省ハ本件ニ利害関係アル当事国モ右ノ意見ニ賛成セラレン事ヲ望ム旨ヲ告ケタリ

二、賠償委員会実物弁償部ニ於テ五月二十一日ノ会議ニ於テ前項米国委員ノ書翰ヲ賠償委員会本会議ニ移牒スル事ニ決シタリ依テ二十二日左記要領ノ意見書ヲ提出シタリ

決定スヘキ問題ハ平和条約ノ附属書第七ニ依リ独逸ノ譲渡スヘキ電信線ノ分配ハ賠償委員会是ヲ実行スヘキカ又ハ主要同盟及聯合国ハ華府ニ於テ分配問題ヲ解決スヘシト決定スルヤニアリ是原則ノ問題ニシテ賠償委員会ノ決定スヘキ処ナリ尚実物弁済部評議員会ハ独逸ノ貸方ニ計上スル目的ヲ以テ電信線ヲ評価スル事及附属書第七ニ掲

クル電信線ノ所有権ヲ諸国（不明）ニ譲渡スル書類ノ処分ハ賠償委員会ノ任務ナリトノ意見ヲ有ス

三、賠償委員会ハ七月二十六日ノ会議ニ於テ本件ヲ議セリ

本邦副委員陪席委員トシテ出席左ノ発言ヲ為セリ

日本委員ハ電信線ノ分配ハ平和条約附属書中ノ条文ニ依リ主要同盟及聯合国ノ決定スヘキモノナリ換言スレハ右分配ハ賠償委員会ノ権限内ニアラストノ意見ヲ有ス

本件ヲ華府会議又ハ其ノ他ノ会議又ハ何等ノ会議ヲ俟タス諸政府ノ直接交渉ニ依リ解決スヘキカノ意見ニ賛成スルヤ否ヤノ点ニ関シテハ日本委員ハ関係諸政府ノ決定スヘキ問題ナリト信ス現在ニ於テハ日本委員（脱）訓令ヲ有セサルヲ以テ何等正式ノ意見ヲ述フル能ハス

討議ノ結果左ノ決議ヲ為シタリ

電信線ノ分配及帰属ノ一切ノ問題ハ関係諸政府間ノ直接協商ニ依リ処理セサルヘカラス賠償委員会ハ是等電線ノ評価ニ関シ一切ノ権利ヲ留保ス

和蘭政府ノ提出シタル請求ニ関シテハ英国委員ノ起草スヘキ問題ヲ法律部ニ附託スルニ決ス

四、英国委員ノ起草シタル問題ノ要旨左ノ通リ

附属書二ノ第二八項ハ電信線ニ関シ生スル請求ニ付賠償委員会カ裁定スル事ヲ要求スルヤ又右請求ノ処理ハ主要同盟及聯合国ノ任務ナリヤ

英米ヘ転電セリ

三〇八　八月四日　内田外務大臣ヨリ在英国珍田大使宛（電報）

国際通信予備会議ニ英国政府参加ノ意向アリヤ探査方訓令ノ件

第三五一号

本官発在米大使宛第二三六号ニ関シ在本邦米国代理大使ハ本国政府ノ訓令ニ基キ七月二十九日付ヲ以テ本年九月十五日華盛頓ニ開催セラルヘキ予備会議ニ関シテハ帝国政府ノ外英仏伊三国ニ対シ招請ヲ発シタルノミニシテ他ノ諸国ハ招請セサル見込ナル旨尚対独平和条約ノ結果五大国ノ譲受ケタル旧独海底電線ノ帰属ハ本件予備会議ニ於テ万国電信会議ノ附議事項討議ニ先チ最終的決定ヲ与ヘ度旨又予備会議ノ附議予定事項ハ別電ノ通リナル旨将又本年十一月十五日華盛頓ニ於テ万国電信会議（World-Wide International Conference on Electrical Communication）

（国際通信本会議ト同一ノモノナリヤ不明ニ付問合セ中）ヲ開催シタキニ付右会議ヘ別電列挙ノ諸件ヲ討議スルノ全権ヲ有スル代表者ヲ派遣セラレタキ旨ヲ申越シタル処右ト同様ノ通牒ハ貴任国政府ニ於テモ既ニ接受セルコトト思考セラルルニ付テハ右ニ対スル貴任国政府ノ態度特ニ右ノ如キ目的ヲ有スル会議ニ参加スヘキヤ否ヤ御探査ノ上詳細本大臣及在米大使ヘ電報アリ度シ右本大臣ノ訓令トシテ在仏伊各大使ヘ転電セラレ度シ

三〇九　八月九日　栃内海軍次官ヨリ埴原外務次官宛

前独領海底電線押収及利用ノ地点及時期ニ関スル件

官房機密第一〇六七号ノ二

大正九年八月九日

海軍次官　栃内曽次郎（印）

外務次官　埴原正直殿

本件ニ関シ客月二十四日附政二機密送第一〇三号ヲ以テ御照会ノ趣了承右ニ付事実ノ詳細ハ左記ノ通リニ有之候

右回答ス

追テ本件ニ付貴省ヨリ米国代理大使ヘノ御回答ニ先チ其ノ旨当省ヘ御通牒ヲ得度

左　記

一、芝罘―青島―上海間
大正三年八月二十七、八日軍艦高千穂ニテ各之ヲ切断シ其ノ後引揚ケ青島佐世保間ノ海底線ニ使用セリ

二、「ヤップ」―上海間
大正五年四月十八日上海ヨリ約二百八浬五（北緯二十四度東経百二十四度十四分〇秒）地点ニ於テ沖縄丸之ヲ切断シ其ノ一端ヲ沖縄島ニ陸揚シ爾後「ヤップ」日本間ノ通信ニ使用シツツアリ

三、「メナド」―「ヤップ」―「グァム」間
大正五年四月一日沖縄丸「ヤップ」着「メナド」「グァム」ニ至ル二線ハ各其ノ線端ヲ接地シ其ノ儘今日ニ及ヘリ

（欄外註記）
「接地ノ月日ハ精確ナラザルモ海軍通信両省ト協議ノ末大正五年四月一日ト認メ置クコトニ決定ス」

三一〇　八月十四日　在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独逸海底電線ノ帰属ニ関スル国際通信予備会議ニ付仏国外務省係官ノ内話報告ノ件

別電　同日在仏国松井大使ヨリ内田外務大臣宛電報第一三〇六号
右予備会議仮議題

第一三〇五号　（八月十六日接受）

在英大使宛貴電第三五一号ニ関シ当外務省係官ノ内話セル処左ノ通リ

一、仏国政府モ在仏米国大使ヲ経テ日本政府ト同様ノ招請ヲ受ケタルガ同国政府トシテハ米国政府ガ対独条約ニ批准セザルニ先立チ予備会議ニ於テ果シテ同条約所定ノ海底電線ノ帰属ヲ有効ニ決定シ得ルヤニ付疑ヲ抱カザルヲ得ズ仮ニ一歩ヲ譲リ米国ガ批准前ナルニモ拘ラズ右電線ノ分配ニ参加シ得ルモノトシ是ガ帰属ヲ定メタル場合ニ右電線ハ概シテ私有ニ属スルニ依リ対独条約第八編附属書第七末段ノ規定ニ従ヒ賠償勘定ノ問題ヲ生ズベキ処独逸ガ此ノ点ニ付本件ニ対シ苦情ヲ持チ出サザルカヲ恐ルルモノナリ而シテ仏国政府ガ敍上ノ疑問アルニモ拘ラズ仮ニ米国ノ招請ニ応ズトスルモ九月十五日ハ余リニ切迫シ居ルニ付少クトモ二ケ月ノ延期ヲ求メ度キ意向ナリ就テハ右ニ関スル日本政府ノ所見ヲ承知スル事ヲ得バ幸ナリ本件米国政府ノ通牒ニ関シ在米仏国大使館員「ベアルン」ガ米国当局ニ対シ対独条約批准未済ノ故ヲ以テ米国ガ華府労働会議ニ参加セザリシ例ヲ挙ゲ米国政府ガ果シテ前独海底電線ノ処分ニ参加シ得ルヤヲ尋ネタルニ米国当局ハ対独条約当事国ニアラザル丁抹ト「シュレスウィヒ」人民投票ノ結果トノ関係ヲ例示シ国務省法律顧問ノ意見ニテハ米国モ有効ニ右処分ニ参加シ得ベキ旨並米国ノ労働会議ニ参加シ得ベキカノ理由ニ基クモノナル処今日ハ当時トハ事情ヲ異ニシ居レリ就テハ英仏日伊ノ諸国ガ既ニ米国ノ招請ニ応ジタルニ依リ仏国政府ノ応（不明）スル旨ヲ答ヘタル由将又在英仏国大使館参事官ガ本件ニ付英国外務省員 Sperling ノ所見ヲ敲キタルニ理由トシテハ仏国政府ノ疑問ハ尤モナルモ前独海底電線ノ内二電線ガ米国ニ陸揚ゲシ居ルノ事実ニ顧ミ米国政府ノ招請ニ応ズルノ已ムヲ得ザルベキ旨ヲ答ヘタル由

二、仏国政府トシテハ前顕ノ通リ米国ニ於テ本問題ヲ解決セントスルニ気乗シ居ラザルモ英国招請ニ応ズルニ於テハ仏国トシテモ予備会議ニ加ハラザルヲ得ザルベク而シテ愈々是ニ参加スルトセバ電線ノ分配ニ付其ノ以前ニ英国政府トノ間ニ多少ノ諒解ヲ遂ゲ置ク必要アルベキ処目下両国ノ間ニ右様ノ話合ハ未ダ始マリ居ラズ仏国側ニテ英国ノ前独海底電線ニ関スル希望ヲ探査中ナリ

三、米国政府ハ予備会議ニ於テ海底電線「インターナショナリゼーション」ヲ主張スベキ模様無キニアラザル処海底電線ヲ国際有トセントセバ其ノ陸揚地ヲモ国際有ト為サザルベカラズ此ノ主義ヲ貫カントセバ「アゾール」島ノ如キ海底電線ノ集合地ヲモ国際有トスル必要アルベク即チ一国ノ領土ヲ国際有トスルノ不合理ナル結果ヲ来タスベシ云々

尚在米仏国大使ガ米国政府ヨリ接受シタル予備会議ノ仮議題ナルモノハ在仏米国大使ノ送附シ来タレル議題ト異ル処アルニ付御参考迄ニ電報ス（別電第一三〇六号）

尤モ在英大使宛貴電第三五二号ノ原案カトモ察セラル

本電別電ト共ニ米ヘ転電英仏ヘ郵送ス

（別　電）

八月十四日在仏国松井大使発内田外務大臣宛電報第一三〇六号

予備会議仮議題

No. 1306

1. Disposition of cables, cable ships and materials surrendered by, or captured from, Germany.

2. International agreements as to landing-rights for cables and radio concessions in all countries.

3. Amalgamation of all conventions and agreements of the object of cables, radio-telegraphic lines, establishment of an international net work of communications for use in transit news reports concerning national events of world-wide interest.

4. Establishment of national commissions and international commission to operate world communications.

5. Measures for the establishment of equitable rates.

6. Rearrangement of present lines of communication and construction of new lines.

7. Improvement of materials and service on present lines of communication.

8. The use of codes.

9. Priority for Government, business and commercial priorities.

10. Representation and voting strength at the main Conference on Communications.

Matsui

三一一　八月十五日　在中国小幡公使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

国際通信会議ニ対スル中国側ノ思惑報告及請訓ノ件

第八四五号

最近顧維鈞ヨリ支那政府ニ対シ今秋華盛頓ニ於テ開催セラルベキ万国電信会議ニ於テ「ヤップ」島ヲ中心トスル海底電信系ハ総ベテ米支共有トスルノ案ニ依リ方針ヲ定メラレ度キ旨意見ヲ提出シ来タリタル趣ニテ滬交通部電政司長ヨリ中山顧問ニ対シ右ノ内情ヲ打開ケ「ヤップ」島ト日本ト

ノ関係ニ顧ミ該電信系ヲ米国ト共有トスルハ実際ニ適セズ寧ロ日支共有トスル事然ルベキカト思考シ居ル旨内話シタル趣ナリ就テハ右ハ那辺迄支那政府トシテノ意見ト見ルベキヤ不明ナルモ中山ハ来ル十六日当地発休暇帰朝スルニ付委細同氏ヨリ御聞取リノ上然ルベク御措置相成リ度シ尚該海底電信ニ対スル日本ノ地位及右ニ関スル万国会議ニ於ケル我方針並右電政司長ニ対スル御意見大要本官迄ニ電報ヲ請フ

三一二　八月十八日　内田外務大臣ヨリ在英国珍田大使宛（電報）

国際通信予備会議ニ対スル仕国政府ノ態度電報方指令ノ件

第三七四号

往電第三五一号ニ関シ貴任国政府ノ態度至急御聞合セノ上電報アリタシ

右訓令トシテ在仏在伊各大使ヘ転電アリタシ

三一三　八月十九日　内田外務大臣ヨリ在米国松原大使宛（電報）

国際通信予備会議ニ仏国政府参加決定ノ件

第四二〇号　（八月二十日接受）

大臣宛在仏大使電報第一三〇五号ニ関シ在米仏国代理大使ハ仏国政府ガ予備会議ニ参加スルコトニ決定セル旨（但シ延期ヲ申出ヅ）八月十七日電報ニ接シタル趣ナリ

英仏伊ヘ転電セリ

三一四　八月十九日　在米国松原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

仏国ガ旧独逸海底電線処分問題ノ討議延期ヲ希望セザルヤ否ヤ突止方ニ付意見具申ノ件

第四二二号　（八月二十日接受）

往電第四二〇号ニ関シ

是ヨリ先キ在米仏国代理大使ノ内話ニ依レバ仏国政府ハ通信会議予備会議ニ参加ノ意志無キ旨本月始国務省ニ対シ書面ヲ以テ一応回答シ居リタル趣ナリ果シテ然ラバ米国政府ハ右回答ニ接シタル上ニテ更ニ仏国政府ニ参加方ヲ説得シ仏国政府ハ既ニ他ノ諸国ノ受諾アリタル事情ニ押サレテ已

ム無ク今回決定ヲ為スニ至リタルモノト推測セラル而シテ仏国政府ガ最初不参加ノ回答ヲ為スニ当リテハ米国ノ平和条約不批准ヲ第一ノ理由トシタル行懸モアルヲ以テ我方トシテハ此ノ際至急仏国政府ニ対シ我国ガ予備会議ノ為メ委員ヲ派遣セル際ニハ仏国政府ニ於テ同会議開催ニ不同意ナリシ事ハ全ク承知セザリシ事及米国ガ平和条約ヲ批准セザル今日独逸ノ譲渡セル海底電信処分問題ヲ議スルハ当ヲ得ズトスルニ於テ全然仏国政府ト意見ヲ同ジクスル事ヲ通ジ仏国政府ガ今回参加ノ決定ヲ為シタル後ニ於テモ独逸電信処分問題ノ討議乃至決定ハ結局是ヲ後日ニ延バスノ希望ヲ有セザルヤ否ヤ一応突キ留メ置ク事有益ナルベシト思考ス

三一五　八月十九日　在米国清河海軍大佐ヨリ
栃内海軍次官宛（電報）

国際通信会議参加ニ関スル仏英米各国ノ意向並我英仏トノ提携方針ニ付報告ノ件

米通第三号　（八月二十三日海軍省ヨリ外務省接受）

一、仏国ノ通信会議参加ニ関シ最近佐分利書記官ガ当地代理大使ニ接触ノ結果八月五日頃代理大使ハ当地ニ於テ一

旦参加ヲ拒否セシガ其ノ後巴里ニ於テ米仏間ニ交渉アリシモノト見エ十七日ニ至リ一二箇月延期ヲ要求シテ参加ヲ決シタルコト判明セリ仏ノ拒ミタル真意ハ独線処分ノ附議ヲ好マザルニアルハ明カナリ

二、十八日附小林武官ノ電報ニ依リ英ハ参加スルモ独線処分ノ附議ニ反対ナルコト及委員派遣ノ関係上会議ノ延期ヲ要スルガ如シ

三、米ノ会議ニ対スル心算等探聞ノ便ナキモ今後順当ニ進ムトシテ英仏ノ関係上会議ハ更ニ延期シ何者モ党争ノ具ニ利用サレ易キ選挙前ニ開催スルコトナルベシ斯ル時機ニ於テ太平洋独線処分ヲ当地ニ於テ議スルコトハ我ニ不利ナルノミナラズ一方独線処分ノ協定ハ賠償関係ヲ伴フ故ニ米国ガ今後尚条約ヲ批准セザル場合ニ於テ折角協定ノ効力ニ疑ナキ能ハズ従ッテ協定ニ努力スルコトハ稍々徒労ノ観アリ

四、英仏ガ渋々会議参加ニ傾ケル今日会議ノ無期延期ヲ策スルコト困難ナリトスレバ今後我ハ英仏ト接触ヲ試ミ三国提携シテ独線処分問題ヲ議題ヨリ削除シ会議ヲ骨抜キニスル方針ヲ取ルコト現下ノ大勢上得策ニシテ且望ミ多シ委員ハ此方針ニテ進マントス

発電先　倫敦巴里

三一六　八月二十日　日本外務省ヨリ
在本邦米国大使館宛

旧独逸海底電線ニ関スル問合ニ対シ回答ノ件

政二機密

芝罘―青島―上海及「ヤップ」―上海「ヤップ」―「メナド」「ヤップ」―「グァム」間ノ前独逸海底電線ノ問題ニ関シ千九百十九年巴里ニ於ケル主要同盟及聯合国代表者会議ニ於テ牧野男爵ノ為シタル陳述ハ事実ニ基クモノニシテ芝罘―青島―上海線ハ千九百十四年八月二十七、八日各陸揚地附近ニ於テ又上海―「ヤップ」線ハ千九百十六年四月十八日上海沖ニ於テ又「ヤップ」―「グァム」「ヤップ」―「メナド」線ハ同年四月各「ヤップ」島附近ニ於テ帝国海軍之ヲ切断シ戦争ノ目的ニ供シタルモノナリ

（右英訳文）

Statements made by Baron Makino in regard to two former German cables, namely, Chefoo-Tsingtao-Shanghai and Yap-Shanghai Yap-Menado Yap-Guam, at the Conference of the Delegates of the Principal Allied and Associated Powers held in Paris in 1919 are based on the following facts:—

The Chefoo-Tsingtao-Shanghai cable was cut near its landing points on the 27th and 28th of August, 1914, the Shanghai-Yap in the sea off Shanghai on the 18th of April 1916, and the Yap-Guam and Yap-Menado near Yap Island in April the same year, and all of them were diverted to war purposes by the Imperial Navy.

Tokio, August 20th, 1920.

三一七　八月二十日　在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議延期ニ同調アリ度旨仏国政府ヨリ依頼越ニ付請訓ノ件

第一三三六号　（八月二十二日接受）

往電第一三〇五号ニ関シ仏国政府ハ愈々予備会議ノ招請ニ応ズルト同時ニ開会期ヲ十一月上旬ニ延期セントヲ米国

政府ニ申込ミタルニ付テハ帝国政府ニ於テモ右延期ニ同意セラレ度キ旨当国外務省ヨリ本使ニ依頼シ来レリ右何分ノ義御回示アリタシ尚仏国政府ハ英国政府ヘモ同様ノ提議ヲ為シタルモ未ダ回答ニ接セザル趣ナリ将又当国外務省ヨリ予備会議ノ帝国委員ハ既ニ華盛頓ニ到着シ居レル由聞込ミタルカ右ハ事実ナリヤトノ質問アリタリ之亦併セテ御電報ヲ請フ

英米伊ヘ転電セリ

三一八　八月二十日　在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中国政府ノヤップ島海底電線合弁方針ニ関スル新聞報道ノ件

第八六六号　（八月二十一日接受）

在米大使宛第三六一号御参考迄

ヤップ島海底電線ニ関シ確実ト認メラルル新聞報道ニ拠レバ華盛頓会議ノ結果其日米何レカ或ハ日米共有ニ帰スルニ論ナク支那ガ之ニ加入シ合弁トスベキ方針ニテ且ツ其ノ旨予メ五国会議ニ声明スベキ旨顧維鈞ニ電訓シタリトアリヲ遺憾トス二十日午後八時三十分

在米大使、在紐育、桑港総領事、在「シカゴ」領事ヘ転電セリ

三二〇　八月二十一日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

顧維鈞上海ヤップ海底電線ノ中米共同管理ヲ政府ニ提議ノ件

第三五九号

支那交通顧問中山逓信技師ヨリ左ノ通リ逓信省ヘ電報アリタリ御参考迄

電政司長ノ話ニ駐米公使顧維鈞ヨリ電報ニテ上海「ヤップ」海底電線ヲ支那ト米国トノ共同管理トスルコトヲ提議シタルモ司長ハ日本ト支那ノ共同管理ヲ適当ト認ム万已ムヲ得ザル場合米国モ加入セシムル考ナリ云々

右通信会議帝国委員ニ伝フルト共ニ在欧各大使ヘ転電アリタシ

在欧大使ニ転電アリタシ

三一九　八月二十日　在英国珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

英国ガ国際通信予備会議ニ代表派遣決定ヲ米国ニ回答セル趣英外務省米国部部員内話ノ件

第七三六号　（八月二十二日接受）

貴電第三五一号ニ関シ英国政府ハ仏国政府ニ異議アルヲ知リ（在米大使発大臣宛第四二〇号ノ事実ハ未ダ承知シ居ラズ）又伊国政府ノ態度如何ヲ承知セザルモ米国政府ノ熱心ナルニ顧ミ将又米国提議議題諸事項ノ事態ヲ明確ニスル事有益ナリト認メ代表者（郵政省「アシスタント、セクレタリース」ノ一人、外務省米国部長「スパーリング」ノ他海軍省吏）ヲ派遣スルコトニ決シ其ノ旨米国政府ニ回答セル趣米国部部員ヨリ内話アリタリ米国対独条約ノ批准ヲ指摘セルニ対シ部員ハ此ノ種問題ノ審議ニ米国ヲ除ク訳ニモ行クマジト述ベタル外多クヲ語ラズ（当館海軍武官ノ海軍側情報ニ依レバ海軍方面ニハ相当強力ナル反対アリシヤニ見ユ）部長会々旅行中ノ為メソレ以上ヲ突キ止ムルヲ得ザル

三二一　八月二十二日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議開会延期ノ仏国政府提議ニ同意スルヲ得策ト認ムル旨意見具申ノ件

欠号　（八月二十三日接受）

大臣宛松井大使発電第一三三六号ニ関シ「ウィルソン」大統領ハ往電第三五〇号ノ通リ「ヤップ」問題ニ付上院ヨリ「ロッジ」氏ノ提出ニ係ル質問ヲ受ケタル儘未ダ之ニ対シ回答スル所ナク又米亜協会ヨリハ公第三五四号報告ノ通リ大統領ニ請願書ヲ提出シ居ル等ノ事情アリ旁々来ル十一月初行ハルベキ選挙前ニ予備会議ヲ開キ独逸海底電線ノ処分ヲ議スルコトトナラバ米国ハ自己ニ有利ナル決定ヲナサシメ以テ選挙ノ目的ニ利用センコトヲ主トスベク之ガ為メ強硬ノ態度ニ出ヅベキハ想像ニ難カラス就テハ同会議ヲ十一月上旬迄延期セントノ仏国政府ノ提議ニ対シテハ帝国政府ニ於テ同意ヲ表セラルル方得策ト認ム

在仏大使ノ参考迄ニ同官ヘ転電セリ

三二二　八月二十三日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

旧独逸海底電線ニ関スル牧野男爵ノ陳述ニ付為サレタル米国大使館ノ問合ニ対スル我回答通報ノ件

第三六四号

芝罘―青島―上海及「ヤップ」―上海「ヤップ」―「メナド」間ノ旧独領海底電線ハ日本海軍之ヲ切断シテ戦争ノ目的ニ供シタル旨昨年巴里ニ於ケル主要同盟及聯合国代表者会議ニ於ケル牧野全権ノ陳述ニ関シ在本邦米国大使館ヨリ右陳述ノ verification ヲ求メ且右切断利用ノ地点及時期ヲ問合セ来リタルニ対シ八月二十日別電(註)第三六五号ノ通リ回答シ置キタリ御参考迄

在欧各大使ニ転電アリタシ

註　別電第三六五号ヲ省略ス右ハ八月二十日附外務省ヨリ在本邦米国大使館宛覚書ノ英訳文ト同文ナリ

三二三　八月二十五日　内田外務大臣ヨリ
在仏国松井大使宛（電報）

旧独逸海底電線帰属問題ニ関シ英仏両国政府ニ対スル交渉振ニ付回訓ノ件

別　電一　同日内田外務大臣発在仏国松井大使宛電報第六六五号
国際通信予備会議日本委員ニ対スル訓令

二　同右電報第六六六号
在英国珍田大使ニ対スル訓令

第六六四号

貴電第一〇七三号ニ関シ貴見ノ如ク本問題ニ付予メ英仏両国政府ト了解ヲ遂ケ置クノ望マシキコト勿論ナルモ此際英国政府ニ対シ相互支援ノ交渉ヲ試ムルニ於テハ或ハ先方ヨリ交換的ニC式委任統治様式問題ニ関シ我譲歩ヲ求メ来ルコトナキヤノ虞アリ此間極テ機微ノ用意ヲ必要トスル処

一、本問題ガ華盛頓国際通信会議ニ附議セラルルコトハ可成之ヲ防止スルコト得策ナルヲ以テ貴官ハ仏国政府ニ対シ予備会議ニ於テ本問題ノ討議ヲナサズ之ヲ後日ニ延バスノ希望ヲ有セザルヤヲ確カメラレ

二、若シ右延期ノ望無ク愈々同問題付議ノ已ムナキニ至ル

場合ニ於テハ「ヤップ」中心ノ三線ニ対スル帝国ノ関係ハ英仏ノ独米線ニ対スル関係ニ類似スル所アル次第ニ付日仏両国ノ要求ニ付相互支援ヲ約スルコトトシ度キ処帝国ハ赤道以北旧独領諸島ノ委任統治国タルベキ関係上其ノ通信機関タル右三線ニ対スル独逸ノ権利ハ帝国之ヲ取得スルヲ至当トスト信ズルニ依リ仏国政府ヨリ之ガ支持ヲ得度キ旨申入レラレ度シ

尚華盛頓会議ノ予備会議ニ参列スベキ帝国委員ニ対シテハ本問題ニ付別電第六六五号ノ通リ訓令シ置ケリ又本件電線ニ対スル蘭国側ノ権利ニ関シ同国政府ト交渉方ニ付テハ近ク何分ノ儀決定ノ筈

尚在英大使ニ対シテハ別電第六六六号ノ通リ訓令シ度キニ付本電及別電二通本大臣ノ訓令トシテ同大使へ又参考トシテ米（米へハ六六五号ヲ除ク）伊独蘭へ夫々転電アリタシ

（別　電一）

八月二十五日内田外務大臣発在仏国松井大使宛電報第六六五号
国際通信予備会議日本委員ニ対スル訓令

第六六五号

国際通信予備会議帝国委員ニ対スル訓令

世界ノ公道ト認メラルベキ凡テノ通信線路ニ対スル国際管理（インターナショナリゼーション）ノ問題起リタル場合ハ主義トシテ之ニ賛成セラルベシ但シ国際管理ノ問題ト対独平和条約ニ因ル海底線帰属ノ問題トハ別箇ノ問題ナルニ付右帰属問題ハ今回ノ会議ノ議題ト為スベカラザルコトヲ主張セラルベシ

（別　電二）

八月二十五日内田外務大臣発在仏国松井大使宛電報第六六六号
在英国珍田大使ニ対スル訓令

第六六六号

在英大使宛訓電左ノ通

第三八四号

在仏大使来電第一〇七三号ニ関シ今般同大使宛第六六四号ノ通回訓シタルニ付貴官ニ於テモ右訓令ノ趣旨ニ従ヒ

一、電線問題ヲ予備会議ニ附議セザルコトニ付英国政府ノ意嚮ヲ探リ

二、委任統治様式問題ニ対シ格別累ヲ及ホスノ懸念ナカルヘキ御見込ナルニ於テハ電線処分ニ付予メ英国政府ト相互支援ノ了解ヲ遂クル様御協議ヲ試ミラレ度シ

三二四　八月二十五日　在伊国堀田臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議参加ヲ伊国政府決定ノ件

第一三七号　（八月二十七日接受）

在米大使宛貴電第二三六号ニ関シ当国外務省通商局長ノ説明セル処ニ依レバ予備会議ニ関シ伊国政府ハ日英仏三国ガ参加スル以上独リ不参加ヲ称フル訳ニモ行カザルニ付代表者ヲ出席セシムルコトニ決シ専門委員三名ハ既ニ選任済ニテ之ニ一名ノ政治委員ヲ加フベク多分在米大使館参事官ヲ之ニ任命スルコトトナルベシ右会議ニハ（脱）聞タルモ如何ニナリシカ確知セズ（此点ニ付テ質問ヲ進メタルモ明答ヲ避ケタリ）仏国政府ヨリ開催期日延期ノ申出ヲナセル旨通告ニ接セルガ伊国政府ニ於テ之ニ対シ異議ノアルベキ筈ナシ万国電信本会議ノ招請ハ各国政府モ之ヲ接受セリ手続上目下主管省ニ移牒中ニテ公然回答スル運ニ至リ居ラザルモ既ニ予備会議ニ参加スル以上本会議ニモ代表者ヲ出スベキコト勿論ナリ決議事項ニ対スル伊国ノ態度意見ニ至リテハ茲ニ明言シ難キ所ナルガ旧独逸所属海底電線処分ノ件ノ如キハ他国ニ比シ伊国ニ於テ寧ロ利害深カラザル問題ナルヲ以テ他国ニ於テ之ガ討議ヲ延期スル場合ニハ伊国ニ於テモ別段反対セザルベシ尤モ伊国政府ノ見解ニ依レバ本会議ニ附議セラルベキ事項ハ一切予備会議ニ於テ之ヲ決定スベキモノニシテ又米国ヨリノ招請ニハ十一月中旬華盛頓ニ於テ開催ノ旨指示シアルモ会議地及ビ開催期日モ亦予備会議ニ於テ決定サルベキモノト考フト云ヒ其米国主催ノ下ニ開カルルヲ喜バザル意ヲ洩セリ

在米大使ヘ転電セリ

在英仏大使ヘ郵送セリ

三二五　八月二十七日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独逸海底電線ニ関スル対米回答中ノ疑問ニ付電示方稟請ノ件

通第八号

貴電第三六五号ニ関シ

米国大使館宛回答末段ニハ「ヤップ」「グァム」及ビ「ヤップ」「メナド」両線戦争ノ目的ニ転用セラレタル旨記載シアル処当地ニ在ル逓信海軍両省関係者ニ於テハ右両線ハ単ニ「ヤップ」島ニ於テ「アース」（Earthed）シアルノミナリト承知シ居レリ従ッテ右両線ガ切断ノ上軍事上ノ目的ニ転用セラレタリト云フハ事実ニ相違スルカ如ク若シ既往ニ於テ我方カ試験シ又ハ先方ヨリノ試験ニ応シ又ハ先方ト談話ヲ交ヘ居ル等ノ事実アラバ直ニ真相ノ暴露スヘキハ勿論其他米国ニ於テ何等カノ方法ニ依リ実情ヲ探知セズトモ限ラズ米国側ハ予テヨリ海底電線ハ性質上捕獲ノ目的物トナリ得ザルモノニシテ海底電線ノ切断ハ船舶ノ獲捕ト同様ニ見做スコト能ハズトノ意見ヲ有シ居ルヲ以テ独線ノ処分ニ付交戦国ニ於テ切断シタル儘放置シタルモノト実際使用シタルモノトヲ区別シテ取扱フベシトノ提議ヲ予備会議ニ持チ出スコトナキヲ保セズ右米国側立論ノ当否ニ付テハ議論ノ余地アルヘキヲ以テ暫ラク之ヲ別問題トシ一旦斯ノ如キ提議ノ出デタル場合ニハ「ヤップ」「グァム」及「ヤップ」「メナド」ノ両線カ切断セラレタリヤ否ヤ又戦争ノ目的ニ転用セラレタリヤ否ヤノ事実問題ヲ審査スルノ羽目ニ立至ルヤモ計ラレズ此際今回米国大使館宛回答ノ結果我ニ於テ窮地ニ陥ルガ如キ虞ナキヤ懸念セザルヲ得ズ就テハ右両線ニ関スル回答ヲ発セラレタリトスレハ其ノ事情心得ノ為至急御電示ヲ請フ

三二六　八月三十日　在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独逸海底電線問題ニ仏国側ノ支持取付方ニ関シ同国政府ノ意向問質及意見具申ノ件

第一三七八号　（八月三十一日接受）

貴電第六六四号ニ関シ仏国政府ニ支持方申入ニ先チ同政府ノ予備会議ニ対スル其ノ後ノ準備等探査ノ為館員ヲ外務省係員「ペアン」ノ許ニ派シ米国政府ハ海底電線問題ヲ選挙ニ利用セントスルヤノ風説モアルコトヲ指摘シ仏国政府ニテハ本問題ヲ予備会議ニ附議セズ之ヲ後日ニ延ス意嚮ナキヤヲ尋ネシメタルニ「ペアン」ハ昨年五月五日五国会議ニ於テ「プロトコル」案末項（講往第八六一号）無決定ノ結果ハ今回華盛頓会議招請ニ応ズル以上同会議ニテ海底電線問題ヲ討議セザルコトハ不可能ナルベク（館員ヨリ前記末項ハ必ズシモ独逸海底電線ノ処分ニ言及シ居ラザル様記憶スル旨ヲ指摘シタル処同項ガ対独条約第八編第七附属書ト

一体ヲ成スベカリシ行懸ニ鑑ミ此ノ点ハ議論ノ余地ナカルベシト答ヘタリ）仏国政府ハ正シク「ウィルソン」大統領ガ選挙ニ利用セントスル虞アルヲ以テ曩ニ十一月迄延期センコトヲ提議シタル次第ナルガ英国政府ハ最近ニ至リ全然米国政府ノ招請ヲ容レ米国政府ヲ支持シテ仏国政府モ米国ノ提議ニ応ゼンコトヲ慫慂スルニ至リ伊国ハ独逸海底電線問題ニ利害関係ナキト米国政府ニ財政上ノ援助ヲ仰ガザルベカラザル弱味アルトニ依リ反対スベキ筈ナク然ノミナラズ日本委員ハ既ニ華盛頓ニ到着シ一日モ早ク会議ノ開催ヲ希望シ居ル趣ニテ是非トモ十一月四日前ニ会議ヲ開キ度キ旨米国側ヨリ屢々申入レ来リタルニ付最近仏国政府モ致方ナク譲歩シ但シ準備ノ都合モアルヲ以テ十一月十一日迄延期センコトヲ申出タル（脱）置キタル仏国政府ノ十一月迄延期スベシトノ提議ニ対スル日本政府ノ回答ヲ督促シタルヲ以テ館員ヨリ予備会議ニ於テ独逸海底電線問題ガ討議セラルルコトヲ欲セザルニ付帝国政府ニ於テモ主義トシテ之ガ延期ニ反対セザルベシト思考スル旨ヲ答ヘ置キタル由ナリ次ニ館員ヨリ「ペアン」ニ於テ独逸海底電線ノ分配ニ対スル米国政府ノ意嚮ニ付知ル所ナキヤヲ尋ネタルニ「ウィルソン」大統領ノ意嚮ハ寧ロ之ヲ分配セズ国際管理ニ附セントスルニアルベク而シテ今回ノ会議ニ於テ前独逸電線ヲ国際管理ニ附シ得レバ追テハ世界ノ海底電線ヲ同様ノ管理ニ附セントスル考ナルベシ尤モ強ヒテ分配問題ガ起ル場合ニハ五国会議ノ討議ニ顧ミルモ米国ノ希望スルハ「モンローヴィヤ」「ペルナンブコ」ノ線ナルベク其他ハ紐育「エムデン」線（同線ノ一ハ英国ガ「ハリファックス」ヨリ「ランズエンド」ニ他ノ線ハ仏国ガ「ブレスト」ニ接続シタル由ヲ語レリ）中ノ一ナルベク尤モ国際管理ハ他ノ利害関係国ニテ承諾セザルベキモ問題ハ英国カ果シテ何処マデ米国ニ対抗スルカニアリト述ベ尚館員ノ問ニ対シ英国ガ今ニ至リ米国ノ招請ニ応ジ之ヲ支持スルハ別ニ深キ理由アルニ非ズ何等両国間本件ニ付諒解ノ成立シタル次第ニハ非ザルベシト答ヘ次イデ館員ヨリ英仏間ニ何等諒解成立シタリヤト尋ネタルニ今ヨリ凡ソ一年半前ニ「モンローヴィヤ」「ペルナンブコ」線ニ関スル外両国ガ détourner シタル電線ハ各自之ヲ保持スベキ旨ノ談話ノ交換アリタルノミニテ之トテモ今回ノ予備会議ニテ果シテ右ノ通リ支持シ合フコトニ話合ツキ居ル次第ニ非ズ海底電線問題ニ関スル英国ノ発

言ハ重ヲ為スヲ以テ日本政府ニ於テモ同国政府ト諒解ヲ遂ゲラルル方得策ナルベシト述ベタルニ付館員ヨリ帝国政府ニ於テモ愈々予備会議ニ臨ム場合ニハ英仏両国政府ト諒解ヲ遂グル必要アリト認メ居ル様思考スル旨ヲ匂ハセタルモ別ニ先方ニ於テ当方ノ希望ヲ知リタキ態度ナカリシ由ナリ終ニ「ペアン」ハ前記仏国政府ノ開会期ヲ十一月十一日迄延期シタシトノ提議ニ対スル日本政府ノ同意取付方並ニ在米日本委員ガ今少シ我慢シ呉ルル様在米日本大使ニ依頼方ヲ求メタルニ付其通リ取計フベキ旨答ヘタル由ナリ

前記日本委員ガ既ニ華府ニ到着シ居ル事情ニ関シテハ過般モ仏国側ニテ迷惑ヲ感ジ居レル口吻ヲ洩シタル事アル処当方ニテハ日本ハ土地遠隔ニテ船室ノ予約ニモ数ケ月ヲ要スル特別ノ事情アルニ付予メ専門委員ヲ派遣シタルモノナルベク而シテ右委員ハ一般通信会議ノ為メニ派遣セラレタルモノト察セラルル処其ノ華府ニ到着シ居ルノ事実ト帝国政府ガ独逸海底電線ノ討議ヲ承諾スル事トハ別問題ナルベキ旨ヲ説明シ置キタルモ米国政府ハ帝国委員派遣ノ事実ヲ吹聴シ是ヲ利用シ居ルモノト察セラル

前記仏国当局ノ談話ニ徴スルモ将又米国ガ五国会議ノ決議ヲ援用シ独逸海底電線ヲ予備会議ノ主要議事トシテ招請シ居ル行懸ニ鑑ミルモ始ヨリ同会議ノ成立ヲ阻止スルカ或ハ是ヲ延期セシムル以外ニハ予備会議ノ開カルル以上今更是ガ討議ヲ為サズ是ヲ後日ニ延バス事ハ他ノ三ケ国ニ取リテモ重大ナル理由無キ限リ六ケ敷カルベク況ンヤ仏国政府ニ於テモ他国ノ態度ニ押サレテ既ニ参加スルニ至リ帝国政府ニ於テモ夙ニ参加ヲ承諾セラレ委員迄モ派遣セラレ居ル今日今回ノ会議ニ於テ本問題ノ不討議ヲ提起スルモ成功ノ見込覚束無シト思考ス右ノ通リ本件不討議ハ望無キモノトシ貴電第六六四号第二点ニ従ヒ本使ハ最近ノ機会ニ於テ「パレオローグ」ニ会ヒ日仏両国相互支持ニ関シ仏国政府ノ意嚮ヲ質スベキ所存ナルモ英国政府ノ支持無キ限リ其ノ効果極メテ薄弱ナルベク而シテ仏国政府モ財政上其ノ他ノ援助ヲ仰ガザルベカラザル立場ニアリ又米国ガ条約ヲ批准セザル事ハ必ズシモ本件ニ干与スル事ヲ妨グルノ力無シ既ニ賠償委員会大使会議ニハ米国ガ参加シ居ル位ニ付果シテ如何ナル程度迄帝国政府ノ要求ヲ支持スベキヤ疑無キ能ハズ（脱）仏国政府ノ支持ナルモノハ極メテ頼ミ少キモノト察セラル

尚往電第一三三五号往電第一三三六号並前顕仏国政府ノ新提議ニ対スル帝国政府ノ御意向至急御回示アリタシ

三二七　八月三十一日　在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議ニ於ケル独逸海底電線分配問題ニ関シパレオローグト会談ノ件

第一三八二号　（九月一日接受）

往電第一三七八号末段ニ関シ八月三十日本使ハ「パレオローグ」ヲ往訪シ先ヅ往電第一三八三号ノ談話ヲ交ヘタル後華府予備会議モ其ノ中開催セラルル処果シテ同会議ニテ独逸海底電線ノ分配ニ付関係国間ニ話纏マル御見込ナルヤト問ヒタルニ「パ」氏ハ自分ハ仏国政府ハ米国政府ヨリノ折入ッテノ招請ニ応ジ開会期ヲ十月上旬ニ繰上グルコトヲ申出デタル以外ニハ海底電線問題ニ付何等承知シ居ラザルニ付詳細ハ係官ヨリ聞カレ度シト答ヘタルヲ以テ本使ハ実ハ細目ノ点ニ付テハ当館員ニ於テ既ニ係官ヨリ聞キ取リ居ルニ付自分ハ却テ大体問題ニ付貴見ヲ承ハリ度シト思ヒ来訪シタル次第ナリ卑見ヲ以テスレバ独逸海底電線ニ関シテハ日英仏三国政府ハ同一ノ立場ニアルモ米国政府ハ必ズシモ予備会議ヲ十一月選挙後ニ延期セシムルノ有利ナルヘキハ往電通第六号稟申ノ通リナル処八月三十日在米仏国代理大使来館内談スル処ニ依レバ十一月ニ延期セントノ仏国政府ノ申出ニ対シ米国政府ハ余リ遅キニ過クトノ意見ヲ表示シ其理由トシテ我委員ノ既ニ当地ニ来着シ居ル事実ヲ指摘シ尚英国側ニ於テモ開期ノ余リニ延引スルヲ好マザルベキ旨附言セル趣ナリ米国政府ノ真意ガ選挙以前ニ独線ノ処分ヲ決定セントスルニアルコトハ想像シ得ベク（仏国代理大使モ国務省側トノ接触ニ依リ同様ノ感想ヲ懐キ居レリ）従テ政府ニ於テモ十一月迄延期ヲ有利ト認メラルルニ於テハ至急仏国政府ノ態度ニ対シ同意ヲ表セラルルコト必要ナリト思考セラル将又米国側ノ真意前記ノ通リナルニ於テハ延期ヲ承諾スル場合ニ於テモ成ル可ク早ク開催センコトヲ主張スヘク仏国政府ノ態度次第ニテ十月中ニ開催スルコトニ落着クヤモ計ラレス其場合ニ於テモ我カ方トシテハ其ノ間ニ英仏トノ間ニ意思ノ疏通ヲ計リ蘭国政府ノ意嚮ヲモ確カムル等ノ利アルヲ以テ長期ノ方有利ナリト認ム

利害共同ナラザル様思考スルニ付テハ華府会議ニテ果シテ其ノ分配ニ付何等決定ヲ見ルニ至ラザルヤヲ虞ルル旨ヲ述ベタルモ「パ」氏ハ本問題ニ関シテハ何等承知シ居ラザルニ付何トモ回答シ難キ旨ヲ繰返シ意見ノ開陳ヲ避ケタリ依テ本使ハ本件ニ関シ不日再ビ来訪スベキニ付同氏ニ於テモ研究シ置カレタキ旨申出デ置キタリ右会談ニ先立チ本使ハ「パ」氏ノ室ヨリ米国大使ノ去ルヲ見受ケタルガ同大使モ海底電線問題ニテ来訪シタルニ非ザルヤヲ気遣ヒ而シテ之ト行違ニ本使ヨリ日仏両国ノ相互支持ヲ申入ルル方如何ト思考シタルニ付前述ノ通リ「パ」氏ニ話ヲ持チ掛ケタル次第ナルガ同氏ハ別ニ意見ヲ述ブルコトヲ避ケタルヲ以テ本使ニ於テモ今回ハ帝国政府ノ希望ニ言及スルヲ避ケ置キタリ右不取敢電報ス

在欧米各大使在蘭公使ヘ転電セリ

三二八　九月一日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議延期ニ対スル米英仏三国ノ態度ニ付報告並我方ノ態度ニ関シ稟申ノ件

通第一二号　（九月二日接受）

三二九　九月一日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議ニ関シ来訪セル仏国代理大使ニ我方ノ立場ヲ説示ノ件

通第一三号　（九月二日接受）

往電通第一二号ニ関シ仏国代理大使来談ノ際我委員ノ当地ニ滞在セル事実ハ会議延期ノ故障トナルベキヤト問ヘルニ付本使限リニテハ決シテ故障トナラザルベシト思考スル旨答ヘ置ケリ又談話中同官ハ予備会議ニ参加スル以上ハ独線問題ヲ議スルノ義務アル事トナラザルカト質問セルニ付テ我方ニ於テハ会議ニ参加スル事ニ決定シ委員ヲ派遣スルニ至ル迄ノ米国政府トノ往復ニ依レバ予備会議ニ於テ独線ヲ議スル事ヲ言明シ居ラザルノミナラズ（機密第八号附属書参照）同問題ヲ議スルヤ否ヤハ会議ニ於テ決定ス可キモノナル事ヲ明示シ居リタリ（往電第九二号参照）而シテ其後本邦委員当地来着ノ後七月末ニ至リ始メテ独線処分問題ヲ包含スル米国ノ（テンタチーヴ、プログラム）ヲ受取リタルモ之ニ対シテハ帝国政府ニ於テ何等意見ヲ表示シ居ラズ従ッテ理窟上今尚予備会議ニ於テ独線問題ヲ議スルノ義務

ヲ負ヒ居ルモノニ非ザル事ヲ説明シ関係書類ヲ一覧セシメタルニ同官ハ我解釈ノ全然正当ナルヲ認メタリ尤モ代理大使ノ口吻ニ依レバ仏国政府ニ於テハ独線問題ヲ議セザルヲ得ザルモノト思考シ居ルガ如ク其ノ理由ハ仏国側ハ独線問題ヲ包含セル（プログラム）ヲ受取リタル上ニテ不参加ノ議論ヲ為シ而テ愈々今回参加ヲ承諾スルニ至リタリト云フニアリ念ノ為メ申添フ

本電往電通第一二号ト共ニ英、仏、伊、独、蘭ヘ転電セリ

三三〇　九月一日　在英国永井臨時代理大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

予備会議延期ヲ英国政府承諾ノ件

第七六七号（至急）　（九月四日接受）

大臣宛在仏大使発第一三七八号ニ関シ

英国政府代表者ニ於テハ出発準備成リ居タル処仏国政府ニ於テ客年中本件ニ関係シタル同政府ノ吏員概ネ他ニ移リ目下其ノ衝ニ当レルモノハ記録ニ付新ニ研究スルノ要アリ到底九月十五日迄ニ準備六ケ敷十月十一日迄延期シ度キ旨申出アリ拠処ナク英国政府モ之ヲ承諾シタル為出発ヲ本月下旬迄延ハシタル趣ナリ

タル処同人ノ答ヲ綜合スレバ本海底電線ノ「インターナショナリゼーション」問題ハ或ハ米国政府ヨリ提出セラルルヤモ計ラレザルガ所謂国際管理ノ意義明確ナラズ海底線揚陸地点ノ所属ニ顧ミ如何ナル意義ニテ国際管理ヲ為シ得ルヤ考究ノ後ニアラザレバ漫ニ其議ヲ進ムル能ハズ英国側ニテハ予備会議ニ於ケル右提案ノ討議ヲ拒絶スルモノニアラザルモ意義ヲ明確ニスル事ヲ先ヅ第一ニ努ムベシ但シ対独条約ニ依ル海底線帰属ト国際管理トハ別ニシテ帰属問題ヲ先決問題トス右帰属問題ハ今回ノ予備会議即チ本会議ト異リ中立国ヲ含マザル会議ニテ結了シタク仏国政府モ同意見ナル事両三日前当地仏大使館参事官ノ来談ニ依ルモ明ニシテ仏国側ガ会議延期ヲ希望スルハ同政府ノ委員ガ出席準備ニ時日ヲ要スルガ為ナル外他ニ理由アリト認メラレズ而シテ前独逸電線英仏間分配ハ客年既ニ両国ノ間ニ諒解アリ会議ニ於テ右基礎ノ上ニ議ヲ進ムベク「フエイヤル」ヨリノ二線中ノ一ハ仏国一ハ英国ノ手ニ現ニ在リ孰レモ其儘英仏ニ保有スル考ナリ「ヤップ」ニ於ケル線ニ関シテハ苟モ「マンデート」日本ノ手ニ在ル以上日本ニ帰属スベキモノナリ但シ和蘭ノ関係ヲ考慮スベキ事勿論ナリトス以上ハ自分

米、仏、伊ヘ転電セリ（一日午後六時）

三三一　九月二日　内田外務大臣ヨリ　在仏国松井大使宛（電報）

国際通信予備会議延期ノ仏国主張ニ異存ナキ件

第六八八号

貴電第一三七八号ニ関シ予備会議ヲ十一月十一日迄延期スヘシトノ仏国政府ノ主張ニ対シテハ帝国政府トシテ何等異存ナシ

右貴電第一三七八号ト共ニ在英伊大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ尚前記貴電ハ在米大使ヘ転電アリタシ

三三二　九月三日　在英国永井臨時代理大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

海底電線ノ国際管理及帰属問題ニ関シ英国外務省米国部長ト会談ノ件

第七八二号

貴電第三八四号ニ関シ外務省米国部長ノ出発延期ノ為出勤スルヲ待チ設ケ二日先ヅ大体ノ意向ヲ探ル目的ニテ会談シ等委員ノ受ケタル訓令ニ基キ内話スル次第ナルガ会議開カルルニ及ビ如何ニ展開スルヤモ逆睹シ難ク委員トシテモ訓令遵奉ニ極限セラレズ自由裁量ノ余地アリ云々

右「ヤップ」線ニ就テハ本官ヨリ特ニ念ヲ押シタル処「マンデート」ノ件ハ自分善ク承知シ居ラサルガ日本ガ「マンデート」ヲ受クル限リ「ヤップ」線ハ日本ニ帰属（和蘭ノ利益ヲ考慮ニ入レ）スベキハ当然ナリト答ヘタリ

米、伊、仏ニ転電セリ

三三三　九月八日　埴原外務次官ヨリ　井出海軍次官宛

旧独領ヤップ島海底電線押収利用ノ地点等ニ関スル件

政二機密送第一二〇号

本件ニ関シ在本邦米国大使館ヘ回答ノ次第ハ客月二十五日附政二機密合送第四一五号ヲ以テ申進置候処今般同大使館ヨリ更ニ別紙写ノ通申越候ニ付委曲右ニテ御了悉ノ上右ニ対スル回答振ニ関スル貴省ノ御意見御回示相煩度此段申進候也

（別紙）

八月二十八日附在本邦米国大使館ヨリ日本外務省宛覚書写
旧独領ヤップ島海底電線押収利用ノ地点等問合ノ件

AIDE-MEMOIRE

With reference to the Aide-Memoire of the Imperial Japanese Department of Foreign Affairs dated August 20, 1920, in which it was stated that the Shanghai-Yap, Yap-Guam and Yap-Menado cables were cut and diverted to war purposes by the Imperial Japanese Navy, specific information is desired as to whether these cables were diverted to other landing points, and if so to what points they were diverted and the whereabouts of their present landing.

Tokyo, August 28, 1920.

三三四　九月九日　内田外務大臣ヨリ　在本邦米国臨時代理大使宛

国際通信予備会議ニ代表者派遣方招請等申越ニ対シ回答ノ件

通二送第一一〇号

以書翰致啓上候陳者国際通信会議予備会議ノ件ニ関シ七月二十九日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致敬承候帝国政府トシテハ本件予備会議ニ対シ已ニ代表委員ノ任命派遣ヲ了シ居レル次第ニ有之該会議開催ノ節ハ当該委員ヲシテ参加致サシムベク候間右様御承知相成度尚右貴翰御申越ノ本件予備会議「プログラム」ハ米国政府ヨリ仮定的ニ提案セラレタルモノニシテ該案記載ノ各事項ヲ議題トシテ採用スルヤ否ヤハ一ニ会議開催ノ上会議ニ於テ決定セラルヘキ義ト了解致候此段回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ貴下ニ向ッテ表敬意候　敬具

三三五　九月九日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

国際通信予備会議プログラム試案ニ関スル米国代理大使ヨリノ申越ニ対スル我回答ニ付通報ノ件

第三八〇号

貴電通第五号ニ関シ在本邦米国代理大使ヨリハ二十九日附ヲ以テ九月十五日予備会議ヲ開会スルコトトシ其議題トシテハ試ミニ海底線処分以下六項ヲ掲ゲタル「プログラム」案ヲ作成シタル旨ノ通牒ニ接シタルニ付右ニ対シ九月九日附ヲ以テ左ノ趣旨ノ回答ヲ発シ置キタリ

帝国政府トシテハ予備会議ニ対シ既ニ代表委員ノ任命派遣ヲ了シ居レルヲ以テ該会議開催ノ節ハ右委員ヲシテ参列セシムヘキモ貴通牒記載ノ予備会議「プログラム」ハ米国政府ヨリ仮定的ニ提案セラレタルモノニシテ該案記載ノ各種事項ヲ議題トシテ採用スルヤ否ヤハ一ニ会議開催ノ上会議ニ於テ決定スヘキモノト了解ス云々

右在英仏伊各大使ヘ転電アリタシ

三三六　九月十二日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議開催期日延期問題ニ関スル我政府ノ意向問合ノ件

通第一六号　（九月十三日接受）

貴電第三八〇号ニ関シ

予備会議ヲ九月十五日ニ開催ノ節ハ我委員ヲ参列セシムベキ旨九月九日附ヲ以テ米国代理大使ヘ回答セル趣御通報ニ接シタル処之ヨリ先仏国政府ハ期日延期ノ希望ヲ表彰シテ最初ハ十一月上旬ヲ主張シ後米国側ニ対シ十月十一日ニ譲歩シ居リ之ニ付テハ帝国政府ハ異存ナキ旨在仏大使ヘ回訓セラレ居ルコト（貴電第三七二号）ヲ承知シ居ルモ其後仏国政府ト往復ノ成行ハ一切当方ニ不明ナリ然ルニ在英代理大使発閣下宛第七六七号在仏大使発閣下宛第一三八二号等ニ依レバ開会期日ハ十月十一日頃トナルベキ形勢観測セラレ当地ニ於テモ国務省ハ新聞通信員ニ対シ先月末ニ一度十月一日開催ノ旨ヲ洩シ更ニ最近ニ至リテ十月八日ニ開会スベキ旨ヲ報ジタリ当地ニ於テハ我委員ガ米国側ト接触ヲ取ルコトハ今日迄差シタル必要モ無カリシニ付態ト差扣ヘ居リタルモ果シテ十月ニ開催ノコトトナル場合ニハ成ル可ク速カニ接触ヲ始ムル方諸般ノ情報ヲ得ル上ニモ得策ナリト思考セラルルニ付右御含ノ上延期問題ニ関スル仏国側ト往復ノ結末及十月十一日頃開催ニ関スル政府ノ御意向折返シ御回電アリタシ

三三七　九月二十一日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

旧独海底電線ヲ戦争目的ニ供用セリトノ意義ニ関シ回示ノ件

第四〇二号

貴電通第八号及通第一五号ニ関シ「ヤップ」―「グァム」及「ヤップ」―「メナド」両線ハ何レモ「ヤップ」島ニ於テ陸揚局ニ接続スル線ヲ切断シタル上末端ヲ「アース」シタルモノニシテ特ニ他ノ方面ニ転用スルコトハナカリシモ之ヲ我権力ノ下ニ置キ敵ノ通信ヲ不能ナラシメ且何時ニテモ他ノ方面ニ転用シ得ル状態ニ於テ之ヲ管理シタル点ニ於テ戦争ノ目的ニ供用シタルモノト称シ得ルノミナラズ元来「ヤップ」中心ノ三線ハ一体 one single system ト看做スベキモノナルガ故ニ上海「ヤップ」線ヲ沖縄ニ引揚ケ日本トノ通信ニ転用シタルハ即チ三線全体ヲ戦争ノ目的ニ divert シタルモノニシテ講和会議中我委員モ右三線一体ノ趣旨ヲ含ミ我主張ヲナシタルニ鑑ミ往電第三六五号ノ通リ米国大使館ヘ回答シタル次第ナルガ予備会議ニ於テ此ノ両線問題トナル場合ニ必要アラバ右ノ趣旨ニテ然ルベク説明セラレ度又「ヤップ」上海線沖縄ニ引揚ゲ使用中ノコトモ発表セラレ差支ナシ尚前記両線ニ付我方ニ於テ試験シ若クハ先方ノ試験ニ応シ又ハ先方ト通信ヲナシタル事実ハ全ク之ナキニ付含ミ置カレ度シ尚米国大使館ヨリハ其ノ後往電第三六五号回答ニ対シ「ヤップ」「メナド」及「ヤップ」「グァム」両線ニ関シ更ニ詳細ノ報道ヲ求メ来レルニ依リ回答振ニ付関係省ト協議中ナリ

在英大使ニ転電シ同大使ヲシテ仏伊独蘭ヘ転電セシメラレ度シ

三三八　九月二十三日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島海底電線ニ関スル米国大使館ノ問合事項要領電報方禀請ノ件

通第二一号　（九月二十四日接受）

貴電第四〇二号末段ニ関シ「ヤップ」―「グァム」「ヤップ」―「メナド」ニ関シ米国大使館ヨリ更ニ問合セアリタル事項ノ要領委員含ノ為至急御電報アリタシ（註）

貴電前段ニ関シテハ別ニ卑見申進スヘク今回ノ大使館問合ニシテ両線ノ切断及転用ニ関スルモノナルニ於テハ回答ヲ発セラルルニ先チ右卑見御考量ヲ煩ハシタシ

註　右ニ対シテハ九月二十五日内田外務大臣発幣原大使宛電報第四〇九号ヲ以テ、八月二十八日附在本邦米国大使館ヨリ本省宛覚書全文（三三三文書ノ別紙）ヲ回電セリ

三三九　九月二十三日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議ニ於ケル米国試案ノ討議事項ニ関シ請訓ノ件

通第二二号　（九月二十四日接受）

貴電第三八〇号ニ関シ米国ノ提議セル「プログラム」記載ノ各種事項ヲ採用スルヤ否ヤハ会議ニ於テ決定スベキモノト了解スル旨米国代理大使ヘ回答セラレ居リ従ッテ我委員ニ於テハ右ノ趣旨ヲ体シテ会議ニ臨ムベキハ勿論ナルモ追テ当地ニ於テ英仏側委員ト接触ノ結果若シ英仏両国ニ於テ独線処分問題ヲ議スルニ異議無キ意向明瞭トナリタル場合ニハ我方ニ於テモ会議ニ於テ同様ノ態度ニ出デ然カルベキヤ予メ御訓示ヲ請フ

尚独線処分問題以外ノ各項ニ付テモ他国ニ於テ異議無キニ於テハ我ニ於テ討議スルコトニ同意シ差支ヘ無シト思考スルモ念ノ為併セテ御訓示アリタシ

三四〇　九月二十四日　在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島ニ於ケル海底電線処分問題ニ関シ永井参事官英国外務省米国部長会談ノ件

第八三九号　（九月二十六日接受）

往電第七八二号ニ関シ二十三日永井ヲシテ本件主管次官補「スパーリング」（米国部長）ヲ訪ヒ「ヤップ」島ニ於ケル海底線処分問題討議ノ際帝国政府ハ英国ノ支援ヲ期待スル旨申入レシメタル処同部長ハ前回通リ委任統治権日本ニ帰属スル上ハ当然三線日本ノ有ニ帰ス可キモノナリ但シ和蘭ノ権利ヲ考慮ニ容ルルハ勿論ナリト述ベタルニ付永井ハ然ラバ日本ハ英国ノ支持ニ信頼シ得ル次第ト思考スト之ヲ確メ尚次官補カ八月十六日発刊 United States Bulletin（同人ノ説明ニ依レバ半官刊行物ナリ）論説ニ世界海底電信ハ日英ノ掌握ニ帰シ米国ハ其ノ圧迫ニ屈セリトノ趣旨記述セラルルヲ示シ米国側ニテハ会議ニ於テ何等カ問題ヲ起サントスル考ナルモノノ如シト語リタルヲ幸永井ハ日英相互支持ノ必要ヲ述ベ独逸海底線処分ニ関シ日本委員ニ於テモ英国委員ニ対シ支援ヲ与フルニ吝ナラザル可シト告ゲ尚

隔意無ク我委員ト聯絡ヲ保タン事ヲ期待スル旨添言シ置キタル趣ナリ英国委員ハ二十九日出発ス
在米仏伊各大使ヘ転電セリ

三四一　九月二十五日　在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議出席仏国委員ニ対スル同国政府ノ訓令内容報告ノ件

第一四九二号　（九月二十七日接受）

過般本使送別ノ為催サレタル晩餐ノ席上当国軍令部長Levavasseur ハ本使ノ問ニ対シ華盛頓予備会議出席仏国委員ニ対スル政府ノ訓令ハ此ノ程決定シタルガ旧独海底電線問題ニ付テハ昨年平和会議ニ於テ同国委員ガ取リタルト同一態度ニ出ヅルニアル旨ヲ告ゲタルニ依リ本月二十四日本使離任挨拶ノ為「パレオローグ」ヲ往訪シタル序ヲ以テ本件ニ言及シタル処同氏ハ前日前記訓令ニ署名シタルモ其ノ内容ヲ査閲スル暇無カリシ旨ヲ答ヘタリ依テ不取敢係官ニ就キ館員ヲシテ問合サシメタル処右訓令ノ要旨トシテ内話シタル処左ノ通リ

(一)仏国政府トシテハ会議ニ於テ自ラ進ンデ米国政府ガ対独条約ニ批准セザル事実ヲ指摘シ独逸線帰属問題ノ討議ヲ防止スルノ態度ニ出デザルモ他国委員ニ於テ本問題ヲ提起スル際ニハ夫レト無ク是ヲ支持スル事

(二)現在ノ海底電線殊ニ前独線ノ国際管理ニハ反対スル事

(三)切断後布設シ既ニ仏国政府ノ管理シ居ル前独線ハ勿論「モンローヴィア」「ペルナンブコ」線モ是ヲ仏国ニ帰属セシムル事（「モンローヴィア」「ペルナンブコ」線ニ付テハ昨年十一月頃英国政府ハ同国政府限リトシテハ是ヲ仏国ニ帰属セシムル事ニハ異議無キ旨書面ヲ以テ仏国政府ニ回答シ居ル由）

(四)其ノ他一般通信問題ニ付テハ今回ハ予備会議ノ事ニテモアリ単ニ意見交換丈ニ止メシムル事而シテ本会議ハ巴里ニ開催スル事ヲ主張スルコト尚右訓令ハ本二十五日出発ノ仏国委員ニ与ヘタルモノナル由

在欧米各大使ヘ転電セリ

三四二　九月二十五日　山梨陸軍次官ヨリ
埴原外務次官宛

国際通信予備会議附議事項試案ニ関スル陸軍省意見回示ノ件

陸軍省送達欧発第五四九号　（九月二十七日接受）

国際通信会議予備会議附議事項等ニ関スル件回答

大正九年九月二十五日

陸軍次官　山梨半造（印）

外務次官　埴原正直殿

八月四日通二機密合送第三八三号照会ノ首題ノ件ニ関シ当省意見左記ノ通リニ候条了知相成度候也

左　記

一、審議仮事項ノ第一項ハ予備会議ノ議題ト為スヘキ性質ニアラザルコトヲ主張スルヲ要ス

二、審議仮事項ノ第二項乃至第六項ノ審議ニ関シテハ異存ナシ

三、本文末文全権ヲ附与云々ニ関シテハ事ノ重大ナリト認ムルモノハ請訓セシムルヲ要ス

三四三　九月二十七日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島海底電線ニ関シ米国大使館ヘノ回答振ニ付意見稟申ノ件

通第二四号

往電通第二一号及ビ貴電第四〇九号ニ関シ貴電第四〇二号立論ハ貴電第三六五号米国ヘノ回答ノ説明トシテ先方ヲ首肯セシムルコト困難ナルベキヲ憂ヒ居リタル次第ナルガ今回米国ヨリノ問合ニ対シテハ事実其ノ儘ヲ通知セラルルコトトシ何等事実ヲ曲庇スルガ如キ感触ヲ与ヘザルコト必要ト思考ス尚貴電所載ノ三線一体論ハ今後会議ノ経過ニ依リテハ我ニ不利ナル場合起ラズトモ限ラザルニ付差当リ之ニ言及セザル方得策ト認ム

三四四　九月二十八日　内田外務大臣ヨリ
在仏国松井大使宛（電報）

旧独逸海底電線問題ニ関シ日仏相互支援ヲ約シ度旨仏国当局ニ申入方訓令ノ件

第七五五号

貴電第一三八二号ニ関シ

本大臣宛在英大使来電第七八二号及第八三九号ノ次第モアルニ依リ貴官ハ仏国当局ニ対シ独逸海底線問題ニ就テハ日英両国大体同様ノ立場ニアルヲ以テ予備会議ニ於テ相互支援ヲナス様話合居ル次第アリ日本政府ハ仏国政府トノ間ニモ同様相互支援ヲ約スルコトシ度ク仏国ニ於テ同意ノ上ハ其趣旨ニ依リ同国委員ニ訓令アリ度キ旨申入レ先方ノ応答振回電アリタシ

各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ

三四五　九月三十日　在華盛頓清河海軍大佐ヨリ
井出海軍次官宛（電報）

旧独海底電線処分問題ニ関シ報告ノ件

米道第十六番電報ノ一（註）（十月五日海軍省ヨリ外務省接受）

一、委員等ハ独線処分最後落着トシテ帝国ノ希望スル所ハ曩ニ与ヘラレタル訓令ノ別紙「ヤップ」線処分案ナリト心得居ルモ独線処分ノ主義綱領トナルヘキ一般的解決案トシテ何等カ提案ノ必要アル場合ヲ顧慮シ大体左記（甲）分割ヲ主義トスル案（乙）国際共有ヲ主義トスル案ヲ作製セリ

二、英委員ニ対スル内談並ニ一般会議ニ於テ右両案ヲ如何ニ運用スルカハ英委員ニ接触ヲ試ミタル後ニ於テ決スルコトトス

三、前記一般的解決案ハ各条項ノ明細ヲ大使ヨリ電報アルヘキモ不取敢概要報告ス

四、（甲）分割案第一案

交戦国カ交戦ノ目的ノ為ニ押収又ハ切断シ爾来自己ノ権内ニ之ヲ保有スル海底電信線ハ其交戦国ニ帰属ス

戦時中線路ノ位置ヲ変更シテ使用シタル海底電信線ハ帰属国ニ於テ其変更シタル地位ヲ維持スルコトヲ得

前項ノ電信線ニ関シ第三国ノ有スル既得権ハ帰属国ニ於テ補償ヲ与ヘテ之ヲ消滅セシムルカ又ハ之ニ対スル一定ノ条件ノ下ニ相当交付金ヲ附与スルコトヲ得（続）

註　本電報ノ二ハ外務省記録ニ存セズ

三四六　十月二日　内田外務大臣ヨリ
在英国林大使宛（電報）

ヤップ島ヲ我委任統治下ニ置カントスル主張ヲ英国ガ支持スル様了解取付方訓令ノ件

第四四〇号

往電第三四六号ニ関シ

本件カ同案ニ依リ解決ヲ見ルニ於テハ自然赤道以北ノ旧独領南洋諸島ニ関スル帝国ノ委任統治モ確定スルニ至ルヘキ処従来米国側ニ於テ「ヤップ」上海、「ヤップ」「グァム」及「ヤップ」「メナド」間海底電線帰属問題ニ関聯シ「ヤップ」島ヲ国際管理ノ下ニ置カムトノ主張ヲ為シタル事情アルニ顧ミ本件ノ解決ニ際シ英国側ニ於テ万一米国側ガ「ヤップ」島ヲ我委任統治外ニ置カムト主張スルカ如キ場合ニハ客年五月七日ノ最高会議ニ於ケル決定ノ通リ之ヲ我委任統治ノ下ニ維持スルコトニ関スル帝国ノ主張ヲ支持スルコトニ付了解ヲ得置カルル様致度シ

三四七　十月二日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

国際通信予備会議ニ於テ旧独海底電線処分問題議題トナリタル場合ニ我方ノ採ルベキ方針ニ付訓令ノ件

第四三一号

貴電通第二二号前段ニ関シ

㈠帝国政府ハ出来得ベクムバ米国ノ条約未批准ヲ理由トシテ旧独領海底電線処分問題ヲ議題トセザル様希望スルモ英仏委員ニシテ之ニ同意セザルコト明瞭ナル場合ニハ貴官ニ於テモ両国同様ノ態度ニ出デラレ差支ナシ

㈡右処分問題議題トナリタル場合米国側ヨリ国際管理ヲ提議スルコトアラバ管理問題ニ先チ帰属問題ヲ決スルノ至当ナルコトヲ主張シ「ヤップ」ヲ中心トスル三線ハ(イ)日本海軍之ヲ切断シテ戦争ノ目的ニ供シ爾後三線ヲ一体トシテ管理シ来リタルコト（千九百十九年五月二日ノ首相会議ハ独逸ヨリ聯合国ニ譲渡セラレタル海底電線ハ之ヲ切断使用シタル者ノ管理ニ委スルコトニ決定セリ）及(ロ)日本ハ赤道以北ノ旧独領諸島ノ委任統治国タル関係上右諸島ニ関聯シテ独逸ノ有シタル一切ノ権利ヲ承継スルノ至当ナルコトノ二理由ニ因リ日本ニ帰属スヘキモノナルコトヲ主張セラレ度ク尚予メ右趣旨ニ基キ英仏側委員ト内議ヲ遂ケ可成三国協調ノ態度ニ出ツル様打合セ置カレ度シ

在欧大使在蘭公使ヘ転電済

註　右㈠及㈡ノ案文ハ九月二十八日外務陸軍海軍及逓信ノ四省主任官ニ依リ協議決定セラレ九月三十日右四省ノ確認ヲ得

タルモノ也

三四八　十月二日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

国際通信予備会議討議事項ニ関シ回訓ノ件

第四三三号

貴電通第二二号後段ニ関シ独線処分問題以外ノ各項ハ討議スルコトニ同意セラレ差支ナシ

三四九　十月二日　在仏国石井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

国際予備会議ニ関シ仏国政府ニ於テ日本政府ノ提議ニ同意ノ件

第一五三〇号　（十月四日接受）

貴電第七五五号ニ関シ係官万国条約局長「ペアン」（不明）後出勤シ来リタルニ付十月一日館員ヲ同氏ノ許ニ遣ハシ貴電ノ趣旨ヲ申入レシメタル処仏国政府ニ於テモ異議ナキ模様ナリシヲ以テ念ノ為一応「ベルトロー」氏ニ相談セラレタキ旨ヲ述ベ置キ今二日更メテ「ペアン」ヲ訪ヒタルニ仏国政府ハ帝国政府ノ提議ニ同意ス従ッテ両国委員ハ前独線ノ国際管理ニ反対シ之ガ分配ニ付テハ相互ニ両国政府ノ主張ヲ支持スルコト而シテ之ガ為両国委員ハ絶エズ接触ヲ保ツベキ旨仏国委員ニ電訓スヘシト答ヘタル趣ナリ尚前独線ノ分配ニ付英仏ノ利害ハ衝突セザルヨシ在欧米各大使ヘ転電セリ

三五〇　十月四日　在仏国石井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ上海間等海底電線問題ニ関シ法律部ノ意見要旨報告ノ件

第一五三四号

賠実六七

一、「ヤップ」上海間等海底電線問題ニ関シテハ其後ノ成行報道方予テ英国賠償委員ニ依頼シ置キタル処十月一日関場ハ賠償委員会ハ往電第一二三九号（賠実五五）第四項法律部ノ意見ヲ採用シ該趣旨ニ依リ直チニ書簡ヲ在仏和蘭公使宛発送シタル旨ノ報道ニ接ス

二、右法律部意見ノ要旨左ノ通リ

和蘭政府ノ書簡特ニ其末節（往電第七三七号賠実三一参照）ノ文言ニ徴スレバ本件ハ電線分配ト直接ニ関係スルコト明白従テ分配権限者（即チ主タル聯合国）ニ依リテノミ処理セラルベキハ一点ノ疑無シ又附属書第二第二十項ハ財産若クハ権利ノ譲渡（delivery）ニ付適用セラルベキモノトシテ本件ノ如ク賠償委員会ニ非ザル主タル同盟及聯合国ノ為スベキ財産ノ分配（distribution）ニ関スル場合ニ援用スベキモノニ非ズ

去レバ本件和蘭政府ノ要求ハ賠償委員会ノ権限内ニ非ズ従テ主タル同盟及ビ聯合国トノ直接談判ニ依ラザルベカラザル趣旨ヲ和蘭政府（法律部ハ曩ニ在仏和蘭公使ヲ通ジ疑点ヲ同政府ニ提出シ置ケリ往電第七三五賠実（脱））ニ通知スルコト極メテ肝要ナリト認ム

英、米、独ヘ転電セリ

三五一　十月五日　閣議決定

旧独領海底電線処分問題ニ付日本委員ノ執ルベキ措置ニ関スル件

旧独領海底電線処分問題ニ関スル件

六　旧独逸海底電線処分問題一件　三五一　三五二

国際通信会議予備会議ニ於テ旧独領海底電線処分問題ニ関シ帝国委員ニ於テ曩ニ受ケタル訓令ニ基キ行動スルモ若シ他国ノ反対ニ因リ「ヤップ」関係ノ三線ヲ全部日本ニ帰属セシムルコト能ハサル場合ニハ時宜ニ由リ同委員ヲシテ大体左ノ方針ニ遵ヒ機宜ノ措置ヲ執ラシムルコトト致シ度

「ヤップ」「グァム」線ニ付テハ他日日米両国政府間ノ直接交渉ニ依リ両国ノ共有トスルノ程度迄譲歩シ差支ナキモ上海「ヤップ」線ハ日本ノ専有トシ支那側ノ関与ハ絶対ニ之ヲ排斥シ又「ヤップ」「メナド」線モ日本ノ専有トスルコト以上本問題ニ関スル日蘭両国間ノ関係ハ総テ両国限リニテ決定シ会議ノ関与外ニ置クコト

（欄外註記）

「大正九年十月五日閣議決定（内田外相印）」

三五二　十月六日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

国際通信予備会議ニ関スル訓令ノ別紙事項ハ確定意見ニ非ザル旨追報ノ件

第四四〇号

通二機密送第九号ヲ以テ写送付シタル国際通信会議予備会

議ニ関スル訓令ノ別紙事項ハ訓令中ニモ記載ノ通リ類似ノ提案アリタル場合ニ於ケル参考ニ供セラルベキモノニシテ政府ニ於テ確定シタル意見ニアラズト御承知アリタク尚最後ノ(ハ)「ヤップ」海底電線ニ関スル事項(註)ハ往電第四三一号ニヨリ自然削除セラレタルモノト御承知アリタシ為念申進ス

註　前掲二九九文書ノ別紙参看

三五三　十月六日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

米国側ノヤップ島国際化ノ主張等ニ関シ報告ノ件

通第二九号　（十月七日接受）

講和会議ニ於テ米国委員ガ「ヤップ」島ノ国際化ヲ主張セル行懸並最近米国側ガ主トシテ通信ノ容易及陸揚ノ自由ニ関スル問題ニ重ヲ置カントスルノ傾向アルニ鑑ミ予備会議ニ於テ米国ガ再ビ同島ノ国際化ヲ提議スル事無キヤヲ懸念シ居ル処十月四日在米仏国代理大使ノ内密ニ語ル所ニ依レバ国務省第三次官（通信会議事務主任）ハ同代理大使ニ対シ米国ハ予備会議ニ於テ「ヤップ」島ノ「インターナショナリゼーション」ヲ主張スル筈ナリト内話シ一ノ成案ヲ示セル趣ナリ該案ニ依レバ「ヤップ」ノ外「アゾーレス」其ノ他ノ電信集中点ヲ同様国際化スル事トナリ居ル由ナリ尚当地和蘭国公使館員ノ談ニ依レバ同国代理公使ノ接触シ居ル国務省係官ニ於テハ「ヤップ」島ノ「ステータス」未定ナル旨ヲ仄メカシ居ルヤノ疑アリ兎モ角モ同代理公使ニ於テハ「ヤップ」ガ当然日本ノ委任統治ニ帰スベキモノト信ジ居ラズ蘭国側ヨリハ二ケ月位前ニ米国政府ニ対シ太平洋海底電信線ニ対スル其ノ主張ヲ申入レ居ルモノノ如ク其ノ内容ハ是ヲ探知スル事ヲ得ザルモ公使館側ノ累次ノ談話ヲ綜合スレバ蘭国政府ハ単ニ独蘭電信会社株主ノ利益ヲ擁護セントスルノミナラズ政治上ノ理由ヨリ該海底電線ニ対シ重大ナル利害ヲ感ズル旨ヲ申シ入レ居ルモノノ如シ

在仏大使発大臣宛第一五三〇号末段ノ電訓ハ在米仏国代理大使ノ手許ニ到着シ居レリ

三五四　十月六日　埴原外務次官ヨリ　山梨陸軍井出海軍秦通信各次官宛

国際通信会議討議事項ニ関スル訓令ニ付通報ノ件

通二機密合送第四九三号

国際通信会議ニ関スル件

本件ニ関シ今般在米幣原大使ヨリ国際通信会議ニ関スル独線処分問題以外ノ各項ノ討議方ニ就キ他国ニ於テ異議ナキニ於テハ我方ニ於テモ右ニ同意シ差支ナキヤ電稟越ノ次第有之候ニ付右差支ナキ旨訓電相成候条此段為念申進候也

三五五　十月七日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独海底線処分問題等ニ関シ英国首席委員トノ会談要旨報告ノ件

通第三〇号　（十月八日接受）

十月六日英国首席委員「ブラウン」ト会見談話ノ要点左ノ如シ

一、予備会議ニ於ケル独線処分問題ヲ議題トスルヤ否ヤノ点ニ付先ヅ我方ト米国側トノ往復ノ次第ヲ説明シ我委員ニ於テハ同問題ノ討議ヲ予見セズシテ本邦ヲ出発セル事情ナルニ付テハ本使等ニ於テモ今日迄未ダ本国政府ノ的確ナル訓令ニ接シ居ラザル旨ヲ述ベタル処「ブラウン」ハ英国委員ハ予備会議ニ於テ同問題ヲ議スルノ用意アルノミナラズ英国政府ハ予備会議ニ於テ本件ヲ議スルコトニ重ヲ置キテ参加ヲ承諾シタル次第ナリト答ヘタリ依テ本使ハ米国ガ未ダ平和条約ヲ批准セザルニ不拘旧独線ノ分配ニ与カランコトヲ主張スト仮定センニ米国ニ帰属スベキ電線ノ価格ニシテ独逸ノ貸方ニ計上スベキモノハ如何ニ処理スルコトトナル次第ナリヤト質問セルニ「ブラウン」ハ米国ガ独逸ヨリ要求スベキ賠償ハ無之コトト了解シ居リ従テ米国ニ帰属スベキ電線アラバ其価格ハ現金ニテ賠償委員会ニ仕払フコトトナル可キニ付支障ナシト思考スル旨ヲ答ヘタリ

二、独線処分ニ付「ブラウン」ハ次ノ如ク云ヘリ

英国ハ大西洋ヲ横断セル二線中現ニ Penzance ヨリ「ハリファックス」ニ転設セル線ヲ要求スベク該線ハ両端トモ英国領土ニ陸揚ゲセラレ居ルヲ以テ困難ナカルベシト思料スルモ仏国ノ手ニ在ル「ブレスト」紐育線ハ一端ガ米国ニ陸揚ゲセラレ居ル関係上将来ノ運用ニ付同国ト協定ヲ要スル次第ナリ英国政府トシテハ該線ヲ「ブレスト」ニ転設セル際仏国トノ間ニ成立セル了解ノ趣旨ニ従テ仏国ノ要求ヲ支持スベク又仏国ニ於テ米国トノ協定ヲ要スル関係上新タ

ナル提案ヲナス場合同ジク之ヲ支持スル積ナリ「モンローヴィア」「ペルナンブコ」線ハ仏国之ヲ要求スベシ但シ将来同線ノ復活運用ニ付テハ「ブラジル」及ビ「リベリヤ」ト協定ヲ要スル次第ナリト言ヘリ

三、太平洋ノ電線ニ付「ブラウン」ハ本使ノ問ニ対シ英国ハ太平洋ニ於テ何等ノ要求ヲナス意思無キハ勿論適当ナル解決案ニ付日本ヲ支持スル積ナリト明言セリ

四、「ヤップ」線ニ対シ蘭国ノ有スル希望ニ付「ブラウン」ハ蘭国ハ「ヤップ」「メナド」線ヲ要求シ該線ヲ使用シテ新タニ「メナド」「グァム」各直通線ヲ布設スル積ナルガ如シト言ヘリ右ハ「ブラウン」ガ倫敦ニ於テ独蘭会社ノ Le Roy ヨリ聞キ込ミタルモノナリ

五、陸揚権ノ問題ニ付本使ヨリ米国側ニ於テハ今回ノ会議ニ於テ陸揚自由ノ原則ヲ提議スルヤニ思考セラルルガ之ニ関スル意見如何ト問ヒタルニ対シ「ブラウン」ハ英国トシテハ将来ニ関スル陸揚ノ自由ニハ強ヒテ異存ナク通信ノ輻輳スル場所ニハ随意ニ新線ヲ布設セシメ各線ヲシテ自由ニ競争ヲナサシメ差支ナシト思考スル旨ヲ答ヘタリ尤モ「ブラジル」国ノ一港ニ於テ一九三三年迄英国ノ有スル独占権ノ如キハ過去ニ於ケル多額ノ投資ニ対シ漸ク最近功績ヲ挙グルニ至レル電信線ニ関スルモノナルヲ以テ之ヲ放棄スルコトヲ得ズト言ヒ尚陸揚自由ト言フモ全然無関係ニハ非ズシテ料金其他ニ付一定ノ条件ヲ附スルハ勿論外国会社ニ対シテハ陸揚ヲ許スモ外国政府ニ対シテハ之ヲ許サズト云フガ如キ条件ヲ附スルコトモアリ得ベシト云ヘリ

右ニ対シ本使ハ日本ニ於テハ現行ノ法規ニ鑑ミ自由ニ陸揚ヲ許スコトハ困難ナルベシト述ベ置ケリ

六、英国委員ハ米国政府ノ提議セル「プログラム」各項ヲ議スルニ異議無ク電信条約ト無線電信条約トヲ併合スル件ニ付テハ一案ヲ用意シ居リ之ヲ予備会議ニ提出スル積ナリト云ヘリ

七、英国ハ今回ノ会議ニテ討議スル事項ハ総ベテ平時ニ於ケル取扱ニ関スルモノトシ戦時ニ交戦国ノ有スル権利ニハ触レシメザル積ナリ

八、本会議開催地ヲ巴里トスルコトニハ英国ハ賛成ナリ

右各大使及ビ和蘭公使ヘ転電セリ

三五六　十月七日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独海底電線処分問題ニ関シ仏国首席委員トノ会談要旨報告ノ件

通第三一号　（十月十日接受）

十月七日仏国首席委員「ラネル」ト会談要点左ノ通リ

一、「ラネル」ハ本使ノ問ニ対シ仏国委員ハ独線処分問題ヲ議スル積リニテ渡来セリ強ヒテ是ガ討議ニ反対セントセバ米国ノ条約未批准ヲ理由トスルノ外無キモ今日トナリテ果タシテ斯ノ如キ事ヲ申出得ベキヤトテ同問題ノ討議ハ已ムヲ得ザル所ナルベシトノ意ヲ示セリ

二、仏国ハ「ブレスト」紐育線「ブレスト」ヨリ「カサブランカ」及「ダカール」ニ至ル線並「ペルナンブコ」「モンローヴィア」線ノ三線ヲ要求スベク是ニ付日本ノ支持ヲ希望スル旨申出デタルニ付本使ハ英国トノ間ニハ話合付キ居ル次第ナリヤト質問セルニ「ラネル」ハ然リト答ヘタリ依テ本使ハ英国トノ間ニ話合付キ居ル上ハ我方ニ於テハ勿論仏国ノ要求ヲ支持スベキ旨ヲ答ヘ進ンデ日本ハ「ヤップ」ヲ中心トスル三線ヲ要求スル積リニ付仏国ノ支持ヲ期待シ居ル旨ヲ述ベテ先方ノ同意ヲ取リ附ケ置キタリ

三、本使ヨリ米国ハ陸揚自由ノ問題ヲ提議スルヤモ計ラレザル旨注意シタル処「ラネル」ハ斯ノ如キ問題ニ付テハ詳細ノ提案ヲ知悉シタル上ニアラザレバ意見ヲ決定シ難キ旨ヲ述ベ尚領図内ニ於ケル外国会社ノ営業ニ関シテハ仏国法規上国内ニ於ケル一切ノ通信事務ヲ政府ニ於テ管掌スル事ト為リ居ルヲ以テ外国会社ヲシテ仏国領図内ニ於テ直接電信ノ受附配達ヲ為サシムル事ヲ得ズト云ヘリ

四、仏国ハ米国ノ提議ニ係ル「プログラム」ノ各項ヲ議スルニ異議無シ

五、「ラネル」ハ総会議開催地ヲ巴里トスル事ニ付賛成ヲ求メタルニ付本使ハ異議無カルベキ旨答ヘ置ケリ

三五七　十月七日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議開会議長及副議長ヲ選定ノ件

別電一　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報

通第三三号

五分科会ノ組織

二　同右電報通第三四号
各国委員名
（十月十一日接受）

通第三二号

本日午後三時国務省ニ於テ予備会議開会国務次官「デヴィス」氏ノ挨拶ニ次デ四国側各国首席委員ノ挨拶アリ議長ニハ本使ノ発議ニテ「デヴィス」氏ヲ副議長ニハ英国委員長ノ発議ニテ仏国委員長「ラネル」氏ヲ選定シ別電第三三号五分科会ヲ組織スルコトニ決定セリ尚会議ハ公開セズ尚新聞公表ニ関シテハ各国代表者ヨリ成ル特別委員会ヲ組織スル筈

各国委員別電第三四号ノ通リ

（別　電一）

十月七日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第三二号
五分科会ノ組織

通第三三号

1. Disposition of seized German cables.
2. Radio Protocol.
3. Universal Communication Union:
   a. Telegraph Convention.
   b. Radio Telegraph Convention.
4. a. International Cable and Radio Law.
   b. Cable Landing Rights.
5. Improvement of communication facilities between the five Great Powers.

Shidehara

（別　電二）

十月七日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第三四号
各国委員名

通第三四号

仏国　Lanel, Minister Plenipotentiary.
　　外　五名
英国　F. J. Brown, Assistant Secretary of General Post Office.
　　Sperling of Foreign Office.
　　外　八名
伊国　Baron Abezza, Italian Ambassador.
　　外　四名
米国　Burleson.
　　Davis.
　　Admiral Benson.

Rogers.

Shidehara

三五八　十月八日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

太平洋海底電線及ヤップ島委任統治問題ニ関シデヴィスト激論ノ件

別　電　十月九日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第三七号
太平洋海底電線及ヤップ島委任統治問題ニ関スルデヴィストノ会談要領
（十月十一日接受）

通第三六号

過日来国務次官「デヴィス」ト会合スル毎ニ同官ハ予備会議開催ニ先ダチ太平洋電信問題ニ付本使ト熟談ヲ遂ゲ置キタシトノ希望ヲ表シ居リタル処今八日正午ニ会合シ度旨申出アリタルニ依リ国務省ニ同官ヲ訪ヒ海底電信問題及ビ「ヤップ」島委任統治問題ニ関シ激論二時間ニ亘レリ応答ノ要領左ノ通リ以下別電
右英仏独伊及和蘭ヘ転電セリ

（別　電）

十月九日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第三七号

太平洋海底電線及ヤップ島委任統治問題ニ関スルデヴィストノ会談要領
（十月十一日接受）

通第三七号　別電

「デヴィス」、太平洋電信線ノ処分ハ極メテ困難ナル問題ナリ然レドモ日米両国ニ於テ一意世界ノ通信ヲ容易ニスルコトヲ以テ念トセバ右ノ困難ハ恐ラクハ之ヲ排除スルヲ得ベシ米国今回ノ会議ニ臨ムヤ世界通交ノ便益ヲ増進セントスルノ外何等他意アルナシ日本ニ於テモ全ク同様ナラント推察ス

本使、全ク同感ナリ

「デ」、戦前「グァム」島ヨリ「ヤップ」島ヲ経テ上海ニ到ル線アリタリ之ヲ復旧スルコトハ世界通信ノ便益増進ニ資スル所大ナリ

本使、日本ハ「ヤップ」上海線ヲ切断シテ之ヲ那覇ニ陸揚セルハ御承知ノ通リナリ此ノ状態ハ之ヲ変更スルヲ得ズ

「デ」、其ノ理由如何米国ト支那トヲ連結セントセバ上海ニ接続スルコト便宜ナラズヤ

本使、日本ハ「ヤップ」島ノ統治ヲ委任セラレ従ッテ日本ト同島トヲ連結スルハ極メテ重要ノコトナリ

「デ」、「ヤップ」島ガ日本ノ委任統治ノ下ニ在リト云ハルルモ此ノ点ハ巴里会議ニ於テ決定セルコトナシ

本使、貴官ニ於テ斯クノ如キ考ヲ有セラルルニ於テハ本使ハ貴官ト何等討議ヲ為スヲ得ズ赤道以北ノ南洋諸島ノ統治ハ最高会議ノ決定ニ依リテ日本ニ委任セラレタリ

「デ」、其ハ誤解ナリ大統領ハ上院外交委員会ニ対シ「ヤップ」ノ処分ハ該決定（脱？）ノ旨ヲ述ベ居レリ右ニ対シテハ貴方ヨリ何等抗議セラレタル事ナキニ非ズヤ

本使、大統領ガ上院ニ与ヘタル説明ニ対シ抗議セザル事ハ日本ガ大統領ノ説明ニ同意ヲ表スルモノト解シ得可キモノニ非ズ我方ニ於テ抗議セザルハ大統領ニ迷惑ヲ懸ケザラン事ヲ欲シタルガ故ナリ若シ之ヲ以テ同意シタルモノト看做サルル御考ナラバ余ハ茲ニ同意シタルモノニ非ザル事ヲ明言ス可シ

「デ」、大統領ハ明カニ留保ヲナシ居レリ

本使、大統領及「ランシング」ハ講和会議中島ノ「ステータス」ニ付意見ヲ述ベタル事アルモ其都度牧野全権ニ於テ強硬ニ反対シタリ而シテ最後決定ノ際ニハ大統領ハ何等留保セラレタル事無シ決定ノ写ハ我方ニ於テ講和会議事務局ヨリ入手シアリ

「デ」、事務局ハ通知ヲナス権限ナシ

本使、事務局ガ通知ヲナスノ権利有無ノ問題ハ最高会議決定ノ効力ニハ関係ナシ

「デ」、議事録ニハ明カニ留保シアリ

本使、留保アラバ一覧シタシ

「デ」、取調ブ可シ

「デ」、戦前ニハ「グァム」ヨリ「ヤップ」ヲ経テ支那ニ通ズル線路アリタルニ戦争ノ結果支那ト直通スルヲ得ザル事トナルハ正義ノ念ニ反セズヤ

本使、日本ハ「ヤップ」日本線ヲ延長シテ支那ト聯結スル積ナリ

「デ」、打開ケテ云ヘバ米国ハ外国ノ「コントロール」無シニ「グァム」ヨリ上海ニ通ズル線ヲ欲スルモノナリ

本使、戦前ニハ独乙ノ「コントロール」ヲ経テ上海ト通ジタルニ外ナラザルニ非ズヤ独乙ノ「コントロール」ノ下ヲ通過スル事ハ差支無キモ日本ノ「コントロール」ノ下ヲ通過スルハ不可ナリトハ如何ナル次第ナリヤ若シ強ヒテ外国ノ「コントロール」ヲ避ケント欲セラルルニ於テハ別ニ「グァム」上海ノ直通線ヲ沈設セラレテハ如何

「デ」、其ハ当方ノ勝手ニテ貴方ノ関セラルル所ニ非ズ兎モ角旧独線ニ対シテハ米国モ権利ヲ有ス貴大使ハ戦勝ニ対スル米国ノ貢献ヲ認識セラレザルヤ戦勝ニハ米国ノ努力与ッテ力アリ旧独線ハ戦勝ニ依リテ獲得セルモノナリ

本使、米国ノ戦争ニ対スル貢献ハ天下周知ノ事実ナリ然レドモ之ガ為メニ米国ガ旧独線ニ対シテ権利ヲ有スルト云フハ如何ナル理由ニ基クヤ

「デ」、米国ハ大ナル貢献ヲナセルニ拘ラズ何等要求ヲナシ居ラズ米国ノ公平無私ノ立場ハ之ヲ諒トセラレタシ

本使、巴里講和会議ニ於テハ何等要求ヲナサズ今日ニ至リ新ニ要求ヲ提出セラルル次第ナリヤ

「デ」、米国ニ於テハ輿論ヲ無視スル事ヲ得ズ

本使、日本ハ尚更然リ何トナレバ日本ハ一旦自己ノ手中ニアル物ヲ抛棄スル事トナレバナリ

「デ」、米国ハ「ヤップ」ヲ自己ノ手ニ収メントスルモノニ非ズ特定ノ一国ニ委スルヲ欲セザルナリ

本使、「ヤップ」ヲ米国モ取ラズ日本ニモ委ネズト云フハ国際管理ニ附ストノ意ナラン国際管理ノ意義如何

「デ」、特定ノ一国ニ「コントロール」セシメザルナリ

本使、委任統治ニ付テハ条約中ニ規定アリ日本ハ自己ノ領土ノ一部トシテ「ヤップ」ヲ統治ス可キモノナリ然ルニ之ヲ国際管理ニ附スト云フハ条約ヲ修正スル事トナル可シ米国ハ未ダ条約ヲ批准セザルモ日本及欧洲列強ニトリテハ条約ハ最早最終的効力ヲ有ス

「デ」、条約ハ変更シ得ベシ

本使、変更迄ハ現在ノモノガ最終的ノモノナリ

「デ」、委任統治ハ均等待遇主義ヲ包含スルモノニ非ザルカ

本使、日本ハ均等待遇主義ニ基クモノト了解シ居リタリ然ルニ後ニ至リ之ニ関シ意見ノ相違アルコトヲ発見セリ之則チ委任統治案ノ様式ノ未ダ成立セザル所以ナリ

「デ」、米国ハ「ヤップ」問題ニ付テハ最後迄争ハザル可カラズ日本ハ米国ニ対シ好意ヲ表セラレンコトヲ希望ス

本使、我方ヨリモ米国カ一層ノ好意ヲ表サレンコトヲ希望セザルヲ得ズ

英仏独伊及和蘭ヘ転電セリ　（九日）

三五九　十月九日　日本外務省ヨリ
在本邦米国大使館宛

旧独領ヤップ島海底電線ニ関スル問合ニ対シ回答ノ件

上海―「ヤップ」「ヤップ」―「グァム」及「ヤップ」―「メナド」間ノ海底電線ニ関スル千九百二十年八月二十八日附米国大使館覚書ニ関シ帝国海軍ハ是等諸線ヲ切断シタル上上海―「ヤップ」線ハ其ノ一端ヲ沖縄島ニ陸揚シ爾後「ヤップ」日本間ノ通信ニ使用シ又「ヤップ」―「グァム」及「ヤップ」―「メナド」線ハ之ヲ其ノ権力下ニ置キ敵ノ通信ヲ不能ナラシメ且何時ニテモ他ノ方面ニ転用シ得ル状態ニ於テ管理シ以テ戦争ノ目的ニ供シタルモノナリ

大正九年十月九日　於東京

（右英訳文）

Referring to the memorandum of the United States Embassy dated the 28th August, 1920, relative to the Shanghai-Yap, Yap-Guam and Yap-Menado cables, it may be stated that the Japanese Navy, having cut all these cables, landed one end of the Shanghai-Yap cable at Okinawa Island, and has since then employed it for purposes of communication between Japan and Yap. As to the Yap-Guam and the Yap-Menado cables, the Japanese Navy devoted them to war purposes by assuming control of them with the object of preventing their use by the enemy and maintaining them in such a state as would make them available for service in any required direction.

Tokyo, October 9th, 1920.

三六〇　十月十日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島委任統治問題及蘭国側提案ノ太平洋海底電線解決策ニ付英国首席委員ト会談ノ件

通第四〇号　（十月十一日接受）

「ヤップ」島ニ対スル米国ノ意向往電通第三六号ノ通リナルニ付テハ英国首席委員「ブラウン」ヲシテ十分事態ヲ了解セシメ置クノ必要ヲ認メ十月九日同氏ト会合シ委任統治

国ニ関スル最高会議ノ決定ニ付篤ト説明ヲ与ヘタル処我方ニ於テ「ヤップ」ヲ日本ノ委任統治ニ帰スルモノト認ムル論拠ハ十分諒トシタルモ「ブラウン」ハ本件ハ全然政治問題ニシテ自分ノ関係シ得ベキモノニ非ズ従テ斯ノ如キ問題ニ付紛糾ノ生ゼザランコトヲ切望スル旨ヲ述ベ客年五月七日最高会議決定ノ写ヲ貰ヒ受ケ得ベキヤト云ヘルニ付送附シ置ケリ

其ノ際「ブラウン」ハ太平洋電信線ニ関スル蘭国ノ希望ニ付語リテ曰ク独蘭電信会社ノ Le Roy 本年初倫敦ニ赴キテ「グレート、イースタン、アッソシエーション」社長ト会合シ四月四日付ヲ以テ同社長一案ヲ送附セルガ該案ハ㈠「ヤップ」―「メナド」線ヲ利用シテ「メナド」―「グァム」ノ直通線ヲ設ケ㈡上海線ノ海中ニ残存セル部分ヲ利用シテ「グァム」―上海ノ直通線ヲ設ケ㈢「ヤップ」―「グァム」線及ビ「ヤップ」―日本線ニ付テハ五国会議ノ決定ニ任スト云フニ在リテ「イースタン」社長ハ該案ニ対シ好意ヲ表シ居リ然シテ該案ハ蘭国政府ノ承認ヲ経タルモノト信ゼラルルモ英国政府トシテ本件ガ日本ニ関係アルニ顧ミ何等「コンミット」シ居ラズ然レ共「ヤップ」三線ノ処分ニ付テハ大体ニ於テ右蘭国ノ提案ハ解決案ノ基礎トシテ採用スルコト公平ナルヤニ思考スト尚「ブラウン」ハ進ンデ「ヤップ」日本線ハ日本ノ所有トシ「ヤップ」「グァム」線ハ日米両国ノ共有トシ「ヤップ」ノ端ハ日本ニ於テ運用シ「グァム」ノ端ハ米国ニ於テ運用スルコトセラレテハ如何若シ日本ニ於テ之ニ同意ナラバ米国側ヲ説得スル為メニハ尽力ヲ吝マザルベシト述ベ右ニ対シテ本使ノ意見ヲ問ヒタルニ依リ本使ハ「ヤップ」三線ヲ要求スベシトノ訓令ヲ受ケ居ル次第ニテ蘭国ノ有スル利権ニ付テハ日本ニ於テ同国ト協定シ「ヤップ」「グァム」線ノ将来ノ運用ニ付テハ米国ト協定スル積ナリト述ベタルニ「ブラウン」ハ蘭国及ビ米国トノ関係ハ今回ノ会議ニ於テ決定スルコトヲ要スベク之ガ解決ヲ後日ニ延スコトハ恐ラクハ行ハレ得ザル可シト云ヒ更ニ独線処分ノ問題ハ極メテ難件ニシテ各国ニ於テ多少妥協ノ誠意ヲ示スニ非ザレバ解決ノ望無カルベシト述ベタリ右ノ談話ヨリ推察スレバ往電通第三〇号中太平洋電線ニ付「ブラウン」ガ適当ナル解決案（suitable solution）ニ付日本ヲ支持スル積ナリト云ヘルハ右蘭国ノ提案ヲ基礎トスル解決案ヲ指セルモノノ如シ

終リニ「ブラウン」ハ前記蘭国案ハ四月四日附 Le Roy ノ書面ニ記載セラレタルモノニシテ其後何等変更アリヤ否ヤ承知セザル旨附言セリ

英、仏、伊、独、蘭へ転電セリ

三六一　十月十一日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独海底電線処分問題ニ関シ英仏両国各委員トノ接触ニヨリ得タル感想報告ノ件

通第四一号　（十月十三日接受）

貴電第三三一号及第四四〇号御訓令ハ我ニ於テ「ヤップ」三線ニ関スル独逸ノ権利ヲ要求スルノ御趣旨ナルヲ以テ何レノ場合ニ於テモ我方トシテハ先ヅ独線ノ帰属ヲ決定シ然ル後ニ諸国ニ帰属セル電線ノ運用方法ヲ議セン事ヲ提議スル事適当ナル可シト認メラルル処英国委員ノ意嚮ハ往電通第四〇号ニテ御承知ノ通リナルニ付旁々我方ト比較的立場ヲ同ジウセリト認メラルル仏国側ト打合ヲナシ置クノ必要ヲ感ジ十月十日仏国委員「ラネル」ノ意見ヲ尋ネタル処同委員ハ客年五月三日決定ノ趣旨ハ電線ノ分配ヲ予見シ居ラズ単ニ電線ノ将来ノ「ステータス」ヲ決定スト云フニアリ而シテ現ニ各国ノ運用シ居ル電線ノ将来ノ運用方法ヲ議スル事モ「ステータス」ノ問題ナル可ク又各国ニ均等ノ待遇ヲ与フト云フガ如キモ亦「ステータス」ニ関スル問題ナリ要スルニ旧独線中諸国ニ於テ現ニ運用シ居ルモノハ大体ニ於テ現運用者ヲシテ引続キ之ヲ運用セシムル事ガ最モ有効ナル利用方法ニシテ通信上ノ便益ヲ増進スルノ趣旨ニ合スト思考スト云ヘリ

該談話中「ステータス」ノ意義ニ付テハ首肯シ難キ所アリト雖モ要スルニ右ニ依リ仏国ノ要求セントスル三線ノ中二線ハ現ニ運用シ居ルノ理由ニ依リ又「ペルナンブコ」―「モンローヴィア」線ハ現ニ仏国ガ有スル伯剌西爾「セネガル」間ノ電線ノ複線トシテ使用スルヲ以テ最モ有効ナル利用方法ナリトノ趣旨ニテ之ヲ要求スルニ非ザルカト推測セラル

尚「ラネル」ハ談話中「ヤップ」那覇線ハ当然日本ニ於テ要求シ得ベキモ「ヤップ」―「メナド」及「ヤップ」「グァム」両線ハ日本ニ於テ単ニ切断シタル儘運用シ居ラザル而已ナラズ米蘭トノ関係アルヲ以テ種々面倒ナル問題ヲ生ズベシトノ意ヲ泄セリ右ノ次第ナルヲ以テ英仏両国トノ間ニ相互支援ノ諒解アリトスルモ之ガ為メ直ニ「ヤップ」三線ノ権利全部ヲ我ガ方ニ収ムルコトハ全然両国ノ支援ヲ期待シ得ベシト判断スルハ早計ナルヤモ知レズ右ニ拘ハラズ委員等ガ我ガ主張ノ貫徹ニ十分努力スベキハ勿論ナルモ開会ニ至ル迄当地ニ於ケル英仏代表者トノ接触ニ依リ得タル感想不取敢電報ス

英仏独伊へ転電セリ

三六二　十月十二日　山梨陸軍次官ヨリ　埴原外務次官宛

国際通信会議予備会議ニ関シ回答ノ件

陸軍省送達欧発第五八七号　（十月十三日接受）

国際通信会議予備会議ニ関スル件回答

大正九年十月十二日　陸軍次官　山梨半造（印）

外務次官　埴原正直殿

六日通二機密合送第四九二号照会首題ノ件ニ関スル意見左記ノ通リニ候也

左　記

一、佐世保、青島線ニ関シ説明スルコトハ成ルヘク避クルヲ可トス

二、該線ノ説明ヲ要スル場合ニ於テ其存在ハ言明差支ヘナキモ主トシテ軍用通信ヲ取扱ヒアル旨説明スルニ止ムルヲ要ス

三六三　十月十二日　閣議決定

旧独蘭電信会社所属海底電信線ニ関シ蘭国政府ト交渉方ノ件

独逸国ハ対独平和条約ノ規定ニ依リ主タル同盟及聯合国ノ為ニ旧独蘭電信会社所属ノ「ヤップ」上海間、「ヤップ」「グァム」間及「ヤップ」「メナド」間海底電信線ニ関スル各種ノ権利権原及特権ヲ総テ抛棄シタルガ右電信線ガ何レノ国ニ帰属スヘキヤニ就テハ未ダ五大国間ニ決定ヲ見ルニ至ラズ帝国政府ハ日独戦争中我海軍ニ於テ右電信線ヲ切断シ戦争ノ目的ニ転用シタル事実ニ基キ講和会議ニ際シ将来之ヲ帝国ニ帰属セシムルノ至当ナルコトヲ主張シ又今後五大国間ニ於テ本問題ヲ協議スル場合ニハ右ノ主張ヲ維持シ其貫徹ヲ計ルヘキコトニ鄭ニ閣議決定アリタル処右電信線ハ元ト独蘭両国人合弁会社ノ所属ニ係リ蘭国政府亦之ニ

対シ利益ヲ有スルノ関係ニ鑑ミ且又帝国ガ本電信線ニ付重キヲ置クハ電線自体ヨリモ寧ロ其通信権ニ在ルノ事情ニ顧ミ帝国政府ハ此際蘭国政府トノ間ニ左ノ趣旨ニ依リ商議ヲ開始スルヲ得策トス

第一、独逸国ハ対独平和条約ノ結果前記海底電信線ニ関スル一切ノ権利ヲ主タル同盟及聯合国ノ為ニ抛棄シタルガ右独逸ノ権利ハ左ノ理由ニ依リ帝国ニ帰属スヘキモノナルコト

㈠日独戦争中帝国海軍ハ右電信線ヲ切断シ之ヲ戦争ノ目的ニ転用シタルガ千九百十九年五月二日ノ主要聯合国首相会議ニ於テ独逸ヨリ聯合国ニ譲渡セラルヘキ海底電信線ハ追テ其帰属問題決定スル迄之ヲ切断使用シタル国ノ管理ニ委スルコトニ決定セラレタルヲ以テ帝国政府ハ「ヤップ」ヲ中心トスル本件三線ヲ一体不可分ノモノトシテ爾来引続キ管理シ来レルコト

㈡帝国ハ対独平和条約ノ結果「ヤップ」島其他赤道以北旧独領諸島ノ委任統治ヲ行フコトトナリタルニ依リ独逸ガ戦前右地方ニ於ケル本件電信線ニ対シ有シタル権利ヲ帝国ニ於テ承継スルハ極テ至当ナルコト

第二、右海底電信線ニ関シ戦前蘭国ニ於テ有シタル利益ハ帝国政府ニ於テ之ヲ尊重スヘキコト

第三、帝国政府ハ日蘭両国ノ友好親善ナル関係ヲ顧念シ且右電信線ニ関スル日蘭共通ノ利益ハ将来益々之ヲ増進センコトヲ希望スルガ故ニ日蘭両国間ニ於テ大体戦前ニ於ケル独蘭間ノ関係ニ準シ新ニ協定ヲ遂ゲンコトヲ欲スルモノナルコト

第四、前項ノ趣旨ニ顧ミ差向キ「ヤップ」「メナド」間ノ通信ヲ成ルヘク速ニ開始センガ為日蘭間ニ適当ナル具体的方法ヲ協定スルコト

（欄外註記）

「大正九年十月十二日閣議決定（内田外相印）」

備考　（閣議ニ於ケル大臣説明用）

独蘭電信会社ニ対スル独蘭両国ノ関係ハ一九〇一年七月二十四日ノ約定ニ基クモノニシテ其ノ骨子ハ

一、会社ハ独蘭両国民ノ共同出資ニ依リテ成立セルコト

二、会社ハ両国政府ノ特許ニ基キテ成立シ四十年間独蘭領諸島ト上海及「グァム」トノ間ノ海底電線沈設陸揚並経営ノ独占的特権ヲ賦与セラレタルコト（両国政府ハ必要

ノ場合ニ於ケル会社機械使用権ヲ保留ス）

三、重役選任ノ認可、定款ノ変更、料金ノ決定其他会社ノ重要行為ノ認可等ニ付両国政府ニ於テ重大ナル指揮監督権ヲ有スルコト

四、両国政府ハ通信開始ノ時ヨリ二十年間毎年百四十万馬克以内ノ補助金ヲ会社ニ賦与スルコト（内百二万五千馬克即四分ノ三ハ独逸ノ負担トシ残リ三十七万五千馬克ハ和蘭ノ負担トス）

等ニ在リ叙上ノ独蘭関係ニ準シ日蘭間ニ新ナル協定ヲ試ミントスルハ一見寛大ニ過グルヤノ嫌ナキニアラザルモ此際蘭国政府ヲシテ我提議ニ応ゼシメ円満ニ商議ヲ纏ムルカ為ニハ右ハ必要已ムヲ得ザル措置ナルベク而シテ右商議ノ方針トシテハ大体左記ニ依ルヲ得策トス

一、閣議案第四ニ依ル「ヤップ」―「メナド」間通信ノ開始カ海底線帰属問題ノ確定前ナル場合ニ於テハ其ノ運用ハ帰属問題ノ確定スル迄日蘭両国政府ニ於テ之ヲ為スコトトシ「ヤップ」側ハ帝国政府、「メナド」側ハ蘭国政府ノ手ニ於テ之ヲ為スコト

一、帰属問題確定シタル場合ノ経営方針ニ関シテハ追テ決定スルコト

三六四　十月十二日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

無線分科会議ハ十二個条ニ付主義ノミ確定ノコトニ決定ノ件

別電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第四四号

右十二個条

（十月十三日接受）

通第四三号

十一日無線分科会議ニ於テ「プロトコール」ノ審査ヲナス筈ナリシガ仏国ノ動議ニ依リ逐条審議ヲ廃シ別電十二個条ニ付五大国ノ意見ヲ徴シ主義ノミヲ確定スル事ニ決定セリ

（別電）

十月十二日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第四四号

無線分科会議ニ於テ決定ノ十二個条

通第四四号

（1）Classification of services and of radio sending stations.

（2）Distribution of wave lengths.

（3）Conditions to be fulfilled by mobile stations, (listening waves, spacing waves, ranges etc.), the establishment of a standard of radiation.

（4）The use of the 600 meter wave length.

（5）The different classes of certificates to be given to operators.

（6）Should the radio rules indicate the obligation of certain boats and certain airships to employ radio on board and certain classes of operators.

（7）Direction finding (established on a definite basis of agreement).

（8）Time signals, meteorological signals, notices to mariners etc.

（9）Forfeiture charge for registered telegrams (télégrammes de sécurité).

（10）Reservations relating to military installations.

（11）Suppression of spark emission and of spacing waves.

（12）A permanent international technical committee.

Shidehara

三六五　十月十二日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

旧独線ノ処分ニ関スル第一分科会第一回会議ノ模様報告ノ件

通第四五号　（十月十三日接受）

十月十一日午後四時海軍省ニ於テ第一分科会（独線処分）第一回会議ヲ開キ国務次官「デヴィス」ヲ議長トシテ議事ヲ始ム議長ハ当方ノ予期セシ如ク劈頭ニ於テ世界各地ニ於ケル電信線ノ新設ニ関シ一般的原則（ゼネラル、プリンシプルス）ヲ協定スル事ヲ得バ大イニ独線処分問題ノ解決ヲ容易ナラシムル事ヲ得ベシト述ベタリ依テ本使ハ議長ノ所謂一般的原則トハ如何ナルモノナリヤト質問セルニ「デヴィス」ハ右ハ固ヨリ会議ニ於テ決定スベキモノナルモ差当リ米国委員ノ胸中ニ存スルハ例ヘバ㈠海底線ニ係ル通信ニ付テハ世界各国ニ於テ宜敷ク是ガ便益ヲ享受スベキ事㈡各

国ヲシテ一定条件ノ下ニ随意ニ他国ニ海底線ヲ布設スル事ヲ得セシムル事㈢取扱ヲ改善スル事㈣独線「モノポリース」ヲ廃スル事ノ如キ事等ナリ抑々電気ニ依ル通信ト郵便ニ依ル通信トノ間ニハ何等差別アルベカラズ従テ各人ハ郵便ニ依リ世界ノ各地ニ書信ヲ送致スル事ヲ得ルガ如ク電信ニ依リテモ各地ニ通信スル事ヲ得ザルベカラズ試ニ日本ニ付述ベンニ若シ支那ニ於ケル海底線ノ布設及陸揚ヲ容易ニセバ支那ニ接続セル現存ノ海底線ハ必ズシモ重要ナルモノニアラズト雖モ若シ該線ニシテ支那ニ達スル唯一ノ線路ナルニ於テハ該線ハ頗ル重要ナルベシト云ヘリ

依テ本使ハ帝国委員ニ於テハ通信利便ノ増進ヲ熱望スルニ於テ全ク他国委員ト感ヲ同ジウスルモ本分科会ノ討議ニ当リ右利便ノ問題ヲ交フル事ハ却テ問題ヲ複雑ニシテ其解決ヲ困難ナラシムルノ虞アルヲ以テ寧ロ会議ノ初ニ於テ各国トモ旧独線分配ニ関スル其ノ希望ヲ率直ニ申出ヅル事ト為ス方可然ク若シ其ノ上ニテ各国ノ希望ヲ比較シ若シ互ニ抵触シ居ル事ヲ発見セバ其ノ時ニ調節ノ方針ヲ考量スル事トスベシト提議セリ

之ニ対シ「デヴィス」ハ米国委員トシテハ別ニ異存無キモ他国委員ノ意見ヲモ承知シ度シト述ベ伊国大使ハ分科会ノ名目ハ独線ノ処分トアルヲ以テ他ノ問題ヲ交ヘザル方可然トテ本使ノ提議ニ同意シ英国委員「ブラウン」モ亦賛意ヲ表シタリ

仏国委員「ラネル」ハ往電通第四一号ニ記載ノ通リ「ステータス」ノ意義ニ関スル議論ヲ為シ新ナル分配案ヲ決定スルコトニ反対ノ意ヲ表シ之ニ対シテ多数委員ヨリ種々ノ論難アリタルガ結局各国トモ其要求ヲ申出ヅルコトトナリ先ヅ英国委員「ブラウン」ハ大西洋ノ電信ノ切断及使用ニ関シ説明セリ

次回ハ十二日午後四時開会ノ筈

英、仏、独、伊各大使在和蘭公使ヘ転電セリ

三六六　十月十三日　秦通信次官ヨリ埴原外務次官宛

佐世保青島間軍用線ニ依ル公衆通信取扱ニ関スル件

外第七一四一号

大正九年十月十三日

逓信次官（印）

外務次官殿

佐世保青島間軍用線ニ関スル件

本件ニ関シ本月六日附通二機密合送第四九二号ヲ以テ御照会ノ趣了承右海底線ノ存在ヲ陸海軍省側ニ於テ公表差支ナキ意向ニモ有之候ハヽ該線ニ依リ便宜公衆通信ノ取扱ヲ為シ居ル旨説明シ差支無之候条可然御回答相成度候

三六七　十月十三日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独線ノ処分ニ関スル第一分科会第一回会議ノ模様続報ノ件

通第四六号　（十月十五日接受）

往電通第四五号ニ関シ英国委員ハ戦争中英仏二国ニ於テ独逸海底電信線ヲ切断転用セル由来ヨリ説キ起シテ㈠倫敦ヨリ仏国「ナント」ニ到ル線㈡英国ヨリ露国ニ到ル線（其内独線ヲ使用セルハ僅ニ百浬ナリ）ノ敷設及㈢大西洋横断ノ二線利用ニ関スル一九一六年英仏間ノ協議ヨリ一九一七年「ハリファックス」「ペンザンス」線ノ関係及「ブレスト」紐育線ノ紐育ノ端ヲ同地（不明）電信所内ニ引込メルハ然リ平等ノ発言権ヲ有ス本件海底線ガ米国トノ交通ニ使用セラルルノ事実及米国ノ協力ガ戦捷ニ必要ナリシ事実ハ何人ト雖モ之ヲ知リ英国ハ仏国トノ協定ノ変更ヲ提議スルノ地位ニアラザルモ仏国ニシテ何等意見ヲ有スルニ於テハ之ニ対シ同意ヲ表スルニ躊躇セザルベシト云ヘリ

「デヴィス」ハ更ニ仮令米国ノ参戦ナク英国ガ単独ニ独逸ヨリ電線ヲ獲得セリトスルモ中立国トノ間ノ連絡ヲ奪ヒタルニ付法律上ノ問題ヲ生ジ得ベシト云ヘリ

米国側ハ更ニ米国参戦ノ際倫敦ニ於テ聯合国間ノ協定ニシテ米国ノ利益ニ反スルモノハ総テ無効トスルノ約束成立セリト了解シ居ル旨ヲ述ベ英仏両国互ニ協定ニ拘束セラルルノ故ヲ以テ本件解決方法ヲ案出スルニ付完全ナル自由ヲ有セズト云フハ米国ニ対シテ公平ヲ失スルモノト云ハザルベカラズト論ゼリ

在欧各大使在蘭公使ニ転電セリ

三六八　十月十三日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独線ノ処分ニ関スル第一分科会第二回会議ノ模様報告ノ件

六　旧独逸海底電線処分問題一件　三六八

成行ヲ説明セリ

其際米国委員ヨリ右両線ノ使用ニ付英仏両国間ニ協定アリタルヤト質問シ英国委員ハ然リト答ヘタルニ米国委員ハ更ニ右協定ハ今日尚有効ナリヤト質問シ英国委員ハ協定成立後之ヲ変更スベキ何等事件発生セザルニ依リ依然有効ナリト云ヒ米国側ハ更ニ進ンデ右ノ協定ハ今日独線処分ノ結（脱）両国ヲ拘束スルモノナリヤト問ヒ英国委員ハ英国政府ニ於テハ右ノ協定ハ仏国ノ同意ナシニ変更スルコトヲ得ザルモノト認メ居ル旨答ヘタリ

右ニ対シ「デヴィス」ハ右協定（脱）ニヨリテ影響ヲ受クベク少ナクトモ該協定ノ内容中米国ニ関係アル部分ハ効力ヲ失ヘルモノト謂ハザルベカラズ何トナレバ本件海底線ニ対シ「タイトル」ヲ有スルニ至レルハ戦勝ノ結果ニ外ナラザルヲ以テ米国ハ当然是等海底線ノ最終ノ処分ニ参加スルノ「タイトル」ヲ有スレバナリ

「ブラウン」ハ之ニ対シ米国ノ参戦及旧独線ヲ五国ノ間ニ共有シ居ル事実ハ最終ノ分配ニ関シ米国ニ発言権ヲ与フルコトハ疑ナシト云ヒタルニ米国郵政長官「バールソン」ハ米国ハ他国ト平等ノ発言権ヲ有スト念ヲ押シ「ブラウン」

別電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報

通第四八号

右会議ニ於テ日本ノ要求説明ノ件

通第四七号　（十月十五日接受）

十月十二日午後四時第一分科会第二回会議ヲ開ク前日ノ引続トシテ各国ノ要求ヲ陳述スルコトトシ先ヅ仏国委員「ラネル」ヨリ仏国ノ要求ヲ申出タルガ其趣旨ハ大体ニ於テ往電通第四一号ノ通リニテ「ブレスト」「アゾーレス」紐育線「ブレスト」「カザブランカ」「ダカール」線及「モンローヴィア」「ペルナンブコ」線（別ニ現在英仏共同ニテ運用シ居ル Lome ヨリ Duala ニ到ル線ノ問題アリ）ヲ引続キ自己ノ手中ニ置キタシト云フニ在リ

次ニ伊国大使伊国ノ要求ヲ陳述セルガ要点ハ清河大佐発海軍大臣宛米通第二一号電信第二項ノ㈠ニテ御承知ノ通リニテ紐育「アゾーレス」ノ線ヲ要求スト云フニ在リ其ノ理由ハ一、「仏米」間ノ通信激増セルコト二、五月三日ノ覚書ハ世界通信ヲ容易ニスルノ趣旨ニ基ケルコト三、大西洋横断線ニ関スル英仏協定ノ存在ハ伊国ニ於テ承知セザリシコト等ニシテ結局旧独線一万七千浬ノ中其ノ八分ノ一ニ相当

スル二百二十余浬ヲ伊国ノ手ニ収メタシト云フニ在リ
次ニ本使ハ我ガ要求ニ付別電第四八号ノ通リ説明セリ
最後ニ「デヴィス」ハ米国ノ要求ニ付冗長ナル説明ヲナセルガ其要領左ノ如シ
即チ米国ハ戦争ノ為メ欧亜両方面ニ於テ直接ニ通信スルノ道ヲ絶タレタリ戦前ニハ独逸トノ間ニ二条ノ直通線ヲ有セシモ戦争中切断転設セラレタル為今ヤ英仏何レカノ領土ヲ経由スルニ非ズンバ独逸及中欧トノ通信ヲ為スヲ得ザルコトトナレリ此ノ事態ハ平時ハ兎モ角戦時ニ於テハ各国共通信ニ対シ種々ノ制限ヲ設クル為米国ニ取リ甚ダ不利ナリ又東洋ニ於テハ日本ガ独蘭電信会社ノ線路ヲ遮断セル為米国ト極東及濠洲トノ連絡ハ極メテ困難トナレリ尚米国ハ従前ノ「グァム」及「ヤップ」線ニ依リテ蘭領印度ト直通スルコトヲ得タルモ今ヤ蘭領印度トノ通信ハ欧洲ヲ経由スルカ然ラザレバ馬尼剌香港又ハ日本ヲ経由セザルベカラザルコトトナレリ其ノ他電信ノ延着料金ノ高率及文字誤謬多キコト等各種ノ不便少カラズ而シテ支那トノ間ニ新ナル線ヲ敷設セントスルモ同国ニ於テハ陸揚権ニ関スル独占アリテ之ガ故障トナルヲ如何ニセン（「デビス」ハ『尤「ブラウン」氏ノ談ニ依レバ此故障ハ排除スルコトヲ得ベシトノコトナルガ』ト註釈ヲ加ヘタリ）右ノ事態ニ対シテハ米国人ノ不平甚大ナルヲ以テ米国ハ是等諸線ヲ戦前ノ状態ニ回復センコトヲ要求セザルベカラズ尚以上ノ海底線ハ英仏日三国ニヨリ切断セラレタル次第ナルモ一トシテ三国ノ領土ニ陸揚ゲセラレ居リタルモノニアラズ是等電信線ハ反テ何レモ米国ニ陸揚ゲセラレ居リタルモノナリ故ニ米国ハ之ヲ戦前ノ状態ニ回復センコトヲ要求ス尚米国ノ見ル所ニ依レバ電線ハ押収スルコトヲ得ルモ「ダイヴァート」スルコトヲ得ザルモノニシテ仮令戦時中戦争ノ目的ノタメニ転設スルヲ得ルトノ説ヲ許ス場合ニ於テモ戦後ニ尚此権利存在スルモノト認ムルヲ得ズト
尚「デヴィス」ハ伊国トノ間ニ通信ノ必要アルハ勿論ニシテ之ガ線路ハ「アゾーレス」ヲ経由スルコト最モ自然ナリト云ヒ最後ニ若シ独線処分ヲ決スルニ当リ線路ニ対スル各国ノ意見ヲ基礎トスルニ於テハ各国ガ戦争ニ依リ又平和条約ノ結果トシテ獲得セル利益ヲ考慮セザル可ラズ米国ハ戦争及ビ平和条約ニ依リ何等物質上ノ利益ヲ要求シタルコトナシ然レドモ米国ガ戦前享有シ居リタル海底電線連絡ノ復

旧ニ関スル要求ヲ提出スルハ極メテ正当ナリト云ハザルベカラズト結論セリ
在欧各大使及ビ在和蘭公使ヘ転電セリ

（別　電）

十月十三日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第四八号
旧独線ノ処分ニ関スル第一分科会第二回会議ニ於テ日本ノ要求ヲ説明ノ件

通第四八号　（十月十五日接受）

「ヤップ」島ヲ中心トスル三線ハ従前独逸ノ一会社ノ所有ニ属セシモノナルガ該会社ニハ和蘭モ亦利益ヲ有シ該会社ハ独蘭両国ヨリ多大ノ補助金ヲ受ケ居リタリ右三線ハ同一会社ノ経営ニ係リ一体ノ電信系ヲ形成セリ一九一四年十月帝国海軍ノ「ヤップ」島占領ト共ニ該海底線ハ我方ニ於テ之ヲ押収シ我権下（コントロール）ニ置キタリ「ヤップ」「メナド」線及「ヤップ」「グァム」線ノ「ヤップ」ノ端ハ之ヲ切断シタル後「アース」セリ帝国海軍ハ戦時中右両線ヲ使用スルノ機会ヲ有セザリシト雖モ帝国海軍ハ引キ続キ「ヤップ」島ヲ占領シ並ニ附近ノ海面ヲ警備シ居リタルヲ以テ必要ニ応ジ何時ニテモ該線ヲ使用シ得ルノ地位ニ在ルノミナラズ敵国ガ該線ヲ回収シ之ヲ使用スルコトヲ防圧シ得ルノ地位ニ在リタリ「ヤップ」上海線ノ上海ノ端ハ戦時中両地間ノ直通路ニ近接セル沖縄県那覇ニ之ヲ転設シテ「ヤップ」日本線ヲ構成シ現ニ之ヲ運用ス右ノ事実ニ鑑ミ帝国委員ハ「ヤップ」ヲ中心トスル之等電信線ニ関シ従前独逸国政府又ハ独逸国民ノ有シタル各種ノ権利権原及特権ヲ日本国ニ帰属セシメンコトヲ希望ス帝国政府ハ該電信線路、和蘭ノ既存利益（vested interests）及該電信線ノ陸揚ゲニ関係アル諸国ノ領土権ニ顧ミ右権利及利益ニ付当該国政府ト交渉ヲ開始スルノ意アリ帝国政府ハ「ヤップ」「メナド」間及「ヤップ」「グァム」間ノ聯絡ヲ成ル可ク速カニ復旧センコトヲ欲シ且ツ上海ヲ起点トシテ海底ニ残存スル約二百海里ノ電信線ヲ利用シ那覇上海間ノ線路ヲ布設セン事ヲ希望ス
在欧洲各大使ヘ転電シ在蘭公使ヘ転電セリ

三六九　十月十三日　在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

最高会議ニ於テ決定ヲ見タル英国側起草ノ委任統治配分案ニ対シ米国側ハヤップ島ニ関シ何等留保ヲ為サザリシ旨ハンケー氏確認ノ件

第八六八号　（十月十五日接受）

貴電第四四〇号ニ関シ帝国政府ハ飽ク迄最高会議ノ決定ヲ楯トスベキ立場ニ在リ従テ英国政府ニ対シ唐突ニ本件ヲ申入ルルハ帝国ノ利益上如何カト気遣ハレタルニ付御訓令執行方ニ付彼是熟慮シ或ハ「カーゾン」ニ対シテハ往電第七九一号英国側回答ヲ機トシテ本件ヲ申入レ又「ロイド、ジョージ」ハ本決議当事者タリシ関係アルニ付同首相ト会見ノ際（最近会見ノ筈）本件ノ記憶ヲ喚起シ我ガ立場ノ支持ヲ乞フコトト致度キ所存ナリシ処在米大使発閣下宛往電通第三六号ニ依レバ米国国務次官ハ「ヤップ」島ノ「ステータス」ニ付テハ米国側ニ於テ留保ヲ為シ居レル旨主張シ居ルニ付之ヲ良キ切掛（キッカケ）トシテ早速「カーゾン」ニ申入ヲ為ス積リナルガ念ノ為メ当時ノ最高会議調書ヲ一覧シ置クコト便宜ト思考シタルヲ以テ不取敢昨十二日斉藤ヲシテ「サー、モーリス、ハンケー」ニ就キ右調書入手方ヲ試ミシメタル処「ハンケー」ハ当時ノ事情ヲ語リ客年五月七日「ヴェルサイユ」「トリヤノン」宮殿ニ於テ恰モ平和条件ヲ独逸全権委員ニ手交シタル後四国全権ハ別室ニ赴キ英国側起草ノ委任統治配分案ヲ議シ決定ニ至リタルガ殆ンド立話ニテ公表ノ決定以外何等調書ヲ作成セザリシ様記憶スト述ベ尚其ノ後「ヤップ」島ニ付テハ何等言議セラレズ又米国側ニ於テ何等同島ニ関シ留保ヲ為サザリシ趣旨ヲ語リ尚委細取調ノ上書面ニテ申越スベキ旨ヲ述ベタル趣ナリ（今朝送付ノ書面ハ I have no record of any reservation having been made on that occasion to the decision which was published and which is in your possession. ト記セリ尚右書面ニ依レバ右会議ニ関シ何等カノ調書存スルモノト思考セラルルニ付右入手方取計中）

右ノ事情ナルニ付テハ帝国政府ハ飽ク迄モ決定ヲ最終的ノモノトシテ固持スルヲ得ベク本使英国政府トノ交渉ニ当リテハ我ガ立場ノ確立ニ努力スベシ「カーゾン」ニハ一両日中会見ノ見込ナリ

在米大使在仏大使へ転電セリ

三七〇　十月十三日　在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ英国政府ノ支持ヲ得タキ旨英国外務次官ニ申入ノ件

第八七四号　（十月十五日接受）

往電第八六八号ニ関シ今十三日「カーゾン」卿本使国書捧呈ノ際侍立セルヲ幸面会申入レタル処近親ニ病人アリ明朝欠勤スベク本日時間都合付キ兼ヌル旨ヲ答ヘ且本使ニ次ギ塲国公使ノ拝謁アリ旁々場所柄用談ヲ差控ヘザルヲ得ザリショリ拠ロナク午後次官「ハーディング」卿ヲ訪ヒ本使ハ貴電第四四〇号ノ主旨ヲ含ミ同卿ニ対シ赤道以北旧独領南洋諸島ノ我国ノ委任統治ニ附セラルベキハ予テヨリ確定議ニシテ今更「ヤップ」島ノ「ステータス」ニ付兎角ノ議論ヲ生ズベキ筈ナキ処今回電信予備会議ニ関聯シ米国国務次官ハ我在米大使ニ「ヤップ」島ニ関シテハ巴里決定ノ当時留保ノ次第アリ我統治ニ入ルベキモノニアラズトノ主旨ヲ告ゲタル由ニテ其趣在米大使ヨリ電報ニ接シ同時ニ外務大臣ヨリ本使ニ対シ右ノ趣ヲ英国政府ニ警告シ客年五月七日最高会議決定ニ関スル英国政府ノ記憶ヲ喚起シ万一米国政府ガ我委任統治区域ヨリ「ヤップ」島ヲ除カント主張スルガ如キ場合ニハ帝国政府ノ（主張ニ関シ英国政府ノ）支持ヲ求ムベキ旨ノ訓令アリタリ依テ本使ハ茲ニ英国政府ノ援助ヲ乞ハントスルモノナリト叙述シタル処次官ハ赤道以北諸島悉ク日本ノ手ニ入ルベキモノト自分モ之ヲ信ジ居レリト答ヘ尚記録ノタメ上記本使申入レノ主旨ヲ「ノート」トシテ送附センコトヲ求メタルニ付本使ハ之ヲ諾シ置ケリ米仏ヘ転電セリ

三七一　十月十三日　在蘭国臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独電線処分ニ関シ蘭国外相及ビュルマントノ会談ニ付報告ノ件

第一七二号　（十月十五日接受）

十二日外務大臣ニ会合雑談ノ際談偶々華府通信会議ニ及ビタルニ依リ太平洋海底電線ニ付蘭国ニ於ケル該関係者間ニハ旧線ヲ利用シテ別ニ新線路ヲ開カムトスル計画アルヤニ聞キ及ビタル旨語リタル処大臣ハ其話ハ久シキ以前ニ多少

耳ニシタルコトアリシモ適確ナルコトハ承知セズト語ヲ反ラセリ本件ニ付「イスタランド、サーヴィス」ノ「ビュルマン」ガ外務殖民省筋ノ意見トシテ本官ニ語リタル処ニ依レバ独逸ハ講和条約第二四四条附属第七ニ依リ各海底電線ヲ聯合国ニ対シ抛棄シタルモ右独国ノ行為ハ蘭国ノ国益ニ関シ何等ノ変更ヲ来タスモノニ非ザルヲ以テ蘭国政府ハ右利益擁護ノ為メニ聯合国及ビ蘭国ノ間ニ一会議ノ開催ヲ提議スル意嚮ヲ有ストノコトナリ尚外務大臣ハ談話ノ終リニ臨ミ「ヤップ」島ノ委任統治権ヲ蘭国ニ委セラレナバ結構ナラムトノ語ヲ洩ラセルガ同大臣ノ右無遠慮ナル言辞ノ真意ヲ解スルニ苦シムモ往電第一五二号ノ次第モアルニ付御参考迄ニ申進ズ

三七二　十月十四日　埴原外務次官在本邦仏国大使　会談

旧独領電線問題ニ関シ日本ト協同一致ノ態度ヲ採ルベキ旨仏国側ヨリ通告越ノ件

大正九年十月十四日在本邦仏国大使埴原次官ヲ来訪ノ節仏国政府ハ通信会議予備会議仏国委員ニ対シ旧独領海底電線放棄シ之ヲ国際管理下ニ置クコトトスルガ如キコトハ絶対ニ承諾シ能ハザルニ付至急右ノ事情ヲ貴任国政府ニ開示セラレ通信予備会議ニ於テハ同島ノ「ステータス」ニ付討議セシメザルコトトスルト共ニ万一米国側ニ於テ同島ヲ国際管理ノ下ニ置カムトシ同島ノ「ステータス」ニ付討議セラルルガ如キ場合ニハ前顕最高会議ノ決定ヲ維持シ我主張ヲ支援スル様該会議ノ代表者ニ訓令方御申入相成其ノ結果当方及在米大使ニ電報アリタシ

本電本大臣ノ訓令トシテ在仏及在伊各大使ニ転電シ参考トシテ在米大使ニ転電アリタシ

三七四　十月十四日　在英国林大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ英国外相ニ公文送付ノ件

別　電　同日在英国林大使発内田外務大臣宛電報第八七九号

右公文全文

第八七八号

往電第八七四号末段ニ関シ本使ハ英国政府ノ支援ヲ求ムルニ当リ大正七年二月十八日英国覚書ニ対スル注意ヲ喚起ス

問題ニ付テハ日本委員ト協同一致ノ態度ニ出ヅル様訓令シタルニ付右帝国政府ニ通知スベキ旨電訓ニ接シタリト陳ベタルニ依リ次官ハ右仏国政府ノ好意ニ対シ謝意ヲ表シ置キタリ

三七三　十月十四日　内田外務大臣ヨリ在英国林大使宛（電報）

ヤップ島ノ地位ニ関シ通信予備会議ニ於テ我主張支持方英国政府ニ申入ルル様訓令ノ件

第四五五号

在米大使ヨリ貴官ニ転電シタル同大使発本大臣宛電報通第三七号ニ関シ

太平洋ニ於ケル旧独線処分問題ニ関連シ米国側ニ於テハ客年五月七日ノ最高会議ノ決定ヲ無視シ「ヤップ」島ヲ国際管理ノ下ニ置クコトヲ主張セムトスル底意アルコト明瞭トナリタル処同島ノ「ステータス」如何ハ通信会議ニ於テ決定スベキ事項ナラザルノミナラズ同島ノ「ステータス」ハ既ニ右最高会議ニ於テ決定シタル処ニシテ帝国政府ニ於テハ一旦我委任統治地域タルコト決定シタル同島ヲ今ニ至リル旨ヲ附言シタル十四日附「カヴァリング、ノート」ヲ附シ別電第八七九号ノ通リノ「ノート」ヲ「カーゾン」ニ送付セリ

在仏米各大使ニ転電アリ

（別　電）

十月十四日在英国林大使発内田外務大臣宛電報第八七九号

英国外相ニ送付セル公文

第八七九号

Baron Hayashi called on Lord Hardinge on the 10th October and stated that the allocation to Japan of the Ex-German South Sea Islands, north of the Equator made at Versailles on the 7th May, 1919, was a conclusive decision of the Supreme Council, and that no question should now be raised as to the status of these Islands.

With regard to the Island of Yap, the Assistant Secretary of State of the United States Government insisted, according to a telegram from the Japanese Ambassador in Washington, that the status of the

island in question had not been settled, which assertion the Japanese Ambassador contradicted on the strength of the decision of the Supreme Council.

In view of the International Conference of Communication, at present in session in Washington, Baron Hayashi was instructed by his Government to inform his Britannic Majesty's Government of the purport of the conversation between the Assistant Secretary of State and Japanese Ambassador, and, inviting their attention to the decision of the Supreme Council, to request their support of the Japanese claims, should it happen that the United States Government may for some reason or other demand the exclusion of the Island of Yap from the Japanese Mandatory Administration.

Acting on that instruction from Count Uchida, Baron Hayashi requested Lord Hardinge for such support of His Britannic Majesty's Government.

在米仏大使ヘ転電セリ

Hayashi

三七五　十月十四日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独電線処分ニ関シ委員間ニ成立ノ協定ハ本国政府ノ承認ヲ要スト心得可然哉請訓ノ件

通第五〇号　（十月十六日接受）

十月十一日第一分科会ニ於テ「ブラウン」ハ英国委員ハ独線処分問題ニ付協定スル為商議ヲ為スノ権限ヲ与ヘラレ居ルモ成立セル協定ハ本国政府ノ承認（「ラティフィケーション」）ヲ要スル次第ナル旨ヲ声明シ「デヴィス」議長ハ各国委員何レモ同様ノ条件ノ下ニ行動シ居ルモノト思考スト云ヒ伊国大使モ同様ノ立場ニアル旨ヲ述ベタリ我委員ニ於テモ同様ニ心得可然哉

三七六　十月十五日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

佐世保青島線ハ主トシテ軍用通信ニ利用セラレ居ル旨言明差支ナキ件

第四六三号

貴電通第二六号ニ関シ佐世保青島線ノ存在ハ之ヲ説明セラレ差支ナキモ主トシテ軍用通信ヲ取扱居ル旨ヲ言明スルニ止メラレタシ尤モ強ヒテ公表ヲ忌避スル必要モ無之ニ付説明ノ都合ニヨリテハ該線ニテ便宜公衆通信ヲモ取扱居ル旨言明セラレ異存ナシ

三七七　十月十六日　埴原外務次官　在本邦仏国大使　会談

旧独領電線処分ニ関シ日仏両国ト協調的態度ニ出ヅル様英国政府ニ申入方ニ付会談ノ件

大正九年十月十六日在本邦仏国大使埴原次官ヲ来訪シ前回来訪ノ節旧独領海底電線処分問題ニ関シ仏国政府ハ通信予備会議仏国委員ニ対シ「日本委員ト協調ノ態度ニ出ヅル様」訓令シタル旨申述ベタル処今般本国政府ノ電訓ニ依レバ前記訓令ニハ「英国政府ガ同ジク協調ノ態度ニ出ヅルヲ要ス」ノ一句ヲ附加ス可キモノナル旨ヲ述ベ尚仏国政府ハ在英仏国大使ヲシテ英国政府ニ於テモ英国委員ニ対シ日仏委員ト協調ノ態度ニ出ヅル様訓令ヲ発スル様同政府ニ交渉セシメツツアルモ未ダ其同意ヲ得ルニ至ラザルニ付此際日本政府ヨリモ同政府ニ対シ同様勧説セラレムコトヲ希望スル旨日本政府ニ申入方本国政府ノ訓電ニ接シタル旨ヲ述ベタリ

三七八　十月十六日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島委任統治及米中間直通線布設問題等ニ関スル件

通第五四号　（十月十七日接受）

「ヤップ」島委任統治問題ニ付テハ十月八日国務次官「デヴィス」ト会見以後米国側ヨリ何等ノ申出ナク又十月十二日第一分科会第二回会議ニ於テ米国ノ要求ニ関スル「デヴィス」ノ説明中ニモ何等同島ノ「ステータス」ニ関聯スル事項ニ言及シ居ラザルハ往電通第四七号ニテ御推察ノ通リ

ナリ十月八日ノ激論後米国ガ如何ニ本件ヲ考量シ居ルヤ又我方ニ於テ米国側ニ対シ如何ナル態度ニ出デ可然ヤニ付テハ本使ニ於テ特別ノ注意ヲ払ヒ居ル次第ニテ貴電第三三一号末段ヲ以テ「ヤップ」線ニ関スル独逸ノ権利ヲ要求スル理由ノ一トシテ日本ガ赤道以北南洋諸島ノ委任統治国タルコトヲ指摘スベキ旨御内訓アリタルニ係ハラズ十月十二日本使ノナセル陳述中之ニ言及セザリシハ「ヤップ」問題ニ付我方ヨリ進ンデ米国側ヲ追求スルトキハ先方ニ於テ其ノ主張ノ根拠薄弱ナルニ気付キタル場合ニ於テモ大統領ノ上院委員会ニ対スル言明ノ行キ懸リ上大統領ノ面目ニ関スル問題トシテ飽ク迄力争スベキヲ以テ徒ラニ問題ノ紛糾ヲ来スノミナラズ英国委員ニ於テモ斯カル政治問題ニ触レザランコトヲ切望シ居ルノ事実ニ鑑ミ若シ会議ノ際先方ヨリ直接間接本件ヲ持チ出シタルトキハ我ニ於テモ強硬ニ反駁ヲ加フベキハ勿論ナルモ当方ヨリハ進ンデ之ニ触レザルコトニ方針ヲ定メテ議場ニ出席シタル次第ニ付右様御諒承アリタシ

尚当日「デヴィス」ノ陳述中米国ト支那トノ間ニ新タナル線ヲ設クル場合ニ陸揚独占権ヨリ生ズル故障ハ之ヲ排除シ得ベシト「ブラウン」ガ語リタル旨ヲ述ベタルガ右ハ我ガ方ニ取リ大ニ注意スベキ事項ト思考シタルヲ以テ十二日夜「ブラウン」ニ就キ右ハ米国ニ於テ「グァム」上海間ノ直通線ヲ設クル場合ニ大北電信会社（「イースタン、エキステンション」ヲ含ム）ノ同意ヲ取リ付ケ得ベキヤ否ヤノ問題ニハアラザルカト問ヒ糺シタル処米国側ヨリ自分ニ問ヒ合セアリタルハ其ノ事ニ関スルモノナルベシト答ヘ尚米支間直通線ヲ設クル為支那ニ海底線ヲ陸揚ゲスルコトニ付テハ英国関係会社ヲシテ同意セシムルコトハ出来得ベシト思考シ居ル旨並ニ之ガ為倫敦ニ打電スル積リナル旨附言セリ元来米国ノ希望ノ要点ハ米支間ニ直通線ヲ有シタシト云フニアルコトハ十月八日「デヴィス」ノ本使ニ対スル談話（通第三七号）及十月十一日第一分科会第一回会議ニ於ケル同氏ノ説明（通第四五号）ニ依ルモ明瞭ニシテ「ヤップ」ヲ国際管理ノ下ニ置クコト不能ナリトセバ米国ガ他国ノ「コントロール」ヲ経由セズシテ支那トノ通信ヲ為ス為メニハ新タニ米支ノ直通線ヲ布設スルノ外ナシト思考シ「ブラウン」ノ意見ヲ糺シタルモノカト想像セラレザルニアラズ右御参考迄ニ電報ス

在英仏独伊各大使ニ転電シ在蘭公使ヘ転電セリ

三七九　十月十七日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

蘭国代理公使ヨリ独蘭電信会社ニ関スル覚書ヲ提出ノ件

別電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第五七号
右覚書（後半）

通第五六号　（十月十九日接受）

十月十二日蘭国代理公使本使ヲ来訪シ独蘭電信会社ニ関スル一ノ覚書ヲ提出セリ同覚書前半ハ同会社設立ノ由来ニ関スル叙述ニシテ其後半ハ別電第五七号ノ通リナリ

尚本覚書ハ十月十一日附ニテ同代理公使ヨリ米国政府ヘ提出セルモノト同一ニシテ蘭国政府ノ意見ヲ予備会議各国委員ニ通知スルノ趣旨ニ出デタルモノナリ

在英仏独伊大使及在蘭公使ヘ転電セリ

（別電）

十月十七日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第五七号

独蘭電信会社ニ関スル蘭国政府ノ覚書（後半）

通第五七号

In order to be able to judge about the question of how far its rights and those of its nationals are affected by annex 7 of the Peace Treaty the Netherlands Government starts from the principle.

A. That a treaty between states only affects those persons and those other things who and which are subject to the Authority of the state which has acceded to that treaty.

B. That a treaty being a joint act of two states stands above their respective national laws but not above a treaty concluded at an earlier date by one of the contracting states with a third state.

Thus did Germany according to the word in the annex 7 not transfer the cables in question but its "rights, titles or privileges" whatever they were.

The Netherlands Government is of the opinion that the following situation with regard to the cables Yap-Menado, Yap-Guam, Yap-Shanghai, has arisen in consequence of the ratification of the Peace Treaty: the Netherlands and the Netherlands' share and bond holders in their relation to this cable system find now before them the Powers to whom Germany has transferred those rights.

Confident that these Powers agree with the point of view as outlined above, Her Majesty's Government wishes to state that it will be glad to take into favorable consideration any proposals aiming at a continuation of the cable system of the German Netherlands Telegraph Company.

Such aim could be realized for instance by transferring the exploitation of the cable system to a combination which would be willing and in a position to establish, by preference in the Netherlands, and in accordance with provisions to be

agreed upon between the Netherlands Government and the Governments concerned, a company for that purpose.

Shidehara

三八〇　十月十七日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

旧独線処分ニ関スル委員間協定ハ政府ノ承認ヲ要スル件

第四七〇号

貴電通第五〇号ニ関シ委員間ニ成立セル協定ハ帝国政府ノ承認ヲ要スルモノト御承知アリ度シ

三八一　十月十七日　在英国林大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ最高会議議事調書存在スル旨ハンケーヨリ回答越ノ件

第八八九号　（十月十八日接受）

往電第八六八号ニ関シ「ハンケー」ヨリ客年五月七日四国会議議事調書ハ存在スル事ヲ発見シタルモ自分ハ凡テ最高会議調書ハ代表者列席国以外ノ国ニ対シテハ交附スベカラザル旨訓令ヲ帯ビ居リ常ニ右訓令ヲ遵守シ居ルニ付遺憾ナガラ我ガ求メニ応ジ難キ旨申出セリ

尚強ヒテ首相又ハ外相ニ対シ之ヲ要求スルモ一案ナレドモ公表ノ決議ニハ何等ノ留保ナク又往電第八六八号所載「ハンケー」書面ノ「コンファーメイション」アルノミナラズ留保ニ関スル挙証ノ責任ハ米国側ニアル筋合ナルヲ以テ此ノ上調書入手ノ手段ヲ取ラザル積リナリ

在米仏各大使へ転電セリ

三八二　十月十七日　在仏国石井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議ニ於ケル日英仏協調ニベルトロー賛成ノ件

第一六〇二号　極秘　（十月十九日接受）

在英大使宛貴電第四五五号ニ関シ十七日「ベルトロー」氏ニ面会シ御訓令ノ次第ヲ述ベタル処同氏ハ我ガ主張ニ全然賛成ナリトシ予備会議ガ「ヤップ」島其他領土問題ヲ議スル権限無ク殊ニ昨年五月ノ最高会議ニ確定セル所ヲ覆サントスル提議（此ノ意思アルコトハ本使ヨリ聞キ驚ケリト言ヘリ）ノ如キ若シアリトセバ不道理千万ナリト言ヒタルニ付本使ノ陳述ヲ覚書ニテ送リ之ニ対シ同氏ノ回答ヲ申受クルコトニナレルガ「ベルトロー」氏ハ更ニ進ンデ「当方ニ於テモ予備会議ニ於ケル米国又伊国ノ態度面白カラズ殊ニ或ル国ハアノ儘ニヤラシテ置クベカラズト思ヒ居リシコト故貴国政府ノ此ノ提言ヲ幸此ノ際日本、仏、英三代表打チテ一丸トナリ相互ニ強硬ニ援ケ合ヒ米及伊両国代表ニ対シ我等三国ノ多数ヲ以テ対抗スルコトニ致シタク就テハ今日ニモ在東京及倫敦大使ニ電報ヲ発シ右趣旨ニテ同一訓令ヲ各々在米代表ニ発送方貴国政府及英国政府ニ交渉セシムベシ」ト附言セリ（十月十七日）

在欧米各大使ニ転電セリ

三八三　十月十八日　内田外務大臣ヨリ　在英国林大使宛（電報）

旧独線処分問題ニ関シ日仏両国ト協調的態度ニ出ヅル様英国政府ニ申入方訓令ノ件

第四七一号

本大臣発在米大使宛往電第四七一号ニ関シ英国委員ノ態度

ニ付テハ在米大使発本大臣宛通第四〇号ノ次第モアルニ付御見込ニ依リ在貴地仏国大使トモ一応会談ヲ遂ケラレ更ニ英国政府ニ御懇談ノ上同政府ニ於テ通信予備会議同国委員ニ対シ日仏委員ト協調ノ態度ニ出テ我主張ヲ支持スル様訓令スル様御尽力アリタシ

在欧米各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ

三八四　十月十八日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議第一分科会第三回会議ノ模様報告ノ件

別電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第五九号

ハリファックス線ニ関スル英国側妥協案

通第五八号　（十月十九日接受）

十月十五日午後四時第一分科会第三回会議ヲ開ク

議長ハ在米蘭国公使館ヨリ覚書ヲ提出シ来リタルニ付記録ニ存シ置クベキ旨ヲ述ベ各国委員ニ写ヲ配布セリ（往電通第五六号ト同一ナリ）次ニ米国側ハ大西洋横断ノ独線ニ対シテ米国「コムマーシャル」会社ノ有セシ利益ニ関スル「ステートメント」ヲ朗読シタルガ要スルニ一八九九年ノ契約ニ依リテ米国会社ニ依リ紐育ニ於ケル独線ノ運用ヲ引キ受ケ其ノ代リニ欧洲大陸ノ一部ニ宛テタル電信ハ独線ヲ経由セシムルコトトシ事実上米独共同経営ノ状態ニ在リタリト云フニ在リ右ノ後「デヴィス」議長ハ独線処分ニ関スル各国ノ申出ニ付テハ更ニ考究ノ必要アルガ如ク各国委員ハ数日不在トナル（「ジェネラル、エレクトリック」以下数会社ヨリ招待アリテ多数ノ委員ハ十九日ヨリ四日間旅行ニ出カクルコトトナレリ）ベキニ付旁々討議ヲ継続スルノ時ナカルベキ旨ヲ述ベタリ右ニ拘ハラズ英国委員「ブラウン」ヨリ大要別電第五九号ノ如キ「ハリファックス」線ニ関スル妥協案ヲ提出シ米国委員ト数次応答アリタル後更ニ英国委員「スパーリング」ヨリ本件ニ付テハ英米以外ノ国ハ直接関係ナキヲ以テ両国委員間ニ於テ協議ヲナシ其ノ上ニテ会議ニ報告スルコトトナシタキ旨ヲ提議シ伊国委員ヨリ斯クテハ他ノ問題ノ解決ヲ困難ナラシムル惧ナキヤト述ベタルモ議長ハ先ヅ英米間ニ解決案ヲ見出サバ更ニ英米ト仏ト他ノ線ニ付協議シ更ニ日伊ト協議スル如クスベシト述ベ仏国委員ハ意見ノ交換ハ差支ナキモ本会議以外ニ於テ協定

ヲナスコトニハ反対スト云ヒ本使モ斯ク二国委員間ニ於テハ単ニ協議ヲ為スニ止マリ一般ニ適用スベキ主義ノ問題ヲ包含スベキ何等協定ヲナスベキモノニアラズトノ諒解ノ下ニ同意シ置ケリ右ニテ第一分科会ハ数日休会次回ハ来ル二十二日金曜午後開会ノ筈

在英仏独伊各大使ヘ転電シ在蘭公使ヘ転電セリ

（別　電）

十月十八日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第五九号

ハリファックス線ニ関スル英国側妥協案

通第五九号

往電通第五八号ニ関シ「ブラウン」ノ説明ノ要領左ノ通リ

米国ノ提議ヲ採用スル場合ニハ英国ハ旧独線ニ就キ全然分配ニ預ラサルコトトナリ英国ノ到底同意シ能ハザル所ナリ

独線ノ占領使用ニ就テハ英国ハ仏国ト共ニ多大ノ費用ヲ投シ至大ノ危険ヲ冒セリ「ウィルソン」大統領ニ於テモ巴里会議中「ハリファックス」線ヲ取上グルノ考ハ全然抱有セラレザリシ次第ニシテ英国ハ該線ヲ加奈陀ヨリ取リ去ルコトニ同意セムヨリハ寧ロ旧独線ノ問題ヲ未決ノ儘トナシ置クコトヲ欲スルモノナリ

英国ノ提議ハ先ツ米国会社ノ「コントロール」ノ下ニアル一線ヲ以テ「ペンサンス」「ハリファックス」線ト交換セムトスルニアルモ若シ該案ノ実行困難ナル時ハ英国ハ更ニ米国カ紐育ヲ起点トシテ海底ニ残留スル六百海里ノ電線ヲ「アゾーレス」ニ延長セムコトヲ勧奨ス之ニ要スル費用ハ「ハリファックス」線ノ転設（diversion）ニ当テシ費用ト旧独線ノ対価トシテ賠償計算ニ於テ独逸ノ貸方ニ計上スヘキ金額等ヲ加ヘタル額（「ブラウン」ノ趣旨ハ仮ニ「ハリファックス」線ヲ米国ニ譲ルモノトセハ米国ハ当然此ノ額ヲ負担スヘキ筋合ナルヘシト云フニアルモノノ如シ）ヲ超過スルコトナカルヘシト思考ス右ノ如クスレバ北米ヨリ「アゾーレス」ニ至ル線三条（新タニ敷設スヘキ線、旧独線及ヒ現ニコムマーシャル」ノ有スル線）トナルヘク右三線ヲ「アゾーレス」ニ於テ単一ノ電信系トシテ有効ニ運用シ得ヘキヤ否ヤニ就テハ未タ考究ヲ遂ケザルモ不能ニハアラザルヘシト信ス英国トシテハ英米間ノ通信ノ為メ是等三線ヲ極度迄運用スルニ努ムヘク若シ米国会社ニ於テ電信ノ相互交換ヲ行フノ意アルニ於テハ英ニ於テモ米国会社所有陸線ノ通過ニ就テハ有利ナル条件ヲ提供スルニ躊躇セズ

忌憚ナク言ヘバ従来米国会社線ト他線トノ間ニ於ケル通信ノ交換ハ米国会社ノ採レル態度ノ結果極メテ困難ニシテ此カ為メ他会社ノ有スル通信能力ハ実際ニ充分利用セラレ居ラズ英米間ノ無線電信ノ如キ其ノ一例ナリ米国ト仏国「ボルドー」間ノ無線通信ノ如キ又然リ

終リニ英国ニ於テハ其ノ領土内ニ在ル米国会社トノ協定ニヨリ是等会社ニ対シテハ特別ノ便宜ヲ供シ英国電信局ノ手ヲ経ズ直接ニ会社自身ノ電信線ニ依リテ欧米相互間ノ通信ヲ取扱ハシメ居ルコトヲ附言ス

三八五　十月十九日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

ヤップ島海底電線ニ対スル和蘭政府ノ立場ヲ日蘭通信社報道ノ件

第四七二号

本月十三日「アムステルダム」発当地日蘭通信社着電要領左ノ通リ

「ヤップ」関係ノ海底電線ニ対スル和蘭政府ノ立場ハ大体次ノ如クニシテ右ハ「ヴェルサイユ」条約二四四条附属書全ク（脱）リ其趣旨ニテ既ニ華盛頓ヘ訓令ヲ発シタルコト思フモ未ダナラバ早速右様取計（脱）ヲ得タリ

英米仏ヘ転電セリ

三八七　十月十九日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議ニ提出ノ英国側妥協案ニ関シ佐分利書記官ノ質問ニ英国委員ノ随員応答ノ件

通第六五号　（十月二十二日接受）

通第五八号ニ関シ十月十五日第一分科会第三回会議ノ際「ブラウン」ハ通第五九号英国ノ妥協案ヲ提出スルニ先チ説明シテ曰ク曩ニ「デヴィス」氏ヨリ直通亜米利加会社「ディレクト、ユーナイテッド、ステート」）ノ線ヲ英国政府ニ於テ入手シタル事ニ付談話アリタルモ右ハ単ニ英国ノ会社ガ所有セシ線ヲ英国政府ノ手ニ移シタルノミニテ英国ガ同線ヲ入手シタルハ「ハリファックス」線ノ副線トシテ所有スル為メナリ加之右ハ古線ニテ疎通力微弱ナルヲ以テ到底「ハリファックス」線ノ代リト為ス事ヲ得ズト

然ルニ右ハ所謂「デヴィス」ノ談話ナルモノ不明ニ付十月

七ニ基クモノナリ

一、右電線ハ独蘭両国政府ニ於テ之ヲ管理シ且双方ヨリ当該会社ニ補助金ヲ下附シ居タル次第ナルヲ以テ和蘭ハ右電線ニ対スル和蘭ノ利益ヲ他国ニ譲与スルノ権利ヲ独逸ニ認メズ

二、独逸ハ自国ノ利益ニ限リ譲渡スルコトヲ得

三、和蘭ハ本問題解決ノ為更ニ会議ヲ催サンコトヲ欲ス

三八六　十月十九日　在伊国落合大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島ノ地位ニ関シ最高会議ノ決定ヲ通信会議ニ於テ変更スルハ適当ニ非ズト伊国外相言明ノ件

第一九四号　（十月二十一日接受）

在英大使宛貴電第四五五号十六日接到直チニ大臣ニ面会ヲ申込ミタル処当日モ翌日モ差支アリトノコトニテ総務長官ニ面会シ要領申入レ大臣ニ取次方ヲ依頼シ尚十九日大臣ニ面会シタル処大臣ハ総務長官ノ取次ニテ大体承知セリ自分ハ事件ノ詳細ヲ知ラザルモ最高会議ノ決定ヲ通信会議ニ於テ変更セントスル如キコトハ適当ニ非ズトスルコトニ於テ十八日佐分利ヲシテ「ブラウン」（旅行中）ノ随員「フィリップス」ニ事情ヲ問ヒ訊サシメタル処同人ハ英国政府ガ最近前記英国会社所有ノ太平洋横断線ヲ買ヒ上ゲタル事実アリ「デヴィス」ハ右ノ事実ヲ指摘シテ英国政府ガ新タニ一線ヲ入手シタル上ハ「ペンザンス」「ハリファックス」線ヲ棄ツルモ差支無カルベシトテ「ブラウン」ニ迫リタルヲ指スモノナリト云ヒ且右ハ到底英国ノ同意シ能ハザル所ナリト附言セリ

次ニ佐分利ハ「ハリファックス」線ト米国会社ノ「コントロール」ノ下ニアル一線トヲ交換セントノ「ブラウン」ノ提議ハ具体的ニ如何ナル事ヲ指スモノナリヤト問ヒタル処「ウェスターン、ユニオン」会社（同社ノ「コントロール」セル線ハ八本ニシテ内五本ハ英国会社又ハ政府ノ所有ナリ）タルト「コンマーシャル」会社（同社ノ「コントロール」セル線ハ五本ニシテ何レモ其ノ所有ナリ）タルトヲ問ハズ米国会社ノ「コントロール」ノ下ニアル線ノ内然ルベキモノト「ペンザンス」「ハリファックス」線ト交換センントスルニアリテ右ハ「ブラウン」ヨリ米国側ニ提議シタルモ其ノ際ハ米国側ニ於テ同意ヲ表セザリシヲ以テ更ニ紐育

ヲ起点トシテ海底ニ残存スル百哩ノ独線ヲ「アゾーレス」ニ延長セン事ヲ提議シタル次第ナリト答ヘタリ

依テ更ニ佐分利ヨリ右ノ案ヲ実行スルコトトナル場合ニハ交換ノ方法ハ如何ニスル積ナリヤト問ヒタル処「「フィリップス」」ハ交換ニハ二様ノ方法アルベク即チ第一ハ先ヅ「ハリファックス」線ヲ英国ニ帰属セシメテ其価格ハ英国ヨリ独逸ノ貸方ニ計上シ然ル後ニ米国側ヨリ提供ス可キ一線ト交換ヲ為スニ在リ第二ハ始ヨリ「ハリファックス」線ヲ米国ニ帰属セシメタル上米国ヲシテ一面其価格ヲ独逸ニ仕払ハシムルト同時ニ一面他ノ線ヲ英国ニ提供シ米国会社ノ所有ナラバ所有権ヲ英国政府ニ移シ英国会社ノ所有線ニシテ米国会社ガ単ニ借入居ル場合ニハ其租借権（九十九年ヲ期限トス）ヲ英国政府ニ移スヲ得シムルニ在リ

右ニ対シ佐分利ヨリ第一ノ方法ハ先ヅ当該線ヲ英国ノ手ニ帰属セシムルガ故ニ巴里以来英仏日ノ主張セル所ト首尾一貫シ当ヲ得タルモノト認ムルモ第二ノ方法ハ当該線ヲ最初ヨリ米国ニ帰属セシムルモノニシテ三国従来ノ主張ニ反スルノミナラズ累ヲ日本及ビ仏蘭西ニ及ボスベク仮令英米間ニ協議成立スル場合ニ於テモ日仏ハ之ニ反対セザルヲ得ザルコトトナルヤモ計ラレズト述ベ注意ヲ喚起シ置ケリ

尚「フィリップス」ハ英国ト北米トヲ聯絡スル線ハ戦前十三本アリ戦争ノ為メ「ペンザンス」「ハリファックス」線ヲ加ヘテ十四本トナリタルモ若シ前記交換ヲ実行スル時ハ同線ノ一端ハ「ハリファックス」ヨリ紐育ニ移サルルハ勿論米国ノ目的トスル所ハ英国ノ「コントロール」ヲ避ケントスルニ在ルヲ以テ「ペンザンス」ノ陸揚ヲ廃シテ之ヲ和蘭辺ニ移スベキガ故ニ一線ヲ失ヒテ戦前ノ十三本ニ立戻ル訳ニテ英国ニハ不利ナルモ全ク妥協ノ為メ交換ヲ提議セルモノナリト云ヘリ

要スルニ今日迄ノ処米国ノ主張ハ英国之ヲ聴カズ英国ノ提議ハ米国之ヲ容レズ英国ニ妥協ノ意志アルハ明瞭ナルモ諸般ノ状況ヨリ推察スルニ他ノ諸国ニ先立チ英米両国間ニ何等諒解成立シ居ルモノトハ思ハレズ現ニ十五日ノ会議ニ於テ英国委員「スパーリング」ガ（脱）「スミス」ハ今十九日ニ出掛クル筈ナリ旅行中英米ノ間ニ何程話ヲ纏メ得ベキヤニ付テハ英国側ニ於テモ何等予測シ居ラザル模様ナリ

我方ヨリハ影山委員外随員五名参加セリ

三八八　十月二十日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

外国海底電信線陸揚問題ニ関スル日本政府ノ方針ニ付請訓ノ件

別　電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第六七号　海底電信線陸揚権問題ニ関スル英仏伊各国ノ取扱振報告ノ件

通第六六号　（十月二十二日接受）

通第四二号末段ニ関シ我方ニ於テモ近日中ニ外国海底電信線陸揚問題ニ関スル我国ノ態度ニ付説明セザルベカラザルコトト相成ルベキ処陸海軍ノ意嚮ニ付テハ陸軍次官ヨリ井上少将ヘノ電報欧第五九一号ノ次第アリテ運用権ヲ包含スル陸揚権ハ之ヲ許サズトノ趣旨ニテ運用ヲ包含セザル陸揚権ハ別問題トナル処英仏伊各国ノ現在ノ取扱振ハ大体別電通第六七号ノ通リニテ英ハ外国会社ニ対シ一定ノ条件ノ下ニ㈠陸揚㈡運用及ビ㈢公衆トノ直接関係則チ受付配達ノ三者トモ之ヲ許シ居リ仏国ハ受付配達ヲ許サザルモ陸揚及運用ハ一定ノ条件ヲ附シテ之ヲ許シ居リ伊国ハ現在ニ於テハ原則トシテ陸揚ヲ許サザルモ三四ノ例外アリ又将来ハ更ニ或方面ニ新線ノ陸揚ヲ許ス心算ナルガ如クナルニ付我ガ方ニ於テモ此際主義トシテハ運用権ヲ包含セザル陸揚ハ一定ノ条件ノ下ニ之ヲ許スコトトシ具体的個々ノ問題ニ付テハ其都度関係国又ハ会社トモ協議スルコトトスベキ旨ヲ宣明シ然ルベキヤニ思考セラルルニ付右ニ関スル政府ノ御方針至急御決定ノ上何分ノ御訓令アル様致シタシ

（別　電）

十月二十日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第六七号　海底線陸揚権問題ニ関スル英仏伊各国ノ取扱振報告ノ件

通第六七号　（十月二十二日接受）

海底線陸揚権問題ニ関聯シ英仏伊各国ノ取扱振関係国委員ニ就キ聞知シタル所左ノ如シ

㈠英国ハ一定ノ条件ノ下ニ外国会社ニ対シ海底線ノ陸揚運用並対公衆直接関係ヲ認ム但シ英国政府ト共有スル場合ヲ除クノ外外国政府ニ対シテハ海底線ノ陸揚ヲ認メズ右条件ノ重ナルモノ左ノ如シ

英本国及属領政府ノ一方ニ対シ料金ヲ半減スルコト各種ノ電報ニ対シ同等ノ待遇ヲ与フルコト同一線路ニ依リ電送セ

ラルル電報ニ対シ料金ヲ区々ニセザルコト（例ヘバ英米間ニ海底線ヲ有スル会社ガ同時ニ英国ヲ通過シ仏国ニ至ル線ヲ有スル時ハ米英間ノ料金ヲ米仏間ノ料金ヨリ高額ナラシムルコトヲ得ズ）会社ハ駅逓総監ノ同意ナク料金ノ引上ヲ為スベカラザルコト戦時事変等ノ場合ニ於テハ英政府ハ会社海底線ノ一部及電信局ヲ占有管理シ該線通過ノ電報ノ校閲ヲ行ヒ之ガタメ会社ガ重大ナル損失ヲ受クルトキハ政府ハ之ニ対シ賠償スルコト

(二)仏国ハ国内電信ハ凡テ政府ニ於テ之ヲ経営シ居リ外国会社ニ対シ海底線ノ陸揚及運用ヲ認ムルモ対公衆直接ノ関係ハ絶対ニ之ヲ認メズ米国会社ノ「コントロール」スル線ニシテ仏国ニ陸揚セラレ居ルモノハ二線アリ一ハ「ウェスタン、ユニオン」ノ線ニシテ「ハーヴル」ニ陸揚シ（同地ニテハ「オペレート」セズ）巴里ニ延長セラル巴里局ノ電信従事員ハ仏国人ニ限ラル又他ノ一線ハ「コンマーシャル」線ニシテ「ハーヴル」ニ陸揚シ巴里ニ接続サレ「ハーヴル」ニハ単ニ「オペレート」スルノミニテ同地ノ電信従事員ハ仏政府ノ同意ヲ得タル上米人ヲ使用スルコトヲ得ルモ巴里ノ従事員ハ仏人ニ限ラル

(三)伊国ハ現在ニ於テハ原則トシテ外国ノ政府又ハ会社ニ対シ海底線ノ陸揚ヲ許サズ但シ二三ノ例外アリ即チ「シシリー」「マルタ」間 Atranto Zante 間及 Atranto Corfu 間ノ三線之ナリ三線共伊国政府之ヲ運用ス「トリエスト」「コルフ」線ハ唯一ノ例外トシテ陸揚運用共外国会社ニ対シ之ヲ許ス但シ対公衆直接関係ハ之ヲ認メズ尤モ該会社トノ契約ハ一九二四年ニテ満期トナルニ付買収ノ上伊国政府ニテ運用ヲ為ス筈又将来例ヘバ「シシリー」「チュニス」間伊太利西班牙間等ニ外国会社ト海底線陸揚ノ要求アル場合陸揚ノミナラバ之ヲ許ス（但シ要塞開港地及自国海底線ノ既ニ存在スル場所等ヲ除外ス）ベキモ運用ハ之ヲ許サザルベシ

三八九　十月二十一日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題ニ関シデヴィスト会談ノ件

通第六八号　（十月二十三日接受）

十月十七日ヨリ四日間ノ旅行中ニ少クトモ英米間ノ話合ハ或程度迄進行スベキヲ以テ我方ニ於テモ当地ニ於テ「デヴィス」ト一応ノ話合ヲ遂ゲ度キ所存ナリシ処十月十九日「モリス」大使ノ催セル宴会ニ於テ「デ」氏ト談話ノ際独線処分問題ニ関スル感想ヲ問ヒタルニ同氏ハ大西洋独線ノ問題ハ面倒ヲ極メ居ルニ比シ太平洋ノ方ハ其ノ解決寧ロ容易ナルガ如シト云ヘリ尚其ノ節日米両国間ニ諸般ノ情報ヲ交換シテ両国民意見疎通ヲ計ルノ必要ヲ力説シ日米両国政府協同ニテ一海底線ヲ敷設シタル上是ヲ会社ニ貸附クル事最モ適当ナルベシト云ヘリ

越エテ翌二十日午後国務省ニ於テ同氏ト会見シ試ニ本使ヨリ今日迄ノ処ニテハ日米両国間ノ主張ハ何等抵触ノ点ナキガ如ク思考セラレ是ガ解決ハ寧ロ容易ナルベキヤニ思ハルル旨ヲ述ベタルニ「デ」氏ハ旧独線ハ全部英仏日三国ニテ是ヲ獲得シテ米国ニハ何等ノ配分ヲ為サザルハ公平ニアラズ尤モ米国ノ重ヲ置ク処ハ線ノ所有権ニアラズシテ「サーヴィス」ノ点ナリト云ヘルニ依リ本使ハ「サーヴィス」ノ回復ハ日本ニ於テモ大イニ希望スル所ナリト述ベタルニ「デ」氏ハ更ニ「ヤップ」那覇線ハ米国ニ取リテハ支那トノ交通上極メテ重要ナル処日本ハ別ニ小笠原島及「グァム」ヲ経テ蘭領印度ニ通ズル交通線ヲ有スルニ付那覇「ヤップ」線ハ比較的ニ必要少カルベシト云ヘリ

依テ本使ハ該線ハ南洋諸島ノ統治上日本ニトリ絶対ニ必要ナリトテ「ヤップ」問題ニ関スル其後ノ米国側ノ意向ヲ探リタル処「デ」氏ハ前回貴大使トノ談話ヲ大統領ニ通ジタルニ大統領ハ頗ル意外ノ感ヲ表セリト云ヒ更ニ五月七日ノ決定ニハ単ニ The German Islands トアリテ All Islands ト云ハザルニ非ズヤト述ベタルニ付本使ハ The Islands トアリテ何等ノ除外ナケレバ「ヤップ」ヲ包含スルハ当然ナリト答ヘタリ「デ」氏ハ更ニ大統領ハ「ヤップ」ヲ国際化スルコトニ付テハ卒直ニ牧野全権ニ申入レ置キ（昨年四月二十一日牧野子ト大統領トノ会見ヲ指スモノノ如シ）タリトノコトナリト云ヘルニ付本使ハ牧野全権ガ大統領ノ意見ニ対シ会議場ニテ異議ヲ唱ヘタルコトハ前回申述ベタル通リナリ若シ日本委員ノ強硬ナル反対アリタルニ係ラズ五月七日日本委員ニ出席ノ機会ヲ与ヘザル三国代表者ノ会議ニ於テ「ヤップ」ヲ除外シテ南洋諸島ノ委任問題ヲ決定シタリトセバ不信義ノ措置ニシテ日本委員ハ之ヲ黙認スベキ謂ナシト述ベ進ンデ「ヤップ」ヲ国際化セリトセバ聯盟規約ノ決定ニ抵触スルコトトナルトノ本使ノ意見

ニ対シテ其後如何ニ考ヘラレタリヤト突込ミタル処「デ」氏ハ規約ノ文句ヲ閲覧シタル上規約ニハ“certain of the South Pacific Islands”トアルコトヲ指摘シタルニヨリ南洋諸島中ニハ旧独領ニ属セザル島嶼アルガ故ニ右ノ字句ヲ用ヒタルモノナリ若シ「ヤップ」カ其内ニ包含セラレザルモノトセバ「ヤップ」ハ何国ノ委任統治ニ属セシムル積リナリシヤ解釈ノ道ナキニ非ズヤト反駁シタルニ「デ」氏ハ規約ニハ“can be best administered”トアリテ“should be”トハ云ハズトテ殆ド取ルニ足ラザル議論ヲナシ終リニ委任統治ノ問題ハ今回ノ会議ニテ決定シ得ベキモノニアラズ若シ日本カ愈々「ヤップ」ノ委任統治ヲ引受クルコトトナラバ「ヤップ」那覇ニ対スル日本ノ主張ノ鞏固トナルベキハ是ヲ認メザルヲ得ザルモ兎モ角現在ニ於テハ「ヤップ」島ノ「ステータス」ニ関スル日本主張ハ米国之ヲ承認スルコト能ハズト云ヘリ

尚該談話中「デ」氏ハ日本ハ既ニ「グァム」小笠原島線ヲ有スルニアラズヤト云ヘルニ対シ本使ハ右ハ大ナル誤解ニシテ同線ハ米国ノ所有ナリト云ヘルニ「デ」氏ハ始メテ此誤解ニ気付キタルモノノ如ク何レ更ニ「ロッジャース」トモ協議スベシト云ヘリ

最後ニ「デ」氏ハ米国ハ日本ニ対シ決シテ不当ノ票決ヲ強ヒントスルモノニアラズト云ヘルニ付本使ハ「ヤップ」ニ線ニ対スル独逸権利ヲ要求スベシトノ訓令ヲ受ケ居リ此点ニ付テハ如何ニ本使ニ於テ本国政府ヲ動カサントスルモ到底不可能ナルコトヲ確信シ居ル旨ヲ述ベ若シ日米間ニ話ガ纏マラザレバ日本ハ現状ヲ維持スルノ外ナシト告ゲタルニ現状維持ハ米国ノ断ジテ同意セザル処ナリト云ヘリ依テ本使ハ解決ヲ見ザレバ現状ヲ維持スルノ外方法ナシ米国ハ強力ヲ以テ「ヤップ」島ヨリ日本ヲ追出ス積リニハアラザルベシト揶揄シタルニ「デ」氏ハ笑ヒナガラ右様ノ積リニハアラズトテ茲ニ会談ヲ終リタリ

前記ノ外尚二三ノ点ニ付論議アリタルモ之ヲ要スルニ「デ」氏ハ是迄本使トノ会見又ハ会議ノ席上ニ於テ述ベタル所ヲ繰返セル外何等有力ナル議論ヲ提議スルコトナク又前回本使ヨリ五月七日ノ決定ノ際「ヤップ」ヲ除外セル証拠アラバ提出サレタシト云ヒタルニ依リ一応議事録ハ之ヲ取調ベタルモノノ如クナルモ何等反証ヲ掲ゲ得ザリシハ勿論ナリ

在英、仏、独、伊各大使在蘭公使へ転電セリ

三九〇　十月二十一日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

独蘭電信会社ニ関スル覚書ニ付蘭国代理公使ト佐分利書記官会談ノ件

通第六九号　（十月二十三日接受）

往電通第五六号ニ関シ十月二十日佐分利書記官在米蘭国代理公使ト会談ノ際曩ニ同代理公使ヨリ提出セル覚書末段ニ所謂独蘭電信会社ノ電信系ノ継続（コンティニュエーション）トハ「ヤップ」ヲ中心トスル三線ノ現状ヲ変更セズシテ使用スルノ趣旨ト解セラルル処右ニ相違無キヤト問ヒタルニ代理公使ハ其通リナリト答ヘタリ

尚談話中佐分利ヨリ太平洋ニハ今後幾多ノ新線ノ敷設アルベク現ニ日米両国間ニモ一線ヲ新設セントスル計画アルガ貴方ニ於テモ「メナド」「グァム」間ノ直通線ヲ敷設セントスルガ如キ計画無キヤト問ヘルニ代理公使ハ右様ノ計画ハ曽テ耳ニシタルコト無シト言ヒ同官ノ関スル限リ真卒ナル言明ト認メラレタリ

右ハ往電通第四〇号「ブラウン」ノ談ト相違シ居ルモ同電末段ノ次第モアルニ付電報ス

三九一　十月二十二日　在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島ノ日本委任統治支持方在米国英国委員ニ電報セル旨英国外務次官言明ノ件

第九一一号　（十月二十五日接受）

貴電第四七一号ニ関シ二十一日永井仏国代理大使ニ聞ク所ニ依レバ同大使ハ訓令ニ基キ同日外務次官「サー、アイア、クロー」ニ対シ独逸海底電線処分ニ付英、仏、日三国共同支持ノ態度ヲ採ル様致シ度キ旨申入レ次官ハ之ニ賛意ヲ表シタルモ果シテ英国委員ニ其趣旨ノ訓令ヲナスヤ否ヤニ付テハ即答セザリシ趣ナル処本二十二日本使次官ニ面会シ往電第八七九号ノ「ノート」ニ言及スルヤ「サー、アイア」ハ「ヤップ」島ノ日本委任統治ニ附セラルベキハ確定ノ事実ナリト信ズル旨ヲ在米英国委員ニ電報済ナル趣ヲ語リ尚同次官ハ最後決定ノ際「ウィルソン」ニ於テ「ヤップ」島ニ関スル何等留保ヲナシタルコト無シ但シ其以前ニ於テハ数度之ヲ口ニセルコトアリタリト附言シタリ

在欧米各大使及在蘭白各公使へ転電セリ

三九二　十月二十三日　在仏国石井大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島ノ国際化ニ関スル米国ノ主張及旧独線ニ関スル同国ノ要求ニ反対スル旦仏両国ノ協調方ニ付申越ノ仏国覚書全文電報ノ件

第一六三六号　極秘　（十月二十五日接受）

往電第一六〇二号ニ関シ本使覚書ニ対シ仏国政府ヨリ十月二十日附ヲ以テ更ニ左ノ通リ覚書ヲ送附シ越セリ以下其ノ全文

Le Gouvernement Impérial du Japon a bien voulu attirer l'attention du Gouvernement français sur l'intention du Gouvernement américain de proposer à la Conférence Internationale des Câbles, qui siège en ce moment à Washington, l'internationalisation de l'ile de Yap. Il fait observer qu'il n'appartient pas à cette Conférence de décider du statut déjà réglé par une décision du Conseil Supérieur du 7 mai 1919. Il demande, en conséquence, au Gouvernement français, dans le cas où

cette question serait soulevée à Washington, de rester fidèle à la décision prise par le Conseil Supérieur et d'inviter son représentant à appuyer le point de vue du Japon.

Le Gouvernement français a l'honneur de faire savoir au Gouvernement japonais qu'il partage entièrement son avis à ce sujet et que M. Lanel, Président de la Délégation française à la Conférence de Washington, a été invité à soutenir le point de vue du Gouvernement japonais.

Le Gouvernement français aime à penser que, conformément aux assurances données par Son Excellence l'Ambassadeur du Japon à M. Berthelot, cette entente ne se bornera pas à la question de l'ile Yap, mais s'étendra également aux revendications des deux Gouvernements sur les câbles allemands. Une étroite entente entre la France et le Japon est, en effet, indispensable pour résister aux prétentions sur ces câbles de Pays qui, sans

avoir contribué à leur capture ni à leur relevé, entend aujourd'hui les revendiquer.

Le Gouvernement français serait heureux d'apprendre que ce point de vue est entièrement partagé par le Gouvernement japonais et qu'il a adressé des instructions en conséquence à sa Délégation à Washington, comme le Gouvernement français en a adressé Lui-même à sa propre Délégation.

在欧米各大使ヘ転電セリ

Ishii

三九三　十月二十三日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第一分科会第四回会議ノ模様報告ノ件

別電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第七一号

旧独線処分問題ニ関スル仏国委員ラプラデル陳述

通第七〇号　（十月二十六日接受）

十月二十一日午後四時第一分科会第四回会議ヲ開クノヨリ先キ旅行ニ出掛ケタル委員等ハ同日早朝帰華シ午前十時ヨリ第四分科会ノ会合アリタルガ其際米国側ヨリ午後ニ「デヴィス」「ブラウン」両氏会合ノ席ニ付第一分科会ハ之ヲ延期シ度旨申出デタルモ仏国委員ハ午後ノ会議ニ於テ仏国側ノ意見ヲ陳述スル積リニ付予定ヲ変ゼザラン事ヲ主張シ終ニ開催ノコトニ決シタル次第ナリ

開会劈頭ニ於テ仏国委員長「ラネル」述ベテ曰ク聯合国ガ平和克復後其適当ト認ムル所ニ従ッテ処分スルノ意思ヲ以テ独逸ノ海底線ヲ切断転設セルコトハ米国ニ於テ之ヲ不当ト認ムル旨幾度カ米国委員ニ依リ宣言セラレタリ然レ共是等海底線ヲ独逸ニ還附セザルノ主義ハ昨年五月中巳里最高会議ニ於テ決定セラレ而シテ平和条約第二百四十四条附属書第七及ビ昨年五月三日ノ覚書ハ右決定ノ趣旨ニ従ッテ作製セラレタルモノニシテ今回ノ会議モ亦前記ノ精神ヲ遵守スベキモノニシテ直接ニモ又間接ニモ旧独線ノ所有権及ビ使用権（Use）ヲ独逸ニ還附スベキモノニアラズト

次ニ仏国委員「ラプラデル」ハ右ニ関シ別電第七十一号ノ通リ法理論ヲ陳述セリ

右ノ宣言ハ少ナカラズ米国委員ヲ驚カシタル様子ナリシガ

「デヴィス」ハ右仏国ノ意見ニ対シテハ追テ書面ヲ以テ答弁スベキモ米国委員ハ電線ノ所有権ヲ独逸ニ還附スルコトヲ主張シタルコトナシ巴里ニ於テ一方英、仏、日ト他方米、伊トノ間ノ意見ノ相違ハ妥協ノ結果電線ヲ五国ノ手ニ収メ之ガ代償ヲ独逸ニ仕払フコトトナシタル次第ニシテ五国ハ其適当ト認ムル処ニ従ッテ是等電線ノ処分ヲ決定スベク之ガ決定ニ付何等制限ヲ受クルコトナキ筈ナリト云ヒ他国委員ノ所見ヲ問ヘリ之ニ対シ伊国ハ何等制限ナキモノト思考スル旨ヲ答ヘタルモ英国委員ハ理論上五国ハ其決定ニ付何等制限ヲ受クルコトナキモ当該線ヲ以テ急速ニ独逸トノ通信ヲ回復スルハ巴里ニ於ケル商議ノ精神ニ反スベシトテ稍答ヲ曖昧ニシ本使ハ仏国委員ノ陳述ハ十分聴取スルヲ得ザリシヲ以テ（窓外自働車ノ響激シク実際能ク聴キ取リ得ザリシナリ）議事録ヲ閲覧ノ上ニテ何等意見ヲ表示スベキコトヲ留保スト答ヘ置キタリ

右ニテ五時閉会ス尚次回十一月三日ニ開会ノ筈ナリシモ差当リ火曜日迄延スコトトセリ

因ミニ「ラネル」「ラプラデル」両氏ハ旅行ニ出掛ケズ当地ニ残リ居リタルガ会議ニ於テ法律上ノ議論ヲナスコトハ認シタルモノト言フベシ右規定ノ結果トシテ独逸ハ之等海底電線ヲ戦前ノ状態ニ復帰セシムベキノ権利ヲ全然喪失シタルモノニシテ此点ニ関シテ条約ノ規定ハ明瞭ニシテ一点ノ疑無キヲ以テ条約ヲ離レタル一切ノ論争ハ全ク徒労ニ属スベシ独逸ニシテ此等海底電線ヲ旧陸揚地ニ復帰セシムルコトヲ要求サルルニ於テハ米国モ亦戦前ニ有シタル独逸トノ直接通信ヲ回復スルタメ右電線ノ復旧ヲ要求スルコトヲ得ザルハ勿論ナリ然ラザレバ独逸ハ平和条約規定ニ依リ奪ハレタル陸揚ヲ米国ノ仲介ニ依リテ回復スルコトトナルベク斯クノ如キハ同条約ノ文言竝ニ精神ニ反スル而已ナラズ独逸ニ直接ニ陸揚ゲセラレ居リタル線路ヲ利用シ得タリトノ単純ナル利益ヲ一変シテ第三者ニ対抗シ得ベキ権利トナスノ不都合ナル結果ヲ生ズベシ仏国委員ハ右ノ法理論ハ独線処分問題解決ノ骨子トナルベキモノト認ム

在英、仏、独、伊、各大使及在蘭公使ニ転電セリ

去ル十九日ニ之ヲ決定シ其旨我方ニ内話シ居リタルモ我方ニ於テハ日仏間ノ聯絡ヲ成ルベク外部ニ知ラサザルノ趣旨ニ依リテ特ニ本使ガ意見ヲ後日ニ留保シ置キタル次第ナリ為念申添フ

英、仏、独、伊、蘭ヘ転電セリ

（別　電）

十月二十三日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第七一号

旧独線処分問題ニ関スル仏国委員ラプラデルノ陳述

通第七一号　別電

巴里講和会議中「スコット」博士ハ米国ヲ代表海底電信線委員会ニ於テ海底電信線ハ軍事上ノ必要アル場合ニ限リ押収シ得ベキモノナルヲ以テ右ノ必要無キニ至ラバ直チニ之ヲ其所有者ニ返還シ且之ヲ旧態ニ復帰セシムベキモノナリト主張シ之ニ対シ英、日、仏三国ハ反対ノ意見ヲ強硬ニ主張シタリ而シテ戦時中聯合国ガ手ヲ着ケタル海底線ハ之ヲ独逸ニ返還スルコト無クシテ平和条約第二百四十四条附属書第七ニ依リ独逸ハ海底線ニ関シ各種ノ権利権原又ハ特権ヲ放棄スベク私有ニ属スルモノニ付テハ価格ヲ賠償ストノ規定ヲ設クルニ至リタルヲ以テ同条約ハ右三国ノ意見ヲ確

三九四　十月二十六日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

国際通信予備会議第五分科会ノ模様報告ノ件

別　電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第七三号

仏国委員提案ノ十八事項

（十月二十八日接受）

通第七二号

本月十二、十四、二十三日第五分科会（五国間通信改善問題）ヲ開キ各国何レモ鋭意本件ニ関シ努力シ居ル旨声明シタルガ尚日本委員ハ此趣旨ヲ明示スル為日本ノ現状竝目下改善着手中ノ大要ニ付説明スル処アリ二十三日ノ会議ニ於テハ仏国委員ハ本件ニ関シ別電十八事項ヲ提案シ更ニ伊国ハ世界的通信ノ敏活ヲ期センガ為ニ官報ヲ主トシ特別ノ場合ニ限リ公衆報ヲ取扱フ無線局ヲ各地ニ設置スルノ計画案ヲ立テ度キ希望ヲ述ヘ英国モ主義ニ於テ賛成シ米国ハ少クモ五国間ノ政府ニテ官設局ヲ設置シ官報ノ疎通ヲ期スヘク一方各国モ亦商業通信ヲ取扱フヘキ無線局ヲ設置スヘシト論シ米国ハ別ニ私設会社（特ニ二国間ヲ接続スルモノ）ノ「コントロール」ニ関スル問題ノ研究ヲ希望シ次回ヨリ上

記ノ事項ニ亘リ討議スルコトトナレリ

（別電）

十月二十六日在米国松原大使発内田外務大臣宛電報通第七三号

仏国委員提案ノ十八事項

通第七三号

1. Constitution by creating of new means or by absolute specialization of wires of world net work, distinct from national net work of different offices concerned.

2. Duplication of international lines and constitution of alternative lines in such manner as to prevent interruption of great world routes in particular to assign international service, special wires following devious routes in such manner as to make good main lines in case of interruption.

3. Application of best modern technical practice in constitution of international communications avoiding, however, appropriation of telephone circuits for telegraphic service.

4. Organization of special measures for maintenance of international communications in permanent condition of good operation.

5. Adoption of useful technical measures (duplication of lines, introduction of apparatus of systems of greater speed) as soon as upon any international line of communication connecting two offices delay in transmission of thirty per cent of telegrams exceeds average delay of all.

6. Immediate procedure to study any construction of lines, cables and radio stations for which would traffic may demonstrate necessity. This necessity may be considered as established as soon as thirty per cent of telegram directly exchanges between two stations are subjected to delay in transmission exceeding average delay on this line of communication.

7. Restoration to service of lines interrupted during war.

8. Organization of direct long distance communications in order to avoid necessity for manual transmission in countries traversed.

9. General extension of duplex and of automatic transmission on cables.

10. Adoption of means for placing equipment of offices and international lines on level with needs of international telephone.

11. Organization in all large offices of special services assigned to execution and control of international service in order that international telegrams may as far as possible be kept separate from internal telegrams.

12. Measures to be taken for achievement progressively supression of urgent telegrams.

13. Undertaking on part of various government offices to compel private companies subject to their jurisdiction to adhere without reservations to Convention of Petrograd and Convention of London, and to carry these into effect.

14. Application of measures permitting public to find in all countries identical facilities in all that concerns international telegraphic communication.

15. Examination of all possible reduction of tariffs for benefit of press services.

16. Revision of international tariffs or parts of tariffs involved in fixing of world service charges so as to maintain these charges as far as possible in neighborhood of cost of service.

17. Agreements between offices and companies for purpose of unifying tariffs for greatest possible number of routes connecting two countries.

18. Reduction of delays in transmission beyond those at which charge is remitted to send message in conformity with existing international regulations.

Shidehara

三九五　十月二十七日　内田外務大臣ヨリ
在英国林大使宛（電報）

通信予備会議ニ於テ日英仏三国協調ノ実ヲ挙ゲル様我在英米各国大使ニ訓電方仏国大使申出ニ付英国当局ニ申入方訓令ノ件

第四八五号

在仏大使発本大臣宛第一六〇二号末段ニ関シ本月二十二日在本邦仏国大使本国政府ノ訓令ニ基キ埴原次官ヲ来訪シ過日石井大使ト「レーグ」氏（ベルトローノ誤ナラン）トノ会談ニ依リ㈠日本ハ「ヤップ」島ノ国際管理案ニ反対シ同島ノ問題ハ最高会議ノ決定ニ従フヘキモノニシテ華盛頓会議ノ権限外ニ属ストスル主張ニ付仏国政府ノ支持ヲ求ムルコト㈡仏国ハ日本ノ右主張ヲ支持シ「ヤップ」ヲ中心トスル三海底線ハ日本ニ帰属スヘキモノナリトスル代リニ日本側ニ於テモ仏国管理中ノ独逸海底電信一線ニ関スル仏国ノ要求ヲ支持センコトヲ求ムルコトトナリタル次第ナルガ仏国政府ハ本問題ニ関シ日英仏三国ノ完全ナル一致ヲ特ニ必要ト認ムルガ故ニ帝国政府ヨリ在英米各大使ニ対シ三国協調ノ実ヲ挙クル様電訓アリタキ旨ヲ申出テ更ニ翌二十三日

同大使ヨリ私信ヲ以テ右談話ノ追加トシテ仏国ノ要求スル一線トハ「エムデン」「ブレスト」「アゾーレス」紐育線ヲサス旨申越セリ就テハ貴電第九一一号御来示ノ次第アルモ尚必要ト認メラルル場合ニハ在英仏国大使トモ打合ノ上英国当局ニ対シ本問題ニ関スル協調ヲ益々鞏固ナラシムル様重テ申入レラレ度シ

右欧米各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ

三九六　十月二十七日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

旧独逸海底電線処分問題ニ関シ仏国側ガ要求ヲ変更セル事情調査方訓令ノ件

第四八五号

本大臣発在英大使宛第四八五号末段ニ関シ在本邦仏国大使ノ申出ニ依レハ同国ノ要求スル所ハ「エムデン」「ブレスト」「アゾーレス」紐育ノ一線ニシテ貴電通第三一号ノ㈡及通第四七号前段ト一致セズ或ハ仏国ニ於テ妥協案トシテ新ニ右ノ要求ヲナサントスルモノニハアラザルカ若シ然リトセバ日本側ノ要求ニ影響スル所少ナカラザル次第ニ付仏国委員ニ就キ右変更ノ事情ヲ糺シ結果電報アリタシ

右各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ

三九七　十月二十七日　在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島ノ日本委任統治支持方英国委員ニ訓電セル旨英国外務次官言明ノ件

第九二〇号　（十月二十八日接受）

往電第九一一号ニ関シ其後仏国代理大使ニ対シ外務次官ハ英国政府ヨリ自国委員ニ対シ日、仏委員ト協調ヲ保ツヘキコト但シ三国委員合体シテ米国ニ当ルカ如キ外観ヲ呈セサル様注意スヘキ旨ノ訓電ヲ発シタル趣ヲ語レル由米、伊、仏、独、蘭各大公使ヘ転電セリ

三九八　十月二十七日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

国際通信会議公表委員会ノ発表文報告ノ件

別　電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第七七号

右発表文

通第七六号　（十月二十八日接受）

数日来通信会議ニ関シ種々ノ報道新聞紙上ニ掲載セラレタルヲ以テ本日公表委員会ヲ開キ第一公表別電第七十七号ヲ発表スルコトニ決定セリ

（別　電）

十月二十七日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第七七号
公表委員会ノ発表文

通第七七号

Statements recently appeared in press purporting to give substance of discussions taken place in International Communication Conference.

At first meeting it was agreed by all delegations that nothing should be issued for publication except with previous approval of delegations. Up to present no communication of any kind issued or authorized, consequently any statements which may have been published are not based on authority of any responsible member of any delegations. Conference thus far, dealing in detail with manifold technical problems presented but no results formulated; for example, one of subcommittee continued

discussion entirely this morning, of details regarding certain provisions of Radiotelegraph Convention and International Telegraph Convention. Discussion was free exchange of views and intended merely to let each delegation know views of other delegations. The very freedom of discussion precluded any publication of views presented. Likewise this afternoon technical section, considering scientific aspects of radio, continued discussion of such problems. In neither of these meetings were any matters which would be of general public interest, although matters were of importance to those considering general questions in detail. Subcommittee on publicity consisting of representative of each delegation been appointed.

Shidehara

（右和訳文）

近時米国新聞紙上ニ国際通信会議討議ノ内容ナルモノ掲載セラレアル処同会議ノ内容ハ予メ各国代表委員ノ同意ヲ得タル場合ノ外一切公表セサルコトト為リ居リ且今日マテ同会議ニ於テ発表シタルモノ又ハ発表ヲ許シタルモノ一モ無キヲ以テ新聞紙ニ掲載セラレタルモノハ何レモ責任アル代表者ノ権限ニ基キタルモノニ非ス会議ハ此レマテ諸種ノ技術上ノ問題ヲ仔細ニ討議シタルカ未タ何等ノ纏リタル結果ヲ見ルニ至ラス例ヘハ或ル小委員会ニ於テハ本日午前全部ヲ費シテ無線電信条約及国際電信条約ノ或ル条項ヲ議シタレトモ同議事ハ単ニ意見ノ自由ナル交換ニ過キスシテ各国委員ヲシテ互ニ他国委員ノ意見ヲ知ラシメントスルニ止マリ而モ討議カ極メテ自由ニ行ハレタル関係上其ノ内容ヲ発表スル能ハス本日午後ノ技術部会ニ於テモ無線電信ノ科学的方面ニ関シ右ノ如キ問題ノ討議ヲ継続シタルカ右何レノ会合ニ於テモ其ノ議事ハ一般問題ヲ仔細ニ考察スル者ニ取リテハ重要ナレトモ一般世人ニ興味アル事項ハ一モ無カリキ尚議事ノ公表ニ関シ各国代表者ヨリ成ル一ノ小委員会任命セラレタリ

三九九　十月二十八日　在英国林大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議ニ於ケル日英仏三国ノ同一態度ニ関スルタイムス紙掲載ノ華府通信ニ付報告ノ件

第九二二号　（十月二十九日接受）

通信会議ニ関シ英国政府ハ米国側ニ対シ日、英、仏同一ノ態度ヲ執ルノ方針ヲ不明ニ附シ置カントノ意嚮ナリシ趣ナルガ米国側ニ於テハ其ノ機微既ニ洩レタルモノト見エ十月二十五日附「タイムス」左記華盛頓通信御参考ニ供ス

通信会議ハ秘密裡ニ行ハレツツアルモ日英協同シ米国ノ正当ナル権利ヲ奪フトノ説ノ洩ルルヲ防グ能ハズ排英新聞ハ英国ガ「ヤップ」ニ対スル日本ノ主張ヲ支援シ依テ其ノ現ニ大西洋ニ獲持スル旧独逸海底電線継続所有ニ関シ日本ノ援助ヲ求メントスト焚付ケ仏国ガ英国ヨリモ更ニ多ク小電線ノ所持者ナルコトハ之ヲ不問ニ附シ居レリ又共和党ハ本件ヲ以テ大統領ガ英国及聯合諸国ノ我利的外交ヲ制止シ能ハザル一例ナルコトヲ国民ニ印象セシメント努メ大統領ガ「ヤップ」及大西洋電線獲得ニ関スル日英ノ主張ヲ承認シタリトスルモ敢テ怪マズト揚言セリ

右報道半バ真ナリトスルモ通信会議ハ遺憾乍ラ行詰リト謂ハザルヲ得ズ殊ニ大統領選挙運動最後ノ一週間ニ斯ノ如キ問題ヲ討議セルコトスラ会議責任者ガ危険ヲ冒セルニ非ズヤトハ冷静ナル人士ノ疑ハザルヲ得ザル所ナリ云々

在米大使へ転電セリ

四〇〇　十月二十九日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

国際通信会議予備会議ニ於ケル仏国側ノ要求変更ニ関シ仏国委員長談等報告ノ件

通第八一号　（十月三十一日接受）

貴電第四八五号ニ関シ十月二十八日仏国委員長ニ就キ質サシメタル処仏国ハ未ダ当初ノ主張ヲ棄テズ殊ニ「ブレスト」「カサブランカ」「ダカール」線ハ「ブレスト」紐育線ト同ジク仏国ニトリ極メテ必要ノ線ナリト云ヒ其ノ語気ヨリ察スレバ「ペルナンブコ」「モンローヴィア」線ニハ左程重ヲ置キ居ラザルモノノ如クナリシ趣ナリ

尚「ラネル」ノ談ニ拠レバ今日迄ノ処米国側トノ間ニ問題トナリタルハ「ブレスト」「アゾーレス」紐育線ノミニシ

テ米国側ハ同線ノ陸揚地ヲ「ブレスト」ヨリ和蘭ニ移サン事ヲ要求シ居ル趣ナリ右ニ就キ「ラネル」ハ陸揚地ヲ和蘭ニ移スハ独逸ニ移スト殆ド同一ノ結果ニシテ仏国輿論ハ之ニ反対スベキハ明ナリトテ妥協ノ困難ナルヲ嘆シ居リタリト

尚英国側ハ両三回「デヴィス」ト会見シタルモ之又未ダ解決案ヲ見出サザルガ如ク第一分科会ハ十月二十一日第四回会議以来一回モ会合セズ

英仏独伊蘭ニ転電セリ

四〇一　十月二十九日　在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ日本政府ヲ支持スル様在米英国大使ニ訓令セル旨英国政府ヨリ回答越ノ件

第九二七号　（十月三十一日接受）

往電第九一一号末段ニ関シ外務省ヨリ往電第八七七号本使「ノート」ニ対シ米国政府ニ於テ日本委任統治「ヤップ」除外要求ヲ為シタル場合必要アルニ於テハ日本政府ヲ支援スベキ旨在米英国大使ヘ訓令シタル趣二十七日附書簡ニテキ旧独線ト余リ差異無キモノタルヲ要シ且米国側ノ費用ニテ該線ヲ加奈陀「ノバ、スコチヤ」ヨリ英国ニ敷設替スル事ヲ要ス又現在ノ「ペンザンス」「ハリファックス」線ハ米国側ノ費用ニテ紐育和蘭線トスベク英国ハ其ノ線ノ中旧「ハリファックス」「ペンザンス」線丈ヲ所有スル事トナルベシ

三、仏国ハ到底米国ノ提議ニ同意スベカラザル事ヲ述ベ本国政府ノ訓令ヲ請ヒ居ル形ナリ

四、「ブレスト」「カサブランカ」「ダカール」線及「ペルナンブコ」「モンローヴィア」線ニ付テハ問題起リ居ラズ米国ノ意向ハ仏国ニ於テ「ブレスト」紐育線ヲ放棄スルニ於テハ右二線ハ是ヲ仏国ニ与フル趣旨ナルガ如シ

五、右ノ次第ニテ大西洋ノ問題ハ全然仏国ノ犠牲ニ依リテ解決セントスルモノニシテ米国ハ一面ニ於テハ戦前情態ノ回復ヲ主張シ一面ニ於テハ仏国ノ所有ニ帰スベキ線ハ「ブレスト」紐育線ヲ除去スルモ尚旧独線全体ノ五分ノ一ヲ超過スル事大ナルヲ以テ右ノ犠牲ハ至当ナリト云フニアルガ如シ

英仏独伊及和蘭ヘ転電セリ

回答シ越セリ

米仏伊ヘ転電セリ

四〇二　十一月一日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独海底電線処分ニ関シ英米間及仏米間各個別交渉ノ現情報告ノ件

通第八六号　（十一月三日接受）

十月三十一日英国委員長「ブラウン」及仏国委員長「ラネル」ト別々ニ会見ス

双方ガ極秘トシテ談話セル所ヲ綜合スレバ英米及仏米個別交渉ノ現情ハ左ノ如シ

一、米国ハ「ペンザンス」「ハリファックス」線及「ブレスト」紐育線ヲ英米両国ノ共有ト為シ両線共紐育和蘭線ニ改メン事ヲ主張シツツアリ

二、右ニ対シ英国ハ共有ヲ排除シ個別所有主義ヲ主張ス即チ英国ハ「ペンザンス」「ハリファックス」線ヲ其ノ所有トシ是ト米国ノ「コントロール」ニアル（所有権ノ交換ニ非ズシテ永借権ノ交換ナリ）一線ト交換スベク米国側ノ提供スベキ線ハ年数ニ於テモ又速度ニ於テモ英国ノ提供スベ

四〇三　十一月二日　在本邦仏国大使ヨリ
内田外務大臣宛

通信予備会議ニ於テ仏国側ニ対シ日本側ノ積極的支持方申越ノ件

Tokyo, le 2 nov. 1920.

Your Excellency,

I have received from Paris a telegram stating that the Japanese representative in the Submarine Cables Conference at Washington has failed in one of the last sittings to support the French delegate.

The French delegate had asserted in opposition to the American views that the French Government had quite rightfully seized during the war the German submarine cable Emden-Brest-New York and having managed it these last five years had a right to keep it.

It appears that the Japanese delegate did not support that contention.

I am directed by the French Government to

make an application to Your Excellency in order that the Japanese delegate be more active henceforward in supporting his French colleague. This one will in return make his endeavours to have the Japanese demands carried by the conference.

Could you kindly grant me a few moments tomorrow or the day after in order that we may settle that question.

Yours very sincerely.

(Sgd) Edmond Bapst

四〇四　十一月三日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

旧独蘭電信会社所属ノ海底電線ニ関シ閣議決定ノ趣旨ニ依リ蘭国ト交渉ノ旨通報ノ件

別電　同日内田外務大臣発在米国幣原大使宛電報第五〇六号

右閣議決定

第五〇五号

帝国政府ハ国際通信会議予備会議ニ於テ旧独蘭電信会社所

属ノ海底電線ニ関スル独逸権利ノ承継ヲ主張スルト同時ニ一方和蘭政府ニ対シテハ別電第五〇六号ノ趣旨ニ依リ交渉ヲ試ムルコトニ先般閣議決定シ近日東京ニ於テ右商議ヲ開始スル筈ナリ御含迄

在欧各大使及在蘭公使へ転電アリ度シ

（別電）

十一月三日内田外務大臣発在米国幣原大使宛電報第五〇六号
旧独蘭電信会社所属ノ海底電信線処分ニ関スル閣議決定

第五〇六号　別電

第一　独逸国ハ対独平和条約ノ結果旧独蘭電信会社所属ノ海底電信線ニ関スル一切ノ権利ヲ主タル同盟及聯合国ノ為ニ抛棄シタルガ右独逸ノ権利ハ左ノ理由ニ依リ帝国ニ帰属スヘキモノナルコト

㈠　日独戦争中帝国海軍ハ右電信線ヲ切断シ之ヲ戦争ノ目的ニ転用シタルガ千九百十九年五月二日ノ主要聯合国首相会議ニ於テ独逸ヨリ聯合国ニ譲渡セラルヘキ海底電信線ハ追テ其帰属問題決定スル迄之ヲ切断使用シタル国ノ管理ニ委スルコトニ決定セラレタルヲ以テ帝国政府ハ「ヤップ」ヲ中心トスル本件三線ヲ一体不可分ノモノトシテ爾来引続キ管理シ来レルコト

㈡　帝国ハ対独平和条約ノ結果「ヤップ」島其他赤道以北旧独領諸島ノ委任統治ヲ行フコトトナリタルニ依リ独逸ガ戦前右地方ニ於ケル本件電信線ニ対シ有シタル権利ヲ帝国ニ於テ承継スルハ極テ至当ナルコト

第二　右海底電信線ニ関シ戦前蘭国ニ於テ有シタル利益ハ帝国政府ニ於テ之ヲ尊重スヘキコト

第三　帝国政府ハ日蘭両国ノ友好親善ナル関係ヲ顧念シ且右電信線ニ関スル日蘭共通ノ利益ハ将来益々之ヲ増進センコトヲ希望スルカ故ニ日蘭両国間ニ於テ大体戦前ニ於ケル独蘭間ノ関係ニ準シ新ニ協定ヲ遂ゲンコトヲ欲スルモノナルコト

第四　前項ノ趣旨ニ顧ミ差向キ「ヤップ」「メナド」間ノ通信ヲ成ルベク速ニ開始センカ為日蘭間ニ適当ナル具体的方法ヲ協定スルコト

四〇五　十一月三日　日本外務省ヨリ
在本邦蘭国公使館宛

旧独蘭電信会社所属ノ海底電信線ニ関シ日蘭両国間ニ新ニ協定締結方提議ノ件

独逸国ハ対独平和条約ノ規定ニ依リ自己及其国民ノ名ニ於テ主タル同盟及聯合国ノ為ニ旧独蘭電信会社所属ノ「ヤップ」上海間、「ヤップ」「グアム」間及「ヤップ」「メナド」間海底電信線ニ関スル各種ノ権利権限及特権ヲ総テ抛棄シタルガ日本帝国政府ハ右独逸ノ権利権原及特権ガ左ノ理由ニ依リ結局日本ニ帰属スベキモノナルコトヲ確信ス

一、「ヤップ」島ヲ中心トスル右三線ハ同一会社ノ経営ニ係リ一体ノ電信系ヲ形成シ居ル処一九一四年十月日本海軍ハ「ヤップ」島占領ト共ニ該海底線ヲ押収シ我権力ノ下ニ置ケリ一九一九年五月二日ノ主要聯合国首相会議ニ於テ独逸ヨリ聯合国ニ譲渡セラルヘキ海底電信線ハ追テ其帰属問題決定スル迄之ヲ押収使用シタル国ノ管理ニ委スルコトニ決定セラレタルヲ以テ帝国政府ハ「ヤップ」ヲ中心トスル前記三線ヲ引続キ管理シ来レリ

二、日本ハ対独平和条約ノ結果「ヤップ」島其他赤道以北旧独領諸島ノ委任統治ヲ行フコトトナリタルニ依リ独逸ガ戦前右地方ニ於テ有シタル権利ヲ日本ニ於テ承継スルハ極テ至当ナルコト

帝国政府ハ前陳ノ如ク右海底線ニ対スル独逸権利ノ承継ヲ

主張スルト同時ニ和蘭カ戦前右海底線ニ関シ有シタル利益ハ公平ニ之ヲ尊重スルモノニシテ殊ニ帝国政府ハ日蘭両国ノ友好親善ナル関係ヲ顧念シ且右海底線ニ関スル日蘭共通ノ利益ハ将来益々之ヲ増進センコトヲ希望スルモノナルカ故ニ蘭国政府ニ対シ左ノ提議ヲナシ同国政府ニ於テ右ニ対シ好意的考量ヲ加ヘラレンコトヲ希望ス

一、旧独蘭電信会社所属海底電信線ノ将来ノ経営運用ニ関シ日蘭両国間ニ於テ大体戦前ニ於ケル独蘭間ノ関係ニ準シ新ニ協定ヲ遂クルコト

二、右協定ニ先チ差向キ「ヤップ」「メナド」間ノ通信ヲ成ルヘク速ニ開始セシカ為日蘭間ニ適当ナル具体的方法ヲ協定スルコト

大正九年十一月三日

日本帝国外務省

（右英訳文）

Germany, by virtue of the Treaty of Peace, has renounced on her own behalf and on behalf of her nationals, in favour of the Principal Allied and Associated Powers, all the rights, titles and

privileges of whatever nature in the submarine cables formerly owned by the German-Netherlands Telegraph Company, covering the Yap-Shanghai, Yap-Guam, and Yap-Menado, cables. The Imperial Government are convinced that the said German rights, titles and privileges should, for the following reasons, be transferred to Japan:

1. The three cables radiating from Yap Island were formerly operated by one and the same company and formed one integral system of telegraph service. In October 1914 His Majesty's Navy seized these cables, simultaneously with its occupation of Yap Island, and brought them under its control. The Council of Premiers of the Principal Allied Powers, held on May 2, 1919, decided that the cables to be transferred to the Allies by Germany should remain until the matter should be finally settled, under the custody of the Powers that had seized and were using them, and in consequence His Majesty's Government have continued, and are continuing, to have under their control the aforementioned three cables.

2. Japan being, in consequence of the Treaty of Peace with Germany, empowered to undertake mandatory administration of Yap and other Islands in the north of the Equator, which formerly belonged to Germany, it is most natural and proper that Japan should succeed to all rights which Germany enjoyed before the war in her possessions above referred to.

The Imperial Government hold that, as stated above, they are fully entitled to succeed to Germany's rights in the aforementioned cables; at the same time they are prepared duly to respect the interests which the Netherlands may have enjoyed in those cables before the war. Especially is it the desire of the Imperial Government, in view of the very amicable and friendly relations existing between the two countries, more and more to promote their common interests in these cables. In these circumstances, the Imperial Government have the pleasure to make the following proposals in the hope that they will be favourably considered by the Government of the Netherlands.

1. The Governments of Japan and the Netherlands to conclude an agreement concerning the future management and operation of the cables which formerly belonged to the German-Netherlands Telegraph Company, such agreement to be in principle modelled on the relations which existed in this matter between the Netherlands and Germany before the war.

2. Japan and the Netherlands to agree upon concrete provisional terms with a view to enable the Yap-Menado line to be opened as soon as possible to public service even prior to the conclusion of the foregoing proposed agreement.

Department of Foreign Affairs.

Tokyo, October 3, 1920.

（欄外註記）

「九年十一月三日大臣決裁、十一月四日大臣ヨリ本覚書蘭国公使ニ手交済」

四〇六　十一月四日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

通信予備会議ニ於テ仏国側ニ対シ日本委員ノ積極的支持方仏国側ヨリ要望越ノ件

第五〇七号

在本邦仏国大使ハ本国政府ノ訓令ニ基キ本月二日附私信ヲ以テ最近通信予備会議ノ一会議ニ於テ日本委員カ仏国側主張ヲ支持セサリシコトアリタル趣ナルガ今後ハ日本側ニテ仏国ノ主張ヲ積極的ニ支持セラレ度旨申出テ翌三日埴原次官ヲ来訪ノ際本件ニ言及シ事情取調方依頼アリタル処右ハ恐ラク貴電通第七〇号ノ事情ヲ仏国側ニ於テ誤解シタルニ基クモノト察セラルルモ若シ貴官ニ於テ他ニ何等カ思ヒ当ラルル節モアラバ電報アリタシ尚貴電ニハ議事録閲覧ノ上意見ヲ表示スヘキコトヲ留保ス云々トアル処其ノ後右ニ付

何等意見ヲ開示セラレタルコトアリヤ併セテ電報アリタシ

右在仏大使へ転電アリタシ

四〇七　十一月四日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第一分科会ノ審議停滞情況報告ノ件

通第九二号　（十一月六日接受）

独線処分ニ関スル第一分科会ハ十月二十二日以来一回モ開会セズ英国側ハ予メ我方ト打合セノ上十一月一日ノ各国書記官会議ニ於テ翌二日第一委員会ヲ開キ大西洋問題進捗セザル間切メテ太平洋電線ノ問題ヲ議スル事トシタシトノ提議ヲナシタリ之ニ対シ仏国側ハ翌三日ニ延期方ヲ申出デタルモ米国側ニ於テ故障ヲ唱ヘ其後モ期日ニ付米仏間ニ意見常ニ一致セザル為メ遷延シ居リ漸ク今四日ノ書記官会議ニ於テ明五日開会スル事ニ決定セリ

大西洋独線ニ関スル英米及仏米ノ交渉ハ往電通第八七号ノ通リニテ英米ノ間ニハ実際上大ナル困難横ラザルガ如キモ米仏ノ間ニハ殆ンド瞼ユ可ラザルノ溝渠アリト思考セラル仏国ハ目下ノ処外形上ニ於テハ本国政府ノ回訓ヲ待チ居ル

姿ニシテ英国側ハ仏国委員ニ於テ右回訓ヲ得次第仏国ヲ加ヘテ英米仏ノ会合ヲ催ス積リナルモ未ダ之ガ実行ヲ見ルニ至ラズ元来「ブラウン」ハ極メテ妥協的ニシテ米仏ノ交渉ニ付テモ結局仏国側ニ於テ譲歩スルノ外無カル可ク然ラザレバ米国ハ紐育ノ陸揚ヲ拒絶スルニ至ルヤモ計ラレズトノ意見ヲ有スルガ如キモ我方ニ於テ仏国側トノ接触ニ依リテ得タル感想ニテハ仏国側ニ於テ米国ノ現在ノ要求ヲ容ルル事ハ到底不可能ト認メラル

右ニ拘ラズ各国委員ハ夫々帰国ノ準備ヲ始メ十一月一日ノ書記官会議ニ於テ英国側ハ十一月十七日紐育発ノ汽船ニ一応船室ヲ留保スル旨ヲ声明シ又仏国側ハ十三日迄ニ会議ヲ終了セン事ヲ主張シ何等決定ニ至ラザリシモ仏国委員ハ依然十七日ノ船ニ一応船室ヲ留保シタル模様ナリ

形勢右ノ次第ナルヲ以テ米仏ノ間ニ何等折合ヲ見出スニ非ザレバ独線処分ノ問題ハ或ハ行詰リトナリ何等解決ヲ見ズシテ物分レトナル事無キヲ保セズ

現ニ伊国委員ノ如キハ仏国ハ結局本件ヲ紛糾セシメ何等解決ニ至ラシメザル積リナラント観測シ居ル位ナリ過日「ブラウン」ト会見ノ際同氏ハ若シ「ハリファックス」線ニ付

英米ノ間ニ妥協調ヒ而シテ他ノ諸問題ガ解決ニ到ラザル場合ニハ英国ハ予備会議ニ対シ「ハリファックス」線ニ付英米ノ間ニ成立ス可キ協定ヲ承認セン事ヲ求メタシトノ口吻ヲ洩シタルニ付本使ハ独線問題ハ一括シテ解決ス可キモノニシテ部分的ノ解決ヲ許サザルモノト思考スル旨ヲ述ベ置ケリ尚十月三十一日「ラネル」トノ会見ノ際同氏ハ米国ノ要求ニハ到底同意ノ途無キ旨ヲ称ヘタルニ依リ本使ニ於テモ仏国ノ立場ニ同情ヲ表シタル上何等米仏間ニ妥協ノ方法アリ得可キヤト試問シタルニ対シ同氏一個人トシテハ「ブレスト」紐育線ノ所有権ハ之ヲ仏国ニ収メタル上米国ヲシテ紐育ノ端ヲ運用セシメ該線ヨリ生ズル利益ヲ米仏ノ間ニ分配スルガ如キハ一案ナル可シト思考スルモ米国ガ右ニテ満足ス可キヤ又仏国政府ニ於テモ之ヲ承諾シ得可キヤ不明ナリト云ヘリ

「ラネル」ハ其後紐育ニ赴キ昨今仏国側ガ如何ナル考ヲ有シ居ルヤ不明ナルモ最近数日ノ情報御参考迄ニ電報ス

在英仏独伊各大使へ転電セリ在蘭公使へ転電セリ

四〇八　十一月五日　内田外務大臣ヨリ在米国幣原大使宛（電報）

旧独蘭電信会社所属ノ海底電線ニ関シ蘭国公使ニ覚書手交ノ旨通報ノ件

第五一〇号

往電第五〇五号ニ関シ十一月四日在本邦蘭国公使ノ来省ヲ求メ往電第五〇六号ノ趣旨ヲ認メタル覚書ヲ手交シタル処同公使ハ帝国政府ノ態度ヲ感謝シ早速本国政府ニ電報ノ上何分ノ回答ヲナスベキ旨ヲ述ベ引取リタリ

各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ

四〇九　十一月六日　内田外務大臣ヨリ在米国幣原大使宛（電報）

旧独電線処分問題ニ関シ英仏ノ要求ヲ充分支持シ我目的達成ニ尽力方訓電ノ件

第五一二号

独逸電線処分問題ニ関シテハ往電第四三一号ヲ以テ日英仏三国協調ノ態度ニ出ヅル様英仏委員ト打合方申進シ其後右ニ付英仏政府ト交渉ノ結果ハ其都度ノ転電ニ依リ御承知ノ通リニテ今日迄既ニ右ノ趣旨ニ依リ適宜措置セラレ居ル次第ナルモ在仏大使発本大臣宛第一六三六号及在英大使発本大臣宛第九二〇号ノ次第モアルニ付此上乍ラ英仏ノ要求ヲ充分支持シ益々三国ノ歩調ヲ揃ヘ我目的ヲ達成シ得ル様精々御尽力アリタシ

為念右各大使ヘ転電アリタシ

四一〇　十一月六日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議ニ於ケル日本側ノ態度ニ関スル誤解ハ氷解セル旨回報ノ件

通第九三号　（十一月八日接受）

貴電第五〇七号ニ関シ御推察ノ通リ仏国委員ガ拙電通第七〇号ノ事情ヲ誤解シタルモノニ外ナラザル可ク右ニ付テハ我ヨリ進ンデ念ノ為メ仏国委員ニ説明ヲ与ヘ置キタル次第アリテ最早氷解シ居ルコト勿論ト思考シタルモ今後ノ事モアルニ付一応仏国委員ヘ貴電ノ趣ヲ話シタル処頗ル当惑ノ体ニテ誤解ハ既ニ氷解シ居ルノミナラズ其ノ後我方ノ態度ニ付テハ大イニ感謝シ居ル次第ナル旨ヲ確言セリ

仏ニ転電セリ

四一一　十一月六日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

旧独電線処分問題解決ノ為我方ニ於テ斡旋ノ労ヲ取ルヲ得策ト認メ意見具申並請訓ノ件

通第九四号　（十一月八日接受）

通第九十二号ニ関シ今日ノ形勢ニテハ独線問題ハ未解決ノ儘ニテ予備会議終了スルコトナキヤヲ保セズ今回選挙ノ結果トシテ米国側ガ如何ニ其ノ要求ヲ緩和スベキヤ又仏国側ガ如何ナル態度ニ出ヅベキヤ（仏国委員ハ従来我方トノ談話中屢々其ノ内選挙モ来ルベシト意味アリ気ニ云ヘリ）尚不明ナルモ若シ米国側ガ依然戦前状態ノ回復即現在ノ「ブレスト」紐育線ヲ以テ独逸又ハ和蘭トノ直接通信ヲ回復スベシトノ主張ヲ固持スルニ於テハ米仏間ノ商議ハ到底纏ルノ見込ナシト観測ス然レドモ元来仏国ノ最モ嫌フ処ハ独逸トノ通信ヲ回復スルコトニアルヲ以テ若シ米国ガ前記ノ主張ヲ抛棄スルニ於テハ必ズシモ妥協ノ道ナキニ非ザルベク従テ大西洋ノ問題ハ急転直下突嗟ノ間ニ纏ルコトナシトモ限ラズ現ニ仏国ガ「ペルナンブコ」、「モンローヴィア」線ニ余リ重ヲ措カザルハ往電通第八十号ノ如ク又「ブレスト」紐育線ヲ以テ独逸又ハ和蘭トノ直接通信ヲ回復スル利益ヲ米仏間ニ分配スルコトハ往電通第九十二号末段ニテ報告ノ通リ少クトモ「ラネル」ノ関スル限リ異議ナキ語気ヲ本使ニ洩セリ抑々今回ノ会議ニ於テ一旦独線処分問題ヲ討論シ乍ラ結局何等ノ解決ヲ見ザルニ於テハ一面ニハ世界ニ向ッテ五国ガ何レモ利己主義ノ為メ協調ヲ保チ得ザルコトヲ示スコトトナリ之ヲ我ガ国ノ立場ヨリ考フレバ太平洋独線問題ヲ未決ノ儘トナシ置クトキハ当分「グァム」及「メナド」トノ連絡ヲ回復スルコトヲ得ズシテ「ヤップ」日本線ハ孤立ノ状態ヲ持続セザルベカラザルコトトナルヤモ計ラレズ貴電第五一〇号ニ拠レバ政府ニ於テハ今回蘭国ト交渉ヲ開始セラレタルモ独逸ノ権利ヲ日本ニ於テ継承スルコトヲ未ダ五国ニ於テ決定セザルニ先チ蘭国ガ予メ米国及英国ニ計ラズシテ日蘭間ニ協議ヲナスコトヲ敢テシ得ルヤ否ヤハ疑ナキ能ハズ従ッテ我方トシテハ寧ロ今回ノ会議ニ於テ五国ノ決定トシテ独逸ノ権利ヲ日本ニ帰属セシメ置クコト緊切ナルベク然ラザレバ仮令我ガ方ニ於テ蘭国トノ間ニ協定ヲ為サントスルモ実際上行ハレ難カルベキヲ恐ルルモノナリ若シ前述ノ如ク太平洋独線ノ問題ヲ

本会議ニ於テ解決スルコトガ大局上我方ニ取リ得策ナリトセバ幸ニ今回会議ノ開会以来今日迄占メ来レル我方ノ有利ナル地位ヲ利用シ此ノ際全般ノ解決ニ向ッテ斡旋ノ労ヲ執ルコト最モ適当ノ措置ト認ム若シ右ノ斡旋ニシテ効ヲ奏セバ我方ノ尽力ニ依リテ会議ノ破裂ヲ防ギ以テ独線問題ノ解決ニ達セシメタルコトトナリ将来国際関係上ニ於ケル我ガ地歩ヲ進ムルノ利アルベク又成功セザル場合ニ於テモ我方ガ解決ノ誠意ヲ有シタルコトハ各国殊ニ米国ヲシテ之ヲ認識セシムルコトトナルベキヲ以テ日米国交上益アリテ害ナキモノト云フヲ得ベシ加之我方ニ於テ斡旋ノ労ヲ執ル場合ニ於テ米国トノ関係ニ於テハ結局日英仏合同ノ最終妥協案ヲ提ゲテ米国ノ諾否ヲ決セシムルコトトナルベキヲ以テ米国ガ之ヲ拒否スル場合ニハ同国ニ於テ解決不能ノ責任ヲ負ハザルベカラザル立場トナルベシ之ニ反シ今日ノ儘ニテ物分レトナルトキハ我方ニ於テ如何ニ周到ナル注意ヲ以テ行動スルトモ日仏両国ニテ解決ヲ不能ナラシメタリトノ感想ヲ抱カシムルコトハ到底之ヲ免ルベカラザルヲ以テ我方トシテハ対米関係上好マシカラザル影響ヲ残スヤモ計ラレズ当地ニ於ケル現在ノ実情ハ通第九五号所報ノ通リ英国ハ大

体米国側ト話合ヲ纏メ居リ而シテ之ガ最終ノ決定ヲ見ル為メニハ仏国ニ於テ犠牲ヲ払フコト必要ナルモ元来英国ハ従来ノ関係上仏国ノ主張ヲ支持セザルベカラザル地位ニアルヲ以テ自ラ進デ仏国ヲ説キ落スコト能ハズ却テ仏国ガ自発的ニ譲歩スルヲ俟チ居ル実情ニテ英国ノ此態度ニ付テハ仏国側ニ於テモ不愉快ノ感ヲ懐キ居ル次第ナリ又伊国ハ米国ニ依リテ紐育「アゾーレス」線ヲ収メント企テ居ルヲ以テ仏国トハ敵同士ノ関係ニアリ従テ目下米仏間ノ妥協及ビ全局ノ解決ノ為メ斡旋ノ労ヲ取リ得ベキモノアリトセバ我方ヲ措キ他ニ之ヲ需ムベカラザル有様ナリ然レドモ我方ニ於テ万遺算ナキヲ期スル為メ茲ニ一応考慮シ置クベキハ万一米国側ニ於テ我方斡旋ニ応ジ従来ノ主張ヲ放棄シテ大ナル譲歩ヲナシ大西洋ノ問題ヲ急拠解決スル場合ニ太平洋ノ問題ガ解決ヲ見ズシテ取遁サルルガ如キコトアリテハ我ニトリ極メテ不利ナル事態ヲ惹起スベク孰レノ途大西洋ニ関スル問題ガ急速ニ纏ル場合ハ素ヨリ各国互譲ノ結果ニ出ヅルモノナルコト勿論ナルニ付我方ニ於テモ幾分ノ妥協ヲ余儀ナクセラルルコトアルベキハ予メ覚悟シ居ラザルベカラズ政府ニ於テモ万止ムヲ得ザル場合ニハ我方ニ於テ或ル程度ノ譲歩ヲナスモ尚全般ノ解決ヲ計ル方得策ナリトノ御意見ナルニ於テハ本委員等ハ

一、「ヤップ」「グァム」線ノ現状ヲ変ゼザルコト及ビ

二、同線ノ「ヤップ」端ハ日本ニ於テ之ヲ運用スベキコトヲ条件トシテ「ヤップ」「グァム」線ニ対スル旧独逸ノ権利ハ之ヲ米国ニ与フルコト

ヲ以テ我妥協ノ最大限トスルヲ最モ策ノ得タルモノト思考スルニ付御詮議ノ上何分ノ儀御回電アリタク尚本件斡旋ハ三四日中ニ之ヲ始ムルニ非ザレバ時宜ヲ失スルニ付右御含ミノ上大至急御詮議ヲ煩ハシ度シ

四一二　十一月七日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第一分科会第五回会議ノ模様報告ノ件

別　電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第九八号

旧独電線処分問題打開ノ為実際的解決ニ尽力スベキ旨声明ノ件

通第九七号　（十一月九日接受）

十一月五日午後四時第一分科会第五回会議ヲ開キ「デヴィス」議長ヨリ前回仏国委員ノ陳述ニ対スル米国委員ノ答弁書ヲ朗読セルガ何等重キヲナス議論無ク議長ハ英米及ビ英仏ノ交渉ニ付簡単ナル報告ヲ為シタリ其内容ハ往電通第八六号ト大体同一ナリ

当日ノ会議中注意ヲ惹キタルモノ二三アリ

第一ハ「デヴィス」ガ英米ノ交渉ノ経過ニ付報告シ英米ノ間ニハ実際上協定成立シ居ル旨述ベタル際英国委員ハ英国ハ右ノ協定ヲ確定的ノモノトスルノ用意アリト云ヘルニ対シ仏国委員ハ旧独線ハ一括シテ五国ノ有トナリ居ルモノニシテ其一部ニ関スル協定ト雖モ五国全体ノ同意ナケレバ決定シ得ベカラザル旨ヲ述ベタルコトニシテ

第二ハ閉会前本使ニ於テ別電第九八号ノ陳述ヲナシタルコトナリ右本使ノ陳述ハ少ナカラズ米国側ヲ当惑セシメタルベシト見受ケラレタリ

在欧各大使及ビ在蘭公使ヘ転電セリ

（別　電）

十一月七日在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛電報通第九八号

旧独線処分問題打開ノ為実際的解決ニ尽力スベキ旨声明シタル件

通第九八号

前回会合ノ際仏国委員ハ旧独線ヲ戦前ノ状態ニ戻シ独逸トノ直接通信ヲ回復センコトヲ要求スルノ権利ハ何国ト雖モ之ヲ有セズトノ意見ヲ陳述シタル処日本委員ノ見ル所ヲ以テスレバ右ノ意見ハ法律上ノ議論トシテハ全然正当ナリト認ム

十月十五日本分科会第三回会合ノ際余ハ次ノ点ヲ指摘シ置キタリ即チ巴里会議中米国カ他ノ諸国ノ要求ニ対シ反対シタル点ハ此等海底線ヲ独逸ニ還付スヘキモノナリヤ否ヤノ問題ニ関係セルモノノ如シ然ルニ右ノ問題ハ其ノ後最高会議ニ於テ決定セラレ其ノ結果トシテ独逸ハ平和条約ニ於テハ特定海底線ニ関スル一切ノ権利権原ヲ五国ノ為ニ放棄セルコト之ナリ

米国ハ巴里ニ於テ何等自ラ此等海底線ヲ要求シタルコトナク又現時ニ於テモ斯ル要求ヲ為ス意ナキモノノ如シ

米国委員ノ重ヲ置ケルハ実ニ通信ノ復旧ニ外ナラズ而モ此ノ点ト雖モ余ハ米国ハ自己ノ有スル法律上ノ権利トシテ主張スルモノニ非ザルヲ信ゼントス米国会社カ戦前独逸ト協定ヲ為シ居リタル事実ハ米国ノ聯合国ニ対シテ主張シ得ヘキ何等法律上ノ権利ヲ構成スルモノト認ムルヲ得ズ従ッテ余ハ米国ノ意見ハ単ニ米国会社ト独逸トノ間ニ協定ノ存在セル事実ニ付注意ヲ喚起シ以テ旧独線ノ処分ノ決定スルニ当リ之ヲ考量ニ入レンコトヲ求メラルルニ外ナラズト推察ス海軍作戦行動中交戦国カ差押ヘ又ハ切断セル旧独線ニ依ル通信連絡ヲ戦前状態ニ回復スルコトニ付テハ国際法上定マレル規則モナク又五国ト独逸トノ間又ハ五国相互間ニモ何等明示又ハ黙示ノ契約アルコトナシ戦前ノ事情ハ戦争ニ依リテ一変スルハ勿論ニシテ平和条約ニ規定ナキ限リ何国ト雖モ戦前状態ノ回復ヲ要求スル権利ナシ

日本委員ノ見ル所ヲ以テスレハ現下ノ問題ハ如何ニセハ機宜ニ適応スルヤノ便宜問題ニシテ五国ノ何レニ対シテモ要求シ得ヘキ義務履行ノ問題ニ非ズ従ッテ吾人ハ右ノ便宜問題及戦争ニ依リ生シタル現実ノ事態ヲ攻究スルコトニ依リテ始メテ公平ナル解決ニ到着シ得ヘシ本会議ハ巴里会議ノ継続ナリ新ナル原則ヲ討議中ニ交ユルコトハ徒ニ事態ヲ複雑ナラシムルモノナリ

右ノ諒解ノ下ニ日本委員ハ独線処分問題ノ実際的解決ノ為欣然尽力ヲ致サントス解決ニ到達セズシテ本会議ヲ終ルコトハ五国ノ協調ニ関シ誤解ヲ抱カシムルノ結果ヲ生シ最モ忌ムヘキコトナリ余ハ右ノ広闊ナル見地ニ付テハ各国委員ノ等シク同感ヲ表セラルヘキヲ信シテ疑ハズ

四一三　十一月七日　在華盛頓清河海軍大佐ヨリ井出海軍次官宛（電報）

旧独線処分問題ニ関シ報告及意見具申ノ件

米通第三十四番　（十一月八日海軍省接受）

一、独線問題第五回（十一月五日）米ハ前回ノ仏ノ主張ニ対シ反駁セリ其ノ要旨ハ独ガ抛棄セリト云フ権利特権ハ交通ニ関スル米独合同的ノモノニシテ(Joint privilege)独国独リ之ヲ抛棄スル能ハザルナリ故ニ「独ハ凡テノ権利ヲ抛棄セリ」ト云フ仏ノ根拠ハ米ノ主張ヲ駁スルニ足ラズト云フニアリテ首肯シ難キ極メテ小六ツカシキ論戦ナリ（米通第二十八番電報参照アリ度）

次ニ米ハ交換法ニ依ル（不明）熟議成立ヲ披露シ（大使既電参照）英委員ハ此協定ハ他ノ独線ト離レテ決定的ノモノニナシ度ト迄附言セリ

次ニ米委員ハ米仏ノ熟議ハ紐育「ブレスト」線ヲ北欧ニ復旧セントスル米ノ希望ハ仏認容セスト報告シ別ニ米ハ右紐育「ブレスト」線ヲ復旧シテ米ノ有トシ仏ハ南大西洋線ヲ有スルコトニシ度ト附言ス仏委員ハ線路復旧ハ同意シ難キモ別途ノ相談ナラバ余地ナキニアラズト述ベ尚英米間協定案ニ就テハ独線ハ五国ノ有ナル故ニ五国ノ協定ヲ経ヘキモノナリト附言セリ

我大使ハ茲ニ於テ前回ニ於ケル仏ノ主張ヲ支持シツツ一方線路復旧論ノ根拠ナキヲ説キ暗ニ上海線復旧ノ不可ヲ諷シ大体ニ於テ米ニ痛撃ヲ加ヘツツ一転シテ大体論ニ移リ和衷協同此際処分ヲ決スヘキナリト結論セリ我大使ノ声明中ハ満場声ナク委員皆傾聴セリ右声明中「曩ニ巴里会議中米ハ電線ニ関シ何等要求ナカリシガ今ヤ線路復旧ヲ要求セリ」ノ痛語アリシニ対シ米委員ハ巴里ニ於テ電線ニ関係スル利益ヲ抛棄シタル覚ナシ何レ日本ノ声明ニ答フル所アラント云ヒ何等具体的進捗ナク散会セリ各国委員ハ第一分科会ハ行詰ト語ルモノ多シ

二、右ノ如ク形勢窮迫今ヤ一転ノ時機而シテ我ハ今論戦上有利ニアルモ此儘方針ヲ転換セズ大勢ノ推移ニ委スルトキハ（不明）ノミ妥協成立シ会議不成立ノ結果ニ陥ルモ

ノト観測ス従テ我ハ仏ト共ニ会議破壊ノ責ヲ諤ハルル不利アル外不成立ノ場合左ノ不利アリ

㈠時期不測ナル他日ノ会議ニ於テハ巴里会議若ハ戦争ニ根拠ヲ有シ初メテ強ミアル我論拠ハ歳月ノ経過ト共ニ米ノ唱フル世界交通公益論ニ比シ強ミノ逓下スル嫌ヒアリ

㈡「ヤップ」線ハ一方蘭会社アル以上英仏占有線ノ語アリ此儘連続運用スル能ハズ

㈢蘭ガ五国ノ承認ナキ我ヲ相手ニ「ヤップ」線ノ運用ニ協同スルヤ疑ハシキノミナラス会議破壊ノ反感ヨリ英米等ノ入智恵如何ニ依リテハ蘭ハ故障申立ノ危険ナキニアラズ故ニ我ハ時機トシテ比較的有利ナル此会議ニ於テ又今日迄ニ議論並大使内輪ノ会見ニ於テ米ニ対シ相応打撃ヲ加ヘ得タル今日トシテハ之ヨリ漸次妥協方針ニ出テ全体トシテハ会議ヲ纏ムルヲ本旨トシ太平洋線ニ関シテハ五国ノ力ヲ負ヒテ蘭会社ニ対シ得ル如ク今我地位ヲ獲得スルコト電信運用ノ実益ヲ収ムル点ニ於テ有利ナリ然レトモ会議ヲ成立セシメンカ為ニハ電線占有国ハ互譲トシテ何物カヲ米ニ与フヘキハ自然ノ帰趨ナルカ故ニ我ハ長ク三線全部占有論ヲ固執スルヲ得ズ小官ハ会議不成立ノ場合最モ不利ナル我地位ニ鑑ミ対米妥協ノ最大限度トシテ将来運用上我ニ実益最モ小ナル「グァム」「ヤップ」線ヲ犠牲トシ場合ニ依リテハ之ヲ米ニ与フルモ会議ノ成立スル如ク此際方針ヲ転換シ行クコト大局上得策ナリト思考ス

（右ノ線ハ米ガ「グァム」端運用ヲ拒否スル場合運用スルヲ得ズ）

大使電通第九十四号末段ハ初ヨリ右ノ線ヲ米ニ与ヘント提案スル意義ニアラズ米ヲシテ線路復旧ノ主張ヲ放棄セシメ一方ヲ宥メテ占有線ノ幾分ヲ米ニ与ヘシムル妥協斡旋ヲ試ムルニ先立チ我ノ認容シ得ヘキ最大限度ヲ内々立案シ置カントスルモノニシテ委員協議ノ上成立セルモノナリ斡旋ノ成否固ヨリ不明ナリ

三、他分科会終了期近ツキ無線関係英委員ハ十七日仏ハ十三日帰国スト云ヒ会議ハ大体ニ於テ浮足立シヲ認ム

四、第四分科会ノ乙海底線公法ノ米提案ハ附議サルル見込極メテ少シ（米通第二十七号参照）　（十一月七日）

四一四　十一月八日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

第一分科会第五回会議ニ於ケル本使陳述ニ対シ仏国委員長来訪謝意表彰ノ件

通第九九号　（十一月十日接受）

十一月八日仏国委員長「ラネール」態々本使ヲ来訪シ往電通第九八号本使陳述ニ対シ深厚ナル謝意ヲ表シタリ（八日）

在仏大使へ転電セリ

四一五　十一月九日　外交調査会附議案

「ヤップ」島及独逸海底電信線ニ関スル件

目下華盛頓ニ開催中ナル国際通信会議予備会議ニ於テ「ヤップ」島帰属問題並同島ヲ中心トスル独逸海底電信線処分問題討議セラルルニ当リテハ帝国委員ヲシテ左ノ方針ニ依リ措置セシムルコトト致度シ

一、「ヤップ」島ニ関シテハ既ニ昨年五月七日聯合国首相会議ニ於テ赤道以北ノ独領諸島全部ヲ帝国ノ委任統治ノ下ニ置クコトニ決定アリタルヲ以テ今回ノ会議ニ於テ米国側ヨリ該島ノ国際管理ヲ提議スルカ如キコトアル場合ニハ右既定ノ事実ヲ根拠トシテ飽ク迄之ニ反対スルコト

二、独蘭電信会社所属ノ「ヤップ」上海間「ヤップ」「メナド」間並「ヤップ」「グァム」間海底電信線ニ関シテハ独領時代ニ於ケルカ如ク「ヤップ」島ヲ其中心基点トスル状態ヲ維持シ且右三線ニ関スル独逸ノ権利ハ総テ帝国ニ帰属スヘキモノナルコトヲ主張スルコトトナシ万一他国ノ反対ニ因リ右主張ヲ貫徹スルコト能ハザル場合ニハ「ヤップ」「グァム」線ニ就テハ之ヲ日米共有トスルノ程度迄譲歩シ其他ハ前記ノ主張ヲ維持スルコト

三、日本ニ帰属スヘキ前記海底電線ノ米支両国内ニ於ケル陸揚権ニ就テハ夫々関係国政府ト別ニ協定スルコト

四、前記海底電線ニ対スル和蘭トノ関係ニ就テハ別ニ同国トノ間ニ協定スルコト

（欄外註記）

「大正九年十一月九日外交調査会ニ於テ時間ノ都合ニヨリ本案附議セラルルニ至ラザリシモ第二項ノ点ハ外務大臣ヨリ口頭ニテ説明セラレ一同ノ同意ヲ得ラレタル趣ナリ　堀内（印）」

四一六　十一月十日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

旧独線帰属問題ニ関シ米仏間ノ妥協及全局ノ解決ノ為斡旋方ニ付訓令ノ件

第五一九号（至急）

貴電通第九四号ニ関シ此際独線帰属問題ヲ解決スルコト諸般ノ関係上得策ト思考スルニ付御申越ノ如ク貴官ニ於テ米仏間ノ妥協並全局ノ解決ノ為斡旋ヲ試ミラレ度ク我要求ニ関シテハ此上トモ当初ノ主張貫徹ニ全力ヲ尽サルベキハ勿論ナルモ若シ我方ニ於テモ幾分ノ譲歩ヲナスニ非ザレハ解決不可能ナル場合ニハ

㈠「ヤップ」「グァム」線ノ現状ヲ変ゼザルコト

㈡同線ノ「ヤップ」端ハ日本ニ於テ運用スルコト

ノ二条件ヲ附シ同線ヲ日米共有トナスコトヲ最大限トシテ妥協ヲ計ラレ差支ナシ尚独線処分問題ノ部分的解決ハ帝国政府ニ於テ絶対ニ之ヲ承認シ難ク又前記ノ「ヤップ」「グァム」線日米共有ノ案成立スル場合ニハ和蘭ト交渉ノ結果ニ依リテハ或ハ該線ニ対シ和蘭ノ利益ヲ何等カノ形ニ於テ認ムルノ必要起ルヤモ計リ難キニ付御含置アリタシ

右参考トシテ在欧各大使及在蘭公使へ転電アレ

四一七　十一月十一日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題ニ関シ諸国間ノ関係ニ付報告ノ件

通第一〇〇号（至急）　（十一月十二日接受）

往電通第九四号ニ関シ

現在ニ於ケル諸国間ノ関係御参考迄ニ電報ス

旧独線ノ処分ニ関スル限リ今回ノ予備会議ハ巴里講和会議ノ引続キタル説ヲ有スルモノニシテ従テ五国間分布ノ有様モ巴里ニ於ケルト同シク一方英仏日ト他方米伊ト対抗スヘキハ自然ノ趨勢ト思考セラルルノミナラズ英国ハ戦時中大西洋独線ノ処分ニ付仏国トノ間ニ協定アリ又其後ニ於テモ両国政府間ニハ相当ノ了解アル次第ナルヲ以テ互ニ協同シテ米国ニ対抗スヘキ筈ナレドモ事実ハ之ニ反シ目下ノ処英仏両国委員ノ間ニハ単ニ了解ナキノミナラズ殆ンド連絡スラナキ実情ナリ其ノ爰ニ至レル原因ハ凡ソ左ノ通リト認メラル

一、英国委員ノ意見ハ独線処分ヲ考慮スルニ当リ次ノ点ヨリ出発ス即チ英国ハ戦時中仏国トノ間ニ約束アリタルモ右ハ米国参戦前ノ事ニ係リ其後米国ノ参戦アリタル上ハ多少事態ニ変更ヲ来スモノト云フヲ至当トス其後又戦時中英仏間ノ約束如何ニ拘ラス平和条約第二四四条ノ規定ニ各国トモ同意シタル上ハ米伊両国ニモ何等カ分前ヲ与フルコト公平ニアラスヤト云フコト是レナリ

二、英国委員ハ「ペンザンス」「ハリファックス」線ヲ戦時中切断転設使用シ居ルコト該線ハ英帝国ノ両点ヲ連接シ居ルコト同線ニ付テハ巴里会議討議中之ヲ加奈陀ヨリ取去ラサル趣旨ノ了解アリタルコト英国ノ要求スル線ハ独線全部ノ約五分ノ一ニ相当スルコト等ヨリ自己ノ立場ノ鞏固ナルヲ自覚シ仏国ヲ置去リニシテ米国トノ間ニ率先大体ノ妥協ヲ整ヘタルコト

三、英国ハ米国ト妥協スルニ当リ「ペンザンス」「ハリファックス」線ト米国ノ一線トノ交換ヲ行ヒタル後前者ヲ紐育ト和蘭又ハ独逸トノ間ニ敷設換スルコトヲ承認シ其結果トシテ戦前状態復旧ニ極力反対シ居ル仏国ヲシテ窮地ニ陥ラシメタルコト

四、仏国ハ米国カ戦前状態復旧ノ主張ヲ捨ツルニ於テハ何等妥協ノ途ヲ見出サントノ意思アル次第ナルモ仏国委員カ英国委員ノ態度ニ懐疑タラサル結果トシテ英仏委員間ニ疏通ヲ欠キ居ル為メ英国委員ハ仏国ハ全然妥協ノ誠意ナキモノト認メ居ルコト

五、英国委員ハ仏国カ旧独線全体ノ二分ノ一以上ヲ悉ク自己ノ手中ニ収メンコトヲ主張シ何等譲歩セサルハ貪欲ニ過クルトナシ現時ノ独線問題ノ進捗セサル責任ハ仏国ニアルモノト思考シ居ルコト

英仏間ノ関係ハ右ノ如クナルニ反シ米伊間ニハ当初ヨリ連絡アルモノノ如ク現在ニ於テハ米国ハ伊国ノ利益ハ自分ニ於テ引受クルノ態度ヲ示シ居レリ

我委員ハ此ノ間ニ処シテ仏国トモ又英国トモ最モ親密ナル関係ヲ持続シ居リ伊国トノ関係モ今日迄ハ極メテ良好ナリ独リ米国トノ間ニハ箇々ノ談判ニ於テモ又会議ノ席上ニ於テモ論争ヲ為シツツアルハ既電ノ通リナリ

在欧洲各大使在蘭公使ニ転電セリ

四一八　十一月十一日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

太平洋海底電線処分問題ニ関シ英仏伊各国ノ意向報告ノ件

通第一〇二号（至急）　（十一月十二日接受）
往電通第九四号ニ関シ

太平洋海底線処分問題ハ未タ会議ニ於テ具体的ノ問題トナリ居ラズ従テ之ニ対スル各国ノ意向ハ会議席上ニ於テ表示セラレタルコトナキモ今日迄諸国委員ト個々ノ接触ニ依リテ知リ得タル所ヲ綜合スレハ大要左ノ通リ

一、英国委員「ブラウン」ハ大体ニ於テ今尚往電通第四〇号所報ノ意見ヲ有スルカ如クナルモ十月三十一日会見ノ際ニハ同人一応ノ思付トシテ「ヤップ」日本線ヲ日本ノ所有トシ「ヤップ」「グァム」線ヲ米国ニ与フルノ案ニ付我意見ヲ問ヘリ（之ニ対シテハ何等立入リテ応答スルヲ避ケ単ニ我方ハ三線ニ関スル独逸権利ヲ継続スル積ナル旨ヲ述ベ且ツ蘭国側ハ現在ニ於テ「ヤップ」「メナド」線ノ位地ヲ変スル意向ナキヨウ思考セラルル旨注意シ置ケリ）

二、仏国委員長「ラネル」ハ十一月七日来訪ノ際同人一己ノ意見トシテ「ブレスト」紐育線ニ付仏米間ニ合併計算（「ジョイント、パース」）ヲ設クルモ一案ナルヘシト思考シ居ル旨ヲ述ヘタル後日本ニ於テハ「ヤップ」「グァム」線ヲ米国ト共有シ「ヤップ」「メナド」線ヲ和蘭ト共有サレテハ如何ト試問セリ（右ニ対シテ政府ノ訓令ト合致セザル旨ヲ答ヘ置キタリ）

三、伊国委員ノ一人ハ太平洋線ニ付我方トノ私ノ談話ニ於テ左ノ如ク述ベタリ即チ今回会議ノ目的トスル所ハ世界通信ノ便益ヲ増進スルノ方案ヲ講究スルニアリ太平洋ニ於テハ米国大陸ト支那トノ交通ハ最モ緊要ナルヲ以テ「ヤップ」日本線ハ之ヲ「ヤップ」上海線ニ復旧セシムルコト至当ナルヘク日本ト蘭領印度トノ通信ハ「日本」「グァム」「ヤップ」「メナド」線ニテ弁シ得ヘシト云ヒ尚「ヤップ」島自身何等価値ナキモノナルヲ以テ日本ト「ヤップ」島トノ連絡ハ其ノ必要ナカルヘシト云ヘリ右ハ極メテ不当ノ言ナルモ伊国側ハ初ヨリ米国側ト密接ノ間柄ナルヲ以テ多分右ノ如キ意見ヲ有スルニ至リタルハ米国側ヨリ吹込マレタルモノナルヘシト想像セラル

四、米国トハ往電通第六八号所報以来意見ヲ交換シタルコトナシ

在欧洲各大使及在蘭公使ニ転電セリ

四一九　十一月十三日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

米国ハ最高会議ガヤップ島ニ関スル最終的処分ヲ後日ニ留保セルモノト了解スル旨米国側ヨリ申越ノ件

別電　同日内田外務大臣発在米国幣原大使宛電報第五二九号
右申越ノ覚書全文

第五二八号

十一月十二日在本邦米国代理大使本大臣ヲ来訪シ至極控目ノ態度ヲ以テ別電ノ如キ覚書ヲ手交シ右ハ単ニ本国政府ノ訓令ニ依リ提出スルモノニシテ今日ハ右ニ付「ディスカス」スル積リニアラズト述ヘ且右覚書ハ他ノ関係国政府ニモ同様提出セラレタルモノト信ズル旨ヲ附言セリ依テ本大臣ハ本件ニ付テハ在米幣原大使ガ国務次官「デヴィス」氏ニ述ヘタル所ヲ全然裏書スルモノナル旨ヲ告ケ置キタリ右不取敢申進ス

本電及別電在英仏及伊各大使並在蘭代理公使ニ転電アリタシ

（別電）

十一月十三日内田外務大臣発在米国幣原大使宛電報第五二九号
十一月十二日在本邦米国代理大使ヨリ内田外務大臣ニ提出ノ覚書全文

第五二九号

MEMORANDUM

During the recent session of the Communications Conference some question has arisen in regard to the disposition of the Island of Yap by the Supreme Council. It is contended that this island was included in the islands north of the equator which were offered by action of the Supreme Council of May 7, 1919, under mandate to Japan. It was the clear understanding of the Government of the United States that for reasons vitally affecting international communications the Supreme Council at the previous request of Presi-

dent Wilson reserved for future consideration the final disposition of the Island of Yap in the hope that some agreement might be reached by the Allied and Associated Governments to place the island under international control and thus render it available as an international cable station. For this reason it is the understanding of the Government of the United States that the Island of Yap was not included in the action of the Supreme Council on May 7, 1919.

Tokyo, November 12, 1920.

（右和訳文）

覚　書

過般通信会議開催中最高会議ノ「ヤップ」島処分ニ関シ問題ノ発生ヲ見タリ右ハ即チ同島ハ千九百十九年五月七日ノ最高会議ノ行動ニヨリ日本ニ対シ統治委任ヲ提議セラレタル赤道以北ノ諸島中ニ包含セラルトノ論議ナリ合衆国政府ノ明ニ了解スル所ニ依レハ最高会議ハ国際通信ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキ種々ノ理由ニ鑑ミ前以テ「ウィル・ソン」大統領ノ要求アリシニ依リ同盟及聯合国政府カ本島ヲ国際管理ニ附シ以テ之ヲ国際海底電線仲継所トシテ使用ニ供スルヲ得ンカタメ何等カノ協定ヲ見ルヘキヲ期待シタルヲ以テ「ヤップ」島ノ終局的処分ハ将来更ニ考慮スルタメ之ヲ留保シタリ

右ノ理由ニヨリ合衆国政府ノ了解スル所ハ「ヤップ」島カ千九百十九年五月ノ最高会議ノ行動ニ包含セラレサリシトナスニアリ

千九百二十年十一月十二日

四一〇　十一月十三日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

太平洋海底電線問題ニ関シ英国側ヨリ解決案ヲ提示シ我方ノ意向ヲ打診ノ件

通第一〇四号　（十一月十五日接受）

十一月十一日太平洋海底電線問題ニ関スル左ノ解決案ニ付英国側ヨリ我方ノ意向ヲ其レトナク問合セ来レリ即チ「ヤップ」日本線ヲ日本ニ帰属セシメ「ヤップ」「グァム」線ヲ米国ニ帰属セシメ「ヤップ」「メナド」線ヲ蘭国ニ帰属セシムルコトトシ而シテ「ヤップ」島ニ於テハ自由ニ米国及蘭国ノ運用ヲ許スコト之ナリ

右ニ対シテハ取リ敢ヘズ「ヤップ」ニ於ケル米国又ハ蘭国ノ運用ハ絶対ニ之ヲ許スコトヲ得ズ其理由ハ「ヤップ」ハ聯盟規約ニ依リ設ケラレタル制限ノ外ハ全然日本ト同一法規ニ依リ支配セラル可キモノニシテ日本ニ於テ一般ニ外国ノ運用ヲ許サザル以上「ヤップ」ノミニ対シ例外ヲ設クルコト能ハザルコト及ビ戦前ニ於テモ「ヤップ」島ニ於ケル運用ハ独逸之ヲ管掌シ居リタルコトヲ述ベ置キタルモ時間ノ都合アリテ全部ノ討議ヲ了セズシテ会見ヲ終リタリ

前記ノ用語ニ拠レバ「ヤップ」三線ニ対スル蘭国ノ権利ハ「ヤップ」「メナド」線ヲ蘭国ニ与フルコトニ依リテ之ヲ消滅セシムルモノニシテ蘭国ニ対スル関係上ニ於テハ解決ハ簡単ナルモ一旦「ヤップ」「メナド」線ヲ蘭国ニ与ヘタル上ハ我国ニ於テ「ヤップ」島ニ於ケル外国ノ運用ヲ許サザルヲ理由トシテ該線ヲ取外シテ「グァム」「メナド」間ノ直通線ヲ設クルコトトナルノ虞アリ

在欧洲各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

四一一　十一月十三日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

太平洋海底電線ニ関シ蘭国ノ希望ニ付回示方稟請ノ件

通第一〇五号　（十一月十五日接受）

十一月十二日「ブラウン」ト会見ノ際同氏ハ往電通第一〇二号本使ノ注意ニ拘ラズ尚太平洋海底線ニ関スル蘭国ノ希望ハ往電通第四〇号所報ノ通リ「ヤップ」「メナド」線ヲ獲テ「グァム」「メナド」ノ直通線ヲ敷設スルニアリト信ジ居ルガ如キ口気ヲ洩ラシ本使ニ於テ在当地蘭国代理公使ニ本国政府ノ意向ヲ確カメンコトヲ求ムル様致度シト述ベタリ

然レドモ若シ蘭国政府ニシテ現在果シテ右ノ如キ希望ヲ有シ居ルニ於テハ我方ヨリ之ヲ確ムルハ藪蛇ノ虞ナキニ非ズト思考シタルヲ以テ本使ハ「ブラウン」ノ提言ハ不得要領ニ聞キ流シ置キタリ然レドモ此際本使ニ於テ蘭国ノ希望ヲ承知シ置クコトハ其希望ノ我ニ有利ナルト不利ナルトニ拘ラズ当地ニ於ケル折衝上便宜ニ付若シ東京ニ於テ蘭国代表者トノ接触又ハ海牙ニ於テ蘭国政府其他トノ接触ニ依リ既

ニ判明シ居ル点アラバ至急御電訓ヲ乞フ
在蘭公使ヘ転電セリ

四二二　十一月十三日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独線ノ権利継承ノ場合ニ於ケル該電線ノ価額ト我方要求ノ賠償金額トノ関係回示方稟請ノ件

通第一〇六号　（十一月十五日接受）

太平洋海底電線ニ関スル独逸ノ権利ヲ我国ニ於テ継承スル場合ニ其価格ハ平和条約ノ規定ニ依リ独逸ノ賠償計算貸方ニ計上スベキモノナル処英仏両国ガ独逸ニ要求ス可キ賠償ハ其額莫大ニシテ到底独逸ニ於テ完全ニ仕払得ザルヲ以テ海底電線ノ価額ヲ独逸ノ貸方ニ計上スルト云フハ単ニ名ノミニシテ実際ニ於テ英仏ハ何等之ガ為メ影響ヲ蒙ラザルモノノ如クナルモ米国及我国ハ独逸ニ請求ス可キ賠償額少ナキ為メ海底線ニ関スル価額ハ現金ニテ賠償計算中ニ支払フカ又ハ独逸ヨリ現実ニ我方ニ支払フ可キ額ヨリ実際引去ラルルコトトナルベキモノナリト当地諸国委員ニ於テ諒解シ居レリ就テハ我方ヨリ独逸ニ要求スベキ賠償ノ金額ノ大要及右賠償ト電線ノ価額トノ関係至急回示アリ度シ
在仏大使ヘ転電セリ

四二三　十一月十四日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独線帰属問題ニ関シ全局ノ解決斡旋ノ為仏英米三国委員ト会談ノ件

通第一一二号　（十一月十六日接受）

貴電第五一九号十一月十一日午後接到一先十二日朝「ラネル」ト次テ同日午後「ブラウン」ト会見シ更ニ十三日朝米国委員「ロジャース」ト会見セリ談話ノ要領左ノ如シ

「ラネル」ニ対シテハ日本委員ハ英仏日三国相互支持ノ趣旨ヲ最後迄徹底セシメンコトヲ切ニ要望シ居ル次第ナルガ目下ノ処米仏間ノ交渉行詰リトナリ之カ為メ独線処分問題全部毫モ進捗ヲ見ズシテ空シク時日ヲ経過スル実情ナリ然レトモ全局ノ解決ヲ計ランコトハ各国ノ斉シク希望スル所ナルヲ以テ茲ニ何等カ展開ノ方法ヲ講ゼザルベカラズ而シテ米仏間現在行詰リノ原因ハ米国ノ戦前米独間ニ存シタル直通線復旧ノ要求ニアリ仏国民カ現ニ仏国ノ手ニアル旧独線ヲ以テ米独間ノ通信ヲ回復スルコトヲ欲セザルハ無理ナラザル所ト思考スルヲ以テ本使ハ米国ヲシテ「ブレスト」「ニュー、ヨーク」線ノ関スル限リ戦前状態回復ノ主張ヲ捨テシムルコトニ向ッテ尽力スルヲ辞セザルベシ然レドモ米国側ヲシテ右ノ主張ヲ捨テシムルタメニハ紐育「ブレスト」線ニ付米仏間ニ何等カ妥協ノ方法ヲ案出セザルベカラザル次第ナルガ之ニ付テハ何等意見アリヤト問ヒタル処「ラネル」ハ米国カ戦前状態回復ノ要求ヲ捨ツルニ於テハ米仏ノ間ニ何等協定ノ方法ヲ見出スコトニ尽力スル積リナルモ未ダ確定ノ案アルニアラザル旨ヲ答ヘタリ依テ本使ハ全然自分限リノ思付ナルコトヲ前置シ且決シテ仏国ニ向ッテ該案ヲ強フル趣意ニモアラザル旨ヲ繰返シ言明シタル後万已ムヲ得ザル場合ニ仏国ハ「ブレスト」紐育線ハ「ブレスト」「アゾーレス」間ノ所有権及運用権ヲ収ムルコトヲ以テ満足シ「ニュー、ヨーク」「アゾーレス」間ヲ米伊両国ノ為メ放棄スルノ決心ヲナシ得ヘキヤト試問シ更ニ右ハ勿論初ヨリ譲歩スルノ趣旨ニハアラズ成ルヘク最少ノ譲歩ニテ解決ヲ計ルニ協力スヘキハ勿論ナルモ愈々行詰リタル場合全局ノ解決ヲ計ル為メ仏国カ払ヒ得ヘキ最大ノ犠牲ニ付予メ仏国側ノ意見ヲ承知シ置キタキ趣旨ナリト附言シタル処「ラネル」ハ篤ト我趣旨ノアル所ヲ諒得シタル旨ヲ述ヘタル上同氏ノ考ニテハ仏国ハ紐育「ブレスト」線ノ一部ノ所有権ヲ放棄セスシテ同線全体ニ付米仏ノ間ニ合併計算ノ主義ヲ採用センコトヲ要望シ之カ為メニ米仏間ニ一ノ会社ヲ設クルモ可ナリト思考シ居ルモ未ダ之ニ関シ政府ノ意向ヲ承知スルヲ得ザル旨ヲ述ヘ且伊太利ニ対シテハ通信業務（「トラフィック」）ニ関スル協定ニ依リテ之ニ利益ヲ与フルコトトスルモ一案ナルヘシト思考スト言ヒ尚「モンローヴィア」「ペルナンブコ」線ニ関シテハ運用ニ付テモ亦所有権ニ付テモ米国又ハ伊国ト妥協ノ余地アリトノ意味ヲ洩セリ右ニ対シ本使ハ合併計算ヲ設ケ米仏間ニ利益ヲ均等ニ分配スルニ於テハ事実上紐育「ブレスト」線全体ヲ米仏二国ニテ共有スルト差異ナキニアラズヤト質問シタルニ「ラネル」ハ単ニ業務及ヒ利益ノ関係ヨリ見レバ同一ノ結果トナルベシト答ヘタリ将又「ラネル」ハ予テヨリ「ブラウン」ガ率先米国ト妥協シテ「ペンザンス」「ハリファックス」線ヲ独逸又ハ和蘭ニ敷設換スルコトヲ許シ以テ米国ノ主張スル戦前状態復旧ノ主義ヲ容認シタルモノトシテ不快ニ思ヒ居ルコトヲ承知シ居ルヲ以テ本使ハ英国ガ此点ニ

付米国ノ希望ヲ容レタルハ主義ノ問題ニ付譲歩シタルモノニハアラザルベク且其結果トシテ米国ハ既ニ自己ノ主張ノ一部ヲ達スル次第ナルヲ以テ他ノ一部ニ付其主張ヲ抛棄セシムルノ理由トナシ得ベシト思考スル旨ヲ述ベ「ブラウン」ヲシテ米国ニ対シ仏国ノ主張ヲ支持セシムル様斡旋ノ労ヲ惜マサルベシト云ヒタル処「ラネル」ハ我好意ニ依リタシトノ希望ヲ表セリ

依テ午後「ブラウン」トノ会見ニ於テ本使ハ米国カ英国ノ提供セル「ペンザンス」「ハリファックス」線ヲ以テ米独間ノ連絡ヲ回復スルコトヲ得ル以上ハ妥協ノ精神ヲ以テ「ブレスト」紐育線ニ関シテハ戦前状態復旧ノ主張ヲ捨テ然ル可シトノ意見ヲ述ベ之ニ対スル同氏ノ同意ヲ求メタル処「ブラウン」ハ「ブレスト」紐育線ノ「ブレスト」陸揚地ハ現状ノ儘トシ又同線ニ依ル通信モ原則トシテ単ニ新ニ設クベキ「エムデン」紐育(又ハ和蘭)ノ線ニ依ル通信ノ輻輳シタル場合ニ限リ例外トシテ「ブレスト」ヨリ更ニ「エムデン」又ハ和蘭ニ送信スルコトトシ可然シト云ヒ(「ブラウン」カ斯クノ如キ考ヲ有スルハ米国ガ米独間通信ノタメニ二線ヲ要スル旨ヲ主張シ居ルヲ以テナリ)「ブレスト」ヨリ「エムデン」又ハ和蘭ニ向フ一線ヲ新設スルコトハ当然ノコトト思考シ居リタル模様ナリシヲ以テ本使ハ仏国ノ希望ハ紐育「ブレスト」線ヲ「ブレスト」限リトシ同地ト独逸トノ連絡ハ陸線ニ依ル趣旨ニテ海底線ヲ「ブレスト」ヨリ独逸又ハ和蘭ニ延長スルコトハ仏国ノ欲セザル所ナル旨ヲ篤ト説明シタル処「ブラウン」ハ初メテ仏国ノ真意ヲ了解シタルガ如ク仏国ガ「ブレスト」ヨリ「エムデン」ニ至ル線ヲ敷設スルコトハ同国ノ利益ト思考シ居リタリト云ヘリ兎ニ角モ「ブラウン」ハ本使ノ説明ニテ仏国ノ真意ヲ善ク了解シ「ブレスト」以遠ノ延長ハ英国側ヨリ之ヲ提議セズ又米国側ノ主張アルモ之ヲ支持セザルコトニ付了解ヲ得タリ

右ノ次第ニテ一面ニハ仏国ヲシテ英国ガ「ペンザンス」「ハリファックス」線ニ付戦前状態復旧ヲ承諾セルニ対シテ故障ヲ差シ挟マシメザルコト及ヒ他ノ一面ニハ英国ヲシテ仏国ガ「ブレスト」紐育線ニ付右復旧ヲ拒ムコトヲ承認セシムルコトニ付テハ我方ヲ通シテ両国委員長ノ間ニ諒解成立シタリ

茲ニ於テ更ニ米国側ト交渉スルノ順序トナリタル処「デヴィス」ハ去ル十一月五日ノ晩ヨリ地方ニ旅行シ今尚帰来セザルヲ以テ「デヴィス」ノ留守中交渉ノ任ヲ委ネラレ居リ且平素ヨリ事実上米国委員ヲ指導シ居ル「ロジャース」ト会見シ劈頭ニ於テ本使ノ云ハントスル所ハ去ル五日第一分科会ニ於テナシタル陳情ノ趣旨ト同様ニシテ決シテ特ニ仏国ヲ支持スル積リニアラズ誠意全局ノ解決ニ資セントスルニ外ナラザルコトヲ明カニシタル後「ラネル」ト会見ノ次第ヲ簡単ニ説明シ仏国ガ紐育「ブレスト」線ニ依ル独逸トノ通信回復ヲ承諾シ得ザルハ全ク同国ニ於ケル国民的感情ヲ顧念スル次第ニシテ仏国民ノ対独感情ガ偏狭ニ失スルヤ否ヤノ議論ハ暫ク之ヲ別問題トシ右ノ如キ感情ノ存在スルコトハ今回独線処分問題ヲ採決スル上ニ於テ一ノ事実トシテ之ヲ認メ考量ニ加ヘザルベカラズ而シテ米国ガ紐育「ブレスト」線ニ付戦前状態回復ノ主張ヲ此上固執スルトモ仏国ハ右国民的感情ニ鑑ミ到底之ヲ承認セザルベキハ予テヨリ想像シ居リタル所ナルガ「ラネル」トノ会談ニ依リ右想像ノ誤リニアラザルコトヲ確メ之ト同時ニ右ノ会見ニ依リテ米国ガ戦前状態復旧ノ主張ヲ捨ツルニ於テハ仏国モ何等妥協ノ方案ヲ講究スルノ用意アルコト明カトナリタリト述ベ進ンデ米国ハ大西洋横断ノ二線中既ニ一線ニ付戦前状態ヲ復旧シ得ル以上他ノ一線ニ付譲歩シタルモノナルヲ以テ仏国ハ方ガ全局ノ解決ノタメ斡旋スルノ趣旨ハ充分之ヲ諒解シタル旨ヲ述ベタル上英米間電線ノ交換モ米国ヨリ提供スベキ線ヲ見出スノ容易ナラザルコト及敷設換ノ困難等アルタメ実行ニ便ナラザルガ如ク思考セラレ従ッテ更ニ目下紐育ヲ基点トシテ海中ニ不用ノ儘放擲シアル六百五十哩ノ独線及ヒ「エムデン」ヨリ英仏海峡ニ至ル独線ヲ利用シテ新タニ米独間ニ一線ヲ新設スルノ案ニ付攻究ヲナシ居ル旨ヲ述ベ更ニ仏国側ノ妥協案ニ付質問シタルモ本使ハ此点ニハ深ク立入ルヲ避ケ「ラネル」ハ独線運用ニ付私案ヲ有スルカ如クナルモ詳細ハ同氏ヨリ聞カルル方可然シト述ベタルニ「ロジャース」ハ善ク事態ヲ諒解シタル様子ニテ「ラネル」ト会見協議スベキ旨ヲ答ヘタリ

尚「ロジャース」ト会見ノ際本使ヨリ太平洋電線問題ニ関スル意見ヲ問ヒタル処同氏ハ「ヤップ」島ヲ電信中継地トシテ外国ニ対シ自由ニ陸揚及ヒ運用ヲ許スコトトシ度シトノ希望ヲ遠廻ハシニ述ベタルニ付本使ハ我カ現行法ハ国内電信ヲ政府ニ於テ管掌スルコトニナリ居リ而シテ「ヤップ

」ハ聯盟規約ニ依リ日本ト同一ノ規則ニ依リ統治セラル可キモノナルヲ以テ同島ニ付特別ノ取扱ヲ設クルヲ得ザル旨ヲ述ベ置キタリ

尚「ブラウン」及ヒ「ロジャース」ノ談話ニ徴スルニ一旦成立セリト思ハレタル英米間ノ妥協モ実行上ノ困難ニ遭遇シテ後戻リトナルヤモ計ラレズ従ッテ独線処分問題ノ解決ハ未ダ其端緒スラ見出シタリト云フヲ得ザル次第ナルモ我方ヲ通ジテ今迄疎隔シ居リタル英仏間ニ意思ノ疏通ヲ計リ又米国側トノ会見ニ依リテ一方ニ於テハ米国ガ仏国ニ対シ戦前状態復旧ヲ強制セントセバ全局ノ解決ヲ不能ナラシムル結果トナルベキコトヲ十分感得セシメ又他ノ一方ニ於テハ我方ガ全局ノ解決ヲ熱望シ居ルコトヲ了解セシメタリト思考ス

「ロジャース」ト会見ノ結果ハ直チニ「ラネル」ニ之ヲ通ジ置キタル処同氏ハ大ニ之ヲ悦ビ目下本国政府ヨリ回訓ノ到着ヲ待居ル趣ニテ右着次第「ロジャース」ト会見スベシト云ヘリ

右ノ回訓ナルモノハ主トシテ合併計算ニ関スルモノト想像セラル

込ナリ而シテ「スパ」会議ノ協定ニ依レバ右海底電線ヲ本邦ニ継承スル場合ニ於テ其私有ニ属スル部分ニ対シテハ一九二一年五月一日迄ニ其ノ価額ヲ決定シ之ヲ独逸国ノ貸方ニ計上スルコトニナリ居レリ但シ右貸方ニ計上スヘキ価額ガ前記時期迄ニ確定セザルトキハ賠償委員会ニ於テ仮ニ之ヲ評価スルモノトス尚本邦側ノ主張ニ依リ該価額ハ何レニシテモ之ヲ独逸国ノ貸方ニ計上スルニ止リ即チ将来受クヘキ独国ノ支払金ヨリ差引ク筈ニシテ本邦ヨリ現金ノ支払ヲ要セザルコトニ決定シ居レリ

以上ハ現在迄ニ決定セル事情ノ大要ニシテ将来ニ於テ特別ノ変更ナキヲ保セズ為念

四二五　十一月十六日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

太平洋海底電線ニ関シ蘭国政府ノ意向未ダ判明セザル旨回報ノ件

第五三九号

貴電第一〇五号ニ関シ往電第五一〇号会見ノ際蘭国公使ハ我方ノ提議ヲ懌ヒ尚「ヤップ」「メナド」間通信開始ノ点

在欧各大使及ヒ在蘭公使ヘ転電セリ

四二四　十一月十六日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

旧独線ノ権利継承ノ場合ニ於ケル該線ノ概算価額及賠償額トノ関係ニ付回訓ノ件

第五三八号

一　貴電通第一〇六号ニ関シ平和条約ノ規定ニ依リ本邦ノ賠償要求額トシテ「スパ」会議ニ於テ本邦委員ヨリ提示シタル金額ハ約八億一千五百万余円ニシテ同会議ニ於テハ必ズシモ各国ヨリ提出シタル計算ニノミ依ラズ諸般ノ考慮ヨリシテ大体上敵国側ヨリ受クヘキ賠償総額ニ付主要国間ニ於ケル分配率ヲ決定シ日本ハ百分ノ〇、七五（七厘五毛）ヲ受クルコトニ協定済ナリ独国ヨリ受クヘキ賠償額ハ御承知ノ通リ未ダ決定セラレ居ラザルヲ以テ日本ノ現実ニ受クヘキ金額ハ不明ナリ

二　「ヤップ」関係海底電線ハ一九一三年独蘭電信会社ノ貸借対照表ニ基キ三線ヲ併セテ総財産価額ヲ見積レバ約七百万円ニシテ更ニ講和条約附属書第七ノ末項ニ依リ減価率ヲ五十分ノ十五トシ計算スルトキハ約五百万円ノ見

ニ付本大臣ヨリ口頭ニテ覚書ノ趣旨ヲ補説シタルニ対シ同公使ニ於テ同感ヲ表シタルモ其後本国政府ノ意向ハ未ダ判明セズ此際我方ヨリ進テ先方ノ希望ヲ確ムルコトハ貴見ノ通リ時宜ヲ得ズト考ヘラルルニ依リ「ブラウン」ノ提言ハ其儘ニ差措カレタシ尚蘭国外務大臣及在仏同国公使等目下聯盟総会ニ出席シ居リ帝国代表者ニ於テ是等トノ接触ニ依リ自然和蘭側ノ意向ヲ探ルノ機会アルヤモ計ラレザルニ付本電在蘭代理公使ニ転電シ同公使ヨシテ貴電通第一〇五号ト共ニ「ジュネーヴ」ヘ転電セシメラレタシ

四二六　十一月十六日　在蘭国二見臨時代理公使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

通信会議ニ於テ太平洋旧独線帰属決定ノ場合ニ対スル蘭国ノ態度報告ノ件

第一八三号　（十一月十七日接受）

本官発在米大使宛電報第三号

大臣宛貴電通第一〇五号ニ関シ当地ニ於テ本官ノ受ケタル印象ニ依レバ蘭国ハ只管通信会議ノ結果ヲ待チ居ルモノノ如ク同会議ノ結果太平洋旧独線カ五国ノ何レニ帰属スルト

スルモ右帰属ヲ受ケタル国ガ蘭国ノ利益ヲ尊重スル以上蘭国政府トシテハ右会議ノ決定ニ対シ強ヒテ反対スルノ態度ニ出ヅルコトナカルヘシ田付公使任命通知ノ為本日外務次官ニ面談シタル際ノ如キ同氏ハ本件ニ関シ日本政府ノ提案ヲ受領セル旨自ラ語リ出デ自分ノ受ケタル第一印象ハ日本政府ノ意向ハ日本自ラ戦前ノ独逸ニ代リ蘭国ト共同シテ右電線ヲ運用セントスルモノノ如キ処自分ノ私見トシテ右ノ方法ニ対シ蘭国ハ同意ヲ与フルニ躊躇セザルベシト思考スルモ若シ本件ニ関シ日米間等ニ紛糾起リ蘭国ガ之ニ巻キ込マルルガ如キハ蘭国ノ最モ欲セザル処ナリト語リ居タリ

四二七　十一月十七日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独線問題ニ関シ仏国委員ガ米国委員ト会見ノ結果ヲ内話ノ件

通第一一三号　（十一月十九日接受）

十一月十四日帰華セル「デヴィス」ハ翌十五日午後「ラネル」ト会見シタルガ同夜「ラネル」ノ内話スル所ニ依レバ「デヴィス」ハ戦前状態ノ復旧ハ「ウィルソン」大統領ノ熱心ニ主張シ居ルモノナルコトヲ述ベ米国委員ガ仏線ニ関シ右復旧ノ主張ヲ棄ツルニ付テハ大統領ノ承諾ヲ得ルノ必要アル事ヲ表明シタル後米国ハ紐育「ブレスト」線ノ所有権ヲ要求スル旨ヲ述ベ「ラネル」ガ所有権ニ付テハ譲歩シ得ザル旨ヲ答ヘタル上漠然ト合併計算ヲ提議シタルモ「デヴィス」ハ所有権ノ問題ニ執着シ仏国ガ紐育「ブレスト」線全部ノ所有権ヲ米国ニ譲ラザルニ於テハ英国ノ線ヨリ一部ノ所有権ヲ得ザル可カラズト云ヘル趣ナリ

右ノ次第ニテ米仏間ニ妥協成立スル迄ニハ尚種々ノ曲折ヲ経可シト思考スルモ米国ガ結局仏線ニ付テ戦前状態復旧ノ主張ヲ棄ツルニ至ル可キ事ト察セラレ「ラネル」モ前記会見ノ結果全然同様ノ感想ヲ懐キ居レリ

在英仏独伊大使在蘭公使へ転電セリ

四二八　十一月十七日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第一分科会第六回会議ノ模様報告ノ件

通第一一四号　（十一月十九日接受）

米国側ノ提議ニ依リテ十一月十六日午後四時急ニ第一分科

会第六回会議ヲ開キ「デヴィス」議長前回会議ニ於テ我方ノ為セル陳述（往電通第九八号）ニ対スル米国側ノ答弁書ヲ朗読セリ其ノ要旨ハ

第一、日本委員ニ於テ米国ガ旧独線ノ所有権ヲ要求セザルモノト思惟スルハ誤解ニシテ米国委員ハ本会議ニ於テ北部及中部欧羅巴、亜細亜大陸及太平洋諸島トノ直接通信復旧ヲ要求シタルモ是ガ為メ米国ガ旧独線ニ関シ単独又ハ聯合国ト共通ニ有スル所有権処分権其ノ他ノ権利及特権ヲ放棄シタル次第ニアラズ米国ノ要求ニハ二ノ根拠アリ即チ一ハ米国ガ平和条約以前ニ遡リテ有セシ権利ニシテ他ノ一ハ独逸ガ五国ノ為メニ海底線ヲ放棄シタル結果トシテ米国ガ他ノ聯合国ト共同ニ享有スル権利ナリ米国委員ハ前者即米国単独ニ有シ居リタル優先的要求権ハ他ノ聯合国ニ対抗シ得ベキ権利ヲ構成スルモノト思考ス

第二、日本委員ガ交戦国ノ差押又ハ切断セル旧独線ニ依ル通信聯絡ヲ戦前ノ状態ニ復旧スル事ニ付テハ国際法上一定ノ規則モ無ク又五国ト独逸トノ間又ハ五国相互間ニモ何等約束無シト云ヘルニ対シテハ米国委員ハ国際法ニモ平和条約ニモ海底線ノ陸揚地ヲ永久ニ変スル事及米国ガ戦前有シ居リタル通信手段ヲ永久ニ奪ヒ去ル事ヲ承認スルガ如キ規定無キ事ヲ指摘スベク尚海牙陸戦法規第五十四条ノ規定ハ独線処分問題ニ付直接拘束力無キモ復旧ニ関スル原則ノ存在ヲ明証スルニ足ルモノト認ム

第三、独線処分問題ヲ解決スルノ必要ヲ力説セラレタル日本委員ノ陳述ハ極メテ機宜ニ適シタルモノトシテ米国委員ノ歓迎スル処ナリト云フニアリ

右ニ対シ本使ハ米国委員ノ率直ナル説明ヲ謝シタル上米国ガ本件電線ニ関シ独逸会社ニ対抗シ得ベキ契約上ノ権利ヲ有スルノミナラズ聯合国ニモ対抗シ得ベキ或ル種ノ物権（Right in remo.）ヲ有スルモノト為スガ如キ主張ハ日本委員ノ到底同意スル能ハザルヲ遺憾トスル旨ヲ述ベ尚米国ガ是等海底線ノ最終ノ処分ヲ決定スルニ付他国ト共通ノ権利ヲ有スル事ニ付テハ日本委員ハ何等異議ヲ挟ミタル事無キモ「各人ニ共通ノ権利ハ何人モ有セザル権利ト同様」ナルヲ以テ米国ガ他ノ四国ト離レテ何等特殊ノ権利ヲ有スルモノト見做スヲ得ザル旨ヲ弁ジ進ンデ斯カル法律上ノ議論ヲ継続スルモ何等解決ニ資スル処無ク今ヤ一般ノ希望ハ法理上ノ主義問題ヲ離レ便宜問題トシテ実際的解決法ヲ求ム

ルニアリト思考スルヲ以テ斯ノ如キ解決法ガ到底案出シ得ラレザル事明瞭トナル迄ハ日本委員ハ一切ノ法理論ヲ留保シ置クベシト結ビ置キタリ

茲ニ於テ英国委員「ブラウン」ハ旧独線処分ニ付考量スベキ事アリ即仏日英三国ノ発言権ノ根拠ハ㈠平和条約ノ規定㈡戦時中海底線ヲ鹵獲セル事実ニアリ米国ノ発言権ハ㈠平和条約及最高会議ノ決定㈡海底線ガ独逸ノ所有ナルモ米国ニ陸揚セラレ且米国トノ通信ニ使用セラレ居リタル事実（「ブラウン」ハ右ハ物権的性質ヲ有スルモノニハアラズト註釈ヲ加ヘタリ）ヲ根拠トスベク伊太利ハ条約及最高会議ノ決定ニ基ク一般的権利ヲ他ノ諸国ト共有スルモノナル事是ナリ而シテ実際的解決ニ達スル為メ努力スルヲ要ストノ日本委員ノ所見ニ全然同感ヲ表スル旨ヲ述ベ尚如何ナル解決案モ各国ヲ等シク満足セシムルモノニアラザルベキハ勿論ナルモ相当 reasonable ノ解決方法ヲ見出シ得ザルノ理無ク且解決ニ付キテハ単ニ通信事務ノミナラズ各国ニ帰属スベキ線条ノ哩数モ考量ニ加ヘザルベカラズト云ヘリ

右ニ対シ「デヴィス」ハ米国委員ニ於テ実際的解決ニ向ッテ欣然協力スベキ旨ヲ述ベ仏国委員長「ラネル」ハ日英両国委員ノ解説ニ同意シ充分妥協ノ精神ヲ以テ解決ニ努ムベキ旨ヲ述ベ伊国委員ハ可成主義ノ問題トモ両立スル実際的解決ニ進ム事有利ナリト信ズト云ヘリ

右ニテ英米仏ノ間ニ引続キ非公式協議ヲ進ムル事ノ諒解ノ下ニ散会セリ

在英仏伊各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

四二九　十一月十八日　内田外務大臣ヨリ在米国幣原大使宛（電報）

ヤップ関係海底電線ノ精算価格ニ付追報ノ件

第五四〇号

往電第五三八号ニ関シ

「ヤップ」関係海底電線ノ価格ハ独蘭電信会社事業報告ニ基キ更ニ精算ノ結果三線ヲ併セテ右電線ニ対スル投資総額ハ之ヲ一九〇五年敷設当時ノ換算率即チ一馬克四十八銭二厘ニ毛ヲ以テ計算シ邦貨六百三十八万五千四百九十六円（六、三八五、四九六円）ニ該当シ更ニ海底電線ノ生命ヲ五十年トシ一ケ年其ノ五十分ノ一宛ヲ消耗スルモノトシ十五年間ノ消耗額ヲ差引キ結局現在総価格四百四十六万九千八百四十七円（四、四六九、八四七円）トナル見込ナリ為念

四三〇　十一月十九日　日本外務省ヨリ在本邦米国大使館宛

日本委任統治ノ区域ニ関シ最高会議ニ於テヤップ島除外ノ留保ヲ附シタル事実ナキ旨回答ノ件

帝国外務省ハ「ヤップ」島ノ地位ニ関スル本月十二日附米国大使館ノ覚書ヲ受領シタリ

帝国政府ノ明カニ了解スル所ニ依レバ客年五月七日ノ最高会議ハ「ヤップ」島ヲ含ム赤道以北ノ旧独領諸島ノ全部ヲ帝国ノ委任統治ノ下ニ置クコトニ関シ最終的決定ヲ与ヘタルモノニシテ其ノ際「ヤップ」島ヲ我委任統治ノ区域ヨリ除外スヘキ何等ノ留保ヲ附シタル事実ナシ

右ノ次第ニ付今日ニ至リ右最高会議ノ決定ヲ覆シ一旦帝国ノ委任統治区域ニ決定シタル同島ヲ帝国ノ委任統治ヨリ除カントスルガ如キコトハ帝国政府ノ承諾スル能ハザル処ナル旨ヲ米国大使館ニ回答スルノ光栄ヲ有ス

（右英訳文）

MEMORANDUM

The Department of Foreign Affairs of Japan has the honour to acknowledge the receipt of a memorandum of the United States Embassy under date the 12th instant, relative to the status of the Island of Yap.

According to the definite understanding of the Japanese Government the Supreme Council of May 7, 1919, came to a final decision to place under the mandate of Japan the whole of the German islands north of the equator. The decision involved no reservation whatever in regard to the Island of Yap.

For the above mentioned reasons the Department of Foreign Affairs begs to inform the United States Embassy that the Japanese Government would not be able to consent to any proposition

which, reversing the decision of the Supreme Council, would exclude the Island of Yap from the territory committed to their charge.

Tokio, November 19th, 1919.

四三一　十一月十九日　内田外務大臣ヨリ　在英国永井臨時代理大使宛（電報）

ヤップ島ニ関スル米国側申越ニ対スル我方ノ応酬振通報並英国ノ支持要請方訓令ノ件

第五二三号

在米大使ヨリ貴官ニ転電シタル本大臣発同大使宛電報第五二九号米国大使館ノ覚書ニ対シ十一月十九日附覚書ヲ以テ大要別電(註)第五二四号ノ通リ同大使館ニ回答シタリ就テハ右米国大使館覚書ノ趣旨ハ米国側ヨリ貴任国政府ニ対シテモ同様申入レアリタルモノト思考セラルルニ付此際貴任国政府ニ対シ帝国政府カ今般米国側ヨリ本大臣発在米大使宛電報第五二九号ノ如キ覚書ニ接シタルコト並右ニ対シ帝国政府ニ於テ別電ノ通リ回答シタルノ事実ヲ通報セラルルト共ニ右米国側ノ申入ハ事実上最高会議ノ決定ヲ今ニ至リ覆サムト企ツルモノニ外ナラザルモノナルコトヲ指摘シ曩ニ了解ヲ得置キタル通リ本件ニ関シテハ貴任国政府ニ於テ絶対ニ帝国政府ヲ支持セラレムコトヲ期待スル旨ヲ書面ニ認メ交付セラレ其ノ結果当方及在米大使ニ電報アリタシ

本電及別電本大臣ノ訓令トシテ在伊大使及在仏代理大使ニ電報シ参考トシテ在「ジュネーヴ」全権及在米大使ニ電報アリ度シ

註　別電ヲ省略ス同電ハ前掲在本邦米国大使館宛回答ノ英訳文ナリ

四三二　十一月十九日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関スル米国ノ覚書ニ対シ執ルベキ措置ニ付意見具申ノ件

通第一一五号　（十一月二十日接受）

貴電第五二八号ニ関シ「ヤップ」島問題ニ関シ「デヴィス」国務次官ト本使トノ会談ハ往電通第三七号及通第六八号ノ通リニテ先方ノ論拠ハ大体ニ於テ之ヲ反駁シ尽シタリト思考スルモ右ハ単ニ国務次官ト本使トノ間ニ於ケル非公式ノ会見トモ言フベキモノナルノミナラズ右ニ付テハ何等

共通ノ記録ヲ存スル次第ニモアラザルガ故ニ米国トノ関係ニ於テモ右ノ会談ノミヲ以テ十分我方ノ地歩ヲ防護シタルモノト見做スヲ得ズ況ンヤ今回米国ヨリ帝国政府ニ対シ正式ニ覚書ヲ提出シ来リタル以上帝国政府ニ於テモ之ニ対シ公然ノ回答ヲ発セラレ先方ノ主張ノ根拠無キコトヲ十分ニ弁駁シ以テ一切ノ禍根ヲ将来ニ残サザル様取計ラヒ置カルルコト必要ナリト思考セラル既ニ英国政府トノ間ニハ大臣宛在英大使発第九二七号又仏国政府トノ間ニハ大臣宛在仏大使発第一六三六号ノ了解アルニ於テハ此際米国政府ヲシテ其主張ヲ明白ニ撤回セシムルコトヲ得ルト否トニ不拘我ガ地歩ヲ有利ナラシムルノ措置ヲ速カニ取リ以テ同問題ノ最終的解決ニ資スルノ必要アルベク而ノミナラズ之ヲ通信会議ノ関係ヨリ見ルモ米国ガ間モ無ク「ヤップ」島ニ関スル問題ヲ提起シ少クトモ同島ヲ海底線島(Cable Island)（通第八七号参照）ノ如キモノトシテ各国殊ニ米国及ビ蘭国ニ対シ自由ニ海底線ノ陸揚及ビ運用ヲ許スベシトノ要求ヲ正式ニ提出シ来ルヤモ計ラレザルニ付我方トシテハ出来得ル限リ速カニ在本邦米国代理大使提出ノ覚書ニ対シ正式ノ回答ヲ発シ且ツ英仏両国ヘ其写ヲ送リタル上両国政府ヲシテ左記二案ノ内一ヲ実行セシムル様取計ヒ置カルルコト得策ナルヤニ思考ス

第一、英仏両国政府ヨリ夫レ夫レ米国政府提出ノ覚書（在本邦米国代理大使ハ英仏ニモ同様ノ覚書ヲ提出シアリト言ヘリ）ニ対シ五月七日ノ決定ハ「ヤップ」島ヲ除外シ居ラザルモノト了解シ居ル旨ヲ回答セシム

第二、万一両国ニシテ米国ニ対シ右ノ如キ回答ヲ発セシムルコト困難ナル場合（米国ノ覚書ハ回答ヲ求ムル形式トナリ居ラズ）ニハ先ヅ我方ヨリ両国ニ照会ヲ発シ之ニ対シテ両国ヨリ夫レ夫レ五月七日ノ決定ハ「ヤップ」島ヲ包含スルモノト了解シ居ル旨ヲ回答セシム尚伊国ハ五月七日ノ決定ニ参加シ居ラザルノミナラズ目下ノ会議ニ於テ動モスレバ米国ノ意思ニ従ハントスルノ傾向アリ従ッテ此際米国ニ不利ナル態度ヲ取ルハ伊国ノ困難トスル処ナルヤモ計ラレザルニ付此点ニハ特ニ注意ヲ払ヒ同国ガ我方ノ求メニ応ジテ前記何レカノ措置ヲ取ルベキコト明瞭トナラザル限リ同国ニ対シテハ特ニ申入レヲナサザルカ又ハ申入レヲナス場合ニ於テモ十分右ノ事情ヲ考量ニ入レ置クコト必要ナリト認ム為念申添フ

英仏ヘ参考迄ニ転電セリ

四三三　十一月二十二日　在本邦蘭国公使ヨリ内田外務大臣宛

旧独蘭会社所属ノ海底電線ニ関シ蘭国ニ対スル日本ノ提議ニ付問合越ノ件

LEGATION Royale Des PAYS-BAS

No. 1622.　　Tokio, le 22 Novembre 1920.

Monsieur le Comte,

Aussitôt après l'entretien que j'ai eu l'honneur d'avoir avec Votre Excellence le 4 de ce mois, je me suis empressé de télégraphier au Gouvernement de la Reine le contenu du mémoire concernant les câbles de Yap, que lors de cette occasion Elle a bien voulu me remettre.

En réponse à mon télégramme je viens de recevoir une dépêche télégraphique du Ministre des Affaires Etrangères par laquelle m'est demandé de m'informer si la proposition que le Gouvernement

Impérial par rapport aux câbles susdits a bien voulu faire à mon Gouvernement a été portée par le Gouvernement japonais à la connaissance de la Conférence interalliée à Washington où les câbles ci-devant allemands sont discutés.

Ainsi je prends la liberté de recourir à l'obligeance de Votre Excellence en La priant de bien vouloir me renseigner à ce sujet.

Veuillez agréer, Monsieur le Comte, les assurances réitérées de ma plus haute considération.

(Signé) A. de Graeff

Son Excellence

Monsieur le Comte Yasuya Uchida,

Ministre des Affaires Etrangères à Tokio.

四三四　十一月二十三日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

太平洋旧独領処分ニ関シ英国委員ブラウンヨリ私案内示越ノ件

別　電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一一一号

右英国委員ノ私案

通第一一一〇号　（十一月二十五日接受）

十一月二十二日夜「ブラウン」ハ太平洋独領処分ニ関スル私案別電通第一一一号ヲ我方ニ内示シ来レリ右ハ同氏ガ我方及ビ米国側トノ接触ニヨリ大体双方ノ主張ヲ察知シタル上中庸ト思考スル処ニ従ッテ起案シタルモノニシテ同氏ガ斯ノ如キ私案ヲ作製シタル事実ハ我方ニ於テ厳ニ秘シ置カレ度旨ヲ申出デ且「ヤップ」「メナド」及ビ「ヤップ」「グァム」両線ノ「ヤップ」端ヲ夫レ夫レ米国及ビ蘭国ノ会社ヨシテ又ハ米蘭共同ノ会社ヲシテ運用セシムルコトトセバ米国ハ多分同氏ノ私案ニ同意ヲ表スベシト思考スルモ然ラザルニ於テハ米国ノ同意ヲ得ルコトハ頗ル疑ハシキ旨ヲ附言シタリ

右「ブラウン」案ニ対スル当方ノ意見ハ別ニ電報スベシ

（別　電）

十一月二十三日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一一二号

旧独領処分ニ関スル英国委員ノ私案

通第一一二号

(1) The Yap-Guam cable shall become the property of the United States.

(2) The Yap-Menado cable shall become the property of Holland, provided that the Reparation Commission can arrange for this cable being eliminated from the Reparation Account, and provided further that the Dutch interests connected with the German-Dutch Telegraph Company are prepared to accept it in satisfaction of their claims, whether against Germany or against the Principal Allied and Associated Powers.

(3) The Yap-Shanghai cable now worked via Yap-Naha cable shall become the property of Japan, subject to the following provisions:

(4) (I) Japan shall either agree to the Yap ends of the Yap-Guam and Yap-Menado cables being worked by operators of an American company and a Dutch company respectively, or by a joint

American-Dutch company; or else arrange for these cables being worked through an automatic relay direct between Guam and Menado except when traffic to or from the island of Yap or to or from Japan or China is being sent over one or other of these cables.

(5) (II) Japan shall re-connect the Yap-Naha section with Shanghai, and shall arrange for the Naha-Yap and Naha-Shanghai sections being worked through an automatic relay direct between Yap and Shanghai, except when the traffic to or from the island of Naha or to or from Japan is being sent over the Naha-Yap section.

(6) Japan shall, if practicable, arrange for the Shanghai end of the Shanghai-Naha section being worked by the (Danish) Great Northern Telegraph Company.

Shidehara

（右和訳文）

㈠「ヤップ」―「グァム」線ハ之ヲ米国ノ所有トス

㈡「ヤップ」―「メナド」線ハ之ヲ和蘭ノ所有トス但シ賠償委員会カ本線ヲ賠償計算ヨリ除外スルノ措置ヲナシ得ヘキコト及独蘭電信会社ニ関シ利益ヲ有スル和蘭人カ独逸又ハ主タル同盟及聯合国ニ対スル要求ヲ満シ得ヘキモノトシテ之ヲ承諾スルノ意アルコトヲ条件トス

㈢「ヤップ」―那覇経由ヲ以テ目下運用シツツアル「ヤップ」―上海線ハ左ノ条件ノ下ニ之ヲ日本ノ所有トス

(1)日本ハ「ヤップ」―「グァム」及「ヤップ」―「メナド」線ノ「ヤップ」ニ於ケル末端ヲ米国会社及蘭国会社ノ技師ヲシテ又ハ米蘭合弁会社ヲシテ運用セシムルカ然ラザレバ自動仲継機ニ依リ直接「グァム」及「メナド」間ニ通信スルヲ得ル様是等電線ヲ運用スルノ措置ヲナスコトヲ要ス但シ「ヤップ」島宛若ハ「ヤップ」島発ノ通信又ハ日本、支那宛若ハ日本、支那発ノ通信カ是等両線ノ何レカニ依リ送信セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(2)日本ハ「ヤップ」―那覇間ノ部分ヲ再ヒ上海ニ接続シ自動中継機ニ依リ直接「ヤップ」及上海間ニ通信スル

ヲ得ル様那覇―「ヤップ」及那覇―上海ノ各部分ヲ運用スルノ措置ヲナスコトヲ要ス但シ那覇島宛若ハ那覇島発ノ通信又ハ日本宛若ハ日本発ノ通信カ那覇―「ヤップ」線ニ依リ送信セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

日本ハ出来得ベクバ上海―那覇線ノ上海ニ於ケル末端ヲ丁抹大北電信会社ヲシテ運用セシムルコトヲ要ス

四三五　十一月二十三日　在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ伊国外相ニ対シ我方支持ヲ期待スル旨申入ノ件

第二三七号　（十一月二十六日接受）

在英大使宛貴電第五二三号ニ関シ往電第一九四号ノ如ク当国政府ハ最高会議ノ決定ヲ通信会議ニ於テ変更スル事ノ不穏当ナル事ニ付同意ヲ表シタル迄ナルニ付今回米国政府ガ最高会議決定ニ米国側ノ留保アリシ事ヲ唱ヘ通常ノ外交経路ニ依リ目的ヲ達セントセルニ対シ貴電末段ノ如ク我方ニ於テ伊国ノ支持ヲ絶対ニ期待スル旨申入ルル事ハ稍考慮ヲ要スル事ト認メタルニ付多少文句ヲ緩和シ覚書ノ末段ニ於テ十月十九日外相ガ本使ニ与ヘタル声明（最高会議ノ決定ヲ変更スベカラズトノ点）ヲ引用シ本件ニ付伊国政府ノ支持ハ日本政府ニ対シ与ヘタルモノナル事ヲ期待シ得ベキヲ信ズル旨認メ同二十五日同大臣ヲ訪ヒ説明ノ上之ヲ手交シタルガ同大臣ハ右一読ノ上差当リ感想トシテ十月十九日本使ノ説明シタル通リ本件決定ハ之ヲ変更スベキ理由無シト認メラルルモ一体米国ノ本件ニ関スル立場ハ如何ナルモノナリヤ華盛頓ニテ確メタル上ニテ当方ヘ回答スル事ニ留保シタシト答ヘタリ

在英米仏各大使及聯盟総会帝国代表ニ転電セリ

四三六　十一月二十四日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

旧独線処分ニ関シ米国委員ガ海牙陸戦法規第五十四条ヲ援用セル趣意ニ付問合ノ件

第五四九号

貴電通第一一四号ニ関シ

米国委員ノ援用セル海牙陸戦法規第五十四条ガ第二回平和会議ニテ議定セラレタル際仏国委員ハ「本修正ハ陸上ニ於

テ行ハルルモノニ限リ之ヲ適用シ海底電線ノ海上ニ於ケル押収及破壊ノ問題ニ触ルルコトナシ」トノ註釈意見ヲ述ヘ同会議ノ採択スル所トナリタルハ御承知ノ通リナル処米国委員カ該規定ハ「独線処分問題ニ付直接拘束力ナキモ」云云ト述ヘ居ルハ前記註釈ノ意味合ニ之ヲ了解シ然ルヘキヤ為念回電アリタシ

四三七　十一月二十四日　在仏国松田臨時代理大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ仏国政府ノ支持ヲ期待スル旨ノ公文ヲ政務通商局長ニ手交ノ件

第一七七六号　（十一月二十六日接受）

在英大使宛貴電第五二三号ニ関シ二十三日政務通商局長「ド、ペレツナ」氏ニ面会御訓令ノ通リ在東京米国代理大使ト閣下トノ間ノ往復文ヲ引用シ日仏間従来ノ了解ニ基キ右帝国政府ノ主張ニ対シ仏国政府ヨリ充分ノ支持ヲ得ルヲ期待スル旨ノ公文ヲ手交ノ上談話ヲナシタル処同局長ハ本件ニ付米国政府ヨリ仏国政府ニ対シ我方ヨリト同様ノ申出アリタル趣ヲ答ヘ仏国政府ニ於テ日本ノ主張ヲ支持スルハ従来政府了解ノ通リ当然ノ事ニシテ右米国政府ノ申出ニ関シテハ在米仏国代理大使ニ必要ナル訓令ヲ発スルツモリナリト語レリ尚当方ノ公文ニ対シテハ書面ヲ以テ回答ス可キモ右ノ次第日本国政府ニ電報セラレ差支ナキ旨ヲ答ヘタリ在欧米各大使聯盟総会帝国代表ヘ転電セリ

四三八　十一月二十五日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

太平洋旧独線処分ニ関スル英国委員ノ私案ニ付意見稟申及請訓ノ件

通第一二二号　（十一月二十八日接受）

往電通第一二〇号ニ関シ当方意見左ノ如シ

一、「ヤップ」「グァム」線ヲ米国ノ所属トスルコトニ就テハ当方ニ於ケル英仏併各国委員何レモ当然ト思考シ居リ仏国委員モ屢々我方ニ対シ同線全体ヲ米国ニ与フルノ必要ヲ夫レトナク漏ラシ居ル次第ナルモ我委員ニ於テハ貴電第五一九号御訓令ノ趣旨ヲ体シ此ノ上トモ充分努力スルハ勿論ナリ

二、「ヤップ」三線ニ対スル独蘭両国権利ノ割合ヲ知ルノ材料ヲ見出シ得ザルモ試ニ両国政府カ会社ニ支払ヘル補助金ノ割合ニ依リ察スレハ和蘭ノ権利ハ全体ノ〇、二六八トナリ「ヤップ」「メナド」線ノ価格（通信省調査ニ依ル）ハ三線ノ価格（独蘭会社投資総額）トノ比例ニ合致スルカ如シ従テ「ヤップ」「メナド」線ヲ蘭国ニ与ヘテ同国ノ権利ヲ消滅セシムヘシト云フハ一応ノ理由ナキニアラズ此ノ方法ニ依レバ我国ハ蘭国ニ対シ何等賠償金ヲ支払フノ必要ナク加之同線現在ノ位地ヲ変更セザルコト及ヒ同線ノ「ヤップ」端ヲ我国ニ於テ運用スルコトヲ条件トスルニ於テハ同線全体ヲ蘭国ニ与フルモ大ナル差支ナキカ如シ然レドモ一方米国ニ対シテハ「ヤップ」「グァム」線ノ共有ヲ主張シ他方蘭国ニ対シテハ「ヤップ」「メナド」線ノ全体ヲ与フルコトハ感情上面白カラザルカ如ク従テ米国ニ対シテ共有ヲ主張スル場合ニハ蘭国ニ対シテモ共有ヲ主張スルコト可然ト思考ス尤モ共有トナル場合ニハ蘭国ニ対シ相当ノ賠償ヲ支払フノ必要アルハ勿論ナリ

貴電第五〇六号ノ趣旨ハ日蘭両国ノ間ニ戦前独蘭会社ト同様ノ関係ヲ設定スルニアルカ如キモ斯カル協定ヲ為スニ当リ米国カ一定ノ割合ヲ以テ参加ヲ申込ム場合ニ排米的気分ヲ表白セズシテ之ヲ拒絶スルコトハ殆ント不可能ナルヘク加之蘭国カ米国参加ノ希望アル場合ニ之ヲ排シテ日本而已ト協同シテ当該線ノ運用ヲ為サムトスルノ意ナリヤ否ヤモ疑ハシク旁々以テ当地ノ交渉ニ於テハ米国ニ対シ「ヤップ」「グァム」線ノ日米共有ヲ主張スル場合ニハ蘭国ニ対シテ「ヤップ」「メナド」線ノ日蘭共有ヲ主張スル積リナルコトヲ表示シ置クコト適当ト認ムル尤モ和蘭ニ賠償ヲ与ヘザルベカラザルガ如キ共有案カ我ニ取リ果シテ利益ナリヤ否ヤニ付政府ニ於テモ予算其ノ他諸般ノ関係ヲ考量ニ加ヘラルル必要アルヘク又共有案以下ノ妥協ニテ話ヲ纏ムルコト絶対ニ不可能トナリタル場合ニ英仏併ノ意向如何ニ拘ラズ飽ク迄「ヤップ」「グァム」線ヲ米国ノ所有トスルコトニ反対スルトキハ結局全般ノ解決ヲ不能ナラシムルノ外ナカルベク事茲ニ至ルトモ我ハ事態已ムヲ得ザルモノトシテ此ノ結果ヲ覚悟スルノ得策ナリヤ否ヤニ就テハ政府ニ於テモ篤ト御考量ノ上右万一ノ場合ニ処スベキ機宜ノ方針ヲ今日ヨリ予メ決定シ置カレムコトヲ希望ス

三、別ニ意見ナシ

四、「ヤップ」「グァム」線及「ヤップ」「メナド」線ノ「ヤップ」端ヲ米国及蘭国ノ会社ヲシテ又ハ米蘭共同ノ会社ヲシテ運用セシムルコトハ我方ニ於テ到底同意スルコト能ハズト思考ス然レドモ前記両線ヲ以テ「グァム」「メナド」間ニ直接通信ヲナシ得ル様「ヤップ」島ニ於テ一定時間自働中継ヲ設ケル案ハ前者ト性質ヲ異ニシ両線ヲ直通トセザル場合ハ我方ニ於テ両線ノ「ヤップ」端ヲ運用シ直通トスル場合ニモ自働中継ハ我方ノ手ニテ之ヲ行フ為メ「グァム」「メナド」間ノ通信字号ハ悉ク我カ「ヤップ」電信所ニ現出セシメ得ルヲ以テ結局同線ノ通信ハ我カ監視ノ下ニアルモノト云ヒ得ベク自働中継ヲ設ケザル場合トノ差異ハ中途ニ於テ通信ヲ差押フルコトヲ得ザル点ニアリ

五、米国ハ戦前ニアリタル「ヤップ」上海間ノ直通線ヲ含マセンコトヲ主張シ居ルモ右ハ我方ニ於テ到底同意シ得ザルモノナルヲ以テ双方ノ主張ヲ折衷シテ那覇ニ自働中継ヲ設ケ毎日一定時間「ヤップ」上海間ノ直接通信ヲナシ得ルコトトスルモ一案ナルベシ

六、那覇上海線ノ上海端ノ陸揚及運用ニ付テハ何レノ途大北電信会社及支那政府ト話合ヲ付ケザルベカラザル次第ナルヲ以テ上海端ヲ大北電信会社ニ運用セシムルコトハ便利ナルヤモ知レズ尚右ノ場合ニハ同線ノ上海端ヲ先ヅ上海日本局ニ引込ミ然ル後上海大北会社局ニ連絡スルコトトスルヲ得策トスベシ

当地ニ於ケル交渉ハ各国トモ取急ギ居ルニ付右ニ関シ折返シ何分ノ御訓令ヲ請フ

四三九　十一月二十七日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分ニ関シ海牙陸戦法規第五十四条ニ対スル米国ノ解釈ニ付回報ノ件

通第一二四号　（十一月二十九日接受）

貴電第五四九号ニ関シ

米国ノ第五十四条ニ対スル解釈ハ同条ハ「テクニカリー」ニ謂ヘバ占領地ト中立地トヲ聯絡スル海底線ニ適用スベキモノニシテ其他ニハ適用ナシト謂フニアリ

当日ノ会議ニ於テ我方ハ法律上ノ論争ヲ止ムベキ事ヲ慫慂

シタル際ナルヲ以テ席上ニ於テ右米国ノ議論ニ関シ反駁ヲ加ヘザリシモ其後米国法律顧問ニ対シテハ客年三月十六日仏国外務省ニテ開カレタル国際法専門家ノ会合ニ於ケル「ブラウン」「スコット」ト「フォルマショウ」トノ論争ヲ指摘シ該規定ガ海戦ニ適用ナキ旨ヲ注意シ置ケリ為念申添フ

尚本条ニ付我方ニ於テ注意スベキ点ハ我国ガ「ヤップ」島上ニ於テ旧独線ヲ切断シタル事実ガ問題トナルトキハ同条ハ直チニ適用ヲ生ジ一応ノ批難位ハ受クルヤモ計ラレズト思考セラルル処当方参考ノ為メ御意見御回示ヲ乞フ

四四〇　十一月二十七日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

最高会議ノ決定ハ日本ノ委任統治区域内ニヤップ島ヲ包含スルモノナル旨仏国政府ノ確認ヲ得ル様措置方ニ付稟申ノ件

通第一二五号　（十一月二十九日接受）

閣下宛在仏国大使発第一七七六号ニ関シ

仏国政府ハ従来ノ諒解通リ日本ノ主張ヲ支持スルコトヲ重ネテ言明シ我方ノ公文ニ対シ追テ書面ヲ以テ回答スヘキ趣ニテ仏国カ此上トモ目下ノ争議ニ付我方ノ主張ヲ支持スヘキコト疑ナシ然レドモ仏国カ我方ノ主張ヲ支持スヘシトノ公文ノ效力ハ単ニ我方ト仏国トノ関係ニ止マリ性質上如何ナル場合ニ於テモ外部ニ示シ得ザルモノナルヲ以テ将来ニ於テ万一ノ場合第三者ニ対シ之ヲ引証スルニハ適当ナラズ之ニ反シ此際予メ仏国政府ノ諒解ヲ得置キタル上ニテ我方ヨリ帝国政府ニ於テハ五月七日最高会議ノ決定ハ「ヤップ」島ヲ包含スルコトニ付テハ一点疑ヲ挟ムノ余地ナシト思考スルガ右ニ対シ仏国ノ意見ヲ承知シ度シトノ趣旨ノ公文ヲ仏国ニ送リ之ニ対シ仏国ヨリテ同意見ナリトノ回答ヲ取付ケ置クトキハ万一本件ガ米国トノ関係ニ於テ暫ク解決ヲ見ザル場合ニ於テモ必要ニ応ジ外部ニ対シ仏国ニ於テモ同意見ナルコトヲ立証スルノ用ニ供シ得ベキニ付我方ニトリ有利ナリト思考ス既ニ仏国ガ我方ノ主張ヲ全然支持スヘキ旨ノ保証ヲ再応言明セル際ナルノミナラズ当地ニ於テ日仏提携ノ関係ヨリ見テ我方ヨリ今一応進ンデ右ノ如キ希望ヲ申入ルルモ拒絶セラルルコトナカルベキヤニ思考セラルルニ付可成前記ノ如キ措置ヲ執リ置カルル様致シ度シ英国ト

ノ関係ニ於テモ大体同様ト存ス往電通第一一五号追補トシテ為念申進ス

四四一　十一月二十九日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

ヤップ関係海底電線ニ関スル我方ノ対蘭国提議ニ付蘭国側ヨリノ問合ニ対スル我回答振通報ノ件

第五六三号

在本邦蘭国公使ヨリ本国政府ノ訓令ニ基キ「ヤップ」関係海底電線ニ関スル帝国政府ノ同政府ニ対スル提議ハ通信予備会議ニ通告セラレタリヤ否ヤ十一月二十二日附書翰ヲ以テ問合セ来リタルニ依リ帝国政府ハ右提議ヲ特ニ該会議ニ通告スルコトナカリシモ右提議ニ先チ該会議ニ於テ帝国委員ヨリ帝国政府ハ和蘭ノ既存利益ニ付蘭国政府ト交渉ヲ開始スルノ意アルコト並帝国政府ハ「ヤップ」「メナド」間ノ通信ヲ成ルヘク速ニ復旧スル様希望スルコトヲ陳述セル旨三十日附ヲ以テ回答シ置キタリ

右在欧各大使及在蘭公使へ転電アリタシ

四四二　十一月二十九日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題ニ関シ五国委員長協議会ノ経過要点報告ノ件

通一二六号　（十二月一日接受）

独線処分ニ関シテハ其後米仏英ノ間ニ数回個別的協議ヲ重ネタルモ進捗セザルヲ以テ更ニ五国委員長ノ協議会ヲ開クコトトシ十一月二十四日正午ヨリ第一回二十六日正午ヨリ第二回同日午後五時ヨリ第三回ノ会合ヲ国務省ニ於テ催シタルガ未ダ具体的妥協案ヲ見出スニ至ラズ経過ノ要点左ノ如シ

一、二十四日ノ会合ニ至ル迄ノ経過

米国側ハ其後仏国ニ対シ戦前状態復旧ノ要求ヲ固執セザルモ其代リ「ブレスト」紐育線全体ノ所有権ヲ要求セリ之ニ対シ仏国委員ハ同線ノ共有及ビ共同運用ヲ提議セリ茲ニ於テ米国委員ハ仏国ニ於テ「ブレスト」紐育線ノ全部ヲ米国ニ与ヘザルニ於テハ米国ハ英国ヨリ「ペンザンス」「ハリファックス」線ノ半分ヲ得ザル可ラズトナシ英国ニ向ッテ「ペンザンス」「ハリファックス」線ノ半分ヲ米国ニ与フルノ案ニ付考量セラレタリヤヲ問ヒ英国委員ハ到底同意スルヲ得ザル旨ヲ答ヘタルノミニテ（英国側ハ右米国ノ要求ヲ真面目ナルモノト認メ居ラズ）何等具体的新案ヲ見出スニ至ラズ

二、二十六日正午ノ会合ニ於テ「ブラウン」ハ独線処分ニ関スル一案ヲ有スル旨ヲ述ベ「ラネル」ニ向ッテ会議ニ提出シ差支ヘナキヤヲ問ヒ「ラネル」ハ該案ガ果シテ仏国政府ノ承諾ヲ得ベキモノナリヤ否ヤ承知セザルモ提出スルコトニハ異存ナキ旨ヲ答ヘタルヲ以テ「ブラウン」ハ之ヲ「デヴィス」ニ手交セリ其要領ハ

(イ)「ブレスト」「アゾーレス」及「アゾーレス」紐育線ノ所有権ヲ仏国ニ与ヘテ仏国ヨリ其価額ヲ独逸ノ賠償貸方ニ計上シ然ル後仏国ヨリ之ヲ米国ニ売リ渡スコト

但シ予メ伊太利トノ間ニ適当ナル協定ヲ遂グルコト

(ロ)米国ハ「ブレスト」「アゾーレス」線ヲ仏国ノ会社ニ永貸ス貸料ハ同線ニ付独逸ノ賠償貸方ニ計上セル価格ヲ基礎トスルコト

右仏国会社ハ出来得レバ「ブレスト」ヨリ更ニ「デンマーク」ニ線路ヲ延長シ米国ト仏国及「スカンディナヴィヤ」トノ間ノ通信連絡ヲ計ルコト

(ハ)「アゾーレス」紐育線ハ之ヲ米国ノ会社ニ永貸ス貸料ハ該線ニ付独逸ノ貸方ニ計上セル価格ヲ基礎トスルコト

右ノ会社ハ「ブレスト」「アゾーレス」線及将来敷設セラルベキ「アゾーレス」伊太利線ト「アゾーレス」紐育線トノ間ニ有効ナル通信連絡ヲ計ルコト

(ニ)仏国ガ「ブレスト」「アゾーレス」及「アゾーレス」紐育線ニ関連シテ支出シタル費用ハ十五万磅ヲ限度トシテ米国ヨリ仏国ニ払戻スコト

「デヴィス」ハ右案ヲ一覧シタル後右ハ全ク新規ノモノナルヲ以テ篤ト考査スベキモ仏国ガ転用ニ費シタル十五万磅ヲ払戻スコトニハ到底同意シ難シト述ベ該案ノ写ヲ取リテ各国委員長ニ配付スベキ旨ヲ約シテ散会セリ

之ヨリ曩「ブラウン」ハ右案ヲ「デヴィス」ニ手交スルニ当リ太平洋線ニ関スル部分ガ切取ラレ居ルニ気付キ此ノ部分ハ曩ニ本使ニ示サンガ為之ヲ切取リタルモノナリト説明シ本使ニ向ッテ米国側ニ提出シ差支ナキヤヲ問ヘリ依テ本使ハ該案ハ我方ノ専門家ニ於テ講究中ニテ何程迄受諾シ得ベキヤニ付未ダ意見ナキモ米国側ニ示サルル

コトニ付テハ異存ナキ旨ヲ答ヘ置ケリ

三、二十六日午後ノ会合

前回ノ会議ニ於テ「デヴィス」ハ「ブラウン」案ノ写ヲ取リテ各委員ニ配布スル事ヲ約セシニ拘ラズ午後ノ会議ニ於テ該案ハ米国ニ於テ到底承諾シ得ザルモノナルヲ以テ写ヲ取ル事モ不必要ト認メタリト陳ベ「ブラウン」ガ米国ノ同意ヲ得ザルハ如何ナル点ナリヤト問ヘルニ対シ第一ニハ十五万磅ハ米国ヨリ言ハバ仏国ニ於テ米国ガ不当ト認ムル目的ニ使用シタルモノナリ其ノ費用ヲ米国ヨリ払戻ス事ヲ得ズ第二ニハ仏国ガ「ブレスト」ノ端ヲ運用スル事及仏国ノ手ニテ丁抹ニ線路ヲ延長スル事ハ何レモ米国ノ同意シ得ザル処ナリト言ヒ「ブラウン」氏ノ案ハ「ロジャース」ノ手許ニアリトテ同人ヲ呼寄セリ「ロジャース」ハ該案ヲ手ニシテ入リ来リ自分ハ同案ニハ全然「インテレスト」セズト言ヒ進ンデ仏国ガ既定線ヲ運用管理スル方法ノ拙劣ナルヲ攻撃シ語気態度共ニ不穏当ト見受ケタリ

最後ニ「デヴィス」ハ「ブレスト」紐育線ヲ何等ノ条件ヲ附スル事ナク百五十万弗ニテ仏国ヨリ買ヒ仏国公債ヲ以テ支払フノ案ヲ提出セルモ「ラネル」ハ同意シ得ザル旨ヲ答ヘ「デヴィス」ハ右ノ提議ハ単ニ自分一個ノ当座ノ思付ニテ米国政府ノ同意シ得ベキモノナリヤ否ヤ不明ナル旨ヲ附言セリ

此処ニ於テ「ブラウン」ハ自分ノ案ガ何国ヨリモ考慮ヲ受クルノ望ナキニ於テハ之ヲ撤回スベキ旨ヲ陳ベ「デヴィス」モ米国最初ノ主張ノ如ク戦前状態ニ復旧セバ所有問題ニ付テハ大ナル譲歩ヲ為スモ差支無キ旨ヲ陳ベテ（不明）ニ散会セリ

尚「ブラウン」案ノ太平洋ニ関スル部分ハ午後ノ会議開催前「ブラウン」ヨリ「デヴィス」ニ送付セルガ会議中「デヴィス」ハ右ニ対スル本使ノ意見ヲ問ヘルニ付既ニ言ヘル如ク専門家ニ於テ講究中ニテ何等意見ヲ表示スルヲ得ズト陳ベ該案ニ対スル米国ノ意向ヲ反問セルニ「デヴィス」ハ自分モ目下研究中ナルガ一見セル所ニテハ大西洋線ニ関スルモノヨリモ幾分妥当ナルガ如シト答ヘタリ

在英仏伊各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

四四三　十一月三十日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シデヴィスト会談ノ件

通第一二七号　（十二月一日接受）

往電通第一二六号ニ関シ十一月二十六日正午ノ会議終了後「デヴィス」ノ希望ニ依リ同氏ト本使ノミニテ暫時対談シタルガ「デ」氏ハ「ヤップ」島ニ陸揚及運用自由ノ主義ヲ許サンコトヲ要求シタルニ付本使ハ右ハ第一聯盟規約第二十二条中南洋諸島ニ関スル委任統治ノ規定、第二我カ電信法ノ精神ニ反スルカ故ニ同意シ得ザル旨ヲ再説セリ次ニ「デ」氏ハ日米国交ノ大局ヨリ論ジ日米両国ノ利害ハ決シテ衝突セズ互ニ提携シ得ベキモノナルニ拘ラズ日本ガ他ト協同シテ米国ニ当ルハ甚ダ其ノ意ヲ得ズトテ不平ヲ洩シ其ノ云ヒ方ハ稍々態トラシカリシモ好機会ト思考シタルヲ以テ自分ハ米国ニ対シテハ戦前状態復旧ノ要求ガ理由ナキコトヲ主張スルト同時ニ仏国ニ対シテハ妥協ノ必要ヲ説示シ居ル次第ニテ全ク全局ノ解決ニ向ッテ力ヲ致サントノ趣旨ニ外ナラズ従ッテ米国側ヨリ怨言ヲ聞クハ頗ル意外トスル所ナリトテ一応ノ弁明ヲ与ヘ置ケリ次ニ「デ」氏ハ石油問題ニ関スル英国ニ対スル米国ノ抗議ヲ引用シテ委任統治ハ性質上自国ト他国トノ間ニ差別待遇ヲ設クルヲ許サズトノ議論ヲ為シタルヲ以テ本使ハ聯盟規約第二十二条第五項中央阿弗利加ニ対スル機会均等ノ規定ガ南洋諸島ニモ適用アリヤ否ヤノ問題ハ関係諸国間懸案トシテ未ダ解決ニ至ラザル次第ナルガ何レニシテモ本件ニ関係ナキ問題ナリ之ヲ郵便ニ譬フレバ郵便ヲ政府ノ手ニテ干渉セザル国ナシ然ルニ委任統治ノ下ニアル地域ニ於テ郵便ニ付テ他国ガ受任国ト均等ノ待遇ヲ主張シ得ザルハ明瞭ナルベキ旨示シタルニ「デ」氏ハ更ニ規約ハ変更シ得ベシト云ヘルニ付規約第二十二条ノ条文ハ各国相互ノ譲歩ニ依リテ成立セルモノニシテ今日ニ於テハ最早ヤ変更ノ余地ナキ旨ヲ述ベ置ケリ「デ」氏ハ更ニ日本ノ法律ト雖モ委任統治ノ性質ニ矛盾セルモノハ変更セザルベカラズト云ヘルニ付本使ハ右矛盾ノ無キコトヲ繰返シ他日日本カ外国海底電線陸上ニ関スル現行法ヲ改正スルコトハ之無シトモ限ラズト雖モ若シ日本委員カ外国ノ強制ニ応ジテ法律ノ改正ヲ約束スルニ於テハ反ッテ議会其ノ他ヨリ反対ヲ招キ斯クノ如キ約束ノ実行ハ不可能トナルヘシト述ヘ置タリ

在欧各大使在蘭公使へ転電セリ

四四四　十一月三十日　在英国永井臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ日本支持ノ英国政府ノ態度ニ付報告ノ件

第一〇三五号　（十二月一日接受）

貴電第五二三号本月二十日接到シタルモ次官多忙面会ノ機ヲ得ズ不取敢二十五日書面ニテ御訓令ヲ執行シ尚二十九日面会英国政府ノ意見ヲ問ヒタル処次官ハ「ヤップ」島ノ日本委任区域ニ入ル可キハ勿論ナリ「ウィルソン」氏ハ会議席上強硬ニ留保ヲ口ニセルコトアルモ最後確定ノ節ニハ何等留保ヲ為サズ今日ニ及ビ最高会議決定ヲ変ゼントスルガ如キハ不都合千万ト云ハザル可ラズ其ノ趣ハ在米英国大使及通信会議委員ニ訓示シアルノミナラズ在当地米国大使ニモ明カニ申聞ケアリ英国政府ノ態度ハ右ニ依リ明カナル可シト繰返シ米国政府ヲ非難シ居タリ

米仏伊及聯盟代表へ転電セリ

四四五　十二月一日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

ヤップ島上ニ於テ旧独線ヲ我軍ガ切断セル事実ガ問題トナル場合ノ説明振等ニ付回訓ノ件

第五六四号

貴電通第一二四号末段ニ関シ若シ該事実カ問題トナル場合ニ於テハ右ハ軍事上ノ絶対的必要ニ基ク処分ニ過ギザルコトヲ説明セラレ又其ノ還附及賠償ノ問題ニ関シテハ対独平和条約第八編第七附属書ニ於テ独逸国ハ自己及其ノ国民ノ名ニ於テ「ヤップ」線ノ権利権原又ハ特権ヲ抛棄シ之カ為私人ノ被ル損害ハ之ヲ評価シタル上賠償計算ニ於テ独逸国ノ貸方ニ計上スルコトトナリ居ル次第ニ付問題ハ自ラ解決シ居ルモノト了解スル旨ヲ述ヘ可然応酬セラレタシ

四四六　十二月二日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

大西洋旧独線ニ関シ英仏両国譲歩ノ程度ニ対スル見込ニ付回報方指令ノ件

第五六五号　至急

貴電通第一二〇号乃至第一二二号ニ関シ往電第五一九号ノ訓令ハ帝国政府ニ於テ通信会議ノ成果ヲ挙ケムコトヲ希望シ交譲ノ精神ヲ以テ慎重考慮ノ末閣議及外交調査会ノ審議ヲ経テ決定ヲ見タル次第ニシテ此ノ際右以上ノ譲歩ヲ為スガ為ニハ我国論ヲ満足セシムルニ足ルノ事態アルヲ必要トスル処最後ノ譲歩案ニ就テハ当方ニ於テモ篤ト攻究中ナルガ愈々之ガ決定ヲナスニハ斯カル事態明白ナルヲ要スル次第ニモアリ先ヅ以テ英仏両国ニ於テ大西洋独線ニ関スル要求ニ付果シテ如何ナル程度迄ノ譲歩ヲ為スベキヤ承知シ置キタキニ付右ニ対スル御見込至急回電アリタシ

四四七　十二月二日　内田外務大臣ヨリ
在英国永井臨時代理大使宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ英国政府ヨリ書面回答取付方訓令ノ件

第五四七号

往電第五二三号ニ関シ

本件帝国政府ノ申入ニ対シテハ貴任国政府ヨシテ書面ヲ以テ回答セシムル様御配慮アリ度シ

本電本大臣ノ訓令トシテ在仏及在伊各大使ニ転電アリ度シ

四四八　十二月二日　在英国永井臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島ニ関シ英国外務大臣ヨリ米国大使ニ対シ英国政府ノ意向ヲ伝達セル旨回答越ノ件

第一〇四四号　（十二月三日接受）

往電第一〇三五号ニ関シ外務大臣ハ十一月十六日附公信ヲ以テ在英米国大使ニ対シ「ヤップ」島ヲ含メル赤道以北旧独領太平洋諸島ハ昨年五月七日四頭会議ノ決定ニ依リ全部日本ノ委任統治ニ附セラレタル事実ヲ指摘シ英国政府ハ右決定ヲ終局的ニアラズトスル事由ナシト認ムル旨附言セル趣十二月一日附通報アリタリ原文郵送ス

聯盟総会帝国代表及米仏伊へ転電

四四九　十二月二日　在英国永井臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛

最高会議ノ決定ハ日本ノ委任統治区域内ニヤップ島ヲ含ム旨英国外務大臣ヨリ正式ニ回答越ノ件

附属書　十二月一日附英国外務大臣ヨリ永井臨時代理大使宛書翰写

機密公第三三号　（大正十年一月十八日接受）

大正九年十二月二日

在英国臨時代理大使　永井松三（印）

外務大臣伯爵　内田康哉殿

赤道以北旧独領太平洋諸島委任統治ニ関スル件

本件帝国政府ノ主張ニ対スル英国政府ノ正式回答ハ往電第一〇四四号ニテ御承知ノ通リナル処右回答本文写一通及御送付候間御査収相成度此段申進候　敬具

二伸

在ゼネヴァ全権及ビ在米大使ニモ郵送方取計置候

（附属書）

十二月一日附英国外務大臣ヨリ永井臨時代理大使宛書翰写

FOREIGN OFFICE, S. W. I.

No. C. 12259/9247/18　　1st December, 1920.

Urgent

Sir:—

I have the honour to acknowledge the receipt of your memorandum, dated November 24th, which you were so good as to leave at the Foreign Office

on November 25th, as to the attitude of the United States Government towards the question of the Japanese mandate for the island of Yap.

In reply, I have the honour to inform you that I addressed a communication on November 16th to the United States Ambassador at this Court, reminding His Excellency that all the islands in the Pacific north of the Equator formerly in the possession of Germany, including the island of Yap, were, by a decision of the Council of Four on May 7th, 1919, included in the mandate to be given to Japan. That communication added that it did not appear to be open to His Majesty's Government to regard the decision of May 7th, 1919 as other than definitive.

I have the honour to be,

with high consideration,

Sir,

Your most obedient

humble Servant.

(For the Secretary of State)

(Signed) LANCELOT OLIPHANT

Matsuzo Nagai Esq., C.B.E.,

etc., etc., etc.

四五〇　十二月二日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

旧独領処分問題ニ関シ仏国委員長トノ会談及第四回各国委員長会合ノ模様ニ付報告ノ件

通第一二九号　（十二月四日接受）

独領処分ニ関スル交渉其後ノ経過左ノ通リ

一、十一月二十八日午後「ラネル」本使ヲ来訪シ米国ニ於テ依然「ブレスト」紐育線全体ノ所有権ヲ要求スルニ於テハ到底話ノ纏ル見込ミナキヲ以テ寧ロ本件解決ヲ後日ニ譲ルノ外ナシト思考スル旨ヲ述ベ尚仏国側妥協ノ誠意ヲ表彰スルタメ最後ノ譲歩トシテ紐育「アゾーレス」線ヲ放棄スルノ外更ニ「ブレスト」「アゾーレス」線ヲ米国ト共有スルノ案ヲ政府ニ献言スルノ意アル旨ヲ内話セリ依テ本使ハ

何トカシテ全局ノ解決ニ達センコトヲ切望スル旨ヲ述ベタルニ上解決不能ノタメ物別レトナル場合ニハ世界ニ向ッテ五国ノ間ニ協調ナキコトヲ示シ好マシカラザルノミナラズ単ニ仏国ノ見地ヨリ云フモ米国ガ「ブレスト」紐育線ノ紐育端ノ陸揚ゲ運用権ヲ拒否スルコトナキヲ保セザルニ付一ノ暫定協定ヲ結ビ置クコト必要ナルベク例ベバ旧独線全体ヲ仮リニ五国ノ共有トシ各線路ノ各端ハ夫々陸揚地ヲ管轄スル国ニ於テ運用スルコトトシテ収支ノ分配ヲ定メ尚「モンロービィア」「ペルナンブコ」線ノ運用ニ付特別ノ規定ヲ設クルガ如キ之ナリト説示シタルニ「ラネル」ハ全然同意ヲ表セリ

二、十一月二十九日午後四時半各国委員長第四回会合ヲ開ク

「デヴィス」ハ伊国委員「ブランビラ」ニ対シ仮リニ米仏ノ間ニ妥協成立シタリトセバ伊国ハ「ブレスト」紐育線ニ依ル伊太利トノ連絡上相当ノ利便ヲ享有スルコトヲ以テ満足スベク所有権ニ付テハ何等問題ナキコトト思考スト述ベタルニ「ブランビラ」ハ大ニ驚キタル様子ニテ紐育「アゾーレス」線ノ半分ノ所有権ヲ要求スベシトノ訓令ヲ受ケ居

レル旨ヲ答ヘタリ右ニ対シ「デヴィス」ハ伊太利ハ戦前大西洋独線ニ付テハ何等利害関係ヲ有セザリシニ非ズヤト反問シ更ニ伊太利ニ於テ同線所有権ノ一部ヲ要求スルニ於テハ米国ノ取分ハ一層減少スベク新ナル困難ニ遭遇スト述ベタリ

此時「ラネル」ハ止ムヲ得ザル場合ニハ「ブレスト」「アゾーレス」線ヲ米国ト共有スルコトヲ本国政府ニ上申スルノ意アルモ政府ニテ承諾スベキヤ否ヤ元ヨリ予言シ難シト云ヘリ

茲ニ於テ話ハ所有権ノ問題ヨリ運用ノ問題ニ転ジ「デヴィス」ハ「ブレスト」端ノ運用ハ是非米国ノ手ニ収メザルベカラザル旨ヲ述ベ「ラネル」ハ米国「コムマーシャル」会社ガ独逸会社ノ代理人トシテ紐育端ヲ運用セルト同様ノ方法ニテ仏国ガ米国会社ノ代理人トシテ「ブレスト」端ヲ運用スルコトトナスモ可ナラズヤト云ヒ「ブレスト」端ノ運用ヲ抛棄スルコトハ感情上ヨリ云フモ到底同意シ得ザル旨ヲ述ベタリ

此時「ブラウン」ハ言ヲ差挟ミテ一ノ線ヲ両会社ニテ運用スルコトハ実際上ノ不利益アル旨ヲ説明シタルニ「ラネル」ハ憤然トシテ怒リ「ブラウン」ガ毎度ナガラ「ラネル」ノ立場ニ対シ面倒ヲ惹起セントスルノ態度ニ出ヅルコトヲ攻撃シ一座大ニ白ケタリ

「デヴィス」ハ更ニ米国実業家ガ「スカンディナヴィヤ」トノ聯絡ヲ切望スル旨ヲ述ベ「ラネル」ハ「ブレスト」ヲ素通リシテ米国ト「スカンディナヴィア」トノ聯絡ヲ計ルコトニハ同意シ得ズト云ヒ結局「ブレスト」ニ於テ仏国会社ガ米国会社ノ代理人トシテ米仏間ノ通信ヲ取扱ヒ且ツ中継ノ方法ニ依リテ米国ト丁抹トノ間ノ通信方法ヲ設クルノ案ガ実行シ得ベキヤ否ヤニ付専門家ノ意見ヲ徴スルコトトシテ閉会セリ

之ヲ要スルニ現下ニ於ケル仏米双方ノ主張ハ所有権問題ト運用問題トニ別ツヲ得ベク

㈠所有権ニ付テハ米ハ尚「ブレスト」紐育線全体ヲ要求シ仏ハ紐育「アゾーレス」ノ全部ヲ抛棄シ且ツ「ブレスト」「アゾーレス」ヲ米国ト共有スルコトヲ以テ譲歩ノ極度トセリ

㈡運用ニ付テハ米国「ブレスト」ノ端ヲ米国会社ニテ運用センコトヲ主張シ仏ハ同端ヲ仏国会社ヨシテ米国会社ノ代理人トシテ運用スルコトヲ主張シ仏ハ紐育「アゾーレス」線ヲ米仏両国ノ共有トシ運用ハ米国ニ一任スルヲ以テ極度トセリ

代理人トシテ運用セシムルコトヲ以テ譲歩ノ極度トナシ此外「ブレスト」ニ於テ中継ヲ設ケテ米国ト丁抹トノ間ニ直通ヲナシ得ルヤ否ヤニ付テハ米国側ニ於テ考究スルコトトナリ居ル次第ナリ

三、「ラネル」ノ内話ニ依レバ在米仏国大使ハ米国側ニ対シテ仏国ノ立場ヲ説明シ併セテ米国側ノ態度ヲ探ル為「デヴィス」ト会見（多分十一月二十九日）シタル処「デ」氏ハ「ウィルソン」大統領ニ於テ全局ノ解決ヲ切望シ居ル旨並大統領ニ於テ「ブレスト」紐育線全部ノ所有権ヲ米ニ帰属セシメンコトヲ熱心ニ主張シ居レル旨ヲ述ベ容易ニ譲歩スルガ如キ様子見エザリシ趣ナリ

在欧各大使在蘭公使ニ転電セリ

四五一　十二月三日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分ニ関スル各国委員長第五回会合ニ於テヤップ島問題等討議ノ件

通第一三三号　（十二月四日接受）

十二月一日午後四時各国委員長第五回会合ヲ催ス

米仏間ノ問題ニ付「デヴィス」ハ共同運用ノ不可ナルコトヲ論ジ「ラネル」ハ実例ヲ挙ゲテ其ノ可能ヲ主張セリ依テ本使ハ米仏間意見ノ相違ハ共同所有権及共同運用ニ関スルモノニシテ技術的ノ問題ヲ包含スルニ付両国専門家ノ意見ヲ徴シテ実行ノ能否ヲ決セバ可ナル可キ旨ヲ述ベ双方共紐育ヨリ技術家ノ来ルヲ俟ツコトトナレリ

次ニ米伊間ノ問題ニ付「デヴィス」ハ伊国ガ所有権ヲ主張スルニ於テハ更ニ面倒ヲ生ズベク伊国トノ通信連絡ニ付テハ紐育「アゾーレス」間ニ新線ヲ布設スル方適当ナル可キ旨ヲ述ベ「ブランビラ」ハ伊国ハ是非トモ所有権ニ付分配ヲ得ザル可カラザル旨ヲ切言セリ

夫レヨリ話ハ太平洋電線ニ移リタル処通第一二九号所報ノ通リ已ニ仏国側ニ於テ紐育「アゾーレス」線ノ全部及「ブレスト」「アゾーレス」線ノ半分ヲ放棄セルノミナラズ「ブレスト」端モ仏国会社ニ於テ米国会社ノ代理人トシテ運用スルコト迄譲歩セル今日我方ニ於テ「ヤップ」三線全体ヲ要求スルハ事態ニ適合セズト認メタルヲ以テ本使「ラネル」ノ最終譲歩案ニ依レバ米国ハ最少限ニ見積ルモ二千九百哩ヲ獲得スルコトトナル（紐育「アゾーレス」二千二百

九十哩「ブレスト」「アゾーレス」ノ半分六百七十五哩「ヤップ」「グアム」六百五哩「ペンザンス」「ハリファックス」線ト米国線トノ交換以後米国ノ利スル線長五百哩計四千七十哩ヨリ仮リニ伊国ノ為メ紐育「アゾーレス」線ノ半分千百四十五哩ヲ差引ケバ残リ二千九百二十五哩トナル）然ルニ「ヤップ」三線全部ニ関スル独逸ノ権利ヲ日本ニ帰属セシムルモ日本ハ僅ニ二千三百哩（「ブラウン」案ノ如ク三線中ニ含マルル和蘭ノ権利ヲ「ヤップ」「メナド」線ト相殺シ得ルモノト仮定スレバ）ヲ得ルノミニシテ米国ガ現ニ満足シ得ズト云ヘル哩数ヨリモ少シ然ルニ「ブラウン」案（往電通第一二二号）ニ依レバ「ヤップ」「グアム」線全体ヲ米国ニ与フルコトトナリ居リ斯ノ如キハ日本ニ取リ不公平ナルモノト云ハザル可ラズ従ッテ日本政府ハ三線全体ニ付独逸ノ権利ヲ日本ニ帰属セシムベキコトヲ要求スルモノナリ然レドモ速ニ全局ノ解決ニ到達センコトハ本使ノ熱心希望スル処ナルヲ以テ万一此点ノミガ故障トナリテ全般ノ解決ヲ妨グルガ如キコトトナル場合ニハ同線ニ対スル半分ノ持分ヲ米国ニ与フルコトヲ本国政府ニ提議センカト考ヘ居ル次第ナルモ政府ノ承諾ヲ得ベキヤ否ヤ素ヨリ不明ナリト述ベタリ

右ニ対シ「デヴィス」ハ「ヤップ」「グアム」線ハ米国ニ於テコソ支那トノ通信連絡上利害関係ヲ有スルモ日本ニハ関係ナキ線ニアラズヤト反問セルニ付本使ハ「ヤップ」島ハ日本ノ委任統治下ニアルヲ以テ同島ニ陸揚ゲセル電信ニ付利害関係ヲ有スルハ勿論ナリト述ベタリ「デヴィス」ハ「ヤップ」島ノ「ステータス」ハ未定ナリ同島ガ日本ノ委任統治ノ下ニアルベキコトヲ根底トシテ問題ヲ論議スルハ到底米国政府ノ同意シ得ザル処ナリトテ本使トノ間ニ従来ノ議論ヲ繰返セリ

当日「デヴィス」ノ最モ力ヲ入レテ論ジタルハ委任統治ハ性質上共同ニ戦争シタル国ノ不利益トナルガ如キ法律ヲ統治地域ニ適用シ得ズトノ点ニシテ本使ガ例ニ依ッテ委任統治ノ性質ハ被統治地域ノ種類ニ依リ差異アリ南洋諸島ハ聯盟規約第二十三条第五項ノ規定ニ従ヒ受任国領土ノ構成部分トシテ其ノ国法ノ下ニ施政スベキモノナリト云ヘルニ対シ「デヴィス」ハ同条第七項ノ規定ヲ引用シテ受任国ノ行フ権限等ニ関シテハ聯盟理事会ニ於テ各場合ニ付確定スルコトトナリ居ルニアラズヤト弁ジタルニ依リ本使ハ更ニ

理事会ハ聯盟規約中ニ明記シアル事項ニ付テハ何等新ナル決定ヲナスノ権限ナキハ自明ノ理ナラズヤト反駁シ置キタリ

「デヴィス」ハ更ニ「ウィルソン」大統領ニ於テ「ヤップ」島ヲ除外スルコトニ付明瞭ニ留保シタル旨ヲ述ベタルニ依リ五月七日決定ノ際留保アラバ書類ヲ一覧シタシト云ヒタルニ五月七日ニハ特ニ留保セザリシモ夫レ以前ニ留保セルナリト云ヘルニ依リ本使ハ以前ニハ牧野子ニ於テ反対ノ意見ヲ表示シアリ最終決定ノ際何等ノ留保ナキニ拘ラズ其ノ以前ニ発表セル大統領ノ意見ハ其ノ儘有効ニ残リ牧野子ノ意見ハ無視セラルル理由ハ之ヲ見出シ得ズ元来英米仏代表者ハ日本ニ直接関係アル問題ニ付日本代表者ノ出席ノ機会ヲ与フルコトナクシテ日本ノ主張ニ反対ノ決定ヲナスガ如キ権利ナシト突キ込ミタルニ「デヴィス」ハ些カ辞ニ窮セル模様ニ見受ケタリ「デヴィス」ハ更ニ委任統治ト機会均等ノ関係ヲ述ベタルニ付本使ハ又々郵便ノ例ヲ引キテ説明セルニ「デヴィス」ハ郵便ハ不可侵（Inviolable）ナルモ電信ハ然ラズトノ議論ヲナシタルニ依リ本使ハ不可侵権ノ有無ハ本件ト別問題ナリト答ヘ又「デヴィス」ハ米国ニ於テ郵便ヲ政府ノ管掌トスルモ電信ハ私人ノ経営ニ任ジ両者ノ間ニ区別アリト云ヘルニ付右ハ性質上ノ区別ニアラズ何レノ場合ニ於テモ聯盟規約ニ所謂通商貿易ノ機会均等主義ハ政府ガ行政事務トシテ所管スル事業ニハ関係ナシト述ベ置キタリ

「デヴィス」ハ更ニ米国ハ電信ト郵便トハ性質ヲ異ニスルモノト認メ現ニ中継ノ為ニハ何国ニモ陸揚ヲ許スノ主義ヲ採用スルコトニ決定セル次第ナリト云ヘルニ依リ本使ハ中継ノ問題ハ第四分科会ニ於テ全会一致ヲ得ザリシ事項ニアラズヤ既ニ同分科会ニテ否決トナリシモノヲ更ニ第一分科会ニ復活セシメントスル趣旨ナルガ如キモノハ到底同意出来ズト云ヘリ

終リニ「テヴィス」ハ「ラネル」ヲ顧ミテ委任統治ノ性質論ニ付テハ他国委員ニ於テモ米国ト同意見ナルベシト思考スト云ヘルニ「ラネル」ハ委任統治問題ハ之ヲ議スルヲ得ズト答ヘ「デヴィス」ハ委任統治ノ問題ニ付テハ米国ハ到底譲歩スルヲ得ザルガ故ニ同問題ニ触レズシテ独線処分ヲ解決センガ為「ヤップ」ニ付陸揚及運用ノ自由ヲ認ムルコトトシ以テ本会議ノ進行ヲ計ラントシタル次第ナルモ日本

委員ニ於テ委任統治ノ問題ヲ提出スル以上ハ最早進行ノ望ナシト云ヘルニ依リ本使ハ米国ノ主張スル解決案ニテハ当然此問題ニ触レザルヲ得ズト答ヘタリ

次ニ本使ハ今迄ノ議論ハ「ブラウン」案（通第一二一号第四項）ニ記載セル二方法中ノ第一ニ付議論セルモノナルガ第二ニ関スル意見如何ト問ヒタルニ「デヴィス」ハ専門家ノ意見ニ依レバ第二ノ方法ハ不可ナリトノコトナリト答ヘタリ依テ本使ハ元来米国ハ戦前曾テ「ヤップ」島ニ於テ運用ヲ行ヒタルコトナキニアラズヤト云ヘルニ「デヴィス」ハ独逸時代ニハ自由ニ陸揚ヲ許シタル次第ト思考ストテ「ブラウン」ノ意見ヲ問ヒタルニ「ブ」氏ハ左様ニアラザルベク戦前「ヤップ」ノ端ハ独逸ニ於テ運用シ居リタリト答ヘタリ

茲ニ於テ「デヴィス」ハ到底纏ルノ見込ナカルベク最早会議ヲ止メニスベキヤト云ヘルモ結局「ブラウン」ヨリ今一度開会スベキ希望ヲ述ベ其ノ儘別レタリ次回開会期日ハ未定ナリ

在英仏独伊各大使在蘭公使ヘ転電セリ

本ノ手ニ於テ為スコト

（三線ノ「ヤップ」端ハ何レモ Tomil 湾内狭少ナル水路ヲ通過シテ陸揚セラレ居ルニ付修理其ノ他技術上ノ必要ニ顧ミ政府ハ「ヤップ」「グァム」線ノ右水路内ノ部分ヲ成ルヘク日本ノ所有ト為シ置キタキ希望ナリ）

二、「ヤップ」「メナド」線及「ヤップ」上海線ハ之ヲ日本ノ所有トス但シ右二線ニ対スル和蘭ノ在来ノ利益ハ十分之ヲ尊重スルノ趣旨ニテ日蘭間ニ直接交渉ヲナスコトトシ今回ノ会議ノ関与外ニ置クコト

三、「ヤップ」那覇線ハ若シ必要アラバ之ヲ上海ニ連結スルモ差支ナシ但シ同線ノ連絡方法ハ日本ニ於テ通信上ノ利便ヲ考慮シ適宜之ヲ定メ且其ノ上海端ハ日本局ニ引込ミ日本ノ手ニ於テ之ヲ運用スルコト

（欄外註記）

「大正九年十二月三日閣議決定（内田外相印）」

註　右閣議決定ハ十二月七日外交調査会ニ附議其儘決定セラレタリ

四五二　十二月三日　閣議決定

旧独線処分問題ニ付日本委員ニ訓示ノ我最後妥協案ニ関スル件

独逸海底線処分問題ニ関スル件

国際通信会議華府予備会議ニ於ケル独逸海底線問題ハ目下行悩ノ状態ニ在ル処之カ解決ヲ図ル為各国ニ於テ互譲ヲ必要トスル場合ニハ帝国委員ヲシテ前回決定ノ趣旨ニ依リ妥協ヲ遂クル様極力尽瘁セシムヘキコト勿論ナルモ万一右譲歩ノ程度ヲ以テシテハ到底問題解決ノ望ナキニ至リ英仏両国ニ於テモ其ノ大西洋海底線ニ関スル要求ニ付同一程度ノ譲歩ヲナスニ於テハ我方最大限ノ譲歩案トシテ帝国委員ヲシテ左ノ趣旨ニ依リ措置セシムルコトト致度

一、「ヤップ」「グァム」線ハ之ヲ米国ノ所有トス但シ「ヤップ」ヲ基点トスル現状ヲ変更セザルコトヲ条件トシ且「ヤップ」端ノ運用ハ日本ニ於テ之ヲ為シ若シ右運用ニ付到底米国側ノ承諾ヲ得難キトキハ自働仲継機ヲ使用スルコトトナシ其ノ場合ニアリテモ之ガ施設管理ハ日

四五三　十二月五日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題ニ関スル第六回五国委員長会合ノ模様報告ノ件

通第一三七号　（十二月七日接受）

十二月三日午後五時五国委員長第六回会合ヲ催ス

一、「ブレスト」紐育線ニ関スル米仏間意見ノ相違ハ協同ノ所有及運用ニ関スルヲ以テ前回ノ会議ニ於テ一応「コムマーシャル」会社関係者ノ意見ヲ徴スルコトトナリ居リタル次第ナルガ当日「デヴィス」ハ米国政府ガ本件ニ付特殊ノ一会社ト協議ヲナスコトハ米国議会トノ関係等ヨリ面白カラズト思考スルニ付会社トノ話ハ一切打切トシタシトノ希望ヲ表示セリ

右ニ対シ「ラネル」ハ「コムマーシャル」会社代表者「ポーク」（旧国務次官）ト会談シタルニ同人ハ協同運用ニ異議ナキ旨ヲ述ベタリ従テ米仏間ノ協同事業トナスコトハ可能ナリト思考スト云ヘリ

「デヴィス」ハ更ニ「ポーク」ノ意見ハ技術上ヨリ云ヘバ

現在ノ「ブレスト」端ヲ「ハーヴル」ニ移シ米国会社ニ於テ両端ヲ運用スルコト最善ノ方法ナルモ若シ政治上ノ理由ヨリ仏国ト協同ニ運用スルノ必要アラバソレモ不可能ニハ非ズト云フニアル旨ヲ述ベタリ

「ラネル」ハ更ニ運用ノ問題決定スルモ所有権ノ問題ハ残存シ居リ仏国ハ全線ヲ米国ニ譲ルコトヲ得ズト云ヘリ

是ニ於テ「デヴィス」ハ大西洋ノ旧独線全部ヲ不可分ノモノトシテ各国ハ一定ノ借料ヲ払ヒテ自己ノ運用スベキ線ヲ借入レ各国ヨリ仕払フ借料ハ例ヘバ英米仏各三十「パーセント」伊太利十「パーセント」ト云フガ如キ割合ニテ四国ノ間ニ分配スルコトトスルノ案ニ付意見ヲ問ヘルニ「ラネル」ハ不賛成ヲ表シタリ

最後ニ「ブラウン」ハ「ブレスト」紐育線ハ仏伊両国ヨリ其価格ヲ独逸ノ貸方ニ計上シタル後之ヲ米国ニ売渡シ伊太利「アゾーレス」線完成ト共ニ伊太利ノ為メ紐育「アゾーレス」線ノ利益ニ付協定スルノ案ヲ提議セルガ「ラネル」ハ寧ロ不賛成ノ意ヲ表シ「デヴィス」ハ考慮ヲ加フ可シト云ヒ結局兎モ角モ「ブラウン」ニ於テ該案ヲ起草スルコトトナレリ

二、同日会議室内ニ於テ他国委員ノ雑談中暫時「デヴィス」ト本使ト太平洋電線問題ニ付低声ニテ内話シタルガ「デヴィス」ハ「ヤップ」島問題ニ関シ日本ノ代表者ニ出席ノ機会ヲ与ヘズシテ日本ノ主張ニ反対ノ決議ヲナス権利ナシトノ本使ノ所論ハ能ク諒解セリ同問題ニ付テハ「ウィルソン」大統領モ譲歩セズ牧野子モ譲歩セズ五月六日ノ会議ノ際ニハ Certain Islands トアリタルヲ以テ大統領モ差支ナシト思考シ居リタル（「デヴィス」ハ本使ニ六日ノ議事録ヲ示シタリ）次第ナルガ翌七日ニ日本委員ノ出席セザル会ニテ最終ノ決定ヲナセルコトガ何ヨリノ不幸ナリ然レドモ大統領トシテハ留保シタルコトヲ主張セザルヲ得ズ何レノ場合ニ於テモ委任統治ノ性質上他国ノ不利トナルガ如キ施政ヲナスヲ得ズト云ヘルニ付本使ハ委任統治ハ重大ナル責任ヲ受任国ニ課スルモノナルコトヲ忘ル可ラズ若シ受任国ハ之等ノ義務ヲ負担シ一切ノ権利ハ各国ト均等ナリセバ何国モ委任統治ヲ引受クルモノアル可キ謂ナキニ非ズヤト反問セルニ「デヴィス」モ心中首肯セルガ如キ様子ヲ現ハセシガ語ヲ転ジ欧羅巴人中ニハ日米ノ離間ヲ望ムモノ少カラザルコトニ言及シ「レニン」過般ノ演説ヲ引用シテ

五月七日ノ決定ナルモノモ英仏ニ於テ日米ノ疎隔ヲ謀ル底意ニハ非ザリシカトテ浅薄ナル言辞ヲ弄シタル後更ニ最初ニハ太平洋電線全部ノ日米共有ヲ提議シ次ニ英米伊間ニテ協議セル中継ニ関スル協定（「ケーブル、アイランズ」ニ関スルモノ）ニ日本モ加入センコトヲ慫慂セリ

本使ハ双方トモ不可能ナル旨ヲ答ヘタル上米国ハ太平洋ニ於テハ戦前ニ有シ居リタル便益ノミニテ満足シ「ヤップ」島ニ於ケル運用ノ如キハ主張セザルコトヲ希望スト云ヘルニ「デヴィス」ハ「ヤップ」島ニ於テ日本ガ他国ノ運用ヲ許サザルニ於テハ矢張委任統治ノ問題ヲ提起セザルヲ得ズト云ヘリ

三、当日開会ノ劈頭ニ於テ「ブラウン」ハ会議ニ通知シ置ク可キコトアリトテ在米蘭国公使館商務官「ブラウン」ト会見シ（昨日）会議ニ列シテ意見ヲ述ベタシトノ希望ヲ表彰セル旨ヲ述ベ商務官ノ談ニ依レバ和蘭側ハ「ヤップ」「メナド」線ヲ蘭国ニ帰属セシメ同線ヲ以テ「メナド」「グァム」ノ直通線ヲ設クルノ意アル旨ヲ語リタルコトヲ附言シ更ニ「ブラウン」ノ意見トシテ何レノ場合ニモ「ヤップ」「グァム」ハ之ヲ今日ノ儘トスル必要アル可ク然スレバ日本ト「メナド」トノ連絡モ絶エザル次第ナリト云ヘルニ付斯ノ如キ迂回線ハ日本ノ承諾シ得ザル所ナリト答ヘ置ケリ

尚「ブラウン」ハ本使トノ対談ニ於テ「ヤップ」ヨリ線ヲ取リ去レバ夫レニテ同島ニ関スル難問題モ自然的ニ解決スベク右線ノ撤去ハ日本現行法ノ執ル主義ニ顧ミ已ムヲ得ザルモノト思考セラルト云ヘルニ付本使ハ簡単ニ日本ハ三線ノ現状ヲ変ズルコトニハ同意シ得ズト答ヘタリ右ニ就テハ其ノ後佐分利書記官ヨリ「ブラウン」ニ対シ日本ノ不利益トナルコトヲ提言セザル様注意シ置ケリ

四、当日「ブレスト」紐育線ニ関スル討議中偶然「ブラウン」ニ於テ「ペルナムブコ」「モンローヴィア」線ハ他国ニ於テ利害ヲ感ゼズトノコトナレバ仏国ニ於テ全部収得シ得ベシト云ヘルニ席ニ在リタル米国委員「ロジャース」ハ米国ニ於テ同線ニ付テハ大ナル利害関係ヲ有スル旨ヲ述ベ「デヴィス」モ「ロ」ノ言ヲ取纏ノ為メ大西洋横断線ガ主要ナルモノナレバ其ノ決定後「モンローヴィア」「ペルナムブコ」線ニ付議スル積ナリト云ヘリ右ニ依レバ米国ハ或ハ今後同線ニ付テモ何等カ要求ヲ提起スルコトナキヲ保

セズ
英仏独伊蘭へ転電セリ

四五四　十二月七日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島ステータス問題ニ関スル件

通第一三八号　（十二月八日接受）

閣下宛在英代理大使発第一〇四四号ニ関シ「ヤップ」島「ステータス」ニ関スル問題ハ往電通第一二五号稟申ノ通リ米国トノ関係ニ就テハ此際解決ニ至ラザルベキヲ覚悟シ置クコト万全ノ策ナリト思考スルニ付仏国政府ヲシテ米国政府ニ対シ今回英国ガ発シタルト同趣旨ノ回答ヲ発セシムルカ又ハ前記通第一二五号ノ通リ予メ仏国政府ノ諒解ヲ得置キタル上先ヅ我方ヨリ仏国政府ヘ照会ヲ発シ仏国政府ヨリ回答ヲ取リ付ケ置カルル様至急御取計アランコトヲ希望ス
因ニ閣下宛在仏代理大使発第四九三号末段ノ件十二月五日「ラネル」ヘ夫レトナク問ヒ質サシメタル処同氏ニ於テハ別ニ心当リナキ旨答ヘタルニ付更ニ当方ヨリ同氏ニ於テ万一日仏間相互支持ノ約束充分行ハレズトノ感想ヲ抱キ居ルガ如キコトナキヤ極メテ婉曲ニ試問シタル処同氏ハ大ニ驚キ仏国委員ハ日本ノ態度ニ付全然満足シ居ル次第ニテ万一仏国主務省ニ於テ今尚何等カノ誤解ヲ抱キ居ルニ於テハ不都合千万ニ付念ノタメ本国政府ニ電報スベシト云ヘリ
英仏伊ヘ転電セリ

四五五　十二月七日　在仏国松田臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島ハ日本ノ委任統治地域中ニ包含セラルルモノト思考スル旨仏国政府ヨリ書面ニテ回答越ノ件

第一八〇三号　（十二月九日接受）

往電第一七七六号ニ関シ同電末段ニ上申シ置キタル仏国外務省ヨリ当方ヘノ書面回答トシテ十二月四日附ヲ以テ一ノ「ノート」ヲ送リ越シ該「ノート」ニハ十一月二十四日附ヲ以テ仏国外務省ヨリ在巴里米国大使館宛ニテ発シタル本件ニ関スル覚書ノ写ヲ添付セリ右覚書ノ要領ハ左ノ通リ
米国大使館ハ十一月十二日附覚書ヲ以テ仏国外務省ニ対シ

華盛頓電信会議ノ討議中問題トナリタル「ヤップ」島ニ関スル米国政府ノ見解ヲ披瀝シ「ヤップ」島ハ赤島以北ノ日本ニ委託サレタル委任統治中ヨリ除外セラルベキコトヲ述ベラレタリ然レドモ仏国政府ノ見解ニ拠レバ五月一日ノ会議ニテ「ウィルソン」大統領ハ「ヤップ」島ヲ特殊ノ制度ノ下ニ置カンコトヲ希望シタルモ此ノ提議ハ爾後ノ会議殊ニ独逸ノ青島ノ三線ヲ日本ニ抛棄セシメンコトヲ議セル五月二日ノ会議ノ場合ニ提出セラレタルコトナシ其ノ他日本ニ対シ赤道以北委任統治ノ権原ヲ認メタル五月七日ノ最高会議決定ニモ亦本件ニ関シ何等ノ留保ナキヲ以テ日本ノ受任地域中ニハ赤道以北ノ他ノ諸島ト同ジク「ヤップ」島モ亦包含セラルルモノト思考ス云々
尚本文ハ郵送スベシ
英米伊各大使及聯盟総会常国代表ヘ転電セリ

四五六　十二月八日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

旧独線処分ニ関シ各国ニ於テ互譲ヲ必要トスル場合ノ我方最大限ノ譲歩案訓令ノ件

第五七八号　至急
貴電通第一二〇号乃至第一二二号ニ関シ
各国ニ於テ互譲ヲ必要トスル場合ニハ往電第五一九号訓令ノ趣旨ニ依リ妥協ヲ遂クル様極力尽瘁セラレ度ク万一右譲歩ノ程度ヲ以テシテハ到底問題解決ノ望ナキニ至リ英仏両国ニ於テモ其ノ大西洋海底線ニ関スル要求ニ付同一程度ノ譲歩ヲナスニ於テハ我方最大限ノ譲歩案トシテ左記ノ趣旨ニ依リ措置セラレタシ
在欧各大使及在蘭代理公使ヘ転電アリタシ

註　「左記」ノ部分ヲ省略ス該「左記」ノ部分ハ前掲閣議決定（四五二文書）ノ一、二及三ノ全文ト同文ナリ

四五七　十二月八日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ米国政府ノ英国政府ニ対スル申入内容報告ノ件

通第一四一号（極秘）　（十二月九日接受）

本使ノ得タル内報ニ依レバ米国政府ハ英国政府ニ対シ大要左ノ趣旨ノ申入ヲナスベキ旨在英米国大使ニ訓令シ（十二

月六日頃）タル趣ナリ

一、米国政府ハ「ヤップ」島ハ客年五月七日ノ決定ニモ亦其他ノ最高会議ノ何レノ決定ニモ包含セラレ居ラズトノ意見ヲ有ス

二、「ヤップ」島ハ国際無線電信及海底電信ノ重要ナル集中点ナルヲ以テ或ル特定ノ一国ニ依リ「コントロール」セシムベキモノニ非ズ

三、「ヤップ」島ガ或一国ノ委任統治ノ下ニアリトスルモ同島ニハ門戸開放ノ主義ヲ適用スベキモノナリ

四、米国ハ防備ヲ施サザル（unfortified）島嶼ヲ海底線陸揚ノ目的ノ為何国ニモ使用セシムルコトニ異議ナシ

在欧州各大使並ニ在蘭公使へ転電セリ

四五八　十二月八日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議失敗ノ形勢ニ関スル新聞報道ニ付報告ノ件

通第一四二号　（十二月九日接受）

両三日前ヨリ独線処分問題ニ関シ当国諸新聞ニ種々ノ報道

伝ハリ少ナクトモ実質ニ於テ米国側ノ「プロパガンダ」トナルベキモノ尠カラズ我方ニ関スル事項トシテハ十二月五日紐育「タイムス」紙上ニ華府通信トシテ予備会議ガ遂ニ失敗ニ終ルベキ形勢ナルヲ述ベ其ノ主因ガ米仏間ノ独線処分ニ関スル意見ノ不一致ニアル事ヲ記述シタル後陸揚権自由ニ関スル米国提案モ敗レタリ右ノ提案ハ目下主トシテ「ヤップ」島ニ関係アリテ之ニ依レバ仮令日本ガ同島ヲ委任統治ノ下ニ置クトスルモ米国ハ海底線ニ関スル限リ日本ト同一ノ便宜ヲ享有スル事トナル次第ナルガ委任ニ関スル日本ノ態度ハ赤道以南ノ諸島ニ関スル英国政府ノ決定如何ニ依リテ影響セラルベシ云々ト述ベ又十二月六日ノ Public Ledger ニ William Wile ハ日本カ太平洋ニ於ケル旧独線占有ノ主張ヲ固執スルハ予備会議失敗ノ一主因タリ而シテ今ヤ「マーシャル」「カロリン」諸島ニ対スル日本ノ委任統治ニ関スル全般ノ問題ガ討論ノ題目トナリ居リ又大西洋独線処分問題ニ関シテハ英仏米間ニ妥協成立ノ見込アルニ係ラズ日本トノ関係ニ於テハ何等解決ノ見込ナシ日米間論議ノ海底線ハ「ヤップ」上海線ニシテ米支間ノ通信ハ本線ニ依ルモノナリ右ノ外比律賓島ニ到ル一線アルモ之トテモ「ヤップ」委任統治ノ結果日本ノ control ノ下ニ置カルル事トナルベシ米国ハ何等カノ協定ニ依リテ日本ノ斯クノ如キ不愉快ナル監督検閲ヲ脱シテ極東ノ海底線連絡ヲ得ントシテ奮闘シツツアリ云々ト尚十二月四日附東京発聯合通信ノ報ズル所ニ依レバ閣議ハ「ヤップ」上海線ニ関スル米国ノ主張ニ譲歩セザルコトヲ決議セル由ナリ内田外相ハ本問題ヲ国際聯盟ニ移牒センコトヲ提議シ閣議ハ右外務大臣ノ意見ニ賛成ノ模様ナルガ火曜日ノ外交調査会ニ附議セラルル迄ハ其ノ決議ヲ延期シタル旨ヲ報ジ居レリ

四五九　十二月八日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題ニ関スル第七回各国委員長会合ハ物別レトナリタル旨報告ノ件

通第一四三号（極秘）　（十二月九日接受）

十二月六日午後四時各国委員長第七回会合ヲ催ス

一、開会前「ラネル」ハ本使ニ耳打チシテ今日ハ愈々独線処分問題解決延期ノ申出ヲナス積リナル旨内話セリ

二、開会スルヤ否ヤ「ブラウン」ハ新聞紙ニ種々ノ報道伝ハリ（往電通第一四二号参照）不都合ニ付何等カ措置ヲ取ルノ必要アル旨ヲ述ベ次デ臨時出席セル英国委員「スパーリング」ハ会議ノ内容カ漏洩スルニ於テハ英国委員ハ撤退スルノ外ナシトテ抗議ヲ提出シタルニ「デヴィス」ハ吾人ハ新聞ヲ監督スルヲ得ズト答ヘタリ右ニ対シ「スパーリング」ハ米国ニ於テ監督出来ズトノコトナレバ米国ハ国際会議ニハ適セズト云フニ等シク従ッテ吾人ハ監督ノ出来得ル国ニ行クノ外ナシト云ヒ「デヴィス」ハ果シテ新聞ヲ監督シ得ル国アリヤト反問セルニ「スパーリング」ハ有リ倫敦之ナリト云ヒ応答稍々過激ニ亘リ（「スパーリング」ノ強硬ナル態度ニハ「ブラウン」ハ鮮カラス当惑スル様子ニ見受ケタリ）タルガ「デヴィス」ハ米国ノミナラズ英国及日本ノ新聞ニモ通信会議ニ関スル記事掲載セラレ居ルガ如シト云ヘルニ付本使ハ東京ニ於テ閣議又ハ外交調査会ニ於テ或問題ガ附議セラレタリトノコトハ新聞ニ現ハレ居ルモソハ当地ニ於ケル予備会議ノ内容ノ漏洩セルコトト同一ニ論ズベカラズト反駁シ置ケリ

右新聞記事ノ件ニ付テハ米国委員「ロジャース」ト「スパーリング」ニ於テ打消文ヲ起草スルコトトナレリ

三、「ロジャース」ハ右ノ趣旨ニ基キ第一分科会ニハ困難ナル問題アルモ其ノ内何等解決ニ達スヘク其ノ上ニテ公表スベシトノ趣旨ノ案文ヲ起草シテ之ヲ読上ケタルニ「ラネル」ハ右ハ自分ノ意見ト相違シ自分ハ到底満足ナル解決ニ到達スルノ見込ナシト信ズルニ付今日ヲ以テ会議延期ヲ提議スト云ヘリ

「ラネル」ノ語終ルヤ否ヤ「デヴィス」ハ貴下ハ会議ヨリ撤退セラルルノ意思ナリヤ然ラバ「グードバイ」ヲ云フベシトテ立ッテ「ラネル」ト握手セルニ「ラネル」ハ怒ッテ色ヲ変ジタリ

「デヴィス」ハ「ラネル」ノ提議ニ付各国委員ノ意見ヲ問ヘルニ「スパーリング」ハ新聞ノ勢力ヲ以テ会議ヲ動カサントスルハ許スベカラザルコトナレバ将来斯カル事ナシトノ保障ヲ得ルニアラザレバ会議ニ列スルヲ得ズト云ヒ伊太利委員ハ会議ヲ続行センコトヲ希望スト云ヘリ最後ニ「デヴィス」ハ日本委員ノ意見如何ト問ヒタルヲ以テ本使ハ抑々独線問題ヲ予備会議ニ提議スルコトハ会議ノ始マル迄日本ハ予期シ居ラザリシ次第ナリトテ客月二十一日附「ポーク」ノ回答ニ言及シ日本ハ未タ曾テ独線処分問題ヲ議スルコトニ付正式ノ承諾ヲ与ヘタルコトスラナク只各国委員ニ於テ本件討議ニ異議ナキ模様ナルニ付異議ヲ唱ヘザリシノミナリ今日迄討議ノ経過ハ或程度迄本国政府ニ電報シ居ルモ充分本国政府トノ間ニ意思ノ疎通アリヤ疑アリト述ヘテ間接ニ延期スルモ何等差支ナキ意味ヲ含メテ「ラネル」ニ声援ヲ与ヘタリ

四、「デヴィス」ハ更ニ新聞記事ノ問題ニ戻リテ米国ハ何等宣伝ノ為メ新聞ヲ利用シタルコト無キニ拘ラズ英国委員ハ当地ヲ引揚ゲベシトテ一ノ威喝（スレット）ヲ行ヘリ右ハ之ヲ取消サレンコトヲ希望スト云ヘルモ「スパーリング」ハ自分ノ立場ハ既ニ之ヲ明カニセルニ依リ此上何等附言スベキモノナシトテ取消ノ意ヲ示サズ

此時「ラネル」ハ米国委員ノ態度ハ礼ヲ失セリ自分ハ再ヒ本会ニ出席セザルベシト云ヒ之ニ対シテ「デヴィス」ハ貴下ハ撤退スト云ヘルニ非ズヤト反問セルニ「ラネル」ハ単ニ延期センコトヲ提議セルノミ自分ハ兎モ角明日出席スルヲ得ズト云ヘリ於茲「デヴィス」ハ然ラバ自分ノ誤解ナルニ付誠意ヲ以テ陳謝スト云ヘルモ「ラネル」ハ誤解アルベキ筈無シ余ハ仏国政府ノ訓令ニ依リ後日ニ延期センコトヲ提議セルノミナリ余ノ取ルベキ態度ハ自カラ決ス可シト云ヘリ

時已ニ八時半トナリタルニ付本使ハ今一度明日会合ノコトヲ提議シ別ルルニ臨ミ「デヴィス」ヨリ「ラネル」ニ握手ヲ求メタルニ「ラネル」ハ手ヲ握リタルモ顔色尚怒気ヲ帯ヒ居レリ

五、本使ハ帰途「ブラウン」ト「ラネル」ノ両人ト同行シタルニ「ブラウン」ハ途中「ブレスト」紐育間ハ仏国ノ所有トシテ之ヲ米国ニ貸付ケ「ペルナンブコ」「モンローヴィア」線ハ米国ノ所有トシテ仏ニ貸付クルノ案ヲ提議セルモ「ラネル」ハ今日迄出来得ル限リノ譲歩ヲナシタル上容レラレザリシ次第ナレバ最早ヤ何等ノ新案ニモ「インテレスト」セズトテ取合ハズ「ブラウン」ハ更ニ本使ヲ顧ミ暫定協定ヲ設クルコトニ付本使ノ意見ヲ問ヘルニ付日本ハ「ヤップ」島ニ於ケル運用ヲ自個ノ手ニ留保セザルベカラズ之ニ付米国ノ反対アリトセバ暫定協定モ纏マルノ見込ナシト云ヘルニ「ブラウン」ハ太平洋方面ノ問題ハ委任統治ノ問題引掛リ居ル為メ解決セズトセバ大西洋ノ問題ノミ解決スルコトニ異議アルベキヤト問ヘルニ付本使ハ勿論異議アル旨ヲ答ヘ置キタリ

在欧洲各大使及ヒ在蘭公使ヘ転電セリ

四六〇　十二月八日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題ニ関シ仏国委員長ハ同問題解決延期ヲ提議セントシテ本使ヲ来訪意見ヲ求メタルニ付該提議ニ同意ノ旨回答シタル件

附記　右仏国提議ニ対スル措置案

通第一四四号（極秘）　（十二月九日接受）

十二月七日午前「ラネル」本使ヲ来訪シ本国政府ヨリ本使ト打合セノ上ニテ独線処分問題解決延期ヲ提議ス可キ旨訓令ヲ受ケ居ル趣ヲ以テ本使ノ意見ヲ問ヘリ是ヨリ先キ本使ニ於テモ諸般ノ事情ヲ篤ト考慮シタルモ米国ニ於テ譲歩スルニアラザル以上到底解決ノ見込無キノミナラズ仮ニ大西洋電線ノ問題解決ニ至ルトスルモ「ヤップ」ノ委任統治殊ニ同島ニ於ケル海底線ノ陸揚及運用ノ自由問題ニ対スル米国ノ執拗ナル態度ニ鑑ミ並ニ英国委員長ガ国際関係ノ経験

ナク一切ノ問題ヲ単ニ技術的ノ方面ヨリ観察スル為メ常ニ米国側ノ主張ニ重ヲ置カントスルノ傾向アルニ鑑ミ太平洋ノ問題ニ付満足ナル解決ヲ得ルノ見込少ク寧ロ問題ガ大西洋電線ニ引懸リ居ル間ニ延期ニ決スル方得策ナル可ク然ラザレバ我方独リ解決不能ノ責任ヲ背負込ム虞アリト認メ居リシ際ナリシヲ以テ「ラネル」ニ対シテハ本使ニ於テモ解決ノ見込ナシト思考スルニ付延期ノ提議ニ同意ス可キ旨回答シ置ケリ

在欧洲各大使及在蘭公使へ転電セリ

（附　記）

旧独線処分問題解決延期ニ関スル仏国提議ニ対スル措置案

大正九年十二月十日欧米局案

華盛頓通信予備会議ニ於ケル独線問題解決延期ニ関スル仏国提案ニ関シテハ左ノ理由ニ因リ帝国政府ニ於テ暫ク形勢ノ推移ヲ注視シ我委員ヲシテ適宜措置セシムルコト可然ト思考ス

一、右延期提議ニ先チ仏国委員ノ内議ニ対シ帝国委員ニ於テ同意ヲ表シタル際ニハ未タ我最後譲歩案ニ関スル訓令ヲ接受シ居ラサリシモ同委員ニ於テハ各般ノ事情ヲ考量シタル結果到底太平洋海底線ノ問題ニ付満足ナル解決ヲ得難ク寧ロ問題カ大西洋海底線ニ引懸リ居ル間ニ延期ノ決定ヲ為ス方帝国ノ為ニ得策ト判断シタル次第ナルヲ以テ此ノ上帝国委員ヲ督励スルモ全局ノ解決ヲ得ルノ望極メテ少カルヘキコト

二、日本側カ太平洋海底線ニ関スル要求ヲ飽迄株守スルニ於テハ民主党ノ現政府ハ其ノ党略上之ニ対シ「ヤップ」ノ帰属問題殊ニ同島ニ於ケル海底線ノ陸揚及運用ノ自由問題ニ関スル其ノ主張ヲ固執スヘシ本問題ニ対スル英仏二国ノ態度ハ大体我ニ有利ナルモ処分問題ノ解決ヲ明年三月共和党政府成立後ニ延期スルニ於テハ新政府ハ或ハ本問題ヲ以テ民主党政府ノ外交上ノ失策ト看做シ深ク之ニ執着セサルノ態度ヲ執ルニ至ルヤモ計リ難ク自然我方ニ有利ナル新事態ノ発生ヲ期待シ得ルノ余地ナキニアラサルコト

三、独線処分問題ノ解決ヲ延期スルノ結果ハ将来問題ノ解決ヲ見ルニ至ル迄客年五月三日ノ首相会議ノ決定ニ基キ独逸海底線ノ使用ヲ継続スルコトトナルヘク帝国ハ「ヤップ」那覇線ハ現状ノ儘之ヲ使用シ得ルト同時ニ目下進行中ノ蘭国政府トノ交渉ノ結果如何ニ依リテハ「ヤップ」「メナド」間ニ通信連絡ヲ回復シ得ヘキニ付延期ノ為格別ノ支障ヲ受ケサルノミナラス「ヤップ」関係三線ニ対スル我要求ニ付有利ナル既成事実ヲ構成シ将来帰属問題ノ討議ニ当リ我立場ヲ鞏固ナラシムルノ利益アルヘキコト

四六一　十二月八日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題ニ関スル第八回各国委員長会合ノ模様報告ノ件

通第一四五号（極秘）　（十二月九日接受）

十二月七日午後三時半委員長第八回会合ヲ開ク

一、「ブラウン」ハ参会セズ開会前「デヴィス」ニ宛テ書面ヲ送付セリ其ノ趣旨ハ現下ノ面倒ハ米国ト仏国及日本トノ間ニ存在シ英国ノ関スル限リ何等問題ナキニ依リ会議ニ参加ノ必要ナシト思考ス然レドモ自分ヲ必要トセラルル場合ニハ何時ニテモ来会スベシト云フニアリ依ッテ本使ハ英国トノ関係ニ於テハ問題ハ解決シ居ル次第ナリヤト問ヒタルニ「デヴィス」ハ英国トノ話合ハ他ノ方面ノ問題ノ解決ヲ条件トスルモノナリト言ヘルニ付本使ハ更ニ旧独線ノ問題ハ総括的ニ五国全体ニ関係スル問題ナレバ「ブラウン」書面ノ趣旨ハ不可解ナリト述ベ置キタリ

二、「デヴィス」ハ到底解決出来ズトノコトナレバ運用ニ付暫定協定ヲナスノ外方法ナカルベク一考セラレタシト言ヘルニ付本使ハ前日「ラネル」ノ説明ニ依リ本件解決ヲ放棄スル趣旨ニ非ズ又無期限ニ延バス次第ニモアラズ数ケ月ノ後更ニ会合スベシトノコトナルニ其ノ間運用ニ関スル暫定的協定ヲナスノ要アリヤ昨年五月三日決定セル「プロトコール」ニテ事足ルニアラズヤト述ベタルニ「ラネル」ハ勿論其ノ通リナリト云ヒシモ「デヴィス」ハ若シ「プロトコール」ニ依ルトセハ仏国ノ為ニハ何時迄モ解決セザル方利益ナリトノコトニ帰着スベク斯クノ如キハ米国ニ取リ公平ナルモノニアラズ従ッテ議会ニ対シテモ弁明ノ余地ナシト言ヘリ依ッテ本使ハ「プロトコール」ノ存在其ノモノガ弁明ノ理由トナルベシト言ヒ更ニ運用ニ関スル協定ハ議会ノ承諾ヲ要スルヤト問ヘルニ政府限リニテ協定シ得ベシト謂ヘリ

其レニテ「デヴィス」ハ閣議ニ列スル為四時半引キ下リタルニ席ニ在リタル「ロジャース」ハ運用ニ関スル協定出来ザレバ米国ハ陸揚ゲヲ拒絶スルノ外ナシト言ヒ「ラネル」ハ其ハ乱暴ナリトテ憤慨セリ

在欧洲各大使及在蘭公使ニ転電セリ

四六二　十二月九日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

日英仏伊四国委員長相談会ニ於テ旧独線処分問題ニ関シ英国委員長ヨリ暫定協定締結方提議ノ件

通第一四七号　（十二月十日接受）

十二月八日午前十一時「ショーラム、ホテル」（各国委員ノ宿舎ナリ）「ラネル」ノ室ニ於テ日、英、仏、伊四国委員長ノ相談会ヲ開ク

一、「ブラウン」先ヅ口ヲ開キ大西洋ニ付テハ暫定的ノ協定ヲナシ得ルノ見込アリト思考ス固ヨリ右ハ単ニ次回会合迄効力ヲ有スベキモノナルニ付日本委員ニ於テ之ヲ承認スルコトヲ得ザルベキヤト問ヘリ右ニ対シ本使ハ太平洋電線ハ如何ニスル積リナリヤト反問シタルニ「ブラウン」ハ全局ノ最終的処分ハ後日ニ決定スベキモノナレバ太平洋電線ノ問題ハ差当リ懸案ノ儘トシ置クベシト答ヘタリ仍テ本使ハ更ニ太平洋電線ニ付テモ大西洋電線ニ付為スベキ決定ト同シ程度ノ決定ハ此際同時ニ之ヲ為サザル可ラズ大西洋電線ニ付「ブラウン」ニ於テ如何ナル考案ヲ有スル次第ナリヤト質問シタルニ「ブラウン」ハ左ノ如ク答ヘタリ即チ各線ニ付仮ニ所有者ノ帰属ヲ定メ置クモノニシテ㈠、「ペンザンス」「ハリファックス」線ハ英国ニ帰属セシメ㈡、「ブレスト」「ニュウ、ヨーク」線ハ仏伊両国ニ帰属セシメ伊国ニ属スル部分ハ直チニ米国ニ譲リ全線ヲ米仏二国ニテ共同ニ運用スベク「ペルナンブコ」「モンローヴィア」線ハ米仏ノ共有トシ運用ハ米国ニ於テ要求セザレバ全部仏国ニ於テ之ヲ引受クベシト云フニ在リト答ヘタリ

二、右ニ対シ本使ハ太平洋電線ニ関スル部分ヲ右ノ案ニ附加スルヲ得ベク第二ノ趣旨ハ㈠「ヤップ」「グァム」右ハ日米共有トシテ「ヤップ」ノ端ハ日本之ヲ運用シ㈡「ヤップ」那覇線ハ日本ニ帰属セシメ㈢「ヤップ」「メナド」線ニ付テハ日本ニ於テ蘭国ト協定スルコトトシ可然旨ヲ述ベタリ

右ニ付「ブラウン」ハ其レニテ纏レバ極メテ好都合ナルベシト云ヒ「ラネル」ハ自分ハ既ニ本国政府ヨリ延期ヲ申出デ当地ヲ引揚グベシトノ訓令ヲ受ケ居ルヲ以テ何等提議ヲ為シ得ルノ地位ニ在ラズ然レドモ新タニ此上議論ヲ為スコトナクシテ右ノ如キ案ヲ採用スルニハ何等異議ナシト云ヒ「ブラウン」ニ於テ一案ヲ起草スルコトトナレリ

三、以上ノ次第ニテ愈々前記ノ案ヲ日、英、仏、伊四国ノ最後ノ案トシテ米国側ニ提出シ米国之ヲ承諾セザルニ於テハ他ニ執ル可キ方法無キニ依リ今回ノ会議ハ之ヲ終了セシメ次ノ会議ハ可成早目ニ且通信会議本会議ノ開催期日ヨリ遅カラザル期日ニ於テ重ネテ開催スベキコトヲ提議スルコトニ決定セリ而シテ目下ノ処日、英、仏委員ハ何レモ該案ヲ米国側ニ提議スルニ便ナラザルヲ以テ伊国委員長ヨリ本八日午後ノ会合ニ於テ提議スルコトトセリ尤モ伊国委員ハ今日会議ヲ此儘終了セシムルコトハ本国政府ノ訓令無キニ依リ之ヲ提議シ得ズトノコトナルヲ以テ愈々米国ニ於テ承知セザルトキハ「ブラウン」ヨリ延期ヲ提議スルコトニ決定セリ

四、因ミニ云フ十二月七日ニ於テ英国側ノ内話ニ依レバ同日「ブラウン」ガ「デヴィス」ニ送リタル書面（通第一四五号）中ニハ前日ノ会議ニ於テ「ロジャース」ト「スパーリング」トノ間ニ起草シ会議ノ承認ヲ経タル打消文ヲ新聞ニ掲載スル迄ハ会議ニ出席スルヲ得ザル旨ヲモ記入シ居リタル趣ナルガ右ハ米国側ニ於テ故意ニ会議ニ披露セザリシモノト想像セラル

英、仏、独、伊ニ転電シ在蘭公使ニ転電セリ

四六三　十二月九日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題ニ関スル第九回各国委員長会合ノ模様報告ノ件

通第一四八号　（十二月十二日接受）

十二月八日午後五時国務省ニ於テ第九回会合ヲ開ク

一、「デヴィス」ハ別ニ所用アリトテ出席セズ「ロジャース」及ヒ「マール、スミス」之ニ代リテ列席セリ会議前「デヴィス」ヨリ会合ハ翌日ニ延期シタキ旨申出デタルモ他国委員長ニ於テ同意セザリシ次第ナルガ実際ノ事情ハ米国側ニ於テ他ノ四国委員長ガ別ニ「ショーラム、ホ

テル」ニ於テ会合セルコトヲ聞キ米国側最終ノ態度ヲ考量スルノ余地ヲ存スル為メ「デヴィス」ハ態ト缺席シタルニアラザルカト推測セラル

二、先ヅ「ロジャース」ヨリ何等カ考案アリヤト問ヒタルニ対シ「ラネル」ハ自分ハ政府ノ訓令ヲ受ケ居レル延期ヲ主張スルノ外ナシト答ヘタルニ「ロジャース」ハ単純ナル延期ニハ同意シ得ザルコトハ既ニ言明セル通リニシテ吾人ハ暫定協定ニ就キ協議スルコトトナリ居ルニアラズヤト言ヒ「ラネル」更ニ新案ナケレバ延期スルノ外致方ナシト答ヘタリ

三、其ヨリ伊国委員長「ブランビラ」ハ幾分当惑ノ体ニテ予定ノ通リ最終妥協案ヲ説明シ次デ「ブラウン」モ該案ニ就キ「ブランビラ」ト相談シタル趣ヲ述ヘテ同人ノ説明ヲ補足シ其ノ内太平洋線ニ就テハ「ヤップ」「グァム」線ハ日米共同ニテ所有運用シ「ヤップ」上海線ハ日本之ヲ所有運用シ「ヤップ」「メナド」線ハ蘭国ノ有スル利益ニ就キ蘭国ヲ満足セシメムカ為メ日蘭両国間ニ協定スルコトトノ趣旨ヲ述ヘタリ其ノ際「ロジャース」ハ「アゾーレス」ニ於ケル運用ハ何人ノ管掌ニ帰スヘキヤ

ト質問セルニ「ラネル」ハ何等考ヘ居ラザリシ旨ヲ述ヘテ意見ヲ留保セリ「ロジャース」ハ更ニ「ヤップ」「グァム」線ヲ日米共同ニテ運用スルハ如何ナル意味ナリヤト質問セルガ之ニ対シ「ブラウン」ハ「ヤップ」端ハ日本ニ於テ運用スル趣旨ナリト言ヘルニ「ロジャース」ハ米国ノ欲スル所ハ支那及ヒ蘭領印度トノ直接通信ニアリ「ヤップ」「グァム」線ヲ共有スル而已ニテハ右ノ目的ヲ達スルヲ得ズト述ヘタルモ其ノ他何等言及スル処ナカリキ

四、茲ニ於テ「ブラウン」ハ日本モ仏蘭西モ之以上譲歩スルノ意ナシ其ノ当否ハ別トシ解決不能ナレバ之ニテ一ト先打切リトシ可成速ニ且ツ本会議開催前ニ会合スルコトスヘシト提議セリ之ニ対シ「ロジャース」ハ単純ナル延期ハ議会ニ対シテモ申訳ナキニ依リ同意出来ズト思考スルモ他ノ委員トモ協議ノ上ニテ確答スベシト言ヒ（「ブランビラ」「ブラウン」ヨリ口頭ニテ提議セル処ヲ自ラ記録シタリ）

「ブラウン」ハ二日以内ニ全部ノ用務ヲ終リ出発ノ積リナル旨ヲ述ヘテ交渉ノ永引クコトニ反対シ更ニ九日午後四時ニ会合スルコトトナレリ

五、猶ホ会議中「ロジャース」ヨリ「ブレスト」紐育線ノ所有権ヲ仏国ニ与ヘ米国ニ貸渡スノ案ヲ提出シ米国ハ何レ（不明）トノ直通線ヲ敷設スル積リナルモ目下電線供給ノ困難ニ鑑ミ今直チニ敷設セムトセバ徒ニ価格ヲ騰貴セシムルノ結果ヲ生スベキニ付鮮クトモ十ケ年間同線ヲ米国ニ貸与スルコトトスベシト提議セルニ「ラネル」ハ同意シ得ザル旨ヲ答ヘタリ

在欧洲各大使並ニ在蘭公使ヘ転電セリ

四六四　十二月十日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題ニ関スル第十回各国委員長会合ノ模様報告ノ件

通第一四九号　（十二月十三日接受）

十二月九日午後四時委員長第十回会合ヲ催ス

一、「デヴィス」ヨリ議会開キタルタメ議員中独線処分ニ付質問ニ来ルモノ多ク殊ニ上院外交委員会ニ於テ政府ニ質問スベシトノ意見ヲ有スルモノ少カラザルモ斯クテハ討議ノ内容外間ニ漏洩シ種々ノ面倒起ルベキニ付寧ロ外交委員会ノ秘密会ニ臨ミ議員ニ口頭ニテ説明ヲ与フルコトトスル方然ルベシト認メ明日実行ノ筈ナル旨ヲ述ベタリ

右ニ対シ英国委員「スパーリング」ハ二点注意スベキコトアリ一ハ各国委員ノ同意ナケレバ会議ノ内容ヲ外部ニ発表シ得ザルコトニシテ二ハ議員ト会見ノ結果内容ガ外間ニ洩ルルコトトナラバ英国政府ハ米国ハ此種ノ国際会議ヲ催スニ適当ナラズト認メザルヲ得ザルコト之ナリト云ヒ「デヴィス」ハ第一ノ点ハ議員ニ通シ置クベキモ第二ノ点ヲ申入ルルコトハ引受ケ難シト答ヘ兎モ角モ十日朝会見スルコトニ対シテハ他国委員之ヲ承認セリ

二、次デ「デヴィス」ハ外交委員会ニ対シテハ目下問題トナレル最終案（通第一四八号四参照）ヲ示スモ一策ナルベク若シ右ノ案ニテ纏マルコトニ不同意ナラバ会議ハ一時延期スルノ外ナキモ無条件ニ延期ヲ承諾スルコトヲ得ズト云ヒ先ヅ会期ニ付テハ一月二十日トナサンコトヲ提議セリ依テ本使ハ少クトモ三月一杯ノ猶予ヲ与ヘザルベカラザル旨ヲ述ベ置キタリ

次ニ開催地ニ付テハ「ラネル」ハ電信会議ガ巴里ニ開カ

ルベキ旨ヲ述ベテ間接ニ巴里ヲ主張シ「ブラウン」ハ別ニ主張ナキ旨ヲ述ベ華盛頓ニテモ差支ナントテ云ヒ「デヴィス」ハ華府ナラバ議会ニ於テモ異議ナカルベキモ欧洲ニ出掛クルコトニ付テハ議会ノ反対アルベシト云ヒ何等決定ニ至ラズ

三、「デヴィス」ハ会議ノ場所モ期日モ未定ニシテ而カモ更ニ会合スルトモ必ズ解決ニ到達スルノ保障ナキヲ以テ今ヨリ幾分ノ取極ヲナシ置クノ必要アリ少ク共大西洋ノ電線ニ付米国ニモ利得ノ配分ヲ為サザルベカラズト云ヒ之ニ対シ「ブラウン」ハ次ノ会議ニテ最終的ノ決定ヲナシタル時其効力ヲ遡及セシムルハ可ナルベシト云ヘリ

更ニ「デヴィス」ヨリ次期ノ会合ニ於テハ必ズ決定ニ達セザルヲ得ザルガ如キ規定ヲ設ケザルベカラズト云ヒタルニ対シ「スパーリング」ハ五月一日迄ニ解決セザレバ仲裁裁判ニ附スベシトノ主義ヲ決定セシコトヲ提議セリ

当日本使晩餐ノ約束アリタルタメ右ニテ閉会シ（不明）日午後更ニ開会スルコトトナレリ

英、仏、独、伊、蘭ヘ転電セリ

四六五　十二月十日　在本邦米国臨時代理大使ヨリ内田外務大臣宛

ヤップ島ガ日本ノ委任統治区域内ニ包含セラルトスル主張ハ米国ニ於テ之ヲ承認ヲ保留スル旨申越ノ件

Embassy of the
United States of America
Tokyo, December 10, 1920.

No. 506

Excellency:

I have the honor to inform Your Excellency that I have transmitted to my Government your Memorandum of November 19, 1920, in reply to the Memorandum submitted by me on the 12th of November regarding the Island of Yap, to which my Government has directed me to reply as follows:

There would appear to be no difference of opinion with regard to the reservation made by President Wilson and Mr. Lansing with respect to the Island of Yap during various discussions of the Supreme Council and the Council of Foreign Ministers at the Peace Conference. For clearer understanding of the issue as to whether on the part of the United States it was agreed that all the ex-German islands in the Pacific north of the equator should be alloted to Japan, Your Excellency's attention is drawn to the following facts.

On April 21st at the meeting of President Wilson, Messrs Lloyd George and Clemenceau, President Wilson in reporting his conversation of that morning with Baron Makino and Count Chinda, stated among other things that he had reminded the Japanese delegates that it had been understood that Japan was to have the mandate for the islands in the North Pacific although he had made a reservation in the case of the Island of Yap which he considered should be international.

At the meeting of Foreign Ministers held on April 30th, 3 P.M., 1919, in a discussion relating to cables, Mr. Lansing stated that there was a relevant question which he would like, on future occasion, to discuss, namely, whether in the interests of cable communications it would not be desirable that the Island of Yap be internationalized and administered by an International Commission in control of cable lines, and that he merely raised the question although not on the agenda in order to give warning that the question was in his mind and that he would propose it for discussion at a later time. He suggested that it was not necessary to maintain that all the islands should have the same status but that the Island of Yap should be held to constitute a special case. Baron Makino took the position that the status of the Island of Yap should be decided before the question of cables, Mr. Balfour replying that while the status of the island was a matter of great importance, he did

not think that question of cables could be deferred, as it must be settled in time for the treaty with Germany; Germany could be required to give up all title to the island and its status thereafter could be discussed among the Allies. At a meeting on May lst, held in Mr. Pichon's room, President Wilson stated that as the cable lines all alike passed through the Island of Yap, it thus became a general distributing centre for lines of communication for the Northern Pacific and that Yap should not pass into the hands of one Power. In the meeting of May 6th, in the discussion regarding the allotment of mandates in the Pacific, Mr. Lloyd George expressed his understanding that the Japanese should receive a mandate for certain islands north of the equator. According to the record President Wilson consented in principle to this, with an explanatory statement that with respect to mandates, the policy of the "open

door" would have to be applied, and that there must be equal opportunity for the trade and commerce of other members of the League. The Island of Yap, having been previously cited as a special case for particular further consideration, was not intended to be included among the "certain islands" designated as available to Japan under mandate. This seems obvious as Yap appears to have been the only island north of the equator in regard to the disposition of which there had existed any difference of opinion. There is no indication in the minutes of any further discussion with regard to this island. There is attached, as an appendix to the minutes of the meeting of May 7th, 4:15 P.M., a Memorandum which obviously purports to be a codification of the agreement reached in the meeting of May 6th with reference to the North Pacific islands. Upon this, my Government understands, is based the assertion that Yap was assigned under mandate to Japan. Even that, however, does not expressly include all the islands in this particular category, although the qualifying word "certain" is omitted. According to the minutes of this meeting there was no discussion whatever on May 7th in respect to mandates; the minutes quoted the Memorandum with the statement merely that "the following decisions were reached".

The erroneous publication of such a decision of which my Government was not aware would not validate it. The President recollects no proposal offered in this meeting to change the decision of May 6th, and it is certain he agreed to no variants of the original proposition. He understood it was generally agreed that the Island of Yap had been previously excluded and reserved for future determination in connection with the consideration of cable communications. In view of the President's reiterated objections to the inclusion of Yap in the mandate territories to be assigned to Japan, it is striking that the minutes of May 7th do not give any discussion whatever regarding Yap which would have been most natural had the President been prevailed upon to recede from his previous firm position. It is most logical that the withdrawal of the previously recorded objection would have been noted, or at least that the decision would have been drafted in more specific language. It would seem clear that the President acted on the assumption that the Island of Yap was not intended to be included in the decision of May 6th and 7th.

It should also be noted that President Wilson on August 19, 1919, before the Senate Committee on Foreign Relations made the following statement when questioned concerning the status of the Island of Yap.

"It is one of the bases and centres of

cable and radio communication on the Pacific, and I made the point that the disposition, or rather, the control of that island should be reserved for the general conference which is to be held in regard to the ownership and operation of the cables. That subject is mentioned and disposed of in this treaty, and that general cable conference is to be held".

This statement evidences the understanding of the President, and it is interesting that, though wide publicity was given to the President's declaration at the time, no comments were received by my Government from any nation indicating a contrary opinion. Furthermore, attention is called to the fact that the draft mandate covering ex-German islands north of the equator, submitted to the meeting of the heads of delegations on December 24, 1919, contemplates that the question is a question as to what islands north of the equator should be allocated under mandate to Japan. Article 3 reads as follows:

"If any dispute should arise as to whether any particular island is or not covered by the above mandate, the matter shall be submitted to the Council of the League of Nations whose decisions shall be final."

The draft was not accepted primarily on account of objections raised by the Japanese, which however did not relate to this particular provision. The point is cited merely as indicating an understanding that the definite agreement had not yet been reached as to the final disposition of all the islands north of the equator.

It might also be observed that, assuming for the sake of argument the conditional allocation to Japan, the terms of the mandate have not been accepted by Japan or even as yet approved by the principal interested powers or the League of Nations. In this event it would appear that until the island is accepted under mandate upon terms approved by the powers concerned, the status of temporary occupation must exist, which in the circumstances does not signify a vested interest in the island and which admits of present determination of the conditions or terms of the control and administration.

I am directed by the President to inform you that the Government of the United States cannot agree that the Island of Yap was included in the decision of May 7th or in any other agreement of the Supreme Council, and in addition that as the Island of Yap must form an indispensable part of the international communications it is essential that its free and unhampered use for such purpose should not be limited or controlled by any one power. Even on the assumption that the Island of Yap should be included among the islands held by mandate by Japan it is not conceivable that other powers should not have free and unhampered access and use of the island for the landing and operation of cables. This is a right which the United States would be disposed to grant upon any of its unfortified islands which may be essential for such purposes.

The Government of the United States expresses the hope that the above statements of fact will convince the Japanese Government of the correctness of the position of the United States with respect to the mandate over the Island of Yap, and also that the Japanese Government will concur in the view of the United States that even if Yap should be assigned under mandate to Japan all other powers should have free and unhampered access to the island for the landing and operation of cables.

I avail myself of this opportunity to renew to

Your Excellency the assurance of my highest consideration.

(Sgd.) Edward Bell

His Excellency
Count Uchida,
His Imperial Japanese Majesty's
Minister for Foreign Affairs,
etc., etc., etc.

（右和訳文）

以書翰致啓上候陳者客年十一月十二日附「ヤップ」島ニ関スル当方覚書ニ対シ回答セラレタル同月十九日附貴省覚書ハ正ニ之ヲ本国政府ヘ伝達致候本使ハ本国政府ノ命ニ依リ左記ノ通リ閣下ニ対シ回答ヲナスノ光栄ヲ有シ候

講和談判中最高会議及外務大臣会議ニ於ケル議事進行ノ際「ウィルソン」大統領及「ランシング」氏カ「ヤップ」島ニ関シテ留保スル所アリシ事実ニ付テハ異論ナキモノノ如クニ御座候得共太平洋中赤道以北ノ旧独領諸島全部ヲ日本国ヘ割当ツル件ニ関シ合衆国側ニ於テ之ニ同意セシヤ否ヤノ始末ヲ明瞭ナラシムル為左記諸項ニ付閣下ノ御注意ヲ喚起致度候

四月二十一日「ウィルソン」大統領、「ロイド、ジョージ」及「クレマンソウ」ノ三氏会合ノ席上「ウィルソン」大統領ハ同日午前牧野男爵及珍田伯爵トノ会見ニ付報告シテ「ヤップ」島ハ之ヲ国際的ノモノト為スノ必要アリト思考シタルガ故ニ同島ニ関シテハ留保スル所アリシモ北太平洋諸島ノ委任統治権ハ当ニ日本ニ帰属スヘキモノト解セラルヘシト日本国代表ニ注意シ置キタル旨ヲ陳述致居候

千九百十九年四月三十日午後三時開会ノ外務大臣会議ニ於テ海底電線ニ関シ討論アリシ際「ランシング」氏ハ本問題ニ関連シ更ニ他ノ機会ニ於テ討議センコトヲ欲スル牽連問題アル旨ヲ申述候即チ「ヤップ」島ハ海底電信ノ利益ノ為之ヲ国際化スヘク且海底電線ノ取締上国際委員会ヲシテ之カ施政ヲ行ハシムヘキヤ否ヤノ問題有之右ハ議事日程中ニ之ヲ掲ケザルモ同氏ノ腹案トシテ将来改メテ討議センコトヲ提議スルノ意志ヲ有スルコトヲ予告スルノ意味ニ於テ提起シタルモノナルコトヲ陳述致居候同氏ハ更ニ右諸島全部ハ同一状態ノ下ニ置カルヘシト主張スルノ要無之「ヤップ」島問題ノミハ特殊ノ案件ヲ為スヘキモノト提議致候牧野男爵ハ先決問題トシテ先ツ「ヤップ」島ノ地位ヲ決定シ次テ海底電線問題ヲ論議スヘシト主張被致候処「バルフォア」氏ハ右ニ対シ同島ノ地位モ重大問題ナレトモ海底電線問題モ亦延期スル能ハズト思惟スル旨答弁被致候右ハ蓋シ海底電信問題ハ対独平和条約ノ締結前ニ決定シ置クノ必要有之独逸ノ「ヤップ」島ニ対スル権原ハ唯之ヲ抛棄シ置ケバ其ノ地位ノ如キハ後日同盟国間ニ之カ討議ヲ為スヲ得ヘシトノ意ニ有之候

五月一日「ピション」氏室ニ於ケル会議ノ際モ「ウィルソン」大統領ハ海底電線ハ悉ク「ヤップ」島ヲ経由シ同島ハ北太平洋ニ於ケル通信線分岐ノ中心点タルヲ以テ之ヲ一国ノ手ニ委スヘカラズト陳述致候五月六日ノ会議ニ於テ太平洋諸島ノ委任統治割当ヲ論議セル際「ロイド、ジョージ」氏ハ日本ハ赤道以北ノ或（Certain）諸島ニ対スル統治権ノ委任ヲ受クヘシト思惟スト言明被致候処議事録ニ拠レハ「ウィルソン」大統領ハ主義トシテ之ニ同意致居候モ前記委任統治ニ関シテハ門戸開放政策ヲ適用スヘク且他ノ国際聯盟員ニ対シ通商貿易上機会均等ナルコトヲ要スル旨ヲ説明的ニ陳述致候「ヤップ」島問題ハ既ニ曩ニモ述ヘタル如ク将来特別ノ考慮ヲ為スヘキ特殊ノ案件ニ御座候条委任統治ノ名目ノ下ニ日本ヘ附与スヘキモノトシテ指命セラレタル「或諸島」中ニ包括セラルル意味合ノモノニハ無之候惟フニ「ヤップ」カ従来其ノ処分ニ関シ種々意見ノ相違有之タル赤道以北唯一ノ島嶼ナルニ於テ右意見ノ正当ナルコトハ明瞭ナルヘク候右会議ノ議事録ニ拠ルニ同島ニ就テハ更ニ討議ヲ続行致シタリトモ覚エラレズ候処五月七日午後四時十五分開会セラレタル会議ノ議事録ニハ五月六日ノ会議ニ於テ決定セル北太平洋諸島関係ノ協定集ト認定シ得ヘキ覚書ヲ附属書トシテ添付致居候「ヤップ」島ヲ日本ノ委任統治ニ帰属セシメタリトノ主張ハ右覚書ニ基クモノト弊国政府ハ思惟致候処右覚書中ニハ「或」ナル修飾語ハ之ヲ省略致有候モ之カ為ニ右諸島全部カ此ノ特殊ノ項目ニ含包セラルルモノトハ明示不致候尚前記会議ノ議事録ニ依レハ五月七日ニハ委任統治ニ就テハ一切討論ヲ行ハザリシニ拘ラス議事録ハ覚書ヲ引照シタル上唯「左記ノ決議ヲ為セリ」ト附言致居候

弊国政府ノ承知致サザル右ノ決議ヲ過リ公表相成候トテモ何等效力ヲ発生スルノ理ハ無之候大統領ハ五月七日ノ会議

ニ於テハ五月六日ノ決議ヲ変更セントスル如キ提議ハ何等無之カリシコトヲ猶記憶致候ノミナラズ大統領カ原案ヲ変更セントスル意見ニハ決シテ同意セザリシコトハ又確実ニ御座候大統領ハ又「ヤップ」ハ之ヲ除外シ後日海底電信問題商議ノ際其ノ決定ヲ為ス様予メ留保致シ置キタル事実ニ付テハ合意成立致シタルモノト了解致居候「ヤップ」島ヲ日本ニ割当ツヘキ委任地域中ニ包含セシメントスルニ対シ大統領カ反覆異議ヲ唱ヘタル事実ニ鑑ミレバ大統領ガ説破セラレ従来ノ強硬ナル態度ヲ緩和スルニ至リシトセバ同島ニ関シテ何等カノ討論行ハレタリト観察スルハ極メテ自然ナルニ拘ラス五月七日ノ議事録ニ一切斯カル種類ノ討論ヲ掲載致サザルハ誠ニ注目ニ値スヘク候曩ニ記載シ置ケル異議ヲ撤回セリトセバ其ノ旨記録セラルヘク尠クトモ斯ノ如キ決定ハ今少シク正確ナル字句ヲ用ヒテ載録スヘキコトヲ当然ノ理ト致候由是観之大統領ハ五月六日及同月七日ノ決議ニハ「ヤップ」島ハ包含セラルベキニアラズトノ推測ノ下ニ行動セルハ明白ナリト存候

次テ「ウィルソン」大統領ハ千九百十九年八月十九日「ヤップ」島ノ地位ニ関スル質問ニ対シ元老院外交委員会ニ向

ヒ左記陳述ヲ致候事実ハ之ヲ注意スルノ必要有之候

「ヤップ」島ハ太平洋海底電信及無線電信ノ基点ナルヲ以テ同島ノ処分否寧ロ其ノ監理ハ之ヲ留保シ海底電線ノ所有及運用ニ関シ他日開催セラルヘキ総会ノ議ニ附スヘキコトヲ主張セリ本件ハ之ヲ本条約ニ記載シ其ノ結末ヲ見タルヲ以テ海底電線総会ハ之ヲ開催スルノ都合トナレリ

右陳述ハ大統領ノ意図ヲ明証スルモノニ御座候然リ而シテ当時広ク之ヲ公表致候モ弊国政府ハ世界ノ何レノ方面ヨリモ大統領ノ声明ニ対シ反対ノ意向ヲ表示スル評論ニ接セザリシ点ハ興味アルコトト存候次ニ千九百十九年十二月二十四日ノ首席代表者会議ニ提出セル赤道以北ノ前独逸領諸島ニ関スル統治委任状草案ハ赤道以北ノ如何ナル島嶼ヲ日本ノ委任統治ノ下ニ割当ツヘキカノ問題ヲ考慮シテ作製セラレタル事実ニ留意セラレンコトヲ希望致度同草案第三条ハ左ノ通リニ御座候

特定ノ島嶼ヲ前記委任統治ニ包括セシムヘキヤ否ヤノ点ニ関シ争議ヲ生シタル場合ニハ事件ヲ国際聯盟理事会ノ議ニ附スヘク其ノ決定ハ確定的效力ヲ有スヘキモノトス

草案ハ主トシテ日本側ノ反対ノ為メ承認セラルルニ至ラザリシ次第ニ御座候ヘ共右反対ハ此ノ特殊ノ規定ニ関スルモノニハ無之従テ以上引照致候点ハ赤道以北ノ諸島ノ決定的処分ニ関シ確定的ニ意見ノ一致ヲ見ルニ至ラザリシモノト解スルノ証左ト可相成候

議論ノ都合上仮ニ日本ニ対スル条件附割当ヲ是認スルモ委任条項ハ日本之ヲ受諾セザルノミナラズ主タル関係諸国並国際聯盟ニ於テ承認スルニ至ラザル点ハ又注意スルノ必要有之候

此ノ事実ニ徴シ関係諸国ノ承認スル条件ニ拠リ「ヤップ」島ノ委任統治ヲ受諾スルニ至ル迄ハ臨時占領ノ状態ハ継続可致モノト被認候然レトモ斯カル事情ニ於テ行ハルル臨時占領ハ同島ニ関スル利益ヲ正式ニ授与致スモノトハ解シ難ク単ニ同島ノ監理施政ノ条件ニ対スル当面ノ決定権ヲ承認スルモノニ有之候

本使ハ大統領ノ命ニ依リ合衆国政府ハ「ヤップ」島カ五月七日ノ決議又ハ其ノ他ノ最高会議ノ協定ニ包含セラルトナスノ件ニ関シ同意シ能ハザル旨ヲ申進度且「ヤップ」島ハ国際通信上欠クベカラザル地点ナルヲ以テ国際通信ノ為同

島ノ自由且無礙ノ使用ヲ必要トシ特定ノ一国ニヨリ取締又ハ制限ヲ受クヘキ筋合ノモノニアラザル旨ヲ附言致度候

仮ニ「ヤップ」島ハ日本カ委任統治ニ依リ保有スル諸島中ニ包含セラルルモノト為スモ尚他ノ諸国カ海底電線ノ陸揚運用ノ為自由且無礙ニ同島ニ接近シ同島ヲ使用シ得ザルノ理由ハ之ヲ解スル能ハザル所ニ御座候右ノ権利ハ合衆国カ同一目的ノ為欠クベカラザル自国ノ島嶼ニ関シ築城ナキ場合ニ限リ喜ンテ享与スル所ニ御座候

合衆国政府ハ右事実ノ陳述ニ拠リ「ヤップ」島ノ委任統治ニ関スル合衆国ノ主張ノ正当ナルコトヲ日本国政府ニ於テ確認セラレ且万一「ヤップ」カ日本ノ委任統治ニ割当テラルル場合ニハ他ノ総テノ諸国モ海底電線ノ陸揚運用ノ為自由且無礙ニ同島ニ接近スルコトヲ得ヘシト為ス米国ノ見解ニ同意ヲ表セラレンコトヲ希望致候

本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

千九百二十年十二月十日

東京米国大使館

エドワード、ベル　八署名ノ

外務大臣　伯爵内田康哉閣下

四六六　十二月十日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

ケーブル、アイランズニ関スル英米伊三国間協定ニ付問合ノ件

第五八二号

貴電通第一三七号(二)ニ関シ

米国委員ハ「ケーブル、アイランズ」ニ関スル英米伊間ノ協定ニ日本ノ加入方ヲ慫慂シタル趣ノ処左ノ諸点回電アリタシ

一、英仏伊三国ハ貴電通第八七号末段ノ決定ニ基キ其ノ後成案ヲ得タル次第ナリヤ

二、若シ然リトセハ右成案ハ大体貴電通第八八号ノ通リナリヤ

三、右米国委員ノ慫慂ハ該協定ヲ「ヤップ」島ニモ適用セシメムトスルノ底意ニ出ツルモノト察セラルルモ果シテ然ルヤ

モ念ノ為申進ス

本電在英、仏及伊各大使及在「ジュネーヴ」全権ニ転電アリ度シ

四六八　十二月十一日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

ヤップ海底線ニ関シ華府通信会議ニ於テ蘭国ノ権利問題決定ヲ見ザル限リ日本トノ商議ヲ開始スル能ハザル旨蘭国側ヨリ申越ノ件

別　電　同日内田外務大臣発幣原大使宛電報第五八五号
英国側提議ノ内容

第五八四号

本月九日在本邦蘭国公使来訪左記訳文ノ覚書ヲ提出セリ

『蘭国政府ハ「ヤップ」海底線ニ関スル日本国政府ノ提議ヲ多トシ且之ヲ以テ日本カ蘭国ニ対シ有セラルル友誼的感情ノ新証左ト認ム

蘭国政府ハ右日本ノ提議ニ多大ノ興味ヲ有スルモノナルモ目下ノ処本件ニ付何等決定ヲナス能ハザルヲ遺憾トス

右日本ノ提議接受ニ先チ蘭国政府ハ該海底線ニ対スル蘭国ノ権利ニ関シ自己ノ立場ヨリスル陳述書（附属書第一トシ

四六七　十二月十一日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

ヤップ島ニ関スル最高会議決定ニ鑑ミ米国側云分ハ認メラレ難キ旨通報ノ件

第五八三号

貴電通第一三七号二ニ関シ

「デヴィス」ハ客年五月六日ノ会議ノ際ニハ日本ノ委任統治ニ帰スヘキ旧独領諸島ハ Certain islands トアリタル故大統領ハ「ヤップ」ハ除外セラレ居ルモノト思考シ居タル旨ヲ語リ同日ノ会議録ヲ示シタル由ナルガ本件委任国及委任地域カ最終的決定ヲ見タルハ其ノ翌日即チ五月七日ノ最高会議ナルニ付結局問題ハ同最高会議ノ決定ニ Certain islands トアルヤ否ヤニ帰着スヘキ処同日ノ決定ノ通告ニハ The German islands north of the Equator トアリ（往電第三六三号）而シテ右 The German islands トハ文法上何人ト雖モ All the German islands ノ意味タルコトハ否定シ難ク之ヲ Certain islands ノ意味ナリト解スル能ハサルニ付到底「ヤップ」ヲ除外シアリトノ米国側ノ云分ハ立チ難キ次第ナリ右ハ夙ニ御承知ノ処ト存スル

テ貴電通第五六号及第五七号ノ陳述書写ヲ添付ス）ヲ華府通信予備会議ニ提出セルヲ以テ此ノ権利問題ノ決定ヲ見ザル限リ蘭国政府ハ自己ノ地位確実トナラザルニ付何等商議ヲ開始スル能ハズ

仍テ華府会議ニ対シ為シタル前記措置ノ確然タル結果判明シ且希望通リ地位確実トナルニ至ラハ直ニ蘭国政府ハ苟モ蘭国ノ権利利益ヲ認ムル如何ナル提議ヲモ欣然考慮スヘシ

蘭国政府ハ日本政府ノ提議接受後数日ニシテ英国側ヨリ会議ニ対シ別ニ一ノ提議アリタル旨華府ヨリ通報ニ接シタリ右提議ノ内容ヲ玆ニ附記ス』（トテ別電第五八五号ヲ附属書第二トシテ添附セリ）

尚英国側ヨリ果シテ別電後段ノ通リ提議アリタリヤ回電アリタシ

本電別電ト共ニ在欧各大使及在蘭代理公使ヘ転電アリタシ

（別　電）

十二月十一日内田外務大臣発在米国幣原大使宛電報第五八五号
ヤップ海底電線ニ関スル英国側提議内容

第五八五号

British Delegate Preliminary Telegraph Con-

ference Washington proposed confer cable Menado-Yap to Netherlands, cable Yap-Guam to United States and cable Yap-China to Japan.

If this accepted, American cable Guam-China has to be laid for joint expenses, and Japan has to agree that from her side no local control shall be exercised on telegraphic communication via Yap and Guam between America and Netherlands-India.

四六九　十二月十一日　内田外務大臣ヨリ　在英国永井臨時代理大使宛（電報）

日本ノ委任統治区域及ヤップ島問題ニ関スル最高会議議事録入手方訓令ノ件

第五六二号

「ヤップ」ノ「ステータス」ノ件ニ関シテハ英、仏両国政府ニ於テ帝国ノ主張ヲ支持スルノ態度ヲ採リ居ルニ付帝国政府トシテハ安心シ居ル次第ナルモ本件ニ関シ最近米国側ニ於テ貴官ニ転電済ナル在米大使発本大臣宛電報通第一三七号ノ通リ客年五月六日ノ最高会議ノ議事ヲ援用シ又十二月十日在本邦米国代理大使来省本大臣ニ手交セル本件ニ関スル書翰（右書翰ノ内容ハ追テ電報スヘシ）中同シク五月六日及七日ノ最高会議ノ議事ヲ引用シ居ルヲ以テ旁右両日ノ最高会議ノ議事録ハ是非之ヲ入手シ度キニ付嚢ニ斉藤書記官之ヲ試ミ目的ヲ達セザル次第ハ貴電第八八九号ニ依リ承知シ居ルモ今一応貴任国政府当局ニ前記ノ事情篤ト開示ノ上右当日ノ議事録中委任統治ニ関スル部分丈ニテモ入手方懇談ヲ試ミラレ右入手ノ上ハ本件関係要点ヲ電報シ且全文郵送アリタシ

本電本大臣ノ訓令トシテ在仏代理大使ニ転電アリ度シ

四七〇　十二月十一日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

旧独線ニ関シ暫定協定不成立ノ場合ニ於ケルヤップ、メナド間通信開始ニ付主要四国ノ了解ヲ得置ク様措置方ノ件

第五八六号

帝国政府ハ往電第五〇五号及第五〇六号ノ通リ「ヤップ」「メナド」間通信開始方蘭国政府ニ提議シ居ル処若シ貴電通第一四七号㈡ノ如キ暫定協定成立スルニ於テハ右通信開始ハ日蘭間限リニテ自由ニ決定シ得ヘキモ之ニ反シ斯ル暫定協定成立セズシテ解決延期トナル場合ニハ当分依然トシテ客年五月三日ノ「プロトコール」ニ準拠スルコトトナルベク而シテ同「プロトコール」ニ依レバ一国ガ現ニ使用シ居ラザル海底線ヲ新ニ運用セムガ為ニハ主タル同盟及聯合国間ニ協定ヲ遂グルコト必要トナリ居ルニ付若シ前記通信開始ヲ「ヤップ」「メナド」線ノ新使用ト解セザルベカラザルニ於テハ仮令日蘭間ノ協議纏マリテモ之ガ実行ニハ他ノ四国ノ承認ヲ要スル訳合ナルガ我方ヨリ公然右承認ヲ求メ而カモ何国カヨリ異議出ヅルガ如キ場合ニハ却テ蘭国トノ交渉ニ累ヲ及ボスコトトナルベシ就テハ貴官ノ御裁量ニ依リ斯ル懸念ナキ適当ノ方法モアラバ右通信開始ニ付四国ノ了解ヲ得置ク様然ルベク措置セラレタシ

在欧各大使及在蘭代理公使へ転電アリタシ

四七一　十二月十二日　在英国永井臨時代理大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

通信会議ノ行詰ニ関スル華府発路透通信等ニ付報告ノ件

第一〇七二号　（十二月十三日接受）

始ハ日蘭間限リニテ自由ニ決定シ得ヘキモ之ニ反シ斯ル暫定協定成立セズシテ解決延期トナル場合ニハ当分依然トシテ客年五月三日ノ「プロトコール」ニ準拠スルコトトナルベク而シテ同「プロトコール」ニ依レバ一国ガ現ニ使用シ居ラザル海底線ヲ新ニ運用セムガ為ニハ主タル同盟及聯合国間ニ協定ヲ遂グルコト必要トナリ居ルニ付若シ前記通信開始ヲ「ヤップ」「メナド」線ノ新使用ト解セザルベカラザルニ於テハ仮令日蘭間ノ協議纏マリテモ之ガ実行ニハ他ノ四国ノ承認ヲ要スル訳合ナルガ我方ヨリ公然右承認ヲ求メ而カモ何国カヨリ異議出ヅルガ如キ場合ニハ却テ蘭国トノ交渉ニ累ヲ及ボスコトトナルベシ就テハ貴官ノ御裁量ニ依リ斯ル懸念ナキ適当ノ方法モアラバ右通信開始ニ付四国ノ了解ヲ得置ク様然ルベク措置セラレタシ

在欧各大使及在蘭代理公使へ転電アリタシ

四七一　十二月十二日　在英国永井臨時代理大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

通信会議ノ行詰ニ関スル華府発路透通信等ニ付報告ノ件

第一〇七二号　（十二月十三日接受）

本使発在米大使宛電報第四三一号

貴大臣御参考迄ニ転電ス

貴地八日発「ルーター」通信ハ通信会議ハ日仏対英米伊ノ確執ニ依リ行詰ラントスル旨出席者ヨリ聞知スト報ジ尚最近他ノ新聞通信モ日米間ニ「ヤップ」問題ノ難関アリ議事為ニ渋滞スルガ如クニ報ジ日本ヲ悪者トスル宣伝的通信漸ク多カラントス

外務大臣へ転電セリ

四七二　十二月十二日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題ニ関スル第十一回各国委員長会議ノ模様報告ノ件

通第一五〇号　（十二月十四日接受）

十日午後四時第十一回委員長会議ヲ開ク

一、先ヅ「デヴィス」ヨリ同日午前上院外交委員会ニ出席詳細ノ説明ヲ与ヘタル後委員会ノ意向ヲ承知シ度キ旨申入レタルモ委員長「ロッジ」ハ直チニ意見ヲ述ブルヲ得ズト答ヘ更ニ「デヴィス」ヨリ書面ニテ一応ノ意見ニテモ示サレ度シトノ希望ヲ表シタルニ対シ書面ヲ差シ越シタリトテ

是ヲ朗読シタリ其ノ主旨ハ要スルニ是迄国務省ノ取レル態度ヲ是認シ戦前情態ノ回復並米国ノ為メ所有権及運用権ノ公平ナル分配ヲ要求スルノ当然ナル事「ヤップ」島ヲ海底電線ノ目的ノ為メ国際化スル事ヲ適当ト認ムル事米国ニ公平ナル待遇ヲ与フル事無クシテ現状ヲ持続スル事ハ米国ノ同意スベキモノニアラズト認ムト云フニアリ尚「デヴィス」ハ「ヤップ」島ノ問題ニ付喧マシキ議論アリタル事ヲ特ニ指摘シタリ

二、右「デヴィス」ノ話シ終ルヤ「ブラウン」ハ仏英日ノ委員本国ニ帰リ親シク政府ニ事情ヲ説明スルノ必要アルヲ以テ会議ヲ延期スル事トシ度ク尤モ其ノ間ニ四国大使ト国務省トノ間ニ話ヲ続クル事トシ夫ニテ尚解決手間取ル様子ナレバ更ニ来年三月十五日ヨリ遅カラザル期日ニ会議ヲ催シ場所ハ各国政府間ニ協定スル事トスベク尚此ノ際仏英日三国ハ其ノ運用スル電線ニ付収支ノ計算ヲ別ニシ置キ最終ノ解決ニ達シタル時ハ収支計算ニ付其ノ効力ヲ来年一月一日ニ遡及セシメン事ヲ提議シタリ右ニ対シ「デヴィス」ハ収支計算ニ付遡及的効力ヲ有セシムルノミニテハ満足出来ズ此ノ儘ニテ別ルレバ解決ニ達スル事ハ不能ナルヤモ知レ

ズ況ヤ現状ヲ持続スル事ヲ有利トスル国アルニ於テヲヤト述ベタリ

三、此ノ時本使ハ「ヤップ」島ヲ海底線ノ目的ノ為メ国際化スルハ如何ナル意味ナリヤト質問シタルニ「デヴィス」ハ海底線ノ陸揚及運用ノ自由ヲ各国ニ認ムベシトノ趣意ナルベシト答ヘ尚防備ヲ施サザル場所ニハ他国ノ海底線ノ陸揚運用ヲ許ス事ハ既ニ米国ノ同意セル処ニシテ米国ハ日本ニ於テモ「ヤップ」ニ関シ同様ノ取扱ヲ為サン事ヲ主張スルモノナリト附言セリ

依テ本使ハ是即第四分科会ニテ否決セラレタル問題ヲ更ニ「ヤップ」島ニ付復活スル事トナルベシト反駁シ更ニ現今米国ハ「グァム」島ヨリ比律賓ヲ経テ支那ニ達スル線ヲ所有シ居リ是ヲ複線トスルモ又別ニ線ヲ敷設スルトモ全然自由ナルニ拘ラズ殊更ニ「ヤップ」島ノ地位ニ関係アル問題ヲ提起シテ面倒ヲ増サルルハ如何ナル必要ニ基クモノナリヤト反問セルニ「デヴィス」ハ上海ニ行ク線ハアルモ「メナド」ニ行ク線無シト云ヘルニ付本使ハ更ニ然ラバ上海行ノ線ニ付テハ別ニ問題ヲ起サザル趣旨ト諒解シ得ベキヤト云ヘルニ「デヴィス」ハ米国ト上海トノ間ニハ別ニ電信電

送ノ途アリトスルモ「メナド」トノ間ニハ此ノ途ナシトノ趣旨ナリト答ヘタリ

依テ本使ハ米国ガ蘭領印度ニ対シ有スルト少クモ同等ノ関係ヲ日本モ有スト云ヘルニ「デヴィス」ハ日本ト蘭領印度トノ交通ノ便益ヲ計ル為米国ト蘭領印度トノ交通ヲ阻害スル事ハ承諾シ得ズト云ヘリ右ニ対シ本使ハ日本ハ単ニ戦前ノ独逸ノ地位ニ代ラントスルモノニシテ戦前ニハ「グァム」ト「メナド」トノ通信ハ独逸ノ電信ヲ通過セルモ米国ハ従前ニ比シ便益ヲ減少シタルモノト云フ事ヲ得ズト云ヘルニ「デヴィス」ハ戦前ト同ジク「ヤップ」島ニ和蘭人ト独逸人トヲ呼ベバ夫レニテ宜敷カルベシト答ヘタリ本使ハ日本人ヨリハ独逸人ヲ好ムトノ意ナリヤト揶揄シタルニ「デヴィス」ハ左様ニハアラザルモ独逸時代ニハ会社ニテ運用セルニ日本ハ政府ニテ運用スルノ差異アリト云ヘリ本使ハ運用者ガ政府タルト会社タルトニ依リテ米国ノ通信上ノ便益ニ差異ヲ生ズルノ理ナシ元来米国委員ノ如ク一切ノ事項ニ付徹頭徹尾米国ノミヲ本位トシテ他国ノ立場ヲ無視セントスルニ於テハ国際間ノ関係ハ到底円満ニ行クベキモノニアラズト述ベタルニ「デヴィス」ハ米国ノ気儘ヲ云フ積リニハアラズトテ急ニ話ヲ他ニ転ジタリ

四、最後ニ「デヴィス」ハ何レノ場合ニ於テモ此ノ儘延期スル事ハ承諾シ得ズトテ一案ヲ提議シ列席シ居タル第三次官「マール、スミス」是ヲ筆記シ各国委員モ夫々写シ取リテ引キ取リタリ即チ左ノ通リ

1. It was agreed that from this date the ex-German cables, the subjects of protocol of May 3, 1919, shall be operated by the United States, Great Britain, France, and Japan, the profits from the present date to be allocated to, in accordance with final disposition of the cables.

2. If agreement on the disposition of cables is not reached by March 1, 1921, the present operation of the cables shall terminate and new modus vivendi shall be necessary for the continued operation of the cables.

在欧各大使在蘭公使へ転電セリ

四七三　十二月十三日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題ニ関スル第十二回各国委員長会議ノ模様報告ノ件

通第一五一号　（十二月十四日接受）

十一日午前十時第十二回委員長会議ヲ開ク

一、十一日朝又々諸新聞ニ通信会議記事掲載セラレ何等カ問題起ルベキヲ予想セシメタルガ開会前英委員「スパーリング」ハ国務省内ニテ「ブラウン」ヲ待チ受ケ居リ同氏来着スルヤ否ヤ之ヲ拉シテ英国大使館ニ向ヒ暫クノ後更ニ両人来会セリ新聞記事ニ関連シ英国委員ノ執ルベキ態度ニ付大使館ニ於テ協議セルモノカト想像セラル

其内「デヴィス」モ大統領ノ呼寄セヲ受ケテ一時大統領邸ニ行キタルヲ以テ本使ト「ブラウン」及「ラネル」ト内話ノ機会アリタルガ何レモ五月三日ノ「プロトコール」ヲ無効ニ帰セシムルコト（往電通第一五〇号四項参照）ハ承諾シ得ザルヲ以テ結局単純ニ延期スルノ外ナシトノコトニ意見一致シ夫レニテ一同議席ニ入レリ

二、「デヴィス」ヨリ前日ノ書附ニ付各委員ノ意見ヲ問ヘルニ「ブラウン」ハ一度帰国シ政府ト打合セタル上ニアラザレバ何等決定スルヲ得ズト云ヒ「スパーリング」ハ新聞ニ出デタル記事ハ吾人ヲシテ討議ヲ中止セシムルノ（脱）如キ空気ノ下ニ会議ヲ続クルハ無意味ニ付暫ク休会スルノ外ナシト云ヘリ

右ニ対シ「デヴィス」ハ新聞記事ハ上院議員ノ談話ニ基クモノナラン新聞記事ハ遺憾トスルモ監督不可能ノ事情ハ諒トセラレ度又本件ノ成行ガ新聞ニ漏洩セルコトヲ理由トシテ三国ノミ引続キ電線ヲ専有スルノ状態ヲ継続スヘシト論スルカ如キハ米国ノ到底承認シ得ザル所ナリ加之前日ニ一度明白ニ同意シタルコト（前顕通第一五〇号四項）ヲ今日急ニ取消スコトハ不都合ナリト云ヘリ

依ッテ本使ハ明白ニ同意シタリトハ何ノ意ナリヤ自分ハ同意シタルコトナシト述ヘ「ラネル」モ前日何等決定セルモノト思考シ居ラズ本国政府ニ稟請シタル上ニアラザレハ意見ヲ表示スルヲ得ズ尤当国ニ於ケル機密ノ漏洩ハ新ニ困難ヲ生ジタリト述ヘ「デヴィス」ハ新聞記事ノ為メ一度決定セルモノヲ取消ストノ意ナリヤト云ヒ更ニ伊国委員ノ了解如何ト問ヘルニ対シ「ブランビラ」ハ大体ノ討議ハアリタルモ決定ニ至リタリヤ否ヤヲ知ラズト曖昧ノ答ヲナシタルニ「デヴィス」ハ今ヤ三国カ共同シテ米国ニ当リ会議ヲ破裂セシムルノ方針ヲ定メ居ルモノト思考スルニ付米国側ニ於テモ其ノ適当ト認ムル措置ヲ取ルノ外ナシト云ヒ「ブラウン」ヲ初メ一同之ニ対シテ其ノ誤解ナルコトヲ言明セリ

「デヴィス」ハ更ニ現状ヲ継続セバ三国ノミ益スヘシト繰返セルニ対シ「ブラウン」ハ利得ノ分配ニ付テハ遡及力ヲ有セシムルニ異議ナキコトハ度々繰返セルニアラズヤト云ヘルニ「デヴィス」ハ金カ主タル問題ニハアラズト云ヒ議論沸沌トナリ結局同日午後五時半ニ第一分科会正式会議ヲ開クコトトシテ散会セリ

三、閉会後「ブラウン」ハ仲裁裁判ニ附スルノ案ニ付「ラネル」ノ内意ヲ問ヘルニ「ラネル」ハ不同意ヲ表セリ

在英、仏、独、伊各大使、在蘭公使へ転電セリ

四七四　十二月十四日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第四分科会ハ総会ニ対スル報告案ヲ可決ノ上閉会ノ件

通第一五二号　（十二月十六日接受）

第四分科会第十回会議（十一月二十二日）ニ於テ戦時海底線ノ地位ニ関スル会議ヲ開催セントスル米国ノ提案ハ一、二ノ修正ヲ経テ可決セラレタルガ其ノ主要ナル修正事項ハ to be held preferably ヲ to be held either at the Hague or preferably ト改メタルニ在リ第十一回会議（十一月二十六日）ニ於テハ総会ニ対スル報告案ヲ附議シタルガ通第八七号ニ於ケル海底線ノ陸揚地点ニ関シテハ英米伊三国間ニ於テノミ一致ヲ見タル事項ニシテ該三国ハ本会議ヨリ全ク分離シテ取極ヲナシタルニ拘ラズ此協定（Agreement）ヲモ報告中ニ加ヘントシタル為仏日両国ヨリ反対シ其後種々内交渉ノ末十二月九日第十二回会議ヲ開キ該協定ハ本会議以外ニ於テ成リタルモノナルモ単ニ他ノ委員ノ参考迄ニ添附報告スルモノナル旨ヲ記シ報告案（別途郵送ス）ヲ可決シ第四分科会ハ茲ニ閉会ヲ告ケタリ

四七五　十二月十五日　内田外務大臣ヨリ在米国幣原大使宛（電報）

ヤップ島ガ日本ノ委任統治区域内ニ包含セラルトスル我主張ニ反対スル米国政府論拠ノ大要通報ノ件

第五八八号

十二月十日在本邦米国代理大使来省貴官ニ転電済ナル本大臣発在英大使宛電報第五二四号帝国政府ノ覚書ニ対スル回答トシテ大要左ノ趣旨ノ書翰ヲ本大臣ニ手交シタリ

一　客年四月二十一日ノ最高会議ニ於テ「ウィルソン」大統領ハ日本全権ニ対シ日本ハ北太平洋諸島ノ委任統治ニ当ルコトトナルベキモ「ヤップ」島ニ付テハ留保ヲ為シ同島ハ国際化スヘキモノト思惟スル旨陳述セルコト

二　客年四月三十日ノ外相会議ニ於テ「ランシング」ハ「ヤップ」ヲ国際化シ海底線管理ノ為国際委員ヲ設クベキコトヲ述ヘタルニ牧野男ハ之ニ対シ同島ノ「ステータス」ハ海底線ノ問題ヲ決スル前ニ決定スヘシトノ態度ヲ採リ「バルフォア」ハ同島ノ「ステータス」ハ重大ナル問題ナルモ之カ為海底線問題ヲ延期スル能ハズ独逸ヲシテ同島ヲ放棄セシメ其ノ後同盟国間ニテ同島ノ「ステータス」ニ付論議スルヲ得ト答ヘタルコト

三、五月一日ノ会議ニ於テ「ウィルソン」ハ「ヤップ」カ海底線ノ集中点ナルニ鑑ミ之ヲ或一国ノ手ニ帰セシムベカラズト陳ベタルコト

四　五月六日ノ会議ニ於テ「ロイド、ジョージ」ガ日本ハ赤道以北ノ certain islands ノ委任統治ニ当ルベシトノ了解ヲ表明シ記録ニ依レバ「ウィルソン」ハ委任統治区域ニ於テハ門戸開放政策適用セラルベク且他聯盟員ノ通商及貿易ニ対シ機会均等ヲ与フベキモノナリトノ説明的意見ヲ附シ主義ニ於テ之ニ同意シタルガ「ヤップ」ハ曩ニ更ニ考慮ヲ尽スヘキ特殊ノ場合ト為シタル所ナルヲ以テ同島ガ日本ノ委任統治ニ帰スベキ certain islands 中ニ包含セラレザルモノ（右ハ同島ガ赤道以北ニ於テ其ノ処分ニ関シ意見ノ相違ノ存セル唯一ノ島ナルニ顧ミ自明ノコトナリ）ト思惟セルコト

五　五月七日ノ会議ノ議事録附属書トシテ明ニ五月六日ノ会議ニ於テ到達シタル協定ノ「コーディフィケーション」ト看做スヘキ覚書ヲ添附シアリ日本政府ハ右覚書ニ基キテ「ヤップ」ガ其ノ委任統治ニ属スルコトヲ信スルモノノ如キモ右覚書ニハ certain ナル形容詞ナキモ一切ノ島嶼ヲ包含スルモノナルコトカ明示セラレアラズ当日ノ議事録ニ依ルニ五月七日ニハ委任統治ニ関シテハ何等討議ナク単ニ「次ノ決定ニ到達シタリ」トテ右覚書ヲ引照セルノミナルコト

ヲ指摘シ大統領ハ当日ノ会議ニ於テ五月六日ノ決定ヲ変更スル何等ノ提議アリシコトヲ記憶セズ又何等原提議ノ変更ニ同意シタルコトナキコト亦確実ナリ大統領ハ「ヤップ」ハ曩ニ委任統治ヨリ除外セラレ将来海底線問題解決ノ際ニ譲ルベキモノトシテ留保スルコトニ一致シタルモノナリト了解ス若シ大統領ニ於テ此ノ点ニ関シ譲歩シタルニ於テハ「ヤップ」ニ関シ討議アルヲ最モ自然トスベキニ五月七日ノ議事録ニ於テ「ヤップ」ニ関スル討議ナキハ最モ注意スヘキ点ニシテ右ニ関シ「ウィルソン」ガ異議ヲ撤回シタル旨記載スルカ又ハ少クトモ右決定ガ今一層正確ナル文字ヲ使用シ居ルヲ以テ当然トストシ又客年八月十九日「ウィルソン」カ上院外交委員会ニ於テ為シタル「ヤップ」ノ「ステータス」ニ関スル陳述ヲ掲ケ之ニ対シ何国ヨリモ反対意見ヲ聴キタルコトナシトシ次テ赤道以北ノ旧独領諸島ニ関スル委任統治協約案第三条ニ「或ル島カ当該委任統治ノ下ニ属スルヤ否ヤニ付争生スルトキハ理事会ノ決定ニ委ス」トノ規定アルコトヲ援用シ右モ亦赤道以北ノ一切ノ島ノ最終的処分ニ関シ未タ決定的ノ協定ニ達シ居ラザル事実ヲ示スモノトナシ且仮ニ同島カ日本ノ委任統治区域ニ属ストスルモ委任統治条項ハ未タ決定ニ至ラズ右決定ニ至ル迄ハ一時的占領ニ外ナラザルガ故ニ既得権ヲ構成セズ又今其ノ管理及施政ノ条件ヲ定ムルニ妨ケナシトナシ最後ニ米国政府ハ「ヤップ」ガ五月七日ノ決定其ノ他最高会議ノ他ノ如何ナル協定ニモ包含セラレ居ルトナスコトニ同意スル能ハズ加之「ヤップ」ハ国際通信ニ欠クベカラザル地点ナルヲ以テ仮令同島ガ日本ノ委任統治地域ニ包含セラルルモノト仮定スルモ他ノ諸国ハ海底線ノ陸上及運用ニ対シテハ常ニ門戸開放ノ権利ヲ保有セザルベカラズ云々トナセリ

右書翰ニ対シテハ関係会議録等入手ヲ試ミタル上逐一反駁

ヲ加ヘタル回答ヲ為ス積リナルガ其時機ニ付御意見アラバ承リ度シ尚右書翰原文ハ郵送スルモ其前必要ト認メラルルニ於テハ直接国務省ヨリ入手方御取計相成タシ

本電在英、仏、伊各大使及在「ジュネーヴ」全権ニ転電アリタシ

四七六　十二月十五日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第一分科会決議文ヲ新聞ニ公表ノ件

別電一　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一五四号
　　新聞ニ公表セル決議文ノ前文
二　同右電報通第一五五号
　　右決議文

通第一五三号　（十二月十六日接受）

其後新聞紙上更ニ種々不穏当ノ報道伝ハリ居ルニ付十二月十四日会議終了後直チニ第一分科会議決議文ヲ発表スルコトトシ国務省ヨリ別電第一五四号ノ通リ新聞ニ公表セリ

（別電一）

十二月十五日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一五四号

新聞ニ公表セル決議文ノ前文

通第一五四号

往電通第一五三号ニ関シ新聞公表ハ左記前文ノ次ニ往電通第一五五号決議文ヲ加フ

The delegates to the preliminary conference on communications have to-day reached at a unanimous agreement in regard to certain important aspects relative to the general question of disposition of the ex-German cables. While agreement has not been arrived at for definite disposition of cables, important principles were established to guide the Conference in its continued consideration of this matter. There has been recognition on the part of all the delegations of the necessity of accommodating themselves as much as possible to the views and rights of other countries. While it is difficult in some cases to eliminate all differences, there appears general recognition of the necessity and expediency of working out an equitable and practicable solution of the problem. Some of the delegates felt that a solution could be expected if opportunity was afforded for personal consultation with their Governments. In order, however, that any possible delay might not prejudice the Powers which at present have no part in the operation of cables, it was recognized that some modus vivendi should be agreed upon which would outline the conditions under which the Conference should continue. With this idea in mind, the following resolution was unanimously adopted.

Shidehara

（別電二）

十二月十五日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一五五号

新聞ニ公表セル決議文

通第一五五号

往電第一五三号ニ関シ第一分科会決議左ノ如シ

It is consensus of opinion of all delegations that it is most necessary both from standpoint of expediency and justice that definite agreement be reached for terminating at very early date present status of ex-German cables and for equitable distribution of ownership and operation thereof. In view of fact that some delegates consider it necessary to consult with their Governments, it is agreed that technical work of Conference shall be temporarily adjourned. It is agreed however that Conference shall continue its deliberations regarding division and operation of ex-German cables and that delegates will recommend to their respective Governments that Ambassadors of respective countries shall as far as possible temporarily substitute those delegates who return to consult in person with their Governments. On and after

十二月十四日第三回総会ニ於テ新聞公表ノ件ニ付第一分科会ノ独線処分問題ヲ除キ（本問題ニ付テハ通第一五三号参照）其ノ他ノ各分科会ニ於テ審議セラレタル専門事項（Technical questions）ノ内容ハ諸国政府ニ於テ之ヲ発表シ差支ナキコトニ決定セルニ付御承知アリタシ但シ決議ノ成文ヲ其儘発表スル事ハ差当リ見合スヘシトノ了解ナリ右発表ノ参考トシテ前記総会席上ニ於テ米国側ヨリ配布ヲ受ケタル説明書大要別電通第一六〇号ヲ以テ電報ス右ハ貴電第五八九号御申越ノ分ニ相当スルモノニシテ各分科会ノ議事終了後発表スル積リニテ作製セラレ居リタルモノナルガ米国側ハ曩ニ往電通第一四三号第二項ノ事情ニ基キ同項末段ニ申進シタル打消文ヲ急ニ発表スルノ必要アリタルモ右打消文ノミニテハ到底新聞ニ掲載セラルル見込ナシトテ窮策ヲ按出シ右説明書ノ冒頭ニ数行ヨリ成ル打消文ヲ加ヘ急ニ十二月七日新聞社ニ与ヘタルモノナリ

註　別電通第一六〇号省略

四七九　十二月十六日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分ガ一定期間内ニ決定ヲ見ザル時ハ暫定協定ヲ採用スベシトノ英国側提議ニ米国側不同意ノ件

通第一六一号　（十二月十八日接受）

十二月十一日午後五時半第一分科会開会ノ筈ナリシガ右開会前別室ニ於テ各国委員長集リ（第十三回会合）「ブラウン」ヨリ旧独線ノ最終的処分ガ一定ノ期間例ヘバ今ヨリ三月以内ニ決定セラレザルトキハ新タナル暫行規程（モーダス、ヴィヴェンダイ）ヲ協定スルヲ要ストノ案ヲ各国委員ヨリ本国政府ニ上申スベシト提議セルモ米国委員ニ於テ之ニ同意セズ其儘六時半ヨリ第一分科会ヲ開キタリ

在蘭公使ニ転電セリ

四八〇　十二月十六日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第一分科会第七回会議要領報告ノ件

通第一六二号　（十二月十八日接受）

January 1, 1921, and pending termination of present status of operation under Protocol of May 3, 1919, various ex-German cables shall be operated as at present but for financial account of five Powers, provided however that in accounting for such operation income after deducting operating expenses shall be apportioned in accordance with final disposition to be made of such cables. It is furthermore agreed that delegates will recommend at once to their respective Governments that, if agreement is not reached by February 15th next for final division of cables, Conference will immediately proceed to arrange agreement for new modus vivendi to become operative on or before March 15th, 1921. It is understood that delegates will obtain and report at earliest possible date decisions of their Governments of such recommendations.

Shidehara

四七七　十二月十五日　内田外務大臣ヨリ
在米国幣原大使宛（電報）

通信予備会議ニ関スル記事ハ政府公表以外新聞掲載差止ノコトトシタル件

第五九一号

貴電通第一四六号ニ関シ

通信予備会議ニ関スル事項ハ新聞ニ掲載セラレザル様当方ニ於テ最初ヨリ十分注意シ居リタル次第ナルガ最近本問題ニ関スル海外電報時々掲載セラレ且之ニ関連スル記事散見スルニ至リタルヲ以テ今回関係省ト協議ノ上該会議ノ議事経過並帝国政府ノ方針措置ニ関スル記事ハ特ニ政府ヨリ公表スルモノノ外ハ一切新聞掲載差止ムヘキ旨関係ノ向ヘ内達方取計ヒ置キタリ

在欧各大使及在蘭公使ヘ転電アリタシ

四七八　十二月十五日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議ノ新聞公表文ニ関スル件

通第一五九号　（十二月十七日接受）

十二月十一日午後六時三十分第一分科会第七回会議開催七時二十分閉会ス会議要領左ノ通リ

一、「デヴィス」議長ヨリ「ブラウン」ニ対シ是迄提議セラレタル各種ノ解決案ノ要領ヲ陳述センコトヲ求メ「ブラウン」ガ之ニ応ジテ説明ヲ為サントスルヤ「デヴィス」ハ更ニ「ブラウン」ガ曩ニ各国委員ノ提議ヲ考慮シタル上各国ニ於テ受諾シ得ベシト思考セル案ヲ作成シ之ヲ委員長会議ニ提出セシコトアリシ旨ヲ述ベタル上「ブラウン」ニ向ヒ該案ヲ席上ニ披露センコトヲ希望スト云ヘリ右ハ「デヴィス」ニ於テ米国ニ取リ最有利ナル案ヲ会議録ニ留メ置カントシタルモノノ如ク同氏ノ其ノ後ノ説明殊ニ翌十二日第八回会議ニ於ケル同氏ノ陳述ニ徴スレバ同氏ハ少クトモ大西洋ニ付テハ往電通第一三七号第一項末段ニ記載セル「ブラウン」提案即チ「ブレスト」紐育線ハ先ヅ仏伊両国ニ帰属セシメタル後之ヲ米国ニ売渡ス案ヲ又太平洋ニ付テハ通第一二一号所報ノ案ヲ記録セシムル積リナリシコト明カナリ

二、茲ニ於テ「ラネル」ハ各国委員夫々其ノ要求ニ付自ラ説明スルコトトスベキ旨ヲ提議シ仏国委員「ブリアン」

仏国ノ要求ヲ説明セリ要領左ノ通リ

(イ)「ブレスト」紐育線ハ「ブレスト」ノ陸揚ゲヲ変更セズ同線ハ之ヲ「スカンディナヴィヤ」ニ延長スルコトヲ得

(ロ)同線ハ米仏両国ニ於テ共同ニ所有及運用ス

(ハ)「モンローヴィア」「ペルナンブコ」線モ同ジク米仏両国ニ於テ共同ニ所有及運用ス

(ニ)仏国「モロッコ」及「セネガル」各地ヲ連絡スル諸線ハ仏国ニ於テ所有及運用ス

尚「デヴィス」ヨリ「ラネル」ハ紐育「アゾーレス」線ヲ米伊ノ共同ニ属セシメンコトヲ提議シ尚「ブレスト」「アゾーレス」線ニ付テモ別ノ提議ヲナシタルコト（往電通第一二九号第二項参照）ヲ指摘シタルニ「ラネル」ハ右ハ単ニ「テンタティーヴ」ノ案ニシテ提議セル際採用セラレザリシモノナリトテ右ノ提議ハ既ニ無効ニ帰シタリトノ意ヲ表示セリ

三、仏国委員ノ陳述終ルヤ「デヴィス」ハ再ビ諸国最後ノ提案ヲ説明セントシタルニ付本使ハ之ヲ遮リテ自ラ日本ノ立場ニ付次ノ如ク宣明セリ

(イ)日本ハ太平洋海底線ニ関スル独逸ノ権利権原及特権全部ヲ日本ニ帰属セシメンコトヲ希望ス但シ本使ニ於テハ「ヤップ」「グァム」線ニ付テハ之ヲ日米共有トナサンコトヲ本国政府ニ稟請スルノ意アルハ曩ニ言明セル通リナリ

(ロ)現在ノ陸揚ゲ地点ハ之ヲ維持スベシ

(ハ)「ヤップ」ヲ中心トスル三線ノ「ヤップ」端ハ日本之ヲ運用スベシ

(ニ)三線ニ対スル和蘭ノ既得権ニ付テハ日本ハ蘭国政府ト協議シ両国ノ間ニ満足ナル協定ヲナスベシ

四、次ニ伊国委員長伊国ノ要求ニ付説明セリ即チ左ノ如シ

伊国政府ハ紐育「アゾーレス」線ヲ要求ス然レドモ問題ノ解決ヲ容易ニスル為必要アル場合ニハ伊国委員ハ右ノ要求ヲ軽減シ「アゾーレス」伊太利間ノ新線敷設ニ付一ノ協定ヲナスコトヲ条件トシテ紐育「アゾーレス」線ヲ米伊両国ノ共有トナサンコトヲ政府ニ上申スベシ

右伊国委員長ノ説明ニ対シテ「デヴィス」ハ該線ヲ米伊両国ニ帰属セシメタル上伊国ハ其ノ持分ヲ米国ニ売渡スコトトシテ其ノ価ハ伊国ヨリ独逸ノ貸方ニ計上スベキ金額トナシ支払ハ伊国ノ公債ニ依ルコトヲ承諾スルノ意アル旨ヲ曩ニ伊国委員ニ於テ言明シタルコトヲ指摘セリ

在英仏独伊各大使及ビ在蘭公使ヘ転電セリ

四八一　十二月十六日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第一分科会第八回会議ノ模様報告ノ件

（十二月十八日接受）

通第一六三号

十二月十二日（日曜）午前十時三十分第一分科会第八回会議ヲ開キ一時五十分閉会前日ニ引続キ各国提案ノ説明ヲ為セリ

一、「ブラウン」英国ノ提案ニ付説明セルガ要スルニ従来ト何等異ナル所無ク「ペンザンス」「ハリファックス」線ヲ他ノ一線ト引換ニ米国ニ与ヘ米国ガ前者ヲ独逸又ハ和蘭ニ延長スルニ異議無キコト（但シ米国ノ主張スル戦前状態回復ノ主義ニ関スル法理論ヲ承認スル次第ニアラズ）

英国ハ之ガ為メ線長数百哩ヲ失ヒ又英米間ヲ連結スル一

線ヲ失フノ不利アリト云フニ在リ尚「ブラウン」ハ委員長会議ニ於テ「ペンザンス」「ハリファックス」線ヲ共有トスルノ案提出セラレタルモ右ハ到底英国政府ノ同意ヲ得ザルモノナリト附言セリ

「ブラウン」ハ英国ニ関スル右ノ説明ヲナシタル後進ンデ全般的解決ノ為メ提出セル二案ニ関シテ説明シ其内一案（大西洋ニ付テハ往電通第一二六号第三項(イ)乃至(ニ)太平洋ニ付テハ通第一二一号）ハ米国ニ於テ承認スルノ意アリシモ他国ニ於テ承認セズ他ノ一案（往電通第一四七号及第一四八号第二項参照）ハ他国ニ於テ承認スル意アリシモ米国ニ於テ承認セザリシモノナルガ右二案共会議録ニ記入シ置キ度キ旨ヲ述ベタリ

二、次デ「デヴィス」ハ米国ガ大西洋線ニ付テ当初ヨリ逐次提出セル四個ノ提案ヲ説明セリ

(イ)　米国ハ先ヅ旧独線二条ヲ共ニ戦前状態即チ紐育「エムデン」線ニ復旧スルコトヲ主張セリ右復旧ニシテ実行セラルレバ何国ガ之ヲ所有スルニ付テモ敢テ異議ヲ唱ヘザル可ク但シ同線ハ戦前紐育ニ於テ之ヲ運用セル米国会社ニ貸渡シ紐育ニ於テハ同会社之ヲ運用スルコトヲ条件トス

(ロ)　「ペンザンス」「ハリファックス」線ヲ「エムデン」「アゾーレス」紐育線ニ解キ戻シ英国ニ対シテ別ニ「ペンザンス」「ハリファックス」間ノ一線ヲ供給ス可キ米国会社ヲシテ之ヲ運用セシム

「ブレスト」紐育線ハ無条件ニテ米国ニ与ヘ米国ヲシテ之ヲ丁抹又ハ和蘭ニ延長スルヲ得セシムルコト該線ニ依ル通信ニ付テハ仏国ノ監督及ビ検閲ヲ受ケズ又「ブレスト」ニ於ケル中継料又ハ其他ノ料金ヲ徴収セザルコト

其他ノ大西洋諸線ハ仏英両国ニ与ヘ両国ニ於テ伊太利ト別ニ協定ヲナスコト

(ハ)　南北大西洋ノ独線全体ヲ四国共同ニ所有且ツ運用シ英、仏、米ハ各三十「パーセント」伊太利ハ十「パーセント」ノ割合ニテ合計計算ヲ設クルコト

(ニ)　「ペンザンス」「ハリファックス」線ニ付テハ(ロ)ト同ジ仏国ノ要求セル電線全体ヲ米仏ノ間ニ共有シ米国ハ「ブレスト」紐育線ヲ運用シテ之ヲ丁抹又ハ和蘭ニ延長シ其他ノ線ハ仏国ニ於テ運用スルコトトシ尚全線ノ収益ヲ割イテ伊太利「アゾーレス」線ヲ布設シ之ヲ伊太利ニ供給スル為メ協定ヲナスコト

「デヴィス」ハ更ニ太平洋線ニ付説明セルガ其内容左ノ如シ

(イ)　「グァム」「ヤップ」線ハ之ヲ米国ニ帰属セシメ「ヤップ」「メナド」線ハ之ヲ和蘭ニ与ヘ「グァム」及ビ「ヤップ」ニ於テハ米国ヲシテ運用セシメ「メナド」ニ於テハ和蘭ヲシテ運用セシム

(ロ)　「ヤップ」上海線ハ之ヲ日本ニ与ヘ日本ヲシテ那覇ト上海トヲ連結セシメ米国ト支那間ノ通信幅湊ノ際補助線トシテ使用スルコト

三、「デヴィス」ハ米国ノ提案ニ付説明スルニ先立チ「ニューヨーク」「ブレスト」線ヲ「スカンディナヴィヤ」ニ延長スル場合ニ「ブレスト」ノ陸揚ヲ其儘トシ同地ヲ中継地点（リレー、ポイント）トスルノ案ヲ仮ニ承認シタルコトアルモ右ノ案ハ討議ノ際採用セラレザリシモノナルヲ以テ米国ハ今回右ニ拘束セラレザルベキコトヲ言明セリ

四、「デヴィス」ハ米国ノ提案ヲ説明シタル後再ビ「ブラウン」ノ全般解決案ニ付説明ヲ試ミタルモ頗ル明瞭ヲ欠ギ殊ニ「ブレスト」紐育線ニ就テハ紐育「アゾーレス」線ハ米伊二国ニ分割シ「ブレスト」「アゾーレス」線ハ米国ニ与ヘ而シテ伊太利ハ其持分ヲ米国ニ売渡スベキ旨ヲ述ベタルヲ以テ「ブラウン」ハ「デヴィス」ガ「ブラウン」ノ二案ヲ全然混同シ居ル旨ヲ指摘シ「ブレスト」紐育ニ関スル最後ノ案ハ同線ヲ仏伊両国ニ帰属セシメ両国ヨリ賠償計算ニ計上セル金額ニテ米国ニ売渡シ米国ハ両国ノ公債ニテ之ヲ支払フノ案ナリト注意シタリ

五、「デヴィス」ハ「ブラウン」案ノ説明ヲ続ケ太平洋線ニ付テハ大体往電通第一二一号ノ通リ陳述シタル上自動中継ハ専門家ニ於テ実行困難ト認ムルヲ以テ「グァム」「ヤップ」線ハ他ノ線ト区別シテ米国之ヲ運用スルノ必要アリト認ムル旨ヲ附言シタリ

仍テ本使ハ「デヴィス」ニ対シ太平洋ニ関スル同氏ノ陳述ハ最後ノ提案ニ非ズシテ「ブラウン」ガ最初ニ作製セル案中ニ挿入シアリタルモノニシテ右最初ノ案ハ何国ノ委員モ承諾セザリシモノナルコトヲ述ベ且進ンデ「デヴィス」ハ大西洋ニ付テハ新シキ案ヲ挙ゲタルモ太平洋ニ

付テハ旧案ヲ挙ゲタルコトヲ指摘シ置キタリ

六、最後ニ「ブラウン」ハ四国委員協議ノ上作製セル最終案（通第一四七号参照）ヲ朗読セリ同案全文ハ別ニ電報スベシ

七、右ニ対シ「デヴィス」ハ同案ハ英国委員ニ於テ支持セザリシモノト思考スベシト云ヘルニ「ブラウン」ハ英国委員ガ支持セザリシモノナリト云フハ聊カ語弊アリ右ハ他国委員ノ同意シ得ル案ヲ示ス為他国委員ト協議ノ上ニテ提出シタルモノナリト答ヘタルニ「デヴィス」ハ更ニ「ブラウン」ノ提出セル該案ハ米国ノ到底同意シ得ザルモノニシテ米国委員ハ之ヲ以テ諸国委員中此際問題ノ解決ヲ欲セザルモノアルノ証拠ト認メタリト云ヒ仏国ガ其前ニ為セル譲歩ヨリ甚ダシク後戻リセルノ事実ヲ指摘シタリ

八、右ニテ電線処分ニ関スル各国提案ノ説明ヲ終リ其レヨリ独線処分問題解決延期ノ為差当リ採ルベキ手段ニ付討議シタリ以下別電ス

英仏独伊ニ転電シ在蘭公使ニ転電セリ

四八二　十二月十六日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第二回総会並第十回第一分科会及第三回総会ノ模様報告ノ件

通第一六四号　（十二月十八日接受）

十二月十三日第二回総会ハ副議長「ラネル」ノ主宰ノ下ニ開会シ第一分科会独線処分問題ハ未ダ決定ニ至リ居ラザリシヲ以テ第二以下ノ各分科会ノ報告ニ付審議スル事トナリ最初ニ第二分科会ノ報告ハ異議ナク可決セラレ次デ第三分科会報告ニ移リタルガ其ノ際米国委員ハ述ベテ曰ク米国ニ於ケル有線及無線電信ハ多クハ私設会社ノ所有及運用ニ係リ米国ハ未ダ有線電信条約ニ加入セズ単ニ無線電信条約ニ加入シ居レリ斯シテ併合条約案審議ノ際米国ハ単ニ条件付ニテ参加シタリ若シ這般ノ条約ガ各国ニ於テ批准ヲ要スル事トナラバ米国ハ是ニ加入スル場合ニ於テモ特別ノ議定書ヲ作成スルノ要アルベシ若シ該議定書ノ条項ニシテ他国政府ガ満足セラルルモノナラバ他国政府モ右加入ニ付敢テ異議ナキ事ヲ信ズト英国委員モ加奈陀ノ地位ガ米国ト同様ナル旨ヲ述ベ斯クテ同報告ハ異議ナク可決セラレタリ次デ第四分科会報告ニハ英文前書中 Regulations ヲ Resolutions ト訂正シタルノミニテ通過シ最後ニ第五分科会報告モ其ノ儘通過シタリ

以上四分科会報告ハ一纏トナシ別途郵送ス

次デ本会議ノ場所及時期ガ問題トナリシ時英国委員ハ述ベテ曰ク万国有線電信会議ハ巴里ニ於テ開会ノ筈ナルヲ以テ仏国政府ハ明年同会議ヲ招請セラレントスルノ意アルヤニ聞キ及ベリ一面万国無線電信会議ハ華盛頓ニ於テ開会セラルベキ事トナリ居レリ然ルニ米国政府ガ予備会議ヲ招請セシ当時ハ本会議ヲ華盛頓ニ招請スルノ希望ヲ発表セリ本会議ニシテ予備会議ノ結果ヲ討議スルモノナリトセバ普通ノ有線及無線会議ハ是ヲ其ノ中ニ包含セシムベキモノナリト信ズ即チ三個ノ会議ヲ一個ノ世界大会議トナシ二電信条約及業務規則ハ勿論若シ各国ノ希望ナラバ是等ノ条約及業務規則ヲ併合セシムル事ヲモ審議シ併セテ予備会議ニテ提議セラレシ其ノ他ノ事項ヲモ審議スベキモノナルベシ何処ニ於テ斯ル世界会議ヲ開クベキカニ関シテハ考量ヲ要スベキ問題ニシテ当予備会議ハ是ニ関シ意見ヲ発表スベキモノナリト諒解シ居レリ欧洲諸国委員ニ取リテハ欧洲ニ於テ開会セラルベキ事ハ便利ニシテ有線電信会議ハ巴里ニ開会セラルベキ筈ナルヲ以テ巴里ニテ世界会議ヲ開会スルハ最モ適当ナリト信ズルモ今日是ニ付決定スルハ困難ノ事情アルガ如クナレバ本問題ハ暫ク是ガ決定ヲ延期スル方可然但シ当予備会議ノ結果ハ既ニ伊国委員ノ提議セル如ク一日モ早ク世界会議ニ参加スベキ各国ニ通報スルノ要アルヲ以テ此ノ事丈ハ米国政府ニテ其ノ任ニ当ラレ度シト茲ニ於テ米国委員ハ各国ヘ通報ノ件ハ米国政府喜ンデ引受クベシ而シテ本会議ヲ華盛頓ニ開会セン事ハ米国政府ノ歓迎スル所ナルモ目下会議ノ場所及時期ヲ決定シ得ザルノ実情ナリ但シ米国ガ国際会議ニ参加スルニハ議会ノ協賛ヲ要シ本会議ヲ華府ニ開催スル事ニハ議会ハ是ニ協賛ヲ与ヘ居ルモ其ノ他ノ場所ニ開会セラルル事ニ決定セバ改メテ議会ノ協賛ヲ要スル事ヲ諒知セラレ度シト述ベ仏国委員ハ当予備会議ニ於テ世界会議ノ場所ニ関シ決定ヲ為シ得ザルノ事情アリトセバ余ハ仏国政府ニ於テハ「リスボン」会議ノ決定ニ基キ巴里ニ於テ万国電信会議ヲ開会スル事ヲ本年ノ初ニ於テ準備シタルモ米国政府ガ当予備会議ヲ招請セラレシ事ヲ考量シ仏国政府ヨリ招請状ヲ発セザリシ事実ヲ通告スルニ止メント述

ベ米国委員ハ兎モ角第一分科会報告終了ノ上ニテ本問題ヲ討議シ度シト述ベ伊国委員ハ本会議ハ旅費節約及為替相場ノ関係上欧洲ニテ開会シ度シト述ベタルガ結局本問題ハ各国ヘノ通報ノ件ト共ニ第一分科会報告後迄延期スル事トナリ散会シタリ

斯テ十四日午後一時第十回第一分科会兼第三回総会ハ議長「デヴィス」ニ依リ開会セラレシガ最初ニ第一分科会ニ於ケル決議文（通第一五五号）ヲ可決シ次デ各分科会ノ報告ヲ他ノ各国ヘ機密文書トシテ通報スル事ハ米国政府ニ於テ取計フ事ニ可決シタリ然ルニ会議ノ場所ト時期トニ関シテハ遂ニ何等ノ決定ヲ見ルニ至ラザリシヲ以テ右閉会後仏国委員ノ内意ヲ問合セタルニ仏国委員ハ兎モ角巴里ニ於テ本会議ヲ開会スル様準備ニ取リ掛ル積リナリト答ヘ尚其ノ時期ハ恐ラク来年五、六月頃トナルベシト云ヘリ

四八三　十二月十七日　在仏国松田臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

日本ノ委任統治区域ニ関スル最高会議議事録入手方ニ付仏国当局ト懇談ノ件

第一八三六号　（十二月十九日接受）

在英大使宛貴電第五六二号ニ関シ

十二月十六日当国政務局長「ド、ペレッチ」氏往訪ノ序ヲ以テ「ヤップ」島ノ「ステータス」ニ関シ仏国政府ガ日本ノ主張ヲ支持セラルルヲ感謝シ先般仏国外務省ヨリ当館ヘ送付ノ対米覚書写（往電第一八〇三号）ニ言及シ同覚書中ニ引用セラレアル五月七日ノ会議ノ議事録ハ（脱）思ハルルガ本問題ガ日米間ニ問題トナレルニ鑑ミ日本ニ於テハ右議事録ノ写ヲ入手スルコト極メテ肝要ト思ハルル処入手出来間敷ヤ実ハ英国当局者ヘモ内々申入中ナルガ右ニ付テハ仏国政府ニ於テモ尽力セラレタキ旨懇談的ニ談話シタル処政務局長ハ成程日本ニ於テ入手ヲ希望セラルルハ至極尤ノコトト感スルガ日本ニ右議事録ハ入手シアラザルヤト云ヘルニ付右ハ当時日本代表者出席シ居ラザリシ故何等ナキ次第ナリト説明シタル処同局長ハ英国政府ヨリ日本ニ与フルコトニハ自分ハ無論異議ナク又日本ヨリ右請求セラルルニ当リテハ支持スヘシトノコトヲ物語リ尚克ク当時ノ経緯ヲ調ベ置クヘシトテ手控ニ書キ付ケタリ

英、聯盟代表ヘ転電セリ

四八四　十二月十七日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第一分科会第八回会議ノ模様続報ノ件

別電一　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一六六号
米国側提出ノ修正案

二　同右電報通第一六七号
英国側提出ノ決議案

通第一六五号　（十二月十九日接受）

十二月十二日第一分科会第八回会議（通第一六三号）ノ続キ

一、「デヴィス」ハ四国ヨリ提出セル最後案ハ固ヨリ米国ニ於テ受諾シ得ザルモノナルヲ以テ茲ニ独線処分問題最終的解決ハ一時之ヲ延期セザルベカラザル事トナリタルモ此儘ニテ単純ニ延期スル事ハ米国ニ於テ到底同意シ得ズ既ニ十二月十日ノ委員長会議ニ於テ米国側ヨリ一ノ善後案（通第一五〇号第三項末段参照）ヲ提出シ米国委員ニ於テハ各国委員一同之ニ賛成セルモノト了解シ居タルモ翌日各国委員ハ前日右ノ如キ案ニ主義上ノ賛成ヲモ表シタル事無キ旨ヲ述ベタルノミナラズ該案ヲ本国政府ニ取次グ事ニモ同意セザリシ事ヲ陳述シテ前記通第一五〇号所報ノ案文ヲ多少修正セル案（念ノ為別電甲号トシテ電報ス）ヲ朗読シ更ニ米国委員ガ前記ノ案ヲ提出スルニ到リタル理由ハ客年五月三日ノ覚書ニ基ク現在ノ状況ハ日、英、仏三国ニ有利ニシテ米、伊二国ニ不利ナルヲ以テ一面ニハ右三国ヲシテ独線ノ最終的処分ヲ決セシメ一面ニハ相当ノ期限ヲ附シテ右米伊ニ不利ナル状態ヲ終了セシメントスルニアル事ヲ説明セリ

二、右ニ対シ「ブラウン」ハ米政府ノ立場ニ同情スル旨ヲ述ベテ別電乙号ノ決議案（往電通第一六三号第六項ノ案ナリ）ヲ提出セリ

三、「デヴィス」ハ右「ブラウン」案ニ対スル各国委員ノ意向ヲ問ヘルニ「ラネル」ハ来年三月十五日以後如何ナル事態ヲ惹起スルモノナリヤ篤ト考究ヲスルノ必要アル旨ヲ述ベ本使ハ重ネテ協議ヲ行フモ三月十五日迄ニ何等決定ヲ見ザル場合ニ五月三日ノ覚書ノ効力ニハ影響ナシトノ諒解ノ下ニ右「ブラウン」案ニ同意スベキ旨ヲ答ヘ

タリ

四、右ニ対シ「デヴィス」ハ覚書ガ一時的ノ性質ヲ有スル事及覚書ノ規定ハ独線ニ関スル最終処分ニ影響ナカルベキ事ヲ理由トシテ最終処分ヲ決スル為各国委員集合セル際ニ覚書ハ終了スベク又一国ニテモ覚書ヨリ脱退セバ其瞬間ニ同ジク覚書ハ終了スベシトノ暴論ヲ為セルニ付本使ハ更ニ独線処分ニ就キ各国一般ノ協定成立セバ覚書ハ終了スルモ其迄ハ覚書ハ性質上何時迄モ有効ナルベキモノト思考スル旨ヲ答ヘタリ

五、「デヴィス」ハ覚書ノ有効期間不定ナリトセバ米国ハ何時ニテモ之ヲ廃棄スルヲ得ベキモノト思考ス特ニ覚書ノ規定ニ依リ独線ノ分配ヲ議スル為各国委員集合セル後ニ於テ然リトテ再ビ独線的議論ヲナセルニヨリ本使ハ態ト「ブラウン」ヲ顧ミテ其意見ヲ問ヒタルニ「ブラウン」ハ聊カ米国ニ気兼シタルガ如キ態度ニテ種々申訳的ノ説明ヲ為セシモ結局三月十五日ニ新協定成立セザル時ハ覚書ハ依然有効ナリト思考スル旨ヲ言明セリ

六、此ニ於テ「デヴィス」ハ「ブラウン」ノ提案ニ同意シ得ザル旨ヲ述ベタル上独線処分問題一時解決ニ近ツキ居リタルモ数日来委員中ニ解決ノ誠意乏シクナレルモノアリト言ヒ更ニ本問題解決延期ノ件ニ就テハ仏国委員ハ日本委員ノ賛成ヲ得更ニ英国委員モ遅疑シナガラ(Reluctantly)之ト態度ヲ同シクスルニ至リテ一層解決ヲ困難ナラシメタリトテ不満足ノ意ヲ表シタリ

七、最後ニ「ブラウン」ハ嚮ニ英国側ヨリ提議シタル事アル仲裁裁判ニ付スルノ主義(往電通第一四九号末段)ヲ採用シ以テ覚書ニ基ク現状ヲ終了セシムルノ時期ヲ画スル事ニ就キ米国委員ノ同意ヲ得ベキヤト問ヘルニ「デヴィス」ハ仲裁者ヲ得ル事ノ困難ナル事及仲裁々判ノ基礎トナルベキ条件ノ協定ニ就キ数月ヲ費スベキ事ヲ述ベテ反対ヲ表シ結局何等ノ決定ヲ見ルニ至ラズ次回ハ月曜ニ開会スル事トシテ散会セリ

在欧各大使及在蘭公使ニ転電セリ

(別電一)

十二月十七日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一六六号

米国側提出ノ修正案

通第一六六号(別電甲号)

First. That the British, French, Italian and Japanese Delegations agree that the conference should not be postponed but should be continued, and that in case any of the delegates found it necessary to return home they would be substituted by their respective ambassadors.

Second. That from December 10th, or some approximately near date, the ex-German cables, the subject of the protocol of May 3rd, 1919, shall be operated on account of the United States of America, France, Great Britain, Italy and Japan, the profits from such date allocated in accordance with the final disposition of the cables.

Third. That if by the first of March a final disposition of the cables could not be agreed upon, the present status and operation of the cables should terminate and a new modus vivendi for the continued operation of the cables would be necessary.

The exact wording of the agreement was to be left to the next meeting.

Shidehara

(別電二)

十二月十七日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一六七号

英国側提出ノ決議案

通第一六七号(別電乙号)

1. As it is desirable that the amounts to be credited to Germany through the reparations account should be credited by those powers which have claims on that account, all cables in the Atlantic to be allocated in the first instance to France, Great Britain and Italy.

2. The Brest-New York cable to be allocated to France and Italy jointly, on condition that Italy shall cede her half interest in it to the United States on payment in Italian bonds of the amount credited to Germany, understanding that the United

States Government will use their best endeavors to secure provision of suitable facilities for Italian traffic between New York and the Azores, if and (不　明) a cable is provided between the Azores and Italy.

This cable will then be jointly owned and operated by France and the United States.

3. France to cede half her interest in the Pernambuco cable to the United States on payment in French bonds of half the amount credited to Germany for that cable.

This cable to be jointly owned by France and the United States, but (in view of the absence of any American company) to be operated for a term of years by the French company under a lease.

4. Certain sections of cable (including the Donkirk-Cherbourg cable) which are now laying unused in the English Channel, and of which approximately four hundred miles are believed to be usable, to be sold by France and Great Britain to an American company on payment of the amount credited to the reparations account respectively should such company desire to purchase them.

5. As regards the Pacific cables the Yap-Guam cable to be jointly owned and operated by the United States and Japan, Japan to own and operate the Yap-Shanghai cable and to make arrangements with Holland for the satisfaction of Dutch interest in the Yap-Menado cable.

These arrangements to be without prejudice to any other questions.

在欧洲各大使在蘭公使ヘ転電セリ

Shidehara

四八五　十二月十八日　在伊国落合大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ伊国ヨリハ英仏両国ト同程度ノ支持ヲ期待スベキニ非ザル旨回電ノ件

第二七二号　（十二月二十日接受）

在英大使宛貴電第五二三号ニ関シ（往電第二三七号参照）最近外務大臣ニ面会ノ節「ヤップ」島ノ「ステータス」問題ニ付テハ書面ノ回答ヲ得タキ次第ナル旨申入レタルガ其ノ節同大臣ノ話ニ伊国側ニ於テ成ルヘク日本側ノ援助トナル様考慮スベキニ付テハ一方海底電信線分配問題ニ付伊国モ利害関係ヲ有スル次第ニ付日本側ニ於テ伊国ノ主張ヲ援助セラレ度キモノナリト語リタルコトアリタルガ十八日ニ至リ要領左ノ通リ回答シ来レリ

伊国外務省ハ華盛頓ニ於ケル電信会議ニ於ケル「ヤップ」島問題ニ関スル討議ノ次第ニ付未ダ情報ヲ得ズ何レニシテモ伊国政府ハ同盟国間ニ成立セル協定ノ解釈及適用ニ関シ発生シ得ヘキ総テノ困難ヲ除去スル為メ努力スルコトヲ辞セザルヘシ

右回答ハ不十分ノ感アルモ往電第二三七号ノ如ク本件ノ成行ハ伊国政府ノ知ラザル所ナリト称シ居リ且ツ昨年五月ノ最高会議ニモ当事者ニ非ザリシ関係上本件ニ付英仏ト同様ノ措置ヲ伊国ヨリモ期待スヘキニ非ズト思考セラル

英米仏ヘ転電セリ

四八六　十二月十八日　外務省発表

通信予備会議一時休会及旧独逸海底線問題ニ関スル該会議ノ経過ニ付米国国務省公表ノ件

（新聞公表案）

華府通信予備会議ハ十二月十四日ヲ以テ一先ヅ其ノ議事ヲ打切リ当分休会スルコトトナレリ同日米国国務省ハ各国委員ト協議ノ上旧独逸海底線問題ニ関シ左ノ通リ公表セリ

通信予備会議ニ於ケル各国委員ハ旧独国海底線処分ノ一般問題ニ関聯セル数個ノ重要点ニ付本日全員一致ヲ以テ一ノ決定ニ到達セリ海底線ノ確定的処分ニ関シテハ決定ヲ見ルニ至ラザリシモ本問題ノ審議続行ニ当リ会議ノ指針タルヘキ重要ナル主義確立セラレタリ各国委員ハ各自出来得ル限リ他国ノ意見及権利トノ調和ヲ計ルノ必要ヲ認メタリ或ル場合ニハ意見ノ相違ヲ悉ク除去スルコト困難ナリト雖モ問題ノ衡平ニシテ且実行シ得ベキ解決ヲ案出スルノ必要且便益ナルヲ一般ニ認メタルモノノ如シ委員中ノ或ル者ハ若シ親シク本国政府ト協議スルノ機会与ヘラルルニ於テハ解決ヲ期待シ得ベシトノ感想ヲ有シタリ然レトモ会議ハ万一ノ

遅延ニ因リ現ニ海底線ノ運用ニ与ラザル国ヲ累スルガ如キコトナカラシメムカ為会議続行条件ノ大綱ヲ示スヘキ暫定協定ヲ成立セシムル要アルヲ認メ此見解ニ基キ全員一致ヲ以テ左ノ決議ヲ採用セリ

旧独線ノ現状ヲ速ニ終止セシメ且其ノ所有権及運用権ノ公平ナル分配ヲ為スノ目的ヲ以テ確定協定ヲ成立セシムルハ便益及正義ノ両見地ヨリ極メテ必要ナルコトニ各国委員ノ意見合致シタリ委員中或者ハ親シク本国政府ト協議スルヲ必要ト思考シ居レル事実ニ顧ミ会議ノ専門的議事ハ暫ラク之ヲ延期スルモ旧独線ノ分配及運用ニ関スル審議ヲ続行スルコトトシ且各国委員ハ政府ト協議ノ為帰国スル委員ニ代リ自国大使ヲシテ当分ノ間可成広キ範囲ニ於テ其任務ヲ行ハシメムコトヲ本国政府ニ建議スヘキコトトナレリ一九二一年一月一日ヨリ一九一九年五月三日ノ「プロトコール」ニ基ク現在ノ運用状態終止スルニ至ル迄旧独線ハ現在ノ如ク運用セラルベシ但シ右ニ関スル五大国ノ収支計算ニ就テハ運用費ヲ控除シタル後ノ収入ヲ是等電線ノ最終処分方ニ応シ配当スベキモノトス各国委員ハ又若シ明年二月十五日迄ニ海底線ノ最終処分ニ関シ協定成立セザル場合ニハ会議ハ一九二一年三月十五日若ハ其ノ以前ニ効力ヲ発生スヘキ更ニ別個ノ暫定協定ノ商議ニ速ニ着手スヘキコトヲ直ニ本国政府ニ建議スルニ決セリ各国委員ハ前記建議事項ニ付可成速ニ本国政府ノ決定ヲ確メ之ヲ会議ニ報告スヘキモノトス

（欄外註記）

「大正九年十二月十八日公表」

四八七　十二月十九日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第一分科会臨時委員会ノ模様報告ノ件

通第一六八号　（十二月二十一日接受）

一、十二月十三日午前十時ヨリ第二回総会ヲ開ク筈ナリシガ「ブラウン」ノ希望ニ依リ別室ニテ臨時ニ委員会ヲ催シ「ブラウン」ヨリ次ノ案ヲ提出セリ

(イ)紐育「アゾーレス」線全部又ハ一部ヲ先ヅ伊太利ニ帰属セシメタル上伊太利ノ権利ヲ米国ニ売渡シ同線全部ヲ米国ノ所有トスルコト

米国ハ「アゾーレス」紐育線ノ通信ニ付仏伊両国ニ相当ノ便宜ヲ供スル為尽力ヲナス外紐育「アゾーレス」

線ニ付何等束縛ヲ受クルコト無ク随意ノ目的ニ使用スルコト

(ロ)「ペルナンブコ」「モンローヴィア」線ハ先ヅ仏国ニ帰属セシメタル上仏国ヨリ其半分ヲ米国ニ売渡シ然ル後米国ハ更ニ自己ノ部分ヲ短期間（例ヘバ十年）仏国会社ニ料金ヲ徴シテ貸渡スコト

(ハ)「アゾーレス」「ブレスト」線ハ仏国ノ所有トス

右ノ案ニ対シテハ「デヴィス」モ「ラネル」モ亦「ブランビラ」モ不同意ナリシガ結局「ラネル」ハ一応帰国ノ上親シク本国政府ニ請訓スルコトトシタシト云ヒ又「デヴィス」ハ兎モ角モ該案ヲ記録ニ存センコトヲ希望シタルモノノ如ク「ブラウン」ニ対シテ此会合ハ正式ノ第一分科会ナリヤ又ハ非公式ノ協議会ナリヤト質問シ「ブラウン」ガ非公式ノ会合ト了解スト答ヘタルニ「デヴィス」ハ之ヲ正式ノ会合ナリトシ速記ヲ附スルコトトシタキ旨ヲ提議シタリ仍テ本使ハ正式ノ会合ナラバ我方ノ他ノ委員モ出席セシムル必要アル旨ヲ述ベ結局総会ヲ開ク前何レ第一分科会ヲ開ク趣旨ニテ一同会議室ニ向ヒタリ

二、会議室ニハ総会ノ為他ノ委員一同参集シ居リ「ラネル」「ブランビラ」及本使モ之ニ加ハリタルモ「ブラウン」ハ尚別室ニ残リテ「デヴィス」ト話シヲ続ケ会議室ニ来ラズ暫クアリテ「ブラウン」会議室ニ来リ最後ノ尽力ヲ為シ居リタリトテ遅刻ノ申訳ヲ為シタル上今一度各国委員長間ニ相談シタキ旨ヲ述ベテ再ビ別室ニ入レリ此時「ラネル」ハ別室ニ行クヲ肯ンゼザル様子ナリシモ本使之ヲ勧誘シテ別室ニ赴キタリ

三、斯クテ各国委員長再ビ集リタルモ「デヴィス」ハ急用ノ面会人アリトテ一時室ヲ出デ暫ク待合セ居リタルモ帰リ来ラザリシニ付「ラネル」ハ席ニアリタル代表次官ニ向ヒ不取敢先ヅ総会ヲ開クコトトスベシト云ヒ他委員ニ異議ナカリシヲ以テ再ビ会議室ニ入リ総会ヲ開クコトトナリタリ時既ニ十二時半ナリ

在欧洲各大使ニ転電シ在蘭公使ニ転電セリ

四八八　十二月十九日　在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議各国委員長会議ニ於テ次回大会開催ノ時期及場所等ニ付協議ノ件

別　電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛通第一七〇号

米側提出ノ暫定協定案

通第一六九号　（十二月二十一日接受）

一、十三日一時二十分総会ヲ終リ夫レヨリ引続キ第一分科会ヲ開ク予定トナリ居リ暫時休憩シ居ル内「ブラウン」及「スパーリング」ハ別室ニ入リテ米国委員ト協議シ居リタルガ暫クアリテ他ノ委員長ニモ参加ヲ求メ来レリ

二、第一ニ問題トナレルハ次回大会及開催ノ所及時期ナルガ仏国側ハ巴里ヲ主張シ米国側ハ華府ヲ希望シ結局何等決定ニ至ラズ次ニ問題トナレルハ予備会議ノ決議事項ヲ大会ニ参加スベキ諸国ヘ機密文書トシテ送付スルハ何国ノ仲介ニ依ルベキヤノ問題ニシテ仏国委員ニ於テ米国ヨリ送付スルニ異議ナキ旨ヲ述ベタリ

三、次ニ米国側ヨリ独線処分延期ノ場合ニ差当リ取極ムベキ協定ノ案文（別電第一七〇号）ヲ提出シタルモ既ニ二時近クトナリタレバ食後第一分科会ニ於テ討議スルコトトナリタリ

英仏独伊ニ転電シ在蘭公使ニ転電セリ

（別　電）

十二月十九日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一七〇号

米側提出ノ暫定協定案

通第一七〇号

It is the consensus of opinion of all the delegations that it is most necessary both from a standpoint of expediency and of justice that a definite agreement be reached for terminating at a very early date the present status of the ex-German cables and for an equitable distribution of ownership and operation thereof. It is recognized that a continuance of the present status is detrimental and unfair to the United States as well as Italy.

In view of the fact that some of the delegates consider it necessary to consult their governments it is agreed that the technical work of the conference shall be adjourned until January fifteenth next. It is agreed, however, that the conference shall continue without adjournment its deliberations regarding the division and operation of the ex-German cables and that the ambassadors of the respective countries in the meetings to be held will constitute those delegates who return temporarily to consult in person with their governments. It is furthermore agreed that from January first next the ex-German cables the subject of the protocol of May 3, 1919 shall be operated for account of the United States of America, France, Great Britain, Italy and Japan the profits from such date to be allocated in accordance with the final disposition of the cables.

It is furthermore agreed that if by February 15, 1921 agreement is not reached for the final division of the cables and the operation thereof the conference will immediately undertake to reach an agreement on or before March first for a new modus vivendi in lieu of the protocol of May 3, 1919.

在欧洲各大使在蘭公使ヘ転電セリ

Shidehara

四八九　十二月十九日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

旧独線処分問題解決延期ニ関シ実状報告ノ為我委員ノ一時帰朝詮議方稟請ノ件

通第一七一号　（十二月二十一日接受）

既電ノ通リ今回独線処分問題解決ヲ延期スルニ至リタルハ諸国委員ニ於テ帰国ノ上実際ノ状況ヲ齎シ本国政府ニ報告シ更ニ訓令ヲ請フヲ有益ト認メタルニ依ルモノニシテ諸国委員ハ既ニ一部帰国ノ途ニ就ケリ而シテ同問題ノ討議中本使ニ於テモ我カ委員ノ帰国ヲ便宜トスル旨ヲ数次言明セリ仮リニ右ノ行懸リヲ別トスルモ我委員ノ一部ガ一応帰国シテ久シキニ亘レル今回折衝ノ状況ヲ具申スルコトハ政府ニ於テ今後ノ方針ヲ決定セラルル上ニモ便宜トセラルベク又当方ノ都合ヨリ云フモ最希望スル処ナリ然ルニ景山委員ハ欧洲ヲ経テ帰朝スルコトトナリ居リ清河委員モ国際聯盟事

務ノ為渡欧スルコトトナリ居ル次第ナルモ海軍省ト御協議ノ上若シ聯盟事務ノ方繰リ合セ附クニ於テハ清河委員ヲ一時帰朝セシメラルル様至急御詮議ヲ請フ

四九〇　十二月十九日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第一分科会第九回会議ノ模様報告ノ件

別電一　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一七三号

英国側提出ノ修正案

二　同右電報通第一七四号

米伊両国ノ附シタル留保

三　同右電報通第一七五号

我方ノ附シタル留保

通第一七二号　（十二月二十一日接受）

十二月十三日午後二時四十五分第九回第一分科会ヲ開ク

一、「デヴィス」ノ求メニ依リ「ブラウン」ハ十三日朝委員長会議ノ際提出セル同氏ノ案（通第一六八号）ニ付説明セリ右ニ対シ伊国委員長ハ右「ブラウン」ノ案ハ伊国ニ取

リ極メテ不利ナルヲ以テ伊国委員ハ「アゾーレス」伊太利間ニ新ナル線ヲ敷設シテ之ヲ伊国ノ所属トシ敷設ノ費用ハ旧独線ノ運用ヨリ生ズル利益又ハ電線売渡シ金ヨリ支出スルノ案ヲ固執セザルヲ得ズト云ヘリ

又「デヴィス」ハ米国ガ紐育「アゾーレス」線ヲ得ル場合ニハ「ブレスト」「アゾーレス」線ヲ経由スル通信又ハ伊太利宛ノ通信ニ関シ何等ノ義務ヲモ負ハザルベク換言セバ何等義務ヲ負フ場合ニハ必ズ相互的ノモノナルベキコトヲ明ニシ置クベシト云ヒ更ニ右ノ案ハ仮令伊太利トノ関係ヲ解決シ得ル場合ニ於テモ米国政府ニ於テ受諾シ得ベキヤ否ヤ疑問ナリト附言セリ

二、次ニ「デヴィス」ハ各国委員中帰国ノ上親シク本国政府ト打合セタシトノ希望ヲ有セラルルモノアルヲ以テ其前一ノ協定ヲ遂ゲ置キ度キ旨ヲ述ベ往電通第一七〇号ノ決議案ヲ提出セリ

三、「デヴィス」ガ将ニ前記ノ案ヲ提出セントスルヤ伊国委員長ハ本件ノ討議ニ入ルニ先チ伊国ノ立場ヲ説明シタシトテ一ノ陳述ヲ為セリ

要点左ノ通リ

英仏日ノ三国ヲシテ旧独線ノ運用ヲ継続セシムルコトヲ五国ニ於テ協定シタルハ単ニ便宜上ノ理由ニ基クモノニシテ右ノ協定ハ元ヨリ一時的ノ性質ヲ有シ単ニ独線ノ最終的処分ヲ決定スルタメ此会議ノ開催セラルル時迄継続スベキモノナリ従テ伊国委員ノ見ル処ヲ以テスレバ若シ会議ガ電線ノ処分ヲ決定スルコトナクシテ休会スル場合ニハ全会一致ニ依リ他ノ協定ヲナスニアラザレバ五国ハ当然均等ナル所有権及ビ運用権ヲ有スルコトトナラザルベカラズ

四、伊国委員長ノ陳述終ルヤ否ヤ「デヴィス」ハ伊国ノ立場ハ米国ト同一ナル旨ヲ述ベタル上前顕ノ案文ノ写ヲ配布シ米国ハ右案ニ記載セル諒解及ビ条件ノ下ニ現在ノ運用状態ヲ来年三月一日迄トシ他ハ其以前新ナル協定ノ成立スル迄継続セシムルコトニ同意スベシト述ベ尚各国ガ其大使ヲシテ代表者タラシムルコトヲ要求スル次第ニハアラザルモ何時ニテモ会議ニ出席シ得ル様代表者ヲ当地ニ置カレタシトノ趣意ナリト説明シ伊国委員ノ意見ヲ質シタル上「ブランビラ」（？）ハ右ノ協定成立セザル時ハ五国間ノ均等待遇ヲ主張セザルベカラズト答ヘ次デ「デヴィス」ハ本使ニ向ッテ右ノ案ニ満足スルヤト問ヘルニ付本使ハ若シ独線処分問題ノ討議ヲ継続スルモノトセバ右ノ如キ暫行取極ヲ為スノ必要モ無之カルベシト答ヘタリ

五、右本使ノ言ニ対シ「デヴィス」ハ抑々吾人ガ独線処分問題ノ解決シ得ザル主タル理由ハ現ニ電線ヲ占有及ビ運用シ居ル国ノ内少クモ或モノハ現ニ占有及ビ運用シ居ラザル国ニ於テ同意シ得ルガ如キ条件ヲ承諾セザルニアリ今日ノ会議開催後二三週間ヲ経テ解決ニ到達シ得ザル時ハ現時ノ状態ハ当然終了シ海底線ハ所有者全部ノタメニ運用セラルベキモノナリ故ニ今日所有権ノ分配ヲ決定シ得ザルニ於テハ電線ヲ占有シ居ラザル国ノタメ何等カ参加（「パーチシペーション」）ノ方法ヲ協定スルハ当然ナリ該案ハ本問ノ解決ヲ計リ以テ重大ナル誤解ヲ避ケントスルノ熱誠ニ出デタルモノニシテ米国ガ為シ得ル最大ノ譲歩ナリト云ヘリ右ニ対シ本使ハ一切ノ困難ハ米国委員ガ他国委員ノ誠意ニ信頼セザルノ事実ニ基因ス吾人ハ可成速ニ独線ノ処分ヲ決定シタシトノ切実ナル希望ヲ有スルハ勿論ナレドモ最高会議ノ決定セル覚書ノ法律上ノ効力ヲ変フルガ如キ何等ノ行動ニ出ヅルコトヲ得ズト云ヘリ

右ニ対シ「デヴィス」ハ米国ハ今日ニ於テモ覚書ヲ廃棄ス

ルコトヲ得ベシ米国ニ於テ如此措置ヲ採ルノ必要ニ逢着セザランコトヲ欲スルガ故ニ本決議案ヲ提出シタル次第ナリト云ヒ本使ハ如何ナル協定ト雖モ当事者ノ或者ガ他ノ当事者ノ同意ヲ得ルコト無クシテ之ヲ廃棄シ得ベキモノニ非ズト答ヘタリ

七、次ニ「デヴィス」ハ覚書ハ一時的ノ協定ナレバ何時ニテモ米国ノ欲スル時ニ終了セシメ得ベシト論ジタルヲ以テ本使ハ「デヴィス」ニ対シ米国ハ実際ニ覚書ヲ終了セシムルノ意思ヲ有スル次第ナリヤト尋ネタルニ「デヴィス」ハ終了セシムル意思アリト云ハズ単ニ終了セシムル権能ヲ有スト云ヘルノミト答ヘタリ仍テ本使ハ更ニ「デヴィス」ガ前日ノ会議ニ於テ各国委員集合セル瞬間ニ於テ覚書ハ終了スベク又一国ニテモ覚書ヲ脱退セバ其瞬間ニ覚書ハ終了スト云ヘルコトニ言及シ同氏今回ノ言明ハ之ト矛盾スルコトヲ指摘シテ「デヴィス」ノ説ニ依レバ覚書ハ既ニ終了シ居ル筈ニ非ズヤト追及シタルニ「デヴィス」ハ種々弁明ヲ試ミタルモ勘カラズ当惑シ此時伊国委員長「ブランビラ」及米国委員「ロヂャース」「デヴィス」ニ応援シ「ブランビラ」ハ伊国ハ覚書ニ調印シ居ラザルヲ以テ同国ノ地位ハ

五国ニ電線ヲ与ヘタル平和条約ノ規定ニ立脚スルモノナリトノ議論ヲナセリ

八、夫レヨリ英国委員「スパーリング」ハ「デヴィス」トノ非公式談話ニ依リ覚書ノ解釈ニ付米国委員ト意見ノ相違アルコトヲ承知シ居ルヲ以テ英国委員ハ覚書ノ解釈ニ就テ意見ヲ留保スト云ヒ又「ラネル」モ仏国委員ハ覚書ヲ終了セシムルコトニ同意スルコトヲ許可セラレ居ラザルヲ以テ意見ヲ留保スト云ヘリ

九、此時「ブラウン」ノ希望ニ依リ英仏委員長本使ハ別室ニ移リ米国ノ提案ニ対スル修正ニ付協議シ再ビ会議ニ返リテ「ブラウン」ヨリ自己ノ案トシテ別電第一七三号甲号ノ通リ修正センコトヲ提議セリ

一〇、右修正ニ付米国委員ハ new conditions of operation shall be arranged ニ修正説ヲ唱ヘ new modus vivendi ノ字ヲ用ヒンコトヲ主張シ「ブラウン」ハ the Conference will immediately proceed to arrange the agreement for a new modus vivendi ト修正セリ又米国委員ハ各国委員ニ於テ本国政府ニ推薦スル（commend）代リニ本国政府ノ承認ヲ条件トシテ同意（agree

ad referendum）スルコトトシタキ旨ヲ述ベタルモ英、仏、日委員何レモ之ニ反対セリ

一一、此処ニ於テ「デヴィス」ハ日仏二国委員ハ「ブラウン」ノ修正案ニ同意スルモノト了解スルモ其レニ相違ナキヤト云ヘルニ対シ本使ハ今日述ベタル通リ来年三月十五日マデニ新タナル暫行協定成立セザルトキニハ昨年五月三日ノ覚書ハ引続キ有効ナルベシトノ了解ノ下ニ該案ニ同意スル旨ヲ力説シタルニ「デヴィス」ハ然ラバ二国委員ハ該案ニ反対スルモノニ非ズヤト云ヒ本使ハ右了解ガ該案ト両立スルモノナルコトハ「ブラウン」自身前日ノ会議ニ於テ説明セル処ニ徴シ明カナリト答ヘ夫レヨリ本使ト「デヴィス」其他ノ米国委員トノ間ニ四度覚書ノ効力ニ関スル論争起リ其後英国委員「スパーリング」ト「デヴィス」トノ間ニモ激烈ナル論争アリ「スパーリング」ハ遂ニ米国ハ独線処分問題ヲ討議スルノ権利無キニ至ルベシト云ヘリ

一二、次デ「デヴィス」ハ「来年一月一日以後旧独線ハ五国ノ為ニ運用セラルベシ」（shall be operated for the account of five powers）ノ句ヲ挿入センコトヲ主張シ「ブラウン」ト稍々暫ク争ヒタル後遂ニ shall be operated as at present but for the financial account of the five powers ト為スコトトナレリ（米国側ガ此点ヲ最執拗ニ固執シ五国ノ為運用ストノ句ヲ挿入セシメントシタルハ之ニ依リテ日英仏三国ガ従来覚書ノ規定ニ依リ夫レ夫レ自己ノ為ニ運用シ居ル事態ヲ変更シテ夫レ夫レ五国ノ為ニ運用スルモノナリトノ主義ヲ認メントシタルモノカト察セラル）

一三、既述ノ通リ五月三日覚書ノ効力ニ関シ日、英、仏ニ於テ米国ノ主張ヲ承認セザルニ依リ最後ニ米国側ハ五月三日覚書ノ解釈ニ関スル意見ヲ留保シ決議文末段ノ「レコンメンデーション」ガ各国政府ニ依リ承諾セラレザルトキ及三月十五日迄ニ予期ノ通リ協定ガ成立セザル場合ニハ五月三日覚書ヨリ脱出シ得ルノ権利ヲ留保ストノ趣旨ノ文言ヲ記録ニ存セント力メ又々本使ト米国委員トノ間ニ論争ヲ交ヘタルガ結局米国及伊国委員ハ別電乙号ノ通リ決議文ノ後ニ留保ヲ附スルコトトナリタルヲ以テ本使ハ之ニ対シ更ニ別電丙号ノ通リ留保ヲ附シ置キタリ

一四、仏国委員ハ決議案ニ関スル討議中極メテ冷淡ノ態度ヲ執リ居リタルガ本使ガ日本ノ留保ヲ記録セシメテ問題ノ

討議終ニ終了セントスル時「デヴィス」ヨリ仏国委員ハ決議案ニ同意ナリヤト問ヘルニ「ラネル」ハ先ツ「現状ノ継続ハ米伊両国ニ取リ有害ナリ」トノ文句ニ付異議アリト云ヒ次ニ「三月十五日以前ニ決定ヲナスベシ」ト云フハ政府ニ対シ強圧ヲ加フルノ嫌アリトテ不同意ヲ唱ヘ暫時「デヴィス」ト応答ヲ続ケ居リタルガ結局仏国大使ト協議ノ上ニテ同意スルヤ否ヤ翌日回答スベキ旨ヲ回答セリ

一五、右ニテ会議ハ十時十五分迄約八時間継続シ日米、英米、仏米委員ノ間ニ屢々激烈ナル論争行ハレ米国側ハ幾度カ他国ニ解決ノ誠意ナシトテ不平ヲ鳴ベ又「デヴィス」ノ如キ数回席ヲ立テ室外ニ出デテハ又返リ来リ且英国委員ガ当夜出発スルコトトナリ居レルヲ承知シナガラ翌日開会スベシト主張シ甚シキハ翌日会合出来ザレバ翌々日会合スベシト云ヒタルガ如キハ何レモ諸国委員ニ少カラズ不快ノ感ヲ与ヘタリ

在欧洲各大使在蘭公使ニ転電セリ

（別電一）

十二月十九日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一七三号

英国側提出ノ修正案

通第一七三号（別電甲号）　（十二月二十一日接受）

「ブラウン」修正案ハ往電通第一五五号決議中 and operation thereof ノ次 In view of the fact that ノ前ニ It is recognized that a continuance of the present status is detrimental to the United States as well as Italy ヲ加ク且 On and after January 1 以下ヲ左ノ通リ改メタルモノナリ It is further agreed that from January 1 next an account shall be kept of the operation of the ex-international cable the profits from such date to be allocated in accordance with the final disposition of the cables. It is furthermore agreed that the delegates will recommend to their respective governments that if in the renewed discussions an agreement is not reached by March 15th next for the final division of the cables new conditions of operation shall be arranged.

在欧洲各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

（別電二）

十二月十九日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一七四号

米伊両国側ノ附シタル留保

通第一七四号（別電乙号）

In agreement to the resolution, the following reservations were made; each of the delegations reserves its view in respect to the interpretation of the Protocol of May 3, 1919.

The American and Italian Delegations make the further reservation in behalf of their governments that in case the above recommendations are not accepted by all the Governments concerned and an agreement reached by March 15th as contemplated, the American and Italian Delegations reserve on behalf of their governments all of their rights of action and claims in respect of the termination of the Protocol of May 3, 1919, and all their interests in the cables in question.

在欧洲各大使及在蘭公使ヘ転電セリ

Shidehara

（別電三）

十二月十九日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一七五号

我方ノ附シタル留保

通第一七五号（別電丙号）

The Japanese Ambassador. I would like to place on record our views that no party to the Protocol of May 3rd, 1919, has a right to modify it or withdraw from it without the express consent and agreement of all the other parties to the Protocol.

Shidehara

四九一　十二月二十日　在米国幣原大使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

通信予備会議第一分科会第十回会議ノ模様報告ノ件

別電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一七七号

仏国政府ノ留保

通第一七六号　（十二月二十一日接受）

十二月十四日午後一時第十回第一分科会（兼第三回総会）ヲ開ク

一、十一時半開会ノ筈ナリシカ開会前「デヴィス」ト「ラネル」ノ会見アリ両者ノ意見容易ニ纏ラザル様子ナリシカ結局「ラネル」ハ仏国大使ト電話ニテ相談シタル上最後ノ決定ヲナシタルモノノ如シ

二、会議ヲ開クヤ（英国側ヨリハ大使館書記官出席シタリ）「デヴィス」ハ仏国委員ニ於テハ前日ノ決議中「The continuance……States as well as to Italy」ノ文句ヲ削除シテ同意ヲ表スベシトノコトナルガ他国委員ニ於テ異議ナクバ米国委員モ同意スベシト云ヒ各国委員之ニ賛成シテ右削除ニ決定シ往電通第一五五号ノ通リ決定セリ

次ニ仏国委員ハ米国委員ノ留保セル問題ニ付テハ仏国政府ノ意見ヲ留保スル旨ヲ記録ニ留メタリ留保文別電通第一七七号ノ如シ

三、「デヴィス」ハ新聞ニ掲載セラレタル記事ニ基ク誤解ヲ除去スル為措置ヲ執ルノ要アル旨ヲ述ベ然ルヘキ説明ヲ加ヘテ第一分科会ノ決議ノ成文ヲ其ノ儘公表シ尚諸国ノ為セル留保モ同時ニ発表スルコト最モ適当ト認メラルト云ヘルニ付本使ハ発表文ノ内容ニ付種々意見ヲ述ヘ且ツ留保ヲ発表スルコトハ却ッテ面倒ノ種トナルベキ旨ヲ述ヘテ之ニ反対シ結局各国ノ留保ハ発表セザルコトニ決定シタル次第ニ付本邦ニ於テモ留保ニ付テハ何等公表セラレザル様特ニ御注意アリタシ

英仏独伊ヘ転電セリ在蘭公使ヘ転電セリ

（別　電）

十二月二十日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一七七号

仏国政府ノ留保

通第一七七号

Mr. Lanel. I wish to put on record on behalf of the French Delegation that I reserve the opinion of the French Government on the subject dealt with in the reservation of the American and the Italian Delegations.

Shidehara

十二月十四日新聞ニ公表セル通信予備会議ノ決議ニ関シ説明ノ件

通第一七八号　（十二月二十三日及二十四日接受）

往電通第一五五号決議ノ説明何等御参考迄ニ電報ス

一、電線処分問題ハ折衝二ケ月ヲ経タルモ諸国ノ主張ニ尚懸隔アリテ急速ノ解決ハ到底不可能ナルコト明瞭トナリタルヲ以テ一方日英仏ハ単純ニ解決ヲ後日ニ延バスヲ得策ト認メ他方米国（伊国ハ本問題ニ付全然米国ニ従属スルノ態度ナリ）ハ漫然決定ヲ後日ニ延バス時ハ日英仏ノミ電線ノ占有及ビ運用ヲ継続シテ米伊ハ何等之ニ与ラズ又将来ニ於テモ二国ニ有利ナル解決ニ達スベキ何等ノ保障ナキヲ以テ此際無条件ニテ解決ヲ延期スルヲ欲セズ依テ

(イ)独線処分問題ノ関スル限リ予備会議ハ依然継続ストノ主義ヲ認メシメ

(ロ)可成速ニ少クトモ独線ノ運用ヨリ生ズル利益ノ配分ニ与リ得ルノ規定ヲ設ケ

(ハ)日英仏三国ガ現ニ電線ヲ運用シ又将来モ最終処分決定迄引続キ運用シ得ルノ基礎タル昨年五月三日ノ覚書ヲ一定ノ時期ニ終了セシムルコトトシ以テ日英仏ヲシテ将来ノ談判ニ於テ米国ニ有利ナル条件ヲ承諾セザルヲ得ザラシムルノ素地ヲ造ラント企画シ

斯クテ双方ノ間ニ何度カ論争ヲ重ネタル上窮極ノ妥協点トシテ見出サレタルモノ即チ今回ノ決議ナリ然レドモ右ノ妥協ハ単ニ表面上ノミニ止リ実質ニ於テハ重要ノ点即チ前記(ハ)ニ関連セル五月三日ノ覚書ノ効力ニ付後段所述ノ通リ日英仏ト米伊トノ間ニ根本的意見ノ相違アリ従テ来年三月十五日迄ニ独線ノ最終処分決定セザル場合特ニ来年三月十五日迄ニ新ナル暫行協定決定セザル場合ニハ覚書ガ引続キ効力ヲ有スルヤ否ヤノ問題ニ付重ネテ争議ノ起リ得ベキヲ予想シ置カザルベカラズ

二、予備会議ノ専門的事務ハ一時休止スルモ独線処分問題ニ関スル商議ハ之ヲ継続スルノ主義ヲ決定シタルヲ以テ各国トモ必要ニ応ジ何時ニテモ其代表者ヲ出席セシメ得ル様用意シ置クノ必要アルモ本邦ヨリ出張セル我委員ハ

元ヨリ此際出発シ差支ナキ儀ニシテ各国委員ハ既ニ大体帰国ノ途ニ就キタリ尚本国ニ帰還セル委員ノ代リトシテ当該国大使ヲ指定スルヤ否ヤハ諸国政府ニ於テ決定（委員ノ上申ニ基キ）スベキモノナルモ本使ガ委員ノ一人タル関係上我国ニハ実際上適用ナキ問題ナリ

三、今回ノ決議ニ就テモ旧独線ハ現在運用スル諸国ニ於テ引続キ運用スルモノトス但シ来年一月一日ヨリ昨年五月三日覚書終了スル迄ハ旧独線ハ利益分配ノ関係ニ於テハ五国ノタメニ運用セラルルモノト看做シ右諸国ハ来年一月一日以後各線ニ付其収支ヲ明カニシ置キ独線ノ最終処分決定ノ上ハ利益ノ分配ニ付其効力ヲ来年一月一日ニ溯ラシムルコトトナル次第ナリ

日本ガ現ニ運用シ居ル「ヤップ」那覇線ガ最終処分ノ際日本ニ帰属スベキハ今ヤ殆ンド疑ナク従ッテ同線ニ関スル収支ハ結局我方ノ引受クベキモノナレドモ順序トシテハ矢張独立ノ計算ヲ建テ置カザルベカラズ

四、千九百二十一年二月十五日迄ニ独線ノ分配ヲ決定シ得ザル場合ニハ予備会議ハ遅クモ三月十五日ヨリ実施スベキ新ナル暫行協定（modus vivendi）ヲ取極ムルノ手段ヲ直チニ執ルコトヲ要スベク三月十五日迄ニ右ノ暫行協定纏マラザル場合ニハ独線ノ取扱ニハ如何ナル規定ニ準拠スベキモノナリヤニ就テハ討議中議論生シ日英仏三国委員ハ五月三日覚書ガ引続キ効力ヲ有スト云ヒ米伊両国委員ハ覚書ハ当然消滅スルモノト認ムルカ或ハ少クトモ消滅セシムルヲ至当トストノ意見ヲ表示セリ換言セバ米伊ハ講和条約第二百四十四条ノ規定ノミヲ基礎トシテ海底線ハ五国ノタメニ放棄セラレタルモノナルヲ以テ一切ノ事項ニ付五国間ノ権利ハ均等ナラザルベカラズト主張セントスルモノナリ

右ノ如ク覚書ノ効力ニ関スル解釈一致セザリシ為メ決議文ヲ議事録ニ記入シタル後之ニ続キテ第一ニハ各国ニ於テ夫々覚書ノ解釈ニ関シ意見ヲ留保スル旨記入シ第二ニハ米伊両国委員ハ各国委員ヨリ本国政府ヘナスベキ上申（レコメンデーション）ガ各関係国政府ニ依リ採用セラレザル場合及三月十五日迄ニ新協定成立セザル場合ニハ五月三日ノ覚書ヲ終了セシムルコトニ付執ルベキ手段及要求ヲ留保シタリ米国側ガ右ノ留保ヲ記入スルコトニ付テハ本使ニ於テ極力反対ヲ試ミ米国側モ多少ノ譲歩ヲナシタレドモ英国側ガ曖昧ノ態度ヲ執レル為メ全然之ヲ妨グルヲ得ザリシハ遺憾ナリ依テ已ムナク右米伊ノ留保ニ対シ本使ハ更ニ覚書ハ当事者全体ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ変更シ又ハ之ヨリ脱退スルコトヲ得ザルモノト認ムル旨ノ留保ヲ記入セシメタル次第ニシテ仏国委員モ最後ノ会議ニ於テ米国ガ留保セル件ニ関シ仏国政府ノ意見ヲ留保スル旨議事録ニ記入セシメタリ英国委員ハ討議中ニハ三月十五日迄ニ新協定成立セザル場合ニ覚書ハ依然効力ヲ有スベキ旨再三言明シタルモ決議通過ノ際ニハ特ニ留保ヲ為サズ只管決議ノ不成立ニ至ランコトヲ慮ルモノノ如ク見受ケラレタリ

五、決議文中ノ「レコメンデーション」ヲ本国政府ニ於テ受諾スルヤ否ヤニ付テハ成ルベク速ニ報告スベキコトトナリ居ルモ特ニ急ギ抗議ノ点ヲ米国側ニ回答スル必要モナカル可シト思考スルニ付英仏委員帰国シテ政府ヘ報告シ二国政府ニ於テ夫々執ル可キ態度ヲ決定スルヲ俟チ我方ニ於テモ四囲ノ状況並我方ノ特殊事情（例ヘバ「ヤップ」問題）ヲ篤ト考慮ノ上態度ヲ決定セラレ差支ナキコトト思考ス右ニ付テハ更ニ卑見申進ズルコトアルヤモ計ラレザルニ付一応御含ミ置キヲ請フ

在欧各大使並在蘭公使ヘ転電セリ

四九三　十二月二十二日　内田外務大臣ヨリ在米国幣原大使宛（電報）

ヤップ三線ニ対スル蘭国ノ関係ニ関スル会議議事録ノ記載ニ付問合ノ件

第六〇〇号

「ヤップ」三線ニ対スル蘭国ノ関係ニ就キ

㈠会議ニ於テ同国権利ノ存否問題トナリ処分問題ノ紛糾ヲ来スカ如キコトナカラシムル為我方ニテハ当初ヨリ「権利」ナル語ヲ避ケ「利益」ナル語ヲ使用スル様特ニ意ヲ用ヒ居リ貴方ニ於テモ会議ノ初我要求申出ノ際ニハ蘭国ノ既存利益ニ付云々ト陳述セラレタル次第ナルガ貴電通第一六二号ニ依レバ十二月十一日我最終要求ノ陳述中ニハ「既得権」ノ語アリ

㈡将又蘭国ノ利益ガ「ヤップ」三線ニ通シテ存スルヤ否ヤハ直ニ確言シ難キモ我方ニ於テハ蘭国トノ交渉ノ都合上三線全部ニ亘ルモノト一応仮定シ置クヲ便宜ト思考シ居ル次第ニテ貴官ノ陳述中ニモ屢々「三線ニ対スル」ノ語見エ居

ルモ貴電通第一六七号日英仏伊四国案ニハ「ヤップ」「メナド」線ニ対スル云々トアリテ他ノ線ニ対シテハ恰モ蘭国ノ利益ヲ認メザル趣旨ト解シ得ヘキ書振トナリ居ル処右二点ハ会議ノ議事録中ニモ場合ニ由リ前記ノ如ク二様ニ記載セラレ居ル次第ナリヤ念ノ為取調ヘ回電アリタシ

四九四　十二月二十三日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ海底線ニ関スル英国側提議ニ付回電ノ件

通第一八〇号　（十二月二十四日接受）

貴電第五八四号ニ関シ

貴電第五八五号第二項ノ前段「グァム」支那間ニ新線ヲ敷設スルコトニ付「ブラウン」ト米国側トノ間ニ話合アリタルコトハ往電通第五四号所報ノ件及其他ノ事情ヨリ疑ナキモ其後ノ第一分科会又ハ各国委員長会議ノ席上ニ於テハ何等問題トナリタルコトナシ殊ニ「共同出資」ノ問題ハ本使ニハ全ク初耳ナルヲ以テ為念「ブラウン」ト会見シタル処当地和蘭公使館商務官（通第一三号三項参照）ニ問合セタルモ此点ニ付詳細ノ話ナカリシ為如何ナル国ノ間ニ共同ニ出資スルヤヲ承知セズト云ヘリ然レドモ右ハ米国ト大北及「イースタン、エキステンション」トノ共同ナルヘシト察セラル後段ハ「ブラウン」カ委員長会議ニ提出セル私案（通第二一六号）中太平洋ニ関スル部分（通第一二一号）ヲ商務官ニ説明シタルモノノ如シ

尚商務官トノ会談中貴電第五八五号第一項ハ「ブラウン」ノ私案ニシテ我方ノ受諾セサリシモノナルコトヲ説明シ尚「ル、ロイ」ノ案（通第四〇号及第一三七号三項参照）ナルモノハ仮令同人ト英国側トノ間意見一致セザルモノトスルモ日本ニ対シ極メテ不利ニシテ且非友誼的ナレバ元ヨリ我方ノ承諾シ得ベカラザルモノナルコトヲ通シ置キタルニ商務官ハ右「ル、ロイ」ノ案ニ付テハ本国政府ヨリ何等通報ニ接セズ従ッテ蘭国政府ニ於テ承認ヲ与ヘ居ルモノト思考セズト答ヘ且「ブラウン」ノ話ハ主トシテ英国側ノ利益ヲ考慮シタルモノノ如ク右ニ対シ日本側ノ意向ヲ初メテ承知シタルハ何ヨリノ幸ナリト云ヘリ

在欧洲各大使及在蘭公使へ転電セリ

四九五　十二月二十四日　内田外務大臣ヨリ　在米国幣原大使宛（電報）

ヤップ上海線ニ対スル中国政府ノ主張ニ関スル北京発新聞電報通報ノ件

第六〇二号

北京発新聞電報ニ依レハ独線処分問題ニ関シ支那政府ハ「ヤップ」「グァム」線及「ヤップ」「メナド」線ハ何国ノ管理ニ属スルモ敢テ問ハザルモ「ヤップ」上海線ハ支那トノ関係密切ナレバ意見書ヲ提出シテ飽ク迄力争スヘシ云々トノ意味ノ電報ヲ十二月二十一日在「ジュネーヴ」顧唐魏ノ三代表ニ発シタル趣ナリ御参考迄

在欧大使及在蘭代理公使へ転電アリタシ

四九六　十二月二十五日　内田外務大臣ヨリ　在仏国石井大使宛（電報）

通信予備会議及聯盟総会等ニ於ケル我方ノ協調的態度ニ対シ仏国政府ヨリ謝意表明ノ件

第九五七号

十二月二十二日在本邦仏国大使来省本国政府ノ訓令ニ基キ通信予備会議及聯盟総会等ニ於テ日本代表者カ常ニ仏国代表者ト協調ノ態度ヲ持シタルコトニ対シ仏国政府ノ謝意ヲ表スルト共ニ今後ニ於テモ露国問題其ノ他ノ重要問題ニ関シ日仏協調ノ関係ヲ維持セムコトヲ希望スル旨申出デタルヲ以テ本大臣ハ仏国政府ノ謝意ヲ多トスル旨ヲ述ベ日仏両国協調ノ持続ハ日本政府ニ於テモ希望スル所ナル旨ヲ答ヘ置キタリ

右在欧米各大使へ転電アリタシ

四九七　十二月二十五日　在米国幣原大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ケーブル、アイランズニ関スル英米伊三国間協定ニ対スル問合ニ付回答並右三国間協定成立ノ経緯報告ノ件

別電　同日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一八二号

右協定案

通第一八一号　（十二月二十六日及二十七日接受）

貴電第五八二号ニ関シ

一、貴電ニ対スル回答

(イ)英米伊三国委員ハ往電通第八七号末段ノ趣旨ニ基キ中継

地（リレー、ステーション）トシテ特定ノ島嶼其ノ他ノ地点ヲ使用スルコトニ関シ単ニ三国委員相互間ニ於テ一ノ協定案ヲ作製シ之ヲ本国政府ニ上申スルコトヲ決定セリ

(ロ)右協定案ハ別電通第一八二号ノ通ナリ

(ハ)米国委員ノ慫慂ハ御来意ノ通リ協定ヲ「ヤップ」島ニ適用セシメントノ底意ニ出デタルモノナリ

二、中継地問題ノ成行

(イ)中継地ノ問題ハ米国ガ始ヨリ最モ重キヲ措ケル所ニシテ会議中種々複雑ナル経緯アリ「ヤップ」島ノ関係ニ於テ今後モ本件ニ関シ問題起ルコトナキヲ保セザルニ付為念大体ノ成行ヲ左ニ摘記スベシ

(ロ)米国ガ中継地ノ問題ヲ提起セル真意ハ之ヲ以テ米国ガ将来海外通信ノ発展ヲ計ルノ足場トナサントシタルモノニシテ本問題ハ又当面ノ具体問題トシテハ仏国ニ取リテハ「ブレスト」又我国ニ取リテハ「ヤップ」ニ大ナル関係アリタル次第ナリ然ルニ本件米国ノ提議ハ第四分科会ニ於テ日仏ノ反対ニ遇ヒテ十一月二日第五回会議ニ於テ否決セラレ同問題ハ其後会議ノ外ニ追出サレ会議トハ無関係ノ問題トシテ英米伊三国委員ノ間ニ話ヲ続クルコトトナリタルモノナリ

(ハ)三国委員ハ引続キ会議外ニ於テ協議ヲナシ遂ニ一ノ協定案ヲ作製シ之ガ採用ヲ政府ニ上申スルコトニ意見一致セリ

(ニ)右協定ガ会議以外ニ於テ決定シ予備会議トハ関係ナキモノナルニ拘ラズ其ノ後米国側ハ第四分科会ヨリ総会ニ提出スベキ報告中ニ右三国ノ協定ヲモ包含セシメ十一月二十六日第四分科会第十一回会議ニ提出シタルヲ以テ日仏両国委員ハ右ハ一度会議外ニ出デタル問題ヲ再ビ会議内ニ戻スニ等シク同意シ得ズトテ反対シタリ

然ルニ米国ハ十二月九日第十二回会議ニ於テ重ネテ此ノ問題ヲ持チ出シ第四分科会ノ報告トシテ総会ニ持チ出スコトハ之ヲ思ヒ止マリタルモ其ノ代リニ英米伊三国委員ヨリ右三国ノ協定案ヲ米国々務卿ニ通報シ（斯ノ如キコトハ元ヨリ出来得ベキ筋合ノモノトハ思ハレズ）国務卿ヨリ予備会議議長ニ移牒シ議長ハ総会ノ席上ニ於テ之ヲ朗読シ依ッテ以テ協定案ノ成文ヲ記事録ニ記入セシメントスルノ窮策ヲ案出シ之ニ付予メ各国委員ノ諒解ヲ得置カント試ミタリ右ニ対シ仏国委員ハ之レ依然迂回ノ径路ニ依リテ問題ヲ会議ノ範囲内ニ舞戻ラシメントスルモノナリトテ反対ノ意ヲ表シ我方ニ於テモ三国協定ハ予備会議ノ文書中ニ包含セシメズトノ諒解ニ反スルノ故ヲ以テ反対シ頗ル行悩ミノ体トナリタリ茲ニ於テ英国委員ハ調停的態度ヲ取リ結局「右協定ハ会議外ニ於テ議セラレタル事項タルコト」ヲ明カニシテ報告中ニ附記センコトヲ提議シ大ニ斡旋ニ努メタルヲ以テ仏国委員モ根気負ケシテ単ニ会議外ニテ議セラレタルノミナラズ更ニ「三国相互間ニ限ラルル事項ナルコト」ヲモ明カニスルコトトシテ英国案ニ同意スベシト言ヒ我方ニ於テハ更ニ総会ニ報告スルハ「三国以外ノ委員ノ単純ナル参考ノ為ナリ」トノ趣旨ヲ記入スルコトヲ条件トシテ同意ヲ与ヘタリ我方ニ於テ之ニ同意シタルハ前記ノ通リ仏国委員ガ根気負シテ英国ノ提議ニ同意シタルニ依ルハ勿論ナルモ尚独線処分問題ガ未解決ニ終ルベキヲ予想シ其ノ点ニテ米国ニ不満ノ感ヲ与フルノ已ムヲ得ザル事情ヲ顧慮シ且ツ右報告ノ点ハ実質ニハ関係ナク寧ロ形式上ノ問題ナレバ此ノ方ニ付テハ多少譲歩シ置ク方機宜ニ適スベシト認メタルニ依ルモノナリ

(ホ)伊国委員ハ中継地ニ関スル米国提議ニ対シテハ初ヨリ衷心不賛成ナリシモ米国ニ気兼ネシテ公然反対ノ意ヲ表示スルヲ避ケ仏国ノ強硬ナル反対ヲ利用セントシテ「他ノ諸国ニ於テ悉ク同意スル場合ニハ伊国モ同意スベシ」トノ趣旨ヲ述ベタルガ右ノ一言ニ捕ハレテ結局英米間ノ協議ニ加ハルコトヲ余儀ナクセラレタリ加フルニ第一項記載ノ通リ三国委員ハ協定案ヲ作成シテ之ニ調印センコトヲ本国政府ニ「レコンメンド」スルニ決定シタルニ止マリ従ッテ三国委員ハ本国政府ヨリ訓令ヲ得タル上ニテ之ニ調印スベキ筈ナルニ拘ラス伊国代理大使（伊国委員長ニシテ第四分科会議長ナリ）ノ内話ニ依レバ米国側ハ伊国委員ニ対シ訓令ヲ俟タズシテ署名セン事ヲ強制シタルヲ以テ伊国委員ハ已ムナク本国政府ノ訓令ヲ俟タズシテ署名スルモノナレバ何等効力ナキ旨ヲ断リ置キタル上署名シタル趣ナリ

在欧洲各大使在蘭公使へ転電セリ

（別電）

十二月二十五日在米国幣原大使発内田外務大臣宛電報通第一八二号

ケーブル、アイランズニ関スル英米伊三国間協定案

通第一八二号（別電）

Draft Agreement ——

Regarding the use of Islands and other points as relay stations.

The undersigned, representatives of the governments of the United States of America, Great Britain and Italy, have concluded the following agreement providing for reciprocal facilities for the landing of cables for relay purposes, ad referendum to their respective governments for approval and subject to ratification in accordance with their constitutional forms:

Certain points and islands shall be especially designated as available on equal terms to the nationals of all the states, signatory to this protocol, which give reciprocal facilities for the land of cables for automatic relay purposes or for manual retransmission. The sovereignty of the state having jurisdiction over the point or island in question shall be in no wise impaired or limited except as provided in this agreement. If as a consequence of the point or island intransit being made a military or specially defended area, it becomes desirable that a cable already landed on such point or island should be removed, the state concerned can require the removal of the cable in question on a reasonable notice. The detailed conditions governing the landing of a cable and its possible removal shall form the subject of agreement between the parties interested.

Messages in transit over such cables are not subject to interference, examination or censorship, by authorities of the jurisdiction, unless the state having jurisdiction is itself a party to a war or obligated to maintain neutrality or involved in a local disturbance, in the two latter cases supervision of messages is permitted only to the extent necessary in order to insure that no unauthorized local messages are transmitted.

Messages in transit over such cables are not subject to a transit tax nor are the owners of the cables subject to any taxation except an income tax upon the proceeds of any local business done and taxation upon the tangible property within the jurisdiction, which taxes shall be general and non-discriminatory. Persons engaged in the local operation of the cable and their property within the jurisdiction are subject to such general and non-discriminatory taxation as is or may be payable by all persons or property within the jurisdiction

Shidehara

一、往電第五六二号客年五月六日及七日ノ最高会議ノ議事録入手方既ニ貴任国政府ニ懇談セラレタルコト存ズル処右御入手ノ上ハ至急回電アル様致度シ

二、貴官ニ転電済ナル本大臣発在米大使宛電報第五八八号「ヤップ」ノ「ステータス」ニ関スル米国側ノ申出ニ対シ反駁ノ回答ヲ為スニ当リ貴電第一〇四四号英国外務大臣ノ在英米国大使ニ対スル公信ヲ引用シ五月七日ノ最高会議ノ決定ニ依リ「ヤップ」カ帝国委任統治地域トナリタルコトニ付テハ英国政府ニ於テモ帝国政府ト全然同意見ナルコトヲ指摘シタキ所存ナル処右ハ英国政府ニ於テ支障ナキヤ一応御確メノ上結果電報アリタシ

本電在米大使へ転電アリタシ

四九九　十二月二十七日　内田外務大臣ヨリ在仏国石井大使宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ我対米回答ニ仏国外務省ノ米国大使館宛覚書ヲ引用シ差支ナキヤ仏政府ノ意向確カメ方訓令ノ件

第九六一号

貴官ニ転電済ナル本大臣発在米大使宛電報第五八八号「ヤ

四九八　十二月二十七日　内田外務大臣ヨリ在英国林大使宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ最高会議議事録入手方並我対米回答ニ英国外相ノ公信ヲ引用シ支障ナキヤ英国政府ニ確カメ方訓令ノ件

ップ」ノ「ステータス」ニ関スル米国側申出ニ対シ反駁ノ回答ヲ為スニ当リ貴電第一八〇三号仏国外務省ノ在仏米国大使館ニ対スル覚書ヲ引用シ客年五月七日ノ最高会議ノ決定ニ依リ「ヤップ」カ帝国ノ委任統治地域トナリタルコトニ付テハ仏国政府ニ於テモ帝国政府ト全然同意見ナルコトヲ指摘シタキ所存ナル処右ハ仏国政府ニ於テ支障ナキヤ一応御確メノ上結果電報アリタシ

本電在米大使ヘ転電アリタシ

五〇〇　十二月三十日　在英国林大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ米国政府ニ対シ英国政府書翰ヲ引用シ差支ナキ旨カーゾン卿回答ノ件

第一一〇一号　（十二月三十一日接受）

「カーゾン」卿失業者問題閣議ニ出席ノタメ病ヲ押シテ上京シタルニ付二十九日会見ヲ遂ゲ貴電第五六二号御訓令ノ趣旨ヲ伝ヘ尚「ヤップ」関係最高会議議事録交渉ニ関シテハ仏国側ニテモ異存無キ次第（仏往電第一八三六号）ヲ申添ヘタルニ同卿ハ

(一)右議事録ヲ日本ニ交附スル事ハ自分限リ少シモ異存無キモ尚至急取調ベノ上確答スベシト約シ

(二)往電第一〇四四号英国政府書翰ハ之ヲ米国政府ニ対シquote シ差支無シト答ヘタリ

米仏ヘ転電セリ

五〇一　十二月三十日　在仏国石井大使ヨリ　内田外務大臣宛（電報）

ヤップ島問題ニ関シ我対米回答ニ仏国覚書ヲ引用シ差支ナキ旨仏国側回答並理事会ノ決定ニ付報告ノ件

第一八八一号　（大正十年一月一日接受）

貴電第九六一号ニ関シ

早速松田ヲシテ外務省政務局長ニ問合サシメタル処仏国政府ハ帝国政府ト全然同意見ナルコトヲ指摘セラレテ毫モ差支ナシト答ヘタル由本件ニ関シ一昨二十七日「ベルトロー」氏ト会見ノ際本使ハ華盛頓通信会議ニ於テ貴我代表者ガ全然一致ノ行動ヲ執リ双方ノ便益ヲ得タルハ同慶ノ至リナルガ我代表ハ「ヤップ」問題ニ関シ所謂五月七日ノ決定ナ

ルモノヲ指摘シ彼ノ如ク言明シタルモ斯ノ如キハ其ノ決定ニ関スル議事録又ハ書類ヲ有セザリシガ故ニ不便ヲ感ジタルコトナルガ「ヤップ」ノ件ハ愈々問題トナレバ右議事録又ハ書類ハ我ニトリ益々必要トナル訳故願ハクバ御手許ニ在ルベキ五月六日及七日ノ書類ノ写ヲ得タシト懇望シタル処「ベルトロー」氏ハ右ハ最高会議ノコトナレバ議事録ハ無キ筈ナリ但シ何等カノ書類ハアルベキニ付其ノ写ヲ差上グ可シト約セルガ本日政務局長ハ松田ニ向ヒ「ベルトロー」氏ノ命ニ依リ昨年五月六日及七日ノ書類ヲ調ベタルニ所謂七日ノ決定ナルモノノ外何等ノ書類ナク同最高会議中ハ「ハンケー」氏ノ外各首相以外ニ出席シタルモノナク従テ仏国側ニ於テハ「クレマンソー」首相ハ或ハ多少ノ筆記ヲ有スルヤモ知レザレドモ其他ニハ皆無ナリト陳ベタル由次デ松田ヨリ米国ガ五月六日七日ノ議事録云々ヲ振廻スヲ見

日本外交文書　大正九年　第三冊上巻　終